

シテモ、此ノ改正ニ依リ、從來久シキニ互リ少カラヌ納税ヲ爲シ、莫大ナル投資ヲ爲シタ試掘權ヲ、一片ノ法律改正ニ依リ失フコトナリ、試掘權者ハ國家ニ依リ勞ニ酬ユルニ損害ヲ以テセラルルコトトナルガ、之ニ對スル政府ノ見解如何、又質疑ノ第四點ハ政府ハ試掘制度ノ改正ニ依リ、所謂豫備鑛區ヲ否認セントスルモノデハナイカ、若シ又豫備鑛區ヲ採掘權ノ形ヲ認メルトスレバ、今直チニ開發セザル地域ニ試掘ノ爲、資材、資金、勞力等ヲ使用スルコトハ、現下ノ經濟上特ニ損失デハナイカ、更ニ又、鑛業法第四十條トノ關係ハ如何ナル解釋ヲ下サルコトトナルカ、次ニ質疑ノ第五點ハ、眞ニ本改正ノ實效ヲ擧ゲシメンガ爲ニハ、政府ハ固ヨリ、日本產金振興株式會社、帝國鑛業開發株式會社等ノ國策會社ガ極メテ積極的ニ民間ト協力スルコトガ必要缺クベカラザルコトト信ズルガ、政府ノ之ニ對スル所信如何等ノ諸點デアリマシタ、政府ノ之ニ對スル答辯ハ、第一點ニ於テ、試掘權ハ單ニ採掘ノ價值ニアリヤ否ヤノ調査ヲ保護スル爲ノ權利ニ過ギナイ、故ニ其ノ期間モ四年デ十分デアアル、從來ノ如ク何年デモ其ノ延期ヲ認メルコトハ、試掘權制度ノ趣旨ヲ沒却スル結果トモナルノデ、四年デ打切ルコトト致シ、試掘權制度ヲ其ノ本來ノ趣旨ニ戻シ、權利ノ濫用ヲ防止シヨウト云フ趣旨デアアル、隨テ又本案ハ直接計數的ナ増産ヲ目標トシタモノデハナイ、併シナガラ今後ハ試掘權ハ四年デ打切ルコトトセラレタ結果、敢テ試掘モ爲サズシテ、漫然ト試掘權ヲ保有スルト云フ弊害ハ、今回ノ改正ニ依ツテ多分ニ矯正セララルルコトトナルカラ、此ノ方面カラ採掘ヲ促進シ、將來ノ鑛產物ノ増産ニ資スルコトトモナル、而シテ今回ノ改正ハ、眞ニ試掘ヲ爲サントスル者ニ對シテハ、政府及ビ半官半民會社此ノ際徹底的ニ動員シテ、試掘ノ遂行ニ協力スルモノデアツテ、決シテ試掘權ヲ取上ゲヨウトスルモノデハナイ、寧ロ出來ルダケ早く之ヲ本來ノ鑛業權デアアル所ノ採掘權ニスルコトヲ促進シヨウト云フノデアアル、第二點ニ於テハ、今回ノ改正ハ半面ニ於テ眞ニ山野ヲ跋涉シテ鑛物ヲ發見シ、試掘權ヲ得タル者ノ轉賣ノ利益ヲ少カラシメルノデハナイカト云フ點ニ付テハ、政府ニ於テハ積極的ニ斯ル鑛物發見者自ラノ試掘ヲ援助シテ、採掘權ヲ設定セシメントスルモノデアアルカラ、是等ノ人々ノ採掘心ヲ決シテ阻喪セシメルモノデハナイ、第三點ニ於

テハ現在試掘權ヲ持つテ居ル者ニ付テハ、政府ハ有ユル援助ヲシテ四年内ニ試掘ヲ爲シ得ルヤウニ協力スル、而シテ試掘權ハ從來ノ制度ニ於テモ試掘ヲ爲サンガ爲ニ認メラレタ權利デアアルカラ、試掘權者モ亦其ノ保有スル鑛區ニ付テ、速ニ採掘ヲ行フ義務ヲ有スルモノデアアル、尙ホ採掘ノ價值アルモノニ付テハ、之ニ採掘權ヲ設定スルノデアアルカラ、一概ニ試掘權ヲ喪失セシムル結果トナルモノデハナイ、第四點ニ於テハ今回ノ改正ハ、鑛業常識上當然ニ認メラレテ然ルベキ程度ノ豫備鑛區ヲ決シテ否認セントスルモノデハナイ、唯從前ハ一度試掘權ガ設定セラレタル時ハ、何等ノ試掘行為ヲ爲サズトモ、是ガ存續ヲ事實上認メラレテ來タノデアアルガ、今後ハ鑛業法上ハ採掘鑛區ノ形ニ於テ之ヲ認メルト云フコトニナルノデアアル、而シテ今直チニ開發モシナイ地域ニ、試掘ノ爲、資材、資金、勞力等ヲ使用スルコトハ、國家經濟上損失デアアルト言フノデアアルガ、豫備鑛區等ヲ採掘權ノ形ニ於テ保持スルト云フコトハ、即チ日本ノ鑛物ノ賦存状態ニ關スル基礎資料ヲ得テ置クコトナリ、將來ノ増産實現ニ備ヘルト云フ意味ニ於テ絕對ニ必要デアアルト言ヒ、次ニ第五點ニ於テハ今回ノ改正ノ趣旨ハ、單ニ此ノ法律ノ改正ノミニ依ツテ、之ヲ達成シ得ナイコトハ言フマデモナイノデアツテ、其ノ爲ニハ政府及ビ特殊會社ノ積極的ナ協力ガ不可缺ノ要件デアアルコトハ全ク同感デアアル、政府及ビ特殊會社ハ從來ノ活動ニハ遺憾ノ點モ少クナイカラ、今後ハ其ノ陣容ヲ充實スルト共ニ、積極的ニ民間ニ協力スルコトトスル等ノ答辯ガアリマシタ、尙ホ砂鑛法ニ付キマシテハ多クノ質疑ヲ見ナカッタノデアアリマシガ、蓋シ委員會ノ空氣ハ、其ノ砂鑛權ノ設定ヲ簡易化シタル點等、大體ニ於テ本法ノ改正ニハ満足ノ意ヲ表セラレタ模様デアツタノデアリマス、其ノ詳細ニ至リマシテハ、之ヲ速記録ニ依ツテ御諒承ヲ願ヒタイノデアリマス、以上ニテ質疑ヲ終了致シ、本日委員會ヲ開キ本案ノ討議ニ入りマシタル所、澤田利吉君ヨリ民政、政友、時局同志會、第一議員俱樂部ヨリ成ル希望條件ヲ附シタル共同修正案ガ提出サレマシタ、其ノ修正案ヲ朗讀致シマス

附則

第十條 本法施行ノ際現ニ存スル試掘權ノ存續期間ハ本法施行ノ日ヨリ四年トス但シ主務大

臣已ムコトヲ得ザル事由アリト認ムルトキハ石油ヲ目的トスル試掘權ニ付テハ四年以内、石油以外ノ礦物ヲ目的トスル試掘權ニ付テハ二年以内之ヲ延長スルコトヲ得
次ニ希望條件ヲ朗讀致シマス

希望條件

- 一 政府ハ増産ニ必要ナル資材、勞力ノ配給ヲ完全ニシ探鑛探掘ニ萬遺憾ナキヲ期スベシ
 - 二 政府ハ地質調査及礦物調査ヲ一層效果的ナラシムベシ
 - 三 政府ハ重要礦物増産法ノ發動ニ依リ重要礦物ノ探掘獎勵ヲ一層強化スベシ
 - 四 鑛業助長ニ關スル國策會社ヲシテ其ノ機能ヲ充分發揮セシムベシ
 - 五 政府ハ豫備鑛區及保護鑛區ノ取扱ニ付テハ特別ノ考慮ヲ加フベシ
- 以上ガ希望條件デアリマス、政府當局ハ此ノ修正案ニ付テ同意シ、且ツ希望條件ニ付テハ之ヲ尊重スル旨聲明セラレマシタ、之ニ對シマシテ篠原義政君、東條貞君、小池四郎君、長谷長次君ヨリ修正案ニ同意ノ旨述べラレマシタ、社會大衆黨ノ川俣清音君ハ此ノ修正案ニ反對ノ意見ヲ述べラレマシタ、斯クシテ採決ノ結果修正案ハ大多數ヲ以テ議決セラレマシタ、尙ホ修正案ノ殘リノ政府原案ニ付キマシテハ採決ノ結果全會一致ヲ以テ可決致シマシタ、次ニ砂鑛法中改正法律案ハ採決ノ結果滿場一致ヲ以テ可決致シマシタ、此ノ段御報告ヲ申上ゲマス、次ニ尙ホ只今議題トナツテ居リマスル所ノ、有機合成事業法案ニ對シマスル委員會ノ經過ノ概要竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、先ヅ本法律案ノ内容ハ、既ニ御承知ノ如ク、有機合成事業ノ中、主トシテ「アセチレン」「瓦斯竝ニ水素及ビ一酸化炭素」原料トスル有機合成品製造事業ヲ保護助成スルヲ目的トシ、國防上、産業上重要ナル有機合成品ニ限り、本法ヲ適用セントスルノデアリマシテ、其ノ適用品目ト致シマシテハ、合成「ゴム」ヲ初メトシ、合成「トルオール」、合成「ベンゾール」「メタノール」「ブタノール」、醋酸、合成樹脂、合成纖維等デアリマスガ、合成「ゴム」ハ我國ノ重要不足資源タル天然「ゴム」ニ代用セラルルモノデアリマシテ、天然「ゴム」ノ各用途ニ代替シ得ルノミナラズ、天然「ゴム」ニ比較致シマシテ耐油性、耐酸化性、耐摩耗性等ノ化學的及

ビ物理的性質ニ於キマシテ優レテ居リマスノデ、各種「タイヤー」科學兵器其ノ他ノ軍需用資材トシテ、極メテ優秀ナル性質ヲ有シテ居ルノデアリマス、「トルオール」「ベンゾール」「メタノール」「ブタノール」醋酸等ノ有機合成品ハ、爆藥、醫藥、染料、塗料、燃料、各種工業藥品等ノ原料トシテ、又合成樹脂ハ金屬、皮革等ノ代用品トシテ、合成纖維ハ天然纖維又ハ人造纖維ニ代ルモノトシテ、孰レモ國防上、産業上甚ダ重要ナ物資デアリマシテ、更ニ今後有機合成工業ノ力ニ依リ、新ナル合成品ノ出現ガ期待セラルル次第デアリマス、隨テ現下ニ於ケル内外ノ諸情勢カラ考ヘマシテ、有機合成工業ハ早急ニ之ヲ確立スルノ要ガアリ、本法案ハ是ガ爲ニ必要ナル助成、指導ヲ爲サントスルモノデアリマス、委員會ハ三月四日ヨリ三回ニ互リ開會致シ、熱心ナル質疑應答ガ交ハサレタノデアリマスルガ、今其ノ論點ヲ申上ゲマスレバ、原料タル「カイバイド」ノ供給確保ノ問題、所要石炭竝ニ電力ノ確保ノ問題、有機合成事業確立ノ具體的方策ノ問題、有機合成化學ニ關スル綜合的試驗研究機關設置ノ問題、化學技術者ノ養成竝ニ確保ノ問題等ニ付キマシテ、適切且ツ有益、否、委員側ヨリ鞭撻的ノ質疑ガアツタノデアリマスルガ、之ニ對シマシテ政府モ亦極メテ懇切丁寧ナル應答ガアツタノデアリマス、斯ク致シマシテ三月十二日委員會ハ質疑ヲ終了致シ、本月更ニ委員會ヲ開キマシテ、討論ニ入りマシタ所、民政黨ノ澤田利吉君、政友會ノ篠原義政君、同ジク政友會ノ東條貞君、社會大衆黨ノ加藤鏡造君、時局同志會ノ小池四郎君、第一議員俱樂部ノ長谷長次君ヨリ、各、原案贊成ノ意見ヲ述べラレマシタ、斯ク致シマシテ採決ノ結果、滿場一致ヲ以テ原案ヲ可決致シマシタ次第デアリマス、詳細ハ速記録ニ依ツテ御諒承願ヒタイノデアリマス、以上簡單ニ御報告申上グル次第デアリマス

議長ハ先ツ六ニノ審議ヲ爲シ次テ他ノ二案ノ審議ヲ爲ス旨竝六ニノ委員長報告ハ修正ナルニ依リ討論ハ便宜上第二讀會ニ於テ許可スル旨ヲ告ク

院議異議ナク六二ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ討論ニ入り川侯清音君ハ委員長報告ニ反對ノ演說ヲ爲ス

川侯清音君ノ反對演說

私ハ鑛業法中改正法律案ノ委員長報告ノ中、修正ノ部分ニ付テ反對ノ意見ヲ述ベル者デアリマス、本委員會ハ委員長報告ノ通り、質疑ヲ打切りマシテカラ今日マデ、約十日間ヲ空費シタカノ如キ感ヲ呈シテ居ルノデアリマス、本委員會ノ大勢ハ、最初ニ於キマシテハ、極ク少數ノ人々ノ修正意見ハ、ポツ／＼見エテ居リマシタケレドモ、大勢ハ原案賛成デアッタノデアリマスガ、最後ニ至リマシテ修正ニ同意サレタノデアリマスケレドモ、其ノ經過カラ見マシテ、私共ハ飽クマデ原案ニ賛成シ、修正ニ反對致シタイノデアリマス、其ノ理由ハ、本法案提出ノ理由ガ、時局ノ逼迫セル情勢ハ、睡眠鑛區ヲ開發スルト共ニ、徒ニ占有スル試掘權ノ濫用ヲ防止スルノ目的ヲ以テ、試掘權ヲ排除致シマシテ、勞務管理ノ徹底ヲ期セラレル、而シテ技術的ニ探掘可能ナル探掘鑛業權ヲ以テ地下資源埋藏量ヲ明確ニシテ、鑛業資源開發ノ計畫ヲ具體化シ、以テ戰時國民經濟ノ上ニ寄與セントスルノガ、本改正法律案ノ要旨デアルト考ヘルノデアリマス、之ニ對シテ修正者ノ御意見ノ御尤モト見エル點ハ、今日業界ニ於テハ多額ノ金ヲ投資シテ鑛業開發ニ當ツテ居ルノデアアル、中ニハ破産致シテ居ル者スラアル程ニ、鑛業開發ニ熱心ニ當ツテ居カト云フノデアリマス、一應御尤モノヤウニ聞エマスケレドモ、本鑛業法ハ其立法以來、明治初年ノ鑛山心得以來、日本坑法、或ハ鑛業條令、或ハ現鑛業法等ノ歴史カラ見マシテ、又諸外國ノ立法例等カラ見マシテ、鑛業權ト云フモノハ探掘權ガ主デアリマシテ、試掘權ハ鑛業權ノ極ク一部ニ過ギナイノデアリマス、殊ニ試掘權ハ探掘權ト違ヒマシテ、勞務管理ノ規定モ不十分デアリマス、又鑛害賠償ノ責任ノ存在モ不十分デアリマス、其ノ責任ニ於テ斯ル不十分ナル試掘權ヲ以テ大規模ノ探掘ヲ爲スコトハ、本法律ノ精神ニ反スルモノデアリマシテ、諸外國ニ其

ノ例ヲ見ナイノデアリマス、隨テ試掘權ヲ以テ便宜的ニ探掘行為ヲ爲ス者ハ不誠意ナル鑛業權者ト言ハナケレバナラナイト思フノデアリマス、即チ民法ノ第二百六條ノ土地所有權カラ見マシテ、或ハ鑛業法ノ第三條所謂未ダ探掘セラレザル鑛物ハ國有トス、地下ノ埋藏資源ハ國有デアリマス、之ヲ土地カラ分離シテ、取得處分スル權限ガ探掘權デアリマス、試掘權ハ未ダ鑛物ヲ探索調査スル行為デアリマシテ、之ヲ取得處分スルノ權限ヲ探掘權ハ持ツテ居ラナイノデアリマス、試掘權ハ此ノ地表地下カラ取り出シテ來テ處分スルノ自由ノ權限ヲ持ツテ居リマセヌ、斯ル自由處分ノ權限ヲ持ツテ居ナイモノヲ強化スルト云フコトハ、私ハ穩カデナイコトデアルト考ヘルノデアリマス、鑛業法四十六條、四十八條、或ハ七十三條、七十五條、及ビ鑛業警察規則十一條、六十一條カラ見マシテ、試掘權ト探掘權トハ確然ト區別シテ監督ナサレナケレバナラナイモノデアルト考ヘルノデアリマス、鑛業經營ハ探掘權ヲ本位ニ指導監督スルコトガ法ノ明記スル所デアリマスカラ、商工省ハ其ノ法ノ命ズル儘ニ責任ヲ負フベキデアリマスケレドモ、今日ノ商工省ハ一塊ノ鑛石ノ欲シサニ、或ハ一握リノ石炭ノ欲シサニ、或ハ僅カナ砂金欲シサニ法律ニ依ラズシテ此ノ試掘權者ノ探掘行為ヲ放任致シテ來タノデアリマス、此ノ鑛業法ヲ輕ンジマシテ斯ル行為ヲ放任スルコトハ、私ハ國土保安ノ上カラ、耕地擁護ノ上カラ、立法精神カラ見テ嚴ニ戒ムベキコトデアルト考ヘルノデアリマス、殊ニ此ノ委員會ノ質問應答カラ見マシテ政府ハ深ク考ヲナサラナケレバナラナイ事態デアラウト考ヘルノデアリマス、鑛業權者ニ鑛業法規ヲ兎角遵奉シナイ傾ガアルノデアリマス、ソレハ指導監督宜シキヲ得ナイ結果デアリ、鑛業法ヲ遵奉スルノ精神ニ疎イ業者ノ多ク現ハレテ參リマシタコトハ、是ハ商工省ノ監督指導宜シキヲ得ナイカラデアルト私ハ思フノデアリマス、斯ル風ニ放任致シテ居リマシタ結果、今日ノヤウナ修正案ガ出テ參リマシタノデアリマシテ、是ハ商工省ノ責任デアルト私ハ考ヘルノデアリマス、殊ニ此ノ法案ト相次ギマシテ、諸君ノ御審議ニナリマシタ重要塞地法ノ改正ヲ含ンデ居リマス宇品ノ要塞地ノ改正モ、此ノ鑛業法ト相伴ツテ居ルノデアリマス、斯ル重要ナル要塞地スラ鑛業開發ノ爲ニ開放スルト云フ建前ニナツテ居ルノデアリマスカ

ラ、無責任ナル試掘権者ニ之ヲ任カセルガ如キハ、非常ナ危険デアルト考ヘナケレバナリマセヌ、(拍手)随テ誠意アル所ノ採掘鑛業権者ヲシテ、十分政府ノ監督ノ下ニ鑛業開發ニ當ラシメナケレバナラナイト云フノガ、私ノ本修正ニ對スル反對ノ意見デアルト同時ニ、政府ハ自ラ此ノ鑛業法規ヲ蹂躪サレタカノ如キ此ノ修正案ニ對シマシテハ、斷乎トシテ同意セザランコトヲ希望スル者デアリマス

採決ニ入り本案ハ委員長報告ニ係ル修正部分ニ付起立採決ノ結果委員長報告ノ通之ヲ議決シ其ノ他ノ部分ハ院議異議ナク原案ノ通之ヲ可決ス

院議異議ナク直ニ本案ノ第三讀會ヲ開キ第二讀會議決ノ通議決ス

次テ院議異議ナク六三及八三ノ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ各原案ノ通可決シ即日三案ヲ貴族院ニ送付ス

貴族院ニ於テハ三月二十二日六二及六三ノ兩案ヲ可決奏上ス

四月八日六二ハ法律第百二號、六三ハ法律第百三號ヲ以テ公布セララル

六四 輸出資金及輸出品製造資金融通損失補償法案

輸出資金及輸出品製造資金融通損失補償法

第一條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ銀行ガ本法施行地内ニ住所又ハ營業所ヲ有スル者ニ對シ

其ノ者ガ振出シタル約束手形ノ割引ノ方法ニ依リ左ノ各號ニ掲グル資金ヲ融通シ之ニ因リテ損失ヲ受ケタル場合ニ於テ當該銀行ニ對シ帝國議會ノ協贊ヲ經タル金額ノ範圍内ニ於テ其ノ損失ノ百分ノ八十ヲ限度トシ之ヲ補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得

一 本法施行地ヨリ主務大臣ノ指定スル地域ニ内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於テ製造(生産又ハ加工ヲ含ム以下之ニ同ジ)セラレタル商品ヲ輸出スル爲其ノ者ガ必要トスル資金

二 本法施行地ヨリ主務大臣ノ指定スル地域ニ輸出セララル商品ヲ内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於テ製造スル爲其ノ者ガ必要トスル資金

第二條 前條ノ契約ヲ爲シタル銀行ガ其ノ契約ニ基キ資金ヲ融通シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ補償料ヲ政府ニ納付スベシ

第三條 第一條ノ損失ハ銀行ガ約束手形ノ満期ニ支拂ヲ受クルコト能ハザリシ金額トス但シ補償前ニ其ノ金額ノ全部又ハ一部ノ支拂ヲ受ケタルトキハ之ヲ控除スルモノトス

第四條 銀行ハ補償ヲ受ケタルトキハ其ノ手形ニ付遲滞ナク手形上ノ權利ヲ行使スベシ但シ其ノ權利ノ行使ニ要スル費用ガ其ノ行使ニ依リテ得ベキ金額ヲ超ユルモノト認メラルル場合其ノ他特別ノ事情アル場合ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ權利ノ全部又ハ一部ヲ

行使セズ又ハ一時行使セザルコトヲ得
 銀行ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ權利ノ行使ニ依リテ得タル金額ヨリ滿期以後ノ利息及銀
 行ガ其ノ權利ノ行使ノ爲支出シタル費用ヲ控除シタル殘額ヲ政府ニ納付スベシ
 第五條 第一條ノ契約ヲ爲シタル銀行ガ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ契約ニ違反シタ
 ルトキハ政府ハ契約ヲ解除シ、損失ノ全部若ハ一部ニ付補償ヲ爲サズ又ハ損失補償金ノ全部
 若ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトヲ得

第六條 本法ノ適用ニ付テハ商工組合中央金庫ハ之ヲ銀行ト看做ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

右ハ昭和十五年二月十九日日本院ニ提出ス同月二十七日日本案ノ第一讀會ヲ開キ加藤商工政務次官ハ
 左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

輸出資金及輸出品製造資金融通損失補償法案提出ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、申スマデモナク
 輸出貿易ノ積極的増進ヲ圖リマスコトハ刻下ノ急務デアリマス、而シテ是ガ對策ト致シマシテ
 ハ幾多ノ方策ガ考ヘラレルノデアリマスガ、特ニ現下國際情勢下ニ於キマシテハ、國內ニ於ケ
 ル輸出前ノ金融ニ可及的便宜ヲ講ジ、之ニ依ッテ輸出品業者及ビ輸出品製造業者ガ安ンジテ海外
 ヨリノ注文ヲ引受ヲ爲スコトガ出來ルヤウニ致シマシテ、輸出ノ維持促進ヲ期スルコトガ、最

モ有效適切デアラウト存ジマス、此ノ趣旨ニ於キマシテ、從來豫算制度ノ運用ニ依リ輸出資金
 融通損失補償及輸出品製造資金融通損失補償ヲ施行シテ參ツタノデアリマスガ、此ノ際此ノ兩
 制度ヲ法律ノ根據ノ下ニ置イテ、制度ノ恆久化ヲ圖リ、輸出補償制度ト互ニ相牽聯呼應セシメ
 テ、貿易金融制度ノ整備ヲ期シ、最近ノ國際通商情勢ニ對處シテ我ガ輸出貿易政策ノ遂行ニ
 遺憾ナカラシメンコトヲ期セントスル次第デアリマス、何卒十分御審議ノ上御協賛ヲ與ヘラレ
 ンコトヲ希望致シマス

中村高一君質疑ヲ爲シ加藤商工政務次官及岡田農林政務次官應答ス

中村高一君ノ質疑

只今上程ニナリマシタ輸出資金並ニ輸出品製造ニ對シマシテノ損失補償法ニ付キマシテ、商工
 大臣並ニ農林大臣ニ二三ノ質疑ヲ致シタイト思フノデゴザイマス、今日我國ノ輸出入貿易ノ現
 狀ヲ見マスルノニ、支那事變ノ起リマシタ當初ニ於テ、輸入ノ統制ニ其ノ重點ヲ置カレマシタ
 貿易統制ハ、今日事變ノ長期建設ノ段階ニ入りマスルト共ニ、輸出ノ増進ニ其ノ目標ガ置カレ
 テ居ルノデアリマシテ、軍需並ニ民需資材ノ輸入確保ヲ致シマスルニハ、第三國ヘノ輸出貿易
 ノ増進ガ必要デアルコトハ固ヨリデアリマシテ、ソレデアアルノニモ拘ラズ、現在ハ圓「ブロッ
 ク」ヘノ輸出ガ非常ナ勢デ大陸ニ殺到ヲ致スト云フヤウナ現狀デアリマシテ、昨年度ニ於キマ
 シテ圓「ブロック」ヘ輸出セラレマシタモノガ十三億六千三百餘萬圓デアリマシテ、八億一千六
 百萬圓ニ上ル輸出ノ超過ヲ致シテ居ルノニモ拘ラズ、第三國貿易ハ十四億九百餘萬圓デアリマシ
 テ、四億三千七百萬圓ノ入超ヲ見ルト云フヤウナ狀況デアリマス、今回政府ガ此ノ法案ヲ提出
 致シマシタコトハ、恐ラクハ此ノ第二國ニ對スル輸出貿易ノ増進ノ爲デアルコトハ、私ガ申上ゲ
 ルマデモナイト存ズルノデアリマス、併シナガラ只今政府ノ提案ノ理由ニ説明セラレマシタ通
 リニ、從來ノ昭和五年以來實施セラレテ居リマスル輸出補償法ハ、商品ガ船ニ積出サレタ後ノ

損失補償デアリマシテ、商品ガ船ニ積込マレマスルマデノ間ノ損失補償デナカッタ爲ニ、多クノ輸出業者或ハ製造業者ハ、此ノ船ニ積ムマデノ間ノ金融ニ非常ナ支障ヲ來シテ居ッタノデアリマス、併シナガラ十分ナル資力ヲ持ツテ居リマスル大資本家、輸出商ト云フヤウナモノニ對シマシテハ、恐ラク金融ノ困難ト云フコトハナカッタカモ知レマセヌ、併シナガラ此ノ船ニ積ミマスルマデノ間ニ於テ、中小商工業者ハ如何ニシテ此ノ輸出ノ資金ヲ得ルコトガ出來ルカ、或ハ製造業者ハ如何ニシテ此ノ資金ヲ得ルコトガ出來ルカト云フコトニ付キマシテ、非常ナ困難ヲ來シテ居ッタノデアリマス、一昨年ノ八月カラ此ノ制限ガ實施ヲセラレマシタ現今マデノ狀況ヲ中心ニ致シマシテ、先ヅ私ハ商工當局ニ向ヒマシテ、此ノ法律ガ實施セラレマスルトシテ、其ノ實施ノ適用ヲセラレマスル所ノ範圍竝ニ其ノ運用ノ方針ニ付キマシテ、先ヅ二三ノ要點ダケ質問ヲ致シタイト思フノデゴザイマス、今日實際ニ於キマシテ資金ニ困ツテ居ル中小商工業者ガ此ノ制度ノ實施ニ依リマシテ銀行カラ資金ノ融通ヲ受ケルノデアリマスガ、今日マデノ實際ニ行ハレテ居リマスル現狀カラ考ヘテ見マスルト、政府ハ此ノ制度ヲ作りマシテモ、唯其ノ資金ノ運用ヲ銀行ニダケ任セテ置クト云フコトデアリマスルナラバ、私ハ此ノ效果ヲ擧ゲルコトハ斷ジテ出來ナイト思ツテ居リマス、ナゼカト申シマスルナラバ、今日輸出ノ資金竝ニ製造資金ヲ借リルニ致シマシテモ、理狀ハ總テ銀行ガ其ノ調査モ致シマス、或ハ貸付額ノ決定モ全部銀行ニ任セラレテ居リマスル爲ニ、折角此ノ制度ガアリマシテモ、調査其ノ他ガ全部銀行ニ任セラレテ居リマスル爲ニ、オ前ハ自分ノ銀行ト何等ノ取引モナイトカ、或ハ預金ノナイ者ハ御斷リダトカ云フヤウナコトデ、事實ニ於テハ、中々借入ガ困難ナ現狀ニアルバカリデナク、政府ガ從來指定ヲ致シテ居リマスル所ノ此ノ取扱銀行ガ、一流ノ爲替銀行ニ限ラレテ居リマスル爲ニ、中小商工業者ガ直接取引ヲ致シテ居リマスルヤウナ銀行デハナイノデアリマシテ、一流ノ大銀行ダケデアリマスルカラ、小サキ工場主ヤ商人ガ此ノ大銀行ニ參リマシテ、資金ノ融通ヲ受ケルト云フコトニ付テハ、頗ル困難ガアリマス、此ノ點ニ付テ政府ハ制度ヲ作りサヘスレバソレデ宜イト云フヤウナ考デナクシテ、積極的ニ運用ヲ考ヘテ貫ハナケレバ、其ノ

效果ハ擧ラナイト云フコトヲ私ハ申上ゲマシテ、其ノ點ニ付テノ御考慮ヲ願フト共ニ、政府ノ所見ヲ承リタイノデアリマス、モット本當ニ中小商工業者ガ要求スルヤウナ小サナ銀行ニマデ其ノ取扱ヲ任セテ、サウシテ便宜ヲ與ヘナカッタナラバ、折角此ノ法律ガ出來テモ何ニモナラナイ、斯様ニ私ハ考ヘルノデアリマス、更ニ此ノ法律ガ實施セラレルト致シマシテ、輸出業者デハナクシテ、今度ハ製造業者ノ方面ノコトデアリマスケレドモ、例ヘバ資金ノ融通ヲスルニ付テモ、輸出商カラ下請ヲ致シマスル所ノ製造業者ガ資金ヲ借リルノデアリマスルガ、問題ハ下請ノ其ノ下請業者ニ對スル融通ト云フモノガ、今日少シモ行ハレテ居ラナイ點デアリマス、御承知ノ通りニ日本ノ商工業者ハ極メテ資金ノ少イ小工場經營者ガ非常ニ多イノデアリマシテ、大部分ハ下請業者デアリマスケレドモ、直接ノ請負ヲ致シタ者ニダケ資金ノ融通ヲスル途ガアツテ、下請ノ其ノ下請ニ對スル資金ノ融通ト云フモノヲ圖ラナカッタナラバ、此ノ法律ハ何ニモナラナイト云フコトヲ私達ハ考ヘテ居リマスノデ、御所見ヲ承ルノデアリマス、更ニ是ハ輸出ノ振興ニ對シマシテ直接關聯ヲ致シマスカラ、此ノ機會ニ御質問ヲスルノデアリマスルガ、政府ガ音頭ヲ取リマシテ、六大都市ヲ中心ニスル府縣ト自治體ニ勸メマシテ、御承知ノ通り輸出振興株式會社ト云フモノヲ作りセテ居リマス、然ルニ此ノ輸出振興株式會社ハ政府ガ勸メテ作りセテ居ルノニモ拘ラズ、今日デハサツパリ政府ノ熱意ガナク、勸メテ作りセタダケデアリマシテ、積極的ニ之ヲ働カセル方法ト云フモノガナイ爲ニ、輸出振興會社ガ出來テ居リマシテモ、效果ヲ擧ゲルコトガ出來ナイ現狀ニアリマス、特ニ材料ノ輸入ナドニ付テハ、本年ノ二月僅ニ百万圓ノ認可ガアツタダケデアリマシテ、全國ノ此ノ輸出振興會社ニ僅ニ百万圓位ノ材料ヲ與ヘタト致シマシテ、ドウシテ輸出ノ振興ヲ圖ルコトガ出來ルカ、而モ今日ノ配給機關ガ一貫シテ居リマセヌ爲ニ、輸出振興會社ニ材料ノ輸入ヲサセテ居リ、一方ニ於テハ從來ノ配給機構ト云フモノガアリマシテ、此ノ二ツガコンガラカツテオ互ニ相摩擦ヲ致シマシテ、配給ノ上ニ付テ非常ナ支障ヲ來シテ居リマスルコトヲ、政府ハ御存ジナイ筈ハナイト私ハ考ヘルノデアリマス、振興會社ヲ作ツタナラバ、從來ノ配給機構トノ間ニ於テ調整ヲ取ルト云フコト

ガ、私ハ政府ノヤルベキコトデハナイカト思フ、而モ輸出振興會社ガ出來タケレドモ、ヤリ方ガマルデ小役人カ何カガヤルヤウナ態度デアリマシテ、極メテ手續ガ煩雜デアリマスルカラ、折角此處ニ材料ヲ求メテ參リマシテモ、小役人式ノ極メテ煩雜ナ手續ノ爲ニ、容易ニ品物ヲ纏メルコトガ出來ナイ、例ヘバ輸出ノ箱ヲ造ルニ致シマシテモ、見本ヲ持ツテ來ナケレバ駄目ダト言フ、箱デアリマスカラ、見本ヲ擔イデ行ク譯ニハ行カナイカラ、箱ヲ一遍造ツテ、其ノ釘ヲ又全部抜イテ、目方ニ掛ケテ、サウシテ此ノ箱ニ付テハ是ダケダト云フ程度マデヤラナケレバ、材料ノ配給ガ受ケラレナイト云フコトデ、ソシナコトヲヤツテ居ツタノデハ商賣ニナラナイカラ、一層ノコト二十圓ノ釘ヲ此處デアリヨリハ、闇デ二十五圓ノモノヲ買ツタ方ガ宜イト云フヤウナ氣持サヘ起シテ居ルノガ、今日ノ輸出振興會社ニ對スル現狀デアリマシテ、政府ハ折角作ツタノデアリマスカラ、ドウゾ責任ヲ感ジテ、熱意ヲ以テ指導シテ戴キタイト云フコトヲ政府ニ要請スルト共ニ、政府ノ之ニ對スル對策ヲ私ハ承リタイト存ズルノデアリマス、尙ホ此ノ法律ノ適用ノ範圍ハ、圓「ブロック」ニ對スル輸出ニ對シテハ、補償ヲシタイト云フコトニナツテ居ルノデアリマス、是ハ今日圓「ブロック」ニ對スル非常ナ輸出増加ノ歩合カラ致シマシテ、之ニ適用ヲシタイト云フコトニハ、固ヨリ反對ヲシヨウトスル者デハゴザイマセヌケレドモ、併シナガラ同ジ支那ノ大陸ニ行クニ致シマシテモ、例ヘテ見マスナラバ、斯ウ云フモノニ對シテハドウスルノカ、宣撫用ニ使フトカ、或ハ難民ノ救護ノ爲ニ使フトカ、或ハ小學兒童ノ學用品ト云フヤウナ、斯ウシタ公共的ナ目的ヲ持ツテ居リマスル物モ圓「ブロック」ノ輸出ノ中ニハ澤山アリマス、之ヲ一律ニ金儲ケノ爲ノ圓「ブロック」向ケノ輸出ナリトシテ、除外ヲ致シマスルコトガ適當ナリヤ否ヤ、此ノ點ニ對スル政府ノ御所見ヲ承リタイトゴザイマス、更ニ是亦本法ノ適用ニ直接ノ關係ガアルノデアリマスルガ、輸出ノ損失ヲ致シマシタ爲ニ補償ヲスルト致シマシテモ、其ノ原因ニハ色々アルト思フ、例ヘテ見マスナラバ、海外ヨリノ註文ノ取消、或ハ日貨ノ排斥、或ハ荷役ノ停止、爲替管理其ノ他ノ輸出禁止、或ハ原料ノ入手難ト云フヤウナ幾多ノ原因ガアルト思フ、併シ是等ハ今日ノ國際情勢ノ極メテ危険ナ中ニ貿易ヲスルノデア

リマスルカラ、斯ウ云フヤウナ者ニ對スル補償ヲスルト云フコトハ、最モ適切ナリト思料スルノデアリマスルガ、多クノ貿易業者ノ中ニハ、或ハ自分ノ商賣ノ手違ヒ——中ニハ思惑ノ爲ニ商賣ニ損失ヲ來シテ、業務ノ破綻ヲ來スヤウナ者モアルト思フ、斯ウ云フヤウナ者ニ對シマシテモ、同様ニ補償ヲセラレルノカ、此ノ點モ政府ノ答辯ヲ願ヒタイトゴザイマス、更ニ私ハ輸出ニ關シマシテ直接ノ關聯ヲ持ツテ居リ、而モ現在非常ナ問題ヲ起シテ居リマスル所ノ生絲ノ暴落ト、是ガ對策ニ付キマシテノ政府ノ御答ヲ願ヒタイト存ジマス、我國ノ輸出品ノ中デ、特ニ第三國貿易ノ中ニ於キマシテ、最モ重要ナル役割ヲ致シテ居リマスルモノハ、生絲竝ニ絹織物デアリマシテ、我國ノ第三國ニ對スル貿易ノ全輸出額ノ實ニ二割七分ハ、此ノ生絲竝ニ絹織物デアリマス、綿織物ニ比ベマシテ全部原料ハ純國産品デアリマス、綿織物ナドモ其ノ輸出ハ非常ニ多イガ、併シ其ノ原材料トシテノ七割ヲ引キマスルナラバ、實際ニ外貨ヲ獲得シ得ラレルモノハ、其ノ三割ニ過ギナイノデアリマス、併シ生絲竝ニ絹織物ハ其ノ全額ガ外貨ノ獲得ニナルノデアリマス、然ルニ今日生絲ノ相場ヲ見テ居リマスルナラバ、本年ノ一月ノ最高期ニ比ベマシテ、約一千圓ニ近イ暴落ヲ致シテ居リマシテ、我ガ日本ノ輸出貿易ノ上ニ於キマシテノ損失ハ、極メテ大ナルモノデアルト吾々ハ考ヘザルヲ得ナイノデゴザイマス、而モ政府ニ於キマシテハ、農林省ヲ中心ニ致シマシテ、從來日本ノ纖維工業ニ付キマシテ、全部嚴重ナル統制ヲ執ツテ居ツタニモ拘ラズ、生絲ハ日本ノ重大ナル輸出品デアリ、外貨獲得ノ上ニ於キマシテハ、從來反對ノ態度ヲ執ツテ來ラレタニモ拘ラズ、本年ノ一月二十日ニ國用生絲ノ統制ヲ行ツタノデアリマシテ、此ノ統制ヲ行フト殆ド時ヲ同ジウ致シマシテ、生絲ガ大暴落ヲ致シテ居ルノデアリマス、是ガ爲ニ今日シハ日本ノ生絲商或ハ絹織物商、或ハ二百萬戸ノ養蠶農家ト云フモノハ、此ノ非常ニ暴落ヲ致シテ居リマスル生絲ヲ目前ニ控ヘマシテ、非常ナ今動搖ヲ來シテ居ルノデアリマシテ、業者ニ依リマスレバ、此ノ政府ノ統制ガ間違ッテ居ツタカラ、斯ウ云フコトニナツタノデアアル、即チ國用生絲ニ對スル所ノ配給統制ノ爲ノ切符制ノ斷行、更ニ政府デハ國用生絲ノ價格

ノ制定モ行ハント致シテ居ルノデアリマスケレドモ、斯ノ如キ政府ノ政策ガ、外貨獲得ノ上ニ於キマシテ最モ重大ナル關係ヲ持ツ生絲ニ對シテ損失ヲ來シタルモノナリト言ハレテ居ルノデアリマスガ、政府ハ之ニ對シマシテ如何ナル御所見ト對策ヲ御考ニナツテ居ラレマスカ御尋ラシタイノデアリマス、而モ今日生絲ノ輸出市場ハ殆ド亞米利加ニ限ラレテ居ルノデアリマス、日米通商條約ノ廢棄ト、日米兩國間ノ今日ノ極メテ良カラザル空氣ト云フヤウナモノヲ、吾々ガ考ヘテ見マスル時ニ當ツテ、日本ノ此ノ重大ナル所ノ産業ガ、斯様ニ不安ナ状態ニ置カレテ居ル亞米利加ニダケ依存スルト云フコトガ、果シテ正シイカ正シクナイカ、此ノコトヲ私ハ御尋ラシタイノデアリマス、成程政府ハ昭和九年以來印度、南米、阿弗利加等ニ新市場ノ開拓ヲ圖ツテ居リマスコトハ認メルノデアリマスケレドモ、併シナガラ今日ノ如キ國際情勢ノ中ニ於キマシテ、日本ノ生絲ノ約半分ヲ亞米利加ニダケ賣ル、斯ノ如キ方法デ果シテ宜シイカドウカト云フコトニ付テハ、吾々ハ重大ニ考ヘナケレバナラヌト思フ、而モ亞米利加ニ於キマシテハ人絹ノ發達ナドカラ、益、日本ノ生絲ノ需要ニ對スル影響ガ來ラントシテ居ル時デアリマスカラ、政府ノ之ニ對スル率直ナル見透シ、對策ヲ御尋シタイノデアリマス、吾々ハ今日ノヤウニ生絲ノ價格ガ極メテ動搖シテ居ルコトカラ考ヘテ見マシテモ、一步進メテ、生絲ニ對シマシテハ國家ガ管理スル、今回統制命令ヲ出サナケレバナラナクナツタ其ノ理由ガ、國內ニ於ケル間屋筋ノ思惑取引ガ非常ニ原因シテ居ルノデアリマスガ、吾々ハ此ノ思惑取引ヲ禁止シ、國內ノ配給ヲ確保スル上カラモ、國家ガ管理ヲスルト云フコトガ必要デハナイカ、個人ノ貿易ノ時代カラ、一步進メテ國家ノ貿易ニ進マナケレバナラナイ、自由貿易主義ヲ拋棄シテ吾々ハ國家協定貿易ヘト進ムト云フ、サウシタ大英斷ニ出デラレル所ノ御所存ガアルカドウカ承リタイノデアリマス、最後ニ一ツ御尋シマス、輸出品ノ原材料ノ不足ト是ガ對策ニ付テデアリマスガ、極ク簡單ニ質問ノ要點ダケヲ申上ゲマス、今日國際收支ノ均衡ヲ保ツ爲ニ、我國ハ一面ニ於テハ輸入ニ對シテ嚴重ナル統制ヲ行ヒツツアル一方、軍需資材充實ノ爲、輸出品ニ對スル原料獲得ハ、今日極メテ困難ナ現狀ニアルノデアリマス、如何ニ政府ガ輸出ノ獎勵ヲ圖リマシテモ、

原料ガナクテハ輸出ガ出來ナイコトハ論ズルマデモナイノデアリマシテ、輸出業者ハ一體吾々ニ輸出シロト言ツテ、何ヲ輸出スルノダ、輸出スル所ノ物ガナイヂヤナイカトサヘ極言シテ居ルノデアリマス、併シナガラ吾々ハ今日ノ時局ヲ考ヘテ見マスナラバ、原料入手ノ困難ダト云フコトト、原料輸入ノ統制ヲ強化スルト云フコトニ對シマシテハ、已ムヲ得ナイ自律デアルト吾々ハ考ヘテ居リマス、併シナガラ輸出品ノ製造ニ對シテ、政府ハ根本的ナ何等カノ指導方針ニ付テ御考ヲ廻ラサナケレバナラナイノデハナイカ、我國ノ貿易ノ從來マデノ状態ハ、何トカシテ安イ品物ヲ作ツテ新タナル販路ヲ開拓スル、外國貿易ノ進出ヲスルノニハ物ガ安クナラナケレバナラナイト云フコトカラ、安イ物ヲ多量ニ作ツテ、多少粗製品デアツテモ、此ノ安イト云フコトニ依ツテ外國ノ市場ヲ席卷スルノダト云フコトガ、我國貿易政策ノ上ニ於キマシテ看過スルトノ出來ナカツタ事實ダト吾々ハ思ツテ居リマス、併シ戰時經濟ニナリマシテ、外貨ヲ獲得スルト云フコトガ急務デアアル今日ニ於キマシテ、安イ品物ヲ多量ニ出スト云フ事柄ガ、外貨獲得ノ上ニ於キマシテハ、其ノ量ハ多イケレドモ、比較的效果ガ薄イト云フコトヲ私達ハ考ヘナケレバナラナイト思フ、言ヒ換ヘマスナラバ吾々ハ原料資源ノ不足ナ國デアリ、原料資源ノ統制ノ極メテ窮屈ナ時デアリマスカラ、僅カナ資源ヲ活用シテ、之ニ對シテ吾々ハ技術ヲ加ヘル、勞働力ヲ加ヘル、サウシテ僅カナ、例ヘテ見マスナラバ百圓ノ品物モ、從來ノヤウニ九十五圓ノ材料デ技術トシテハ僅ニ五圓シカ加ハツテ居ラナイト云フヤウナ商品ノ製造デハナクシテ、僅ニ材料ハ五圓デ宜イカラ、後ノ九十五圓ハ技術ト、吾々ノ持ツテ居リマスル所ノ、其ノ勞働力ヲ加ヘルト云フヤウナ商品ノ製造方法ニ吾々ハ其ノ中心ヲ向ケテ行カナケレバナラナイノデハナイカ、特ニ原料資源ノ不足ト獨逸ノ輸出製品ノ製造等ニ付キマシテハ、吾々ガ採ツテ以ツテ範トスルニ足ル點ガ澤山アルト思フ、吾々ハ原料ヲ折角輸入シテ、再ビ原料ヲ外國ニ輸出スルヤウナ品物ヲ造ラズ、吾々ハ技術ヲ輸出スル、勞働力ヲ輸出スルト云フコトガ必要ナノダ、勞働價值ヲ政府ハ認メナケレバナラナイノダト云フコトヲ、吾々ハ聲ヲ大ニシテ叫ビタイノデアリマス、兎角今日ノ工場經營者ナドガ、何トカシテ輸出品ヲ造ラウトスル時ニ當ツテ、勞働條件ヲ下

ゲルコトニ依ツテ品物ヲ安クシヨウト云フヤウナ、ケチ臭イコトヲ考ヘズニ、製造業者等ニ向ツテモ、吾々ハドウカサウシタケチ臭イ氣持ヲ持タズニ、モット勞働力ノ價値ヲ認メルヤウナ製品ヲ造ツテ、高價ナ品物ヲ造ツテ、外貨ヲ獲得スルト云フヤウナコトニ、其ノ主流ヲ向ケルコトガ當然ナリ、斯様ニ私ハ信ズルノデアリマスルガ、之ニ對スル政府ノ御所見ヲ承リマシテ、私ハ之ヲ以テ質疑ヲ終リタイト存ズルノデゴザイマス

加藤商工政務次官ノ應答

中村君ノ御質問ニ御答致シタイト存ジマス、圓「ブロック」ヘノ輸出ニ關シテノ御説ガゴザイマシタガ、本法案ノ狙ヒ所ハ、外貨獲得ノ爲ニ第三國ヘノ輸出振興策トシテデアリマスルガ故ニ、圓「ブロック」向輸出ニ付テハ、本法案ヲ適用シナイノデゴザイマス、次ニ中村君ハ、本法案ガ中小輸出業者若クハ中小輸出製造業者ノ方ハ、比較的銀行ニ信用ガナイガ故ニ、サウ云フ方面ニハ融通ガ出來ナイノデハナカラウカ、假令法ヲ作ツテモ無意義ニ終ルデハナカラウカト云フヤウナ御質問デアツタノデアリマスルガ、本法案ノ狙ヒ所ハ、ヤハリ中小輸出業者、中小輸出製造業者ノ事業ヲ援助スル目的デゴザイマスルガ故ニ、銀行ニ向ツテモ、又其ノ目的カラ申シマシテモ、左様ナル御心配ハナカラウト存ズルノデゴザイマス、併シナガラ中村君ハ、左様ニ言フケレドモ、銀行自體ガ貸サナイノデハナイカト云フヤウナ御心配ハ、一應御尤モデゴザイマスルガ、本法案ハ銀行ノ貸出ニ對シテ八割ヲ補償致シテ居ルノデアリマス、又五六カノ府縣ニ依リマシテハ、其ノ後ノ二割ニ對シテ一割五分ヲ補償致シテ居ルノデアリマスルガ故ニ、輸出業者、一萬圓借リマシタ時、銀行ガ一萬圓貸シマシタ時ハ、銀行ハ如何ニソレガ間違ヒマシテモ、九千五百圓マデハ補償シ得ルノデアリマスルガ故ニ、銀行モ安ンジテ是ハ貸出スモノナリト信ジマシテ、左様ナ御心配ハナカラウト存ズルノデゴザイマス、又中村君ハ、輸出製造業者ニハ一般銀行デ左様ニ貸出スケレドモ、其ノ下ノ更ニ下請製造業者ニ於テハ借リル途ガナイデハナイカ、是ガ困ルデハナイカト云フ御質問デアリマシタガ、一應御尤モヤウニ存ジマスルガ、是ハ運用宜

シキヲ得テ、左様ナコトモナカラウト私共ハ信ジテ居ルノデアリマス、又手續ノ點ニ於テ、中村君ハ煩瑣ナ手續ヲスルノデ困ルデハナイカト云フヤウナ御心配モアリマシタガ、手續ハ極メテ簡易デゴザイマシテ、何レ委員會ニ於テ御説明致スデアラウト思ヒマスガ、左様ナ御心配ハナカラウト存ズルノデアリマス、ソレカラ中村君ノ輸出振興株式會社ニ關シテノ御説デアリマスガ、洵ニ御尤モト存ズルノデアリマス、今後ハ輸出振興株式會社ニ於キマシテハ、輸入ノ資材ノ取扱ニ付キマシテモ努力シ、其ノ活動ノ範圍ヲ廣メテ、以テ輸出振興ノ目的ニ進ミタイト存ジテ居ルノデゴザイマス、ソレカラ次ニ中村君ハ輸出業者ノ損失ノ點ニ付テ、色々ノ點ヲ御擧ゲニナリマシタガ、此ノ輸出法案ハ、例ヘバ輸出業者ガ第三國ガ戰爭ノ結果、或ハ色々ノ災難ノコトガゴザイマシテモ、其ノ損失ハ政府ガ致スノデアリマスルガ故ニ、是ハ左様ナ心配モナカラウト存ズルノデゴザイマス、生絲ノ問題ニ付キマシテハ、農林當局ヨリ御答辯ガアルコトト存ジマシテ、私ハ省略サシテ載キマス、更ニ中村君ハ、材料不足ノ場合ニ於テハ輸出業者、政府トシテハ勞働力、技術、加工賃ヲ高クシテ、以テ其ノ品質ノ價値ヲ高クシテ、外貨ヲ獲得シナケレバナラヌデハナイカト云フ御説ガゴザイマシタガ、至極同感デアアルノデゴザイマス、私共ハ此ノ點ニ對シマシテ、從來ノ「リンク」制ガ或ハ期間ガ少イト云フコトデ、素地ノ儘輸出スルト云フヤウナ傾キモアルノデゴザイマスルガ故ニ、此ノ點ハ中村君ノ御説ノ如ク、政府ニ於テハ篤ト考慮ヲ致シマシテ、今後斯様ナ資材不足ノ場合ニ於テハ、技術、品質、加工賃、勞働力ヲ高メ、之ニ依ツテ外貨ヲ獲得スルヤウニ全努力ヲ致シタイト存ズル次第デゴザイマス

岡田農林政務次官ノ應答

農林大臣貴族院出席中ノ爲、代ツテ私ヨリ御答ヲ申上ゲマス、中村君ノ御質問中、最近ニ於ケル絲價ノ暴騰暴落ノ原因及ビ其ノ對策ハドウカト云フ御問ニ對シマシテ御答ヲ致シマス、絲價暴騰ノ原因ハ何ト申シマシテモ、事變ノ進展ニ伴ヒマシテ、内地ニ於ケル生絲需要ノ旺盛ニ依ルモノデアリマスルガ、更ニ又歐洲戰爭勃發ノ結果トシマシテ、爲替相場ノ低落、又米國ニ於

ケル景氣見越ノ假需要ノ擡頭ニ依ルコトガ多イモノト考ヘテ居リマス、併シナガラ昨年末カラ本年初頭ニ於ケル異常ナ暴騰ニ付キマシテハ、是ハ主トシテ内地ニ於キマスル極端ナル思惑買ニ依ルモノト見テ居ルノデアリマス、仍テ政府ニ於テハ生産市場ニ於ケル極端ナル思惑ヲ是正致シマスルガ爲ニ、取引ノ内容ニ付テ取調ベル方針ヲ執リマスト共ニ、國內ニ於ケル生絲消費ノ顯著ナル増加傾向ヲ相當程度ニ調整スル考ノ下ニ、生絲ノ配給統制ヲ行フコト致シタノデアリマスガ、其ノ結果所謂輸出期ノ思惑買ガ整理セラレルコトニナリマシテ、絲價低落ト相成ツタ次第デアリマス、思惑買ガ行過ギテ居ルダケニ、隨テ是ガ反落モ亦聊カ目立ツタ嫌ヒガアルノデゴザイマスガ、最近ハ大體ニ於キマシテ相場ノ安定ヲ見ツツアルカノヤウニ思ツテ居リマス、又生絲輸出ニ關シマシテハ、必ズシモ米國ニ於キマスル需要減退ニ依ル異變トノミ思ハスノデアリマスカラシテ、遠カラズ以上ノ次第ニ依ツテ、絲價ノ安定及ビ輸出ノ回復ヲ圖リ得ルモノト考ヘテ居リマス

次テ本案ハ議長指名二十七名ノ委員ニ付託スルニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌二十八日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月五日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月七日議事日程ノ順序ヲ變更シテ本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長井上知治君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

只今議題トナリマシタル輸出資金及輸出品製造資金融通損失補償法案ニ對シマスル委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、先ヅ順序ト致シマシテ、本法律案ノ内容ヲ簡單ニ御説明致シタイト思ヒマス、本法律案ハ、我國現下ノ情勢ニ鑑ミ、輸出貿易ノ積極的振興策ノ一ツトシマシ

テ、輸出業者又ハ其ノ下請注文ノ引受ヲ爲シタル製造業者ニ對シ、註文品ノ調達又ハ其ノ製造ニ要スル資金ヲ銀行ガ前貸ヲ爲シ、之ニ依ツテ損失ヲ受ケタル場合ニ、政府ハ其ノ八割乃至七割ヲ限度トシマシテ、銀行ニ補償スル制度デアリマス、詰リ一言ニシテ申上ゲマスレバ、輸出前ノ金融ノ緩和デゴザイマス、而シテ政府ハ既ニ本制度ヲ實施シテ居ルノデアリマスガ、此ノ際之ヲ法律ノ根據ノ下ニ於テ、制度ノ恆久化ヲ圖リ、從來ノ輸出補償制度ト互ニ相呼應牽聯セシメ、以テ貿易金融制度ノ整備ヲ期シ之ニ依ツテ最近ノ國際通商情勢ニ對處シ、本邦輸出貿易上ノ萬全ヲ期セントスル法案デアアルノデゴザイマス、本法律案ニ對シマシテハ、委員會ハ、二月ノ二十八日カラ三月五日マデ、五回ニ互リマシテ會議ヲ開キマシタ、其ノ間多數ノ委員諸君ヨリ、最も適切ナル御質疑ガアツタノデアリマスルガ、之ニ對シマシテ政府側カラハ、商工大臣竝ニ各政府委員ヨリ、ソレレ、懇切ナル御答辯ガアリマシタ、今其ノ質問ノ主ナルモノヲ申上ゲマスルト、所謂中小ノ商工業者ニ對スル本制度ノ運用ニ關スル問題、其ノ他貿易行政機構強化ノ問題、生絲ノ輸出振興ニ關スル問題、南洋方面ニ於ケル華僑對策ノ問題、貿易金融以外ノ輸出版振興ニ關スル施設資材ノ配給問題、輸送關係ノ問題、物價問題、其他關係事項ニ付キマシテ、慎重ニ戰時體制下ニ適切且ツ有益ナル質疑應答ガ重ネラレタノデアリマスルガ、各委員カラハ本法案ノ運用ニ付テハ、機宜ヲ失セザルヤウ、敏速ナル取扱ヲ爲スベシトノ要望ガアツタノデゴザイマス、斯クテ委員ノ質疑ヲ終リマシテ、討論ヲ省キマシテ、採決ノ結果、全會一致可決致サレマシタ、右簡單ニ御報告申上ゲマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日貴族院ニ送付ス

貴族院ニ於テハ三月十五日可決奏上ス

四月二日法律第八十六號ヲ以テ公布セラル

六五 臺灣私設鐵道補助法中改正法律案

臺灣私設鐵道補助法中左ノ通改正ス

第一條第二項中「五年」ヲ「十年」ニ改ム

第一條ノ二 前條ノ補助金ハ每營業年度ニ於ケル建設費ニ對シ年五分ノ割合ニ相當スル金額ヲ限度トス但シ每營業年度ニ於ケル益金カ建設費ニ對シ年一分ノ割合ニ相當スル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ハ之ヲ補助金額ヨリ控除ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ本法施行ノ際現ニ補助ヲ受クル鐵道ニ對スル補助ニ付テハ各現在ノ補助期間滿了ノ日ノ屬スル營業年度ノ末日迄ハ改正規定ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ依ル右ハ昭和十五年二月十九日本院ニ提出ス同月二十七日日本案ノ第一讀會ヲ開キ松岡拓務政務次官ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只今拓務大臣ハ貴族院ニ出席致シテ居リマスノデ、私カラ御説明ヲ申上ゲマス、只今議題トナ

リマシタ臺灣私設鐵道補助法中改正法律案提出ノ理由ヲ説明致シマス、臺灣ニ於ケル私設鐵道ニ對シマシテハ、現行法ニ依リマシテ、該鐵道營業開始ノ日ヨリ二十年マデハ補助金ヲ交付シ得ルコトトナツテ居リマス所、現在補助金ノ交付ヲ受ケツツアル私設鐵道中、近ク其ノ補助期間ノ滿了スルモノガアルノデアリマスガ、右鐵道ハ未ダ其ノ業績豫期ノ如ク擧ラズ、仍テ當分ノ間ハ政府ノ補助金ヲ離レテハ自立シ難イ状態デアリマス、而モ此ノ鐵道ハ臺灣ノ地方開發上重要ナル路線デアリ、且ツ國營代行ノ意義ヲ有シマスルノデ、今回本法ニ必要ナル改正ヲ加ヘ、之ガ助成ノ爲必要アル場合ニ於テハ、現在ノ補助期間ヲ更ニ五年間延長シ得ルノ途ヲ開カント致シタノデアリマス、尙ホ補助方法ニ付キマシテモ、現下經濟界ノ趨勢ニ鑑ミマシテ、適當ノ改正ヲ加フルコトト致シマシタ、何卒御審議ノ上御協賛アランコトヲ希望致シマス

次テ本案ハ政府提出船員保險特別會計法案外四件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月五日議事日程ノ順序ヲ變更シ本案及三八乃至四二ノ六案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ(委員長報告ハ本項第三八參看)院議異議ナク六案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ各原案ノ通可決シ即日貴族院ニ送付ス
貴族院ニ於テハ三月二十四日本案ヲ可決奏上ス
四月一日法律第八十三號ヲ以テ公布セラル

六六 市町村義務教育費國庫負擔法改正法律案

義務教育費國庫負擔法

第一條 市町村立尋常小學校ノ教員(代用教員ヲ含ム)ノ俸給ノ爲北海道地方費及府縣ニ於テ要スル經費ノ半額ハ國庫之ヲ負擔ス

第二條 前條ノ規定ニ依リ國庫ノ負擔スル金額ハ毎年度之ヲ北海道地方費及府縣ニ交付ス

第三條 第一條ノ規定ノ適用ニ付テハ市町村立尋常高等小學校ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ授クベキ部分ハ之ヲ市町村立尋常小學校ト看做ス

第四條 第一條ノ代用教員ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和七年法律第二號ハ之ヲ廢止ス

六七 現役小學校教員俸給費國庫負擔法中改正法律案

現役小學校教員俸給費國庫負擔法中左ノ通改正ス

第一條中「市町村ニ於テ」ヲ「北海道地方費及府縣ニ於テ」ニ改ム

第二條中「市町村」ヲ「北海道地方費及府縣」ニ改ム

第三條 第一條ノ規定ニ依リ國庫ニ於テ負擔スル市町村立小學校正教員ノ俸給費ハ義務教育費國庫負擔法ノ適用ニ付テハ同法第一條ノ俸給ノ爲北海道地方費及府縣ニ於テ要スル經費ニ之ヲ算入セズ

第四條ヲ削ル

附記

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

右六六及六七ノ兩案ハ昭和十五年二月二十日孰レモ本院ニ提出ス同月二十七日兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ松浦文部大臣ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只今上程致サレマシタ市町村義務教育費國庫負擔法改正法律案竝ニ現役小學校教員俸給費國庫負擔法中改正法律案ノ二件ニ付キマシテ、其ノ提案理由ヲ御説明申上ゲマス、今回中央地方ヲ通ズル稅制ノ改正ニ當リ、財政上竝ニ教育上ノ必要ヨリ、市町村立小學校教員ノ俸給ヲ、市町村ノ負擔カラ北海道及ビ府縣ノ負擔ニ移スコトト相成リマシタノデ、從來市町村ニ交付致シテ居リマシタル市町村立尋常小學校教員俸給ニ對スル國庫負擔金ヲ、北海道及ビ府縣ニ交付スルノ

必要ヲ生ジ、且又此ノ國庫負擔金ニ付キマシテモ、八千五百万圓ヲ下ラザル一定額ヲ負擔スルノ現制ヲ改メマシテ、市町村立尋常小學校教員俸給ニ要スル經費ノ二分ノ一ノ定率ヲ以テ負擔スルコトト致シマシタノデ、此ノ趣旨ニ從ヒマシテ市町村義務教育費國庫負擔法並ニ現役小學校教員俸給費國庫負擔法ヲ改正致サントスルモノデアリマス、何卒御審議ノ上御協賛アラントヲ希望致シマス

森田重次郎君、羽田武嗣郎君、福田關次郎君、庄司一郎君、山崎釵二君及椎尾辨匡君質疑ヲ爲シ松浦文部大臣、木村大藏政務次官及鶴見內務政務次官應答ス

森田重次郎君ノ質疑

只今上程致サレマシタ市町村義務教育費國庫負擔法改正法律案外一件ニ關聯致シマシテ、文部大臣ニ二三ノ質疑ヲ試ミタイト思ヒマス、第一點、我國ノ教育ハ其ノ制度ノ體裁ニ於テ、又初等教育界ニ於キマシテハ、其ノ普及徹底ノ程度ニ於テ、世界列強ト比較致シマシテ遜色ノナイコトハ、學界ノ定評ニナツテ居ル所デアリマス、然ルニ國運ノ進展ニ伴ヒマシテ、更ニ國民全體ノ平均セル教養程度ノ昂揚ガ、國家ノ要求スル所トナツテ參リマシタル關係上、義務教育年限延長ノ聲ガ多年教育界ノ問題トナツテ居ツタノハ、諸君ノ夙ニ御存ジノ通りデアリマス、殊ニ今回ノ事變ヲ契機ト致シマシテ、國民ノ智能並ニ技術ノ洗練徹底ノ要求ガ、極メテ迫ツテ居ルモノガアルノデアリマシテ、是ハ如何ナル形ニ於テカ解決ヲセヌバナラヌコトニナツテ來タコトハ、教育界ノ定論デアツタノデアリマス、聞ク所ニ依リマス、文部省ニ於テハ來ル昭和十六年度ヨリ從來ノ小學校ノ名ヲ變更致シマシテ國民學校ト改メ、其ノ修業年限モ亦八箇年ニ延長スルノ計畫ヲ御持チニナツテ居ル所デアリマスガ、果シテ之ヲ其ノ年度ヨリ實行ナサル御積リデゴザイマセウカ、若シソレヲ實行ナサルト云フコトニナツテ居リマスルナラバ、私

ハ文部省ニ對シテ色々ノ註文ヲ致サナケレバナラナイト思フノデアリマス、先ヅ第一ニ考ヘテ見ナケレバナラナイコトハ、修業年限ノ延長ニ伴ヒマシテ、現在ノ社會機構下ニ於テハ若干ノ收入ヲ得能フ子供等ガ、更ニ二箇年其ノ就學ヲ義務付ケラレルコトトナリマスル爲ニ、貧困ナル家庭ニ於テハ相當ノ打撃ヲ受ケルデアラウト考ヘルノデアリマス、隨ヒマシテ斯ノ如キ貧困ナル子供等ニ對スル就學ノ機會ヲ與フル教育上ノ色々ノ施設、例ヘバ授業料等ノ全免等ノ問題ニ對シテ、果シテ文部省ハ如何ナル考ヲ御持チニナツテ居ラレルデアリマセウカ、此ノ點ヲ一ツ御伺致シタイノデアリマス、次ニ各地方町村ニ於キマシテ、義務教育年限延長ニ伴フ校舍ノ増設ハ、是亦極メテ必要ナルコトデアリマシテ、是等ノ施設ガ整フノデアリマセウケレバ、假令年限ヲ延長ヲ致シマシテモ、ソハ唯形ヲ整ヘタニ止マルノデアリマシテ、到底國家ノ要求スル教育ノ内容ヲ充實セシムル所以デハナイト思フノデアリマス、文部省ハ果シテ地方町村ノ貧困ナル財政状態ニ對シテ、校舍増築ノ爲ニ如何ナル程度ノ費用ヲ御補助ナサル御積リデアラセラレルカ、此ノ點ニ對シテモ御伺致シタイノデアリマス、尙ホ舊來ノ教育ガ形式ニ囚ハレマシテ、記憶中心ノ教育トナツテ居ル點、此ノ點ヲ是正スルニアラズンバ、假令年限ヲ延長致シマシテモ、本當ノ意味ノ國民ノ養成ト云フモノニハナラナイト考ヘルノデアリマスガ、此ノ點ニ對シマシテ、果シテ文部省ガ初等教育界ニ如何ナル指導的ナル原理ヲ御示シナサルノデアリマスルカ、此ノ點ニ付キマシテ、文部大臣ノ御抱負、御經綸ヲ御伺致シタイト思フノデゴザイマス、第二點、假ニ只今申上ゲマシタヤウナ形ニ於テ制度ガ整フコトトナツタト致シマシテモ、教育ハ斷ジテ物的ナル環境ノ整備ノミニ依ツテハ、其ノ目的ヲ達成スルコトガ出來ナイノデアリマス、要ハ魂ノ問題デアリマス、而シテ眞ニ魂ヲ育テ上グルニハ、魂アル教師ニ依ルニアラズンバ、到底其ノ目的ヲ達スルコトハ出來マセヌ、古人モ正師アルニアラズンバ我學バズト言ウテ居リマス、正シキ師匠ガナケレバ學バザルニ如カズ、此ノ點ガ私ハ教育ノ根本基調ヲ爲スモノデアルト考ヘルノデアリマス、今ノ初等教育界ニ信念ノ人ノ多イコトヲ私ハ認メマス、認メマサルガ、一ツノ制度トシテ既ニ教育施設ト云フモノガ設ケラレマシタル限り、吾々ハ其ノ教職ニ

携ハル人々ニ、信念ノ生活ヲ營マシムル物的基礎ヲ與フルト云フコトハ、吾々政治家ノ又之ニ應
 ジナケレバナラナイ一ツノ務メデアルト考ヘルノデアリマス、果シテ今ノ小學校ノ教員ガ如何
 ナル待遇ヲ受ケツツアルノデアルカ、師範學校ヲ卒業致シマシテ、初任給ハ昔ノコトデアリマ
 スルナラバ、他ノ者ト比較致シマシテ必ズシモ低カッタトハ言ヒ得ナイノデアリマスルガ、其ノ
 後ニ於ケル昇給ノ率ヲ調ベテ見マスト云フト、先ヅ三十歳位ノ程度デアリマシテ、俸給ガ五
 十圓前後ノヤウデアリマス、其ノ昇給率ハ一箇年僅ニ一圓二十錢ト云フノガ、或縣ニ於ケル平均
 率デアッタノデアリマス、今ノ日本ノ初等教育界全般ヲ通ジテ、恐ラク何處ノ縣デモ共通ノ現
 象デアルト思フノデアリマスルガ、百圓以上ノ俸給ヲ戴イテ居ル方ハ極メテ僅少デアアル、況ヤ
 俸給令ニ依ツテ定メラレタル一級俸ヲ戴イテ居ル方々ハ、東京、大阪ノヤウナ大都市ニ於テ
 ハ、僅ニ存スルモノノヤウデアリマスケレドモ、結局日本全般ノ立場ヨリ致シマシテハ、空文
 ニ歸シテ居ルト云フコトハ顯著ナル事實ナノデアリマス、此ノ本俸ニ加フルニ年功加俸ナルモ
 ノガ設ケラレテ居リマシテ、五箇年以上勤績致シマシタル者ニ、特別ナル手當ヲシテ居ツタノデ
 アリマスルガ、是亦最近文部省ノ怠慢ノ結果カ、殆ド規定通り支給セラレテ居リマセヌ、年末
 賞與ハ果シテ如何、僅ニ俸給ノ一割若クハ二割、現在ノ我國ニ於テ或省ニ於テハ何十割、何百
 割ノ年末賞與ヲ戴イテ居ル人ガアツタト仄聞スルノデアリマスルガ、是ト比較致シマシテ、地
 方小學校教員ノ斯ノ如キ待遇ト云フモノハ、決シテ看過シ能ハザル一ツノ現象デアルト私ハ思
 フノデアリマス、小學校ノ先生ハ人ノ子ハ育テテ居リマスルガ、自分ノ子供ハ育テ得ナイノデ
 アリマス、自分ノ子供ヲ教育スル機會ヲ得タイガ爲ニ、都會ヘ集中セントスル傾向ヲ生ジテ居
 ル、隨ヒマシテ地方ノ農村ニハ、本當ノ信念ヲ持ツテ居ル教育者ガ容易ニ得ルコトノ出來ナイ
 ト云フヤウナ事柄ガ、農村教育ノ不徹底ヲ招ク一ツノ原因ニナツテ居ルコトモ、吾々トシテ考
 ヘテ見ナケレバナラナイコトダト思フノデアリマス、過般ノコトデアリマスルガ、私ハ或縣ヘ
 參リマシテ新聞ヲ拜見致シタ所ガ、縣知事ノ許可ナクシテ、雪掻キノ人夫ノ中ニ覆面セル小學
 校ノ先生ガ何人カ混ツテ居ツタト云フコトガ掲載セラレテ居ツタノデアリマス、文部大臣ハ此

ノ點ヲ能ク御考ヲ御願致シタイト思フノデアリマス、教員ノ體面ヲ汚スモノデアルト云フ、體面ハ
 汚シタクナイノデアリマスルガ、汚サズニ居ラレナイト云フ現實ノ生活苦ト云フモノハ、吾々
 ハドウシテモ別個ニ考ヘテヤラナケレバナラナイト思フノデアリマス、其ノ結果小學校ノ先生
 方ガ最近ノ軍需景氣ニ乗ジマシテ、他ノ方面ヘソレ、御轉任ヲナサル、引止メヤウト致シマ
 シテモ引止メルコトガ出來得ナイ、或縣ノ如キハ、轉校ヲ絶對ニ認メナイ、退職モ認メナイ、
 若シ他ヘ轉ジヨウトスルナラバ、是ハ嚴重ナル戒告附ノ解職ニスルノデアルト云フ命令マデ出
 シタ事實ガアルノデアリマス、隨ヒマシテ我國ニ於キマシテハ、小學校教員ノ質ガ非常ニ低下
 致シテ參ツテ居リマシテ、昭和九年度ニ於ケル小學校教員有資格者ノ數ガ六〇%、無資格者ノ
 數ガ四〇%デアツタノデアリマスルガ、昭和十三年度ニ於キマシテハ、有資格者ト無資格者ト
 ノ割合ガ半々ト云フ現象ヲ呈シテ參ツタノデアリマス、國民學校ノ制度ヲ布イテ、新ニ日本ノ
 教育上ノ根本的ナ改造ヲ爲サウトスル文部省ガ、此ノ點ヲドウ御考ニナリマスカ、學校ノ制度
 ノ改革ハ、斷ジテ試ミニ爲シタモノデハナイト私ハ思フ、試ミニ爲シタモノデナイト致シマス
 ルナラバ、最初ニ申上ゲマシタヤウニ、眞ノ先生ヲ得ルコトガ必要デアアル、眞ノ先生ニアラズ
 ンバ魂ノ教育ガ出來得ナイト云フコトヲ御考ニナリマスルナラバ、吾々ハ茲ニ現在ノ菲薄ナル
 小學校教員ノ待遇ヲ改ムルコトニ專念シナケレバナラナイト思フ、文部省ハ果シテ師範學校ノ
 卒業生ニ對シテ、現在ノ物價ニ相應シイ初任給ノ昇給ヲ爲サル御考ガオアリニナルカ、年功加
 俸ノ加給ニ付テハ如何、又小學校教員全般ノ待遇ヲ高クスルコトニ付テ如何ナル御考ヲ御持チ
 ニナツテ居ラセラレルノデアアルカ、此ノ點ニ對シテ文部大臣ノ確信ヲ御質シ致シタイト思フノ
 デアリマス第三點ハ師範學校ノ改造論ニ付テデアリマス、最近、新聞ノ傳フル所ニ依リマスル
 ト、師範學校ノ入學希望者ガ順次低減シテ參ツタ、東京市ノ如キニ至リマシテハ、募集人員ノ一割
 カ二割ノ程度ニ過ギナイト云フノデアリマス、何ノ爲デアアルカ、要ハ現在ノ社會狀態ニ於テ、小學
 校ノ教員ニナルコトソレ自體ヲ、若イ青年諸君ガ望マスト云フ一點ニ私ハ歸著スルト考ヘテ居
 リマス、明治時代ノ師範學校ト云フモノハ、中學校等ノ設ケラレナカッタ時代デ師範ガ教育機

關ノ中心ニナツタ時代デアリマスルカラ、幾多ノ秀才ガ此ノ中ニ入り込ミマシテ、徳川時代ニ於ケル師道ト云フモノハ、其ノ儘師範ニ傳ハリマシテ、本當ノ師道ノ確立ト云フモノガ出來タノデアリマス、然ルニ其ノ後我國ニ於テ資本主義ガ發展ヲ致シテ參リマシテ、其ノ結果唯物思想ガ盛ニ我國ニ輸入セラレテ、學校ノ先生ノ待遇ノ如キハ顧ミル所ハナイ、結局實業家、其ノ他ノ方々ガ中心ニナル世ノ中トナツテ參ツタ、隨ヒマシテ先生ト云フモノノ値打ハ、殆ド物的ナモノニ依ツテ左右セラレルト云フヤウナ、不思議ナル現象ヲ呈シテ參リマシタ、爲ニ我國ニ於キマシテモ教師ノ資格、ソレヲ養成スル方法等ニ付テモ、幾多ノ變遷ヲ經テ參ツタノデアリマス、例ヘバ戰爭時代ノ次ニ不景氣ニナツタ、不景氣ニナツテ參リマス、師範學校ノ經營方針ガ變ツテ參リマス、中學校ノ卒業生ガ一杯ニナツテ困ル、一杯ニナツテ困ルノデアルカラ、舊來ノ一部ノ制度ノヤウニ高等小學校ヲ卒業シタ者ヲ收容シテ、澤山ノ金ヲ掛ケルヨリモ、中學校ノ卒業生ヲ此ノ中ヘ導入シテ、僅カ一年カ二年ノ教養ニ依ツテ師範學校卒業ト同ジヤウナ資格ヲ與ヘルト云フコトニナリマスレバ、全般的ニ經濟デアルト云フヤウナ考カラ、景氣ノ惡イ時ニハ常ニ今申上ゲマシタヤウナ形ニナツテ、二部生中心ノ經營ニ變ツテ參リマスルノデアリマス、然ルニ是ト反對ニナリマスル場合ハ、ソレト反對ナ議論ガ出テ參リマスト云フヤウナ工合デアリマシテ、景氣、不景氣ト、師範制度ノ一部尊重カ二部尊重トカ云フヤウナ議論ハ、常ニ相交流スルト云フヤウナ奇態ナ現象ヲ呈シテ參ツタノデアリマス、デアリマスルカラ、今回ノヤウナ軍需景氣中心ノ世ノ中ガ出テ參リマス、又學校ノ先生ガ不足ニナツタカラ、ドウシテモ是ハ一部尊重デ行カナケレバナラナイト云フヤウナ考ガ出テ參ツテ、サウシテ師範學校ヘ入學セシムル爲ニハ、或ル程度國庫カラ補助ヲシヨウト云フヤウナ形ニマデ變ツテ參ツテ居ルヤウデアリマス、是ハ本當ニ教育ト云フモノガ大事ナモノデアルト云フコトヲ御考ニナツテ、國家ノ教育ノ根本ガ教師デアルト云フコトヲ御考ニナリマスルナラバ、景氣ノ好イ時ト景氣ノ惡イ時トデ、師範制度ガ變ルト云フヤウナ建前ヲ執ルト云フコトハ、私ハ誤ツテ居ルト思フノデアリマス、其ノ點カラ考ヘマスルト、私等ハヤハリ師範學校ハ師範學校本來ノ使命ヲ持ツテ居ツテ、本當ニ信念ニ滿チ

タ教師ヲ造ルモノデアルト云フヤウニ御考ニナリマスルナラバ、ヤハリ一部ヲ本體トスル立場ヲ御執リニナツテ、一部ハ豫備的ナ形ニ於テ之ヲ取扱フト云フノガ、本體デナケレバナラナイト思フノデアリマス、過般師範制度ノ改正ニ關シマシテ、教育審議會ノ答申ヲ拜見致シマスルト、此ノ中ニ書カレテ居ル事柄ハ、ヤハリ二部中心ノ行キ方ニ變ツテ居ルヤウデアリマスルガ、是ハ恐ラク其ノ答申ヲ爲サツタ時ノ現狀ニ即シテ、斯ウ云フ意見ガ立ツタモノダト思フノデアリマシテ、ヤハリ一箇ノ便宜主義ニ墮シタ一ツノ考ヘ方デアラウト私ハ考ヘルノデアリマス、ソレ故ニ私等ハヤハリ師範本來ノ立場ヨリ致シマスレバ、今マデノ高等小學校ヲ卒業致シマシタル者ヲ、國家ノ費用ニ於テ之ヲソコニ收容シ、以テ俊秀ナル素質ノ者ヲソコニ入學セシメテ、之ニ依ツテ本當ノ先生トシテノ資格ヲ與ヘル、本當ノ信念ノ人ヲ造ルト云フ、一貫不動ナル根本方針ト云フモノヲ立テナケレバ、私ハ日本ノ師道ト云フモノハ、常ニ經濟界ノ好景氣、不景氣ニ左右セラレルト云フ缺點ヲ持ツモノデアルト思フノデアリマス、文部省ハ果シテ私ガ今御願申上ゲタ形ニ於テ、師道ノ確立ト云フコトヲ念トシテオ居デニナラレルノデアルカ、若シサウ云フ風ニ御考ニナリマスルナラバ、師範學校ヲ舊來ノヤウナ縣立ト云フ形デハナク、國費ヲ以テ經營爲サル、國立ニ私ハシテ戴キタイト考ヘルノデアリマス、國立ト縣立トノ間ニ何等ノ差ガナイデハナイカト云フ議論モ、一部立テタ人ガアツタヤウデアリマスルガ、ナゼ修業年限ガ同ジデ、專門學校程度ノ教育ヲ受ケテ居ナガラ師範學校ダケハナゼ府縣立デナケレバナラナイノデアルカ、師範學校ヲ府縣立ニシテ置クト云フコトハ、何處カニ陰慘ナ空氣ガ伴ウテ來ルノデアリマス、此ノ陰慘ナル空氣ノ中カラ生レ出タ師範學校ニ、師範臭ト云フ匂ガ付クコトハ、是ハ極メテ明カナコトデアリマスルカラ、本當ノ意味ノ師道刷新ヲ御考ニナリマスルナラバ、是ハ國立ト致シマシテ、他ノ專門學校ト同一程度ノ待遇ヲ與ヘ、ココヲ卒業スル方々ニ明朗正大ナル氣分ヲ與ヘルト云フコトガ、私ハ大事デアルト考ヘル者デアリマスルカラ、此ノ點ニ於キマシテ文部省ハ、果シテ師範學校ヲ國立トスル御見解ヲ御持チニナツテオ居デニナルノデアルカドウカ、此ノ點ヲ御伺致シタイデアリマス、尙ホ之ニ附加致シマシテ、其ノ師範學校ノ教員ノ養

成ニ又一箇ノ考ヲ致サナケレバナラナイト思フノデアリマス、現在ノヤウニ私立大學ニ附屬セラレテ居ル無責任ニ近イ高等師範制度、更ニ帝國大學ノ卒業生デ他ニ就職ノナイト云フ人ガ、偶、就職ナキガ故ニ先生トナルト云フヤウナ形ノ師範學校ノ先生デハ、到底現在ノ小學校ノ先生ニ魂ヲ吹込ムヤウナ力ハアリ得ナイト私ハ思フノデアリマスカラ、此ノ點ニ於キマシテハ師道ノ根本道場ト致シマシテ師範大學ヲ設立スルコトガ、極メテ重要ダト思フノデアリマス、此ノ點ニ付キマシテ文部省ハ如何ナル意見ヲ御持チニナツテオ居デニナラレルノデアルカ、此ノ點ニ付テモ御伺致シタイノデアリマス、第四點ト致シマシテ、私ハ表徵人國費養成ニ關シテ、一言聽イテ見タイノデアリマス、一體一ツノ國家ガ強イカ弱イカ、文化的ノ價値ノ上ヨリ考ヘマシテ、本當ニ有用ナ國家デアルト考ヘラレルカドウカハ、要スルニ其ノ國家ノ中ニ組織トシテ入ツテ居リマスル個人ノ力ガ、非常ニ高イモノデアアルカドウカニ依ツテ定マルト私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、國家ノ根本性格ト云フモノハ、其ノ民族ノ主觀的客觀的ナ色々ノ要素カラ成ツテ居ルノデアリマスガ、要スルニ一ツノ國家トシテ綜合的ナ實行ヲ爲サウト云フ場合ニ當リマシテハ、其ノ國家ヲ表徵スル最モ能率ノ高イ人、私ヲシテ言ハシメマスト、私ハ之ヲ表徵人ト云フ名ヲ與ヘテ居ルノデアリマスガ、斯ル人々ガ其ノ地位ニ於テ、其ノ意行ニ於テ、本當ニ選バレタル人トシテ國家ヲ代表スルニ相應シイ人、斯ウ云フ偉イ表徵人ガ澤山アル國家ニ依ツテ纏ツテ居ル所ノ國家ガ、最モ強イ國家ナリト私ハ思フ、然ラバ斯ノ如キ表徵人ハ如何ニシテ養成セラレネバナラヌカト云フト、私ハ一ツノ國家ヲ形成致シテ居リマスル、其ノ内容ヲ爲ス國民ノ有ユル階級、有ユル階級、有ユル地域、ソレ等ノ中カラ惜ミナク其ノ有能トスル人ヲ簡拔致シマシテ、之ニ國家的施設ニ於テ教育ヲ加ヘルコトガ、最モ大事ナル表徵人養成ノ方法ダト思フノデアリマス、現在ニ於テ教育ノ機會ヲ與ヘラレテ居ル人ハ如何ナル人デアアルカ、金ヲ持ツタ人、金ヲ持ツタ人ノ子供デナケレバ、最高ノ教育、即チ表徵人トナル機會ハ與ヘラレテ居リマセヌ、然ラバ金ヲ持ツタ人ノ子供、果シテ表徵人トシテノ値打ヲ持ツテ居ルカト云ヒマスト、持ツテ居ル人モアリマセウガ、最高教育ハ受ケタガ、表徵人トシテハ總テガ其ノ資格ヲ

持ツテ居ツタトハ言ヒ得ナイト私ハ思フ、故ニ吾々ハ一般民間ノ間ニ本當ノ資格ヲ持ツテ居ツタ表徵人トシテ生レナガラ、己レ自ラ如何ナル力ヲ持ツタカラ知ラズシテ死ンデ行キマシタ人、所謂草莽ノ間ニ生レ、草莽ノ間ニ死ンデ行ツタ、現ハレザル表徵人ト云フモノヲ吾々ハ考ヘテ見ナケレバナラナイト思フ、佛教ノ中ニ本事譚ト云フノガアリマスガ、正ニ斯ノ如キ現ハレザル表徵人ノソレヲ、表徵的ニ現ハシタモノダト私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、故ニ率直ニ申上ゲマスナラバ、貧乏人ノ子供デモ眞ニ優秀ナ才能ヲ持ツテ居ル者ハ、國家ノ施設ニ於テ、之ニ教育ノ機會ヲ與フベキモノダト云フノガ、私ノ議論トナルノデアリマス、今ヤ我國ハ今同ノ事變ニ於テ本當ノ人材ヲ欲スル、本當ニ日本ノ國ヲ背負ツテ起タウト云フ人材ノ出現ヲ翹望スルコト、今日ヨリ急ナルハナシト私ハ思フノデアリマス、之ニ對シテ果シテ日本ノ國家ガ惜ミナク教育ノ機會ヲ與ヘル御施設ヲ爲サツテオ居デニナルカドウカ、省ミテ洵ニ忸怩タルモノガアルデアラウト私ハ思フノデアリマス、今民間ニ育英施設ト云フモノガアリマスケレドモ、餘リニ狹隘デアリマス、到底國家ノ要求スルヤウナ形ニ於テハ到底之ニ應ジ切レナイノデアリマス、私ハ文部省ノ舊來ノ消極的ナ態度、形式ニ拘泥スルガ如キ態度ハ、コゴデ御改メニナリマシテ、思切ツテ一般民衆ノ間カラ、人材、即チ表徵人ヲ抜イテ、教育ノ機會ヲ均等ニ與ヘルヤウナ施設ヲシテ戴キタイ、斯ウ思フノデアリマスガ、文部大臣ノ之ニ對スル御抱負、御經綸果シテ如何デアリマスルカ御伺致シタイノデアリマス、第五點、私ハ文部省ノ今日マデノ執リ來ツテ居ル教育ノ態度ニ付テ、一言御伺ヲ致シタイ所ガアルノデアリマス、題目ヲ申上ゲマスナラバ、實踐的教育觀ノ確立、農民道場ノ示唆、斯ウ云フ題デ御伺致シタイノデアリマス、一體我國ノ教育ハ偏知的ダト云ヒマス、知識ニ偏スルノデアリマス、併シナガラ是ガ本當ノ知識ナラバ我慢ガ出來ルノデアリマスガ、ソレハ唯記憶中心ノ偏知ナノデアリマス、文字教育デアリマス、實ニ漫然タル文字教育ニ墮シテ居ルト云フコトハ、蓋シ否定シ能ハナイ一ツノ事實デアルト私ハ見ルノデアリマス、然ルニ我國ノ具體的ノ人生ト云フモノヲ見マスナラバ、決シテ記憶中心ヤ知識中心デハ、具體的ナ生活ト云フモノハ營マレ得ナイノデアリマス、吾々ハ吾々

ノ與ヘラレタル生活ノ場、之ヲ考ヘテ見ル必要ガアルノデアリマス、場所ノ場デアリマス、此
 ノ「場」ヲ考ヘテ見ル必要ガアルノデアリマス、個人ニハ個人ノ生活領域ガアリマス、ソレヲ假
 リニ「場」ト云フ名ヲ付ケマスルナラバ、吾々ノ具體的生活ト云フモノハ、其ノ個人ノ生活ノ
 場、其ノ自治體ノ生活ノ場、更ニ擴充セラレタル人格ト致シマシテハ、其ノ縣ノ生活ノ場、國
 家ノ生活ノ場ト云フコトヲ考ヘサセラレルノデアリマス、其ノ根本的ナ人生觀ハ、何處ヨリ來
 テ居ルノデアルカト云ヒマスレバ、要スルニ實在ヲ生命ダト見ル點ニ私ハアルト思フノデアリ
 マス、其ノ生命ノ最モ表徴的ナモノハ何デアルカト云フト、意志ダト思フノデアリマス、意志
 ノ特徴ハ何デアルカト云ヘバ、目的ヲ確立スルコトダト思フ、目的ヲ確立シテ之ヲ實行ニ移ス
 コトダト思ヒマス、實行ニ移シテ再ビ其ノ實行ニ錯誤ノアリヤナシヤヲ點檢スル所ニ、一ツノ
 反省ガ來ルト思ヒマス、目的ノ樹立ト、實行ト、自己反省ト、サウシテ新タナル段階ヘノ飛躍、
 之ヲ重ネ行ク所ニ、私ハ一ツノ人生ノ進歩ト云フモノガアルト考ヘテ居ルノデアリマス、隨ヒ
 マシテ教育ハ單ナル知識デハナイ、知識ハ目的樹立ノ一ツノ材料デアリ、實行ノ上ニ過ナキ
 ヲ期スル一ツノ方法デシカアリ得ナイノデアリマスルカラ、根本ノ問題ハ實踐的ナルモノデア
 リ、意志的ナモノデアリ、全生命のナモノデアルト云フ人生觀ニ立ツノデナケレバ、本當ノ教
 育者トシテノ資格ガナイト私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、其ノ意味ニ於テ我國ノ教育ノ方法ヲ
 根本的ニ改造セナケレバナラナイモノダト云フ考ガ出テ參リマシテ、ソレガ農村ニ現ハレタル
 モノガ即チ農民道場ノ形ニ依ツテ現ハレテ參ツタノデアリマス、即チ農村ニ於ケル一箇ノ個人
 ガ、農家ト致シマシテ一ツノ經營ヲ爲ス、其ノ經營ヲ爲スニ當ツテハ、常ニ目的ヲ樹立シ、之
 ヲ實行シ、自己反省ヲ加ヘル、ソレガ擴充セラレテ一ツノ部落、一ツノ自治體ヘト波及シテ行
 クヤウニスル爲ニハ、只今申上ゲマシタヤウナ實踐的勤勞中心ノソレデナケレバイケナイト云
 フノガ、農民道場ノ起ツタ教育上ノ原因ダト私ハ考ヘルモノデアリマス、最初此ノ問題ハ何處
 カラ起ツタカト云ヒマスルト、農林省カラ起リマシタ、ナゼ農林省カラ起ツタカト云フト、
 農林省自體ハ農民ノ生活ニ直接ニ接著シテ居ルカラデアリマス、實行ノ立場デ見ルカラ、實行

的ノ教育デナケレバナラヌト云フ考ガ起ツテ來ル、文部省ハ其ノ時ニ何ヲ致シテ居リマシタ
 カ、農林省カラ斯ノ如キ教育ニ依ルニアラザレバ、日本ノ農村ハ救フコト能ハズト致シマシテ、
 文部省ニ對シテ提案致シマシタル時ニ、概念化セラレタル教育觀以外ニ持ツテ居ラナカッタ文部
 省ハ、ソレハ自分ノ方デヤル譯ニハ參ラナイカラ、アナタノ方デオヤリナサイト、斯ウ言ハレタ
 ガ、今日各縣ニ設置セラレタ農民教育道場ノ端緒トナツタノデアリマス、併シ是レハ農林省ノ管
 轄ノ教育ナノデアリマス、一體文部省ハ今日マデ何ヲヤツテオ居デニナツテ居ツタノデアリ
 マセウカ、形式ニ囚ハレ、知識中心ノ教育ヲヤツテ行カウト云フ文部省ノ批判的ナ、傍觀的ナ、
 官僚的ナ、形式ニ囚ハレタル態度ト云フモノハ、斯ノ如キ事變ニ即應スルヤウナ意味ニ於テハ、
 餘リニモ時代遅レニナツテシマツタンデハナイカト私ハ考ヘル、文部省ハ其ノ意味ニ於テ極メテ
 概念化シテ、到底新ナル時代ヲ救フニ足ル教育上ノ信念ヲ持ツテ居ナイカノヤウニ私ニハ見エマ
 ス、ドウカ其ノ點ニ付テ文部大臣ハ新タナル教育觀即チ國民ノ實生活ニ即シタ實踐的教育觀ヲ御
 立テニナツテ、サウシテ教育者ニ行クベキ途ヲ知ラシテヤル義務ガアルト私ハ考ヘルノデアリマ
 ス、今ヤ日支事變ヲ契機ト致シマシテ、日本ノ國家ハ實行のナ立場ヨリ民族全體ノ自己反省ノ
 立場ニ立チ、新ナル「イデオロギ」ヲ有ユル方面ニ於テ立テナケレバナラヌ時代ニ際會シテ居
 ルノデアリマス、文部大臣ハ過去ノ試行錯誤ニ鑑ミテ、將來文部省所管ノ實業教育ヲ、只今私
 ガ申上ゲマシタヤウナ「イデオロギ」ニ依ツテ御指導ナサル、御所信ガオアリニナリマスルカ
 ドウカ、此ノ點ニ付テ大臣ノ御所見ヲ御致シタイノデアリマス、第六點、現代教育ノ根本病
 弊ニ付テ一點御致シタイノデアリマス、大體私ハ色々ノ觀點カラ私ノ人生觀ヲ織込ミマシテ
 申上ゲタノデアリマスルガ、只今モ申上ゲマシタヤウニ、我國ノ教育ノ根本病弊ハ結局試驗中心
 ナンダ、記憶中心ナンダ、注入中心デ、形式ニ囚ハレテ居ル、ダカラ是等ヲ一貫シタル病弊ハ
 何デアルカト言ヒマスレバ、私ハ魂ヲ忘レタル點ニアルト思フ、自己ノ本體ヲ忘レタル點ニア
 ルト思フ、茲ニ非常ニ考ヘナケレバナラナイモノガアルト私ハ思フ、ナゼ斯ノ如キ弊害ニ陥ツ
 タノデアルカ、是ハ明治維新此ノ方若カリシ日本ハ、歐米ノ燦爛タル文化ヲ取入レルニ急デア

リマシテ、其ノ爲ニ唯鵜呑ニシテモ宜イカラ、之ヲ早く取入レルベキダト云フ國策ノ上カラ、只今申上ゲマシタヤウナ形ノ教育ニナツタンダト私ハ思フノデアリマス、併シナガラ今ヤ時代ハ變ツテ參リマシタ、此ノ變ツタ時代ニハ變ツタ教育方針ト云フモノガ、私ハ立タナケレバナラナイト思フ、我國ニ於ケル西洋カラ取入レル資本主義的文化ハ、正ニ其ノ成長ノ頂點ニ達シタ、吾々ハ此ノ頂點ニ達シタル殻ヲ破ツテ、新ナル生活圏へ乗越エナケレバナラナイ、此ノ限界ヲ破ツテ世界ノ再秩序ノ建設ヲ圖ルノデアアル、是ガ今回ノ事變ノ意義ダト私ハ思フノデアリマス、其ノ點カラ考ヘマスト、舊來ノ環境ニ制止セラレタル物ノ見方、形式的ナル物ノ見方ハ、國家全體ノ反省ノ上カラ考ヘマシテ、新ニ考ヘ直サナケレバナラナイト、斯ウ思ツテ居ルノデアリマス、デアリマスカラ私ハ現代ノ日本ノ教育者ニ、眞ニ今回ノ事變ノ根本的意義ト、日本民族ノ抱イテ居ル八紘一宇ノ大理想ノ存スル所ヲ體現セシメテ、此ノ體現ノ上ニ立ツテ、本當ノ理想實現ノ爲ニ邁進スルヤウナコトニセナケレバナラナイト考ヘテ居ルノデアリマス、ダカラ吾々ハ我國ノ民族ヲシテ、最モ生命力ノ溢ルル理想ニ燃ユルヤウナモノニスル第一階段ト致シマシテ、私等ハ教育者ニ本當ノ信念ヲ持タセルト云フコトヲ、第一前提ト致サナケレバナラナイト考ヘテ居ルノデアリマス、我國ハ思想的ニ色々ノ國難ニ直面シタ時代ガアルノデアリマスルガ、過去ノ歴史ヲ振り返ツテ見マシテモ、曾テ佛敎ガ入ツテ參リマシタ場合ニ聖德太子ガ現ハレ、清麻呂ガ現ハレ、平安朝ノ末期カラ鎌倉時代ニ於ケル思想ノ國難ガアリマシタ際ニハ、道元ガ現ハレ、日蓮ガ現ハレテ、日本ノ國民ノ向フ所、日本ノ國民ノ生命力ノアル所ヲ表徴スルヤウナ立場ヲ御執リニナツタノデアリマス、今日ノ此ノ國難——今日思想的ニモ、經濟的ニモ、財政的ニモ、軍事的ニモ、斯ノ如キ國難ニ直面致シテ居リマスル場合ニ、一人ノ日蓮現ハレズ、一人ノ道元ガ現レザルハ、洵ニ歎カハシイコトデアルト私ハ思フ、此ノ制度ノ上ヨリ考ヘマシテモ、其ノ指導的役割ヲ持ツモノハ、正ニ教育者デナケレバナラナイト思フ、教育者デナケレバナラナイト云フコトデアリマスケレドモ、ソレヲ期待スル爲ニハ先ヅ教育ノ本家本元デアリマス所ノ文部大臣ガ、斯ノ如キ大理想ニ燃エテ、先ヅ教

育者諸君ニ呼掛ケナケレバナラナイト思フノデアリマス、今ヤ漲リツツアル民族ノ生命力、横溢シツツアル民族ノ此ノ生命力ニ、眞理想ヲ與フ時デアアル、故ニ教育ノ本家本元デアアル所ノ文部大臣ハ、私ノ今要求致シマシタヤウナ形ニ於テ、人心ノ一大刷新ヲ圖ラネバナラヌト信ズル、今ヤ日本ハ教育界人心ノ一大刷新ヲ圖ルコトヲ、喫緊ノ急務トシテ居ルト考ヘルノデアリマスルガ、文部大臣ハ果シテ之ニ對シテ如何ナル抱負ヲ御持チニナツテ居ララルノデアリマセウカ、此ノ點ニ對スル御所見ヲ御伺致シマシテ、私ノ質問ヲ打切ル次第デアリマス

松浦文部大臣ノ應答

森田君ノ御質問ニ對シテ御答ヲ申上ゲマス、我國ノ教育ハ其ノ普及發達ノ關係ニ於キマシテ、外國ニ比シテ遜色ヲ見ナイモノデアアルガ、併シナガラ此ノ教育ヲ益、徹底普及セシメル爲ニ義務教育ノ年限ヲ、現在六年デアリマスモノヲ、八箇年ニ延長スルコトガ必要デアルト云フ聲ハ、從前カラ屢、聞ク所デアリマス、文部省ト致シマシテモ、義務教育年限延長ノ必要ヲ感ジマシテ、昭和十九年度カラ之ヲ實行スルト云フ案ヲ立テマシテ、其ノ準備費トシテ十五年度ニ豫算ヲ要求致シテ居ルヤウナ次第デアリマス、斯ノ如ク昭和十九年度カラ修業年限ノ延長ヲ見ルコトニ相成リマスレバ、從來六箇年デ學校ヲ出マシテ社會ノ實務ニ就キ得タ者ガ、尙ホ二箇年間學校ニ在學スルコトニ相成リマスノデ、貧困ナ家庭ニ在ル者ハ、是ガ爲ニ就學ノ機會ヲ二箇年延バサレテ、非常ニ困ルヤウナコトガアリハシナイカ、サウ云フ家庭ニ對シテハ相當ノ打撃ヲ與ヘルノデハナイカ、之ニ對シテ文部省ハ何等カノ方策ヲ持ツテ居ルカ、斯ウ云フ御尋デアツタノデアリマス、小學校ノ教育ガ六年ト八年ト、僅カ二年ノ違ヒデアリマスケレドモ、其ノ六年ノ上ニ加フル二箇年ノ教育、即チ今日デ申ス高等小學校ノ教育ガ如何ニ有效デアリ、如何ニ大切デアアルカト云フコトハ、今日少シク頭ノ働キヲ要シマスル職業ニ就ク條件トシテ、必ズ高等小學校ノ卒業者ト云フモノガ要求サレル、ドノ場合ニ於テモ高等小學校ノ卒業者ト云フモノガ就職ノ要件ニナツテ居ルト云フ事實ニ見マシテモ、此ノ六年ノ上ニ更ニ加フル所ノ二箇年

ノ教育ガ如何ニ有效デアカト云フコトハ、之ヲ證明シテ餘リアルト思フノデアリマス、況ヤ今
 同此ノ義務教育ノ年限延長ヲ致シマスルニ付キマシテハ、唯現在ノ如クニ六年デアルモノヲ八年
 ニ致スト云フコトノミニ止マラヌノデアリマシテ、義務教育年限延長ト同時ニ、其ノ内容ヲ全面
 的ニ刷新致シマシテ、眞ニ皇道精神ニ満チタ大國民ヲ鍊成シヨウト云フ目的デ、内容ヲ刷新スル
 ノデアリマスカラ、此ノ八箇年ヲ通ジマシタ課程ヲ了ツテ、世ノ中へ出マスル者ノ素養ガ如何ニ
 高クナルカト云フコトハ、是ハ申上ゲルマデモナイコトデアリマス、隨テ多少ノ不便ヲ忍ビマ
 シテモ、此ノ八箇年ノ教育ヲ受ケルト云フコトハ、其ノ兒童ガ學校ヲ了ツテ世ノ中へ出マスル
 際ニ、非常ナ利益ヲ受ケルノデアリマシテ、八箇年ノ義務教育ト云フコトハ、ドノ點カラ考ヘ
 マシテモ非常ニ必要デアルト云フコトハ、是ハ無論森田君モ御同感ノコトデアラウト存ジマス
 ガ、唯家庭ノ貧困ナルガ爲ニ、學校ニ通學スルコトニ困難ヲ感ズルト云フ者ニ對シマシテハ、
 是ハ相當就學獎勵ノ手段ヲ講ジナケレバナラヌノデアリマシテ、勿論文部省トシテモ就學獎
 勵ニ相當ノ方法ヲ講ズルト云フコトニ付テハ考ヲ致シテ居ルノデアリマス、此ノ點ハ御安心
 ヲ願ヒタイト思ヒマス、ソレカラ第二ノ御尋ハ、義務教育年限延長ノ實施ニ伴ツテ、市町村ニ
 於テ學校校舍ノ増築、設備ノ増設ト云フヤウナモノニ經費ヲ要スル譯デアラガ、之ニ付テハ
 文部省ハ相當補助ヲ致スノデアカト云フ御尋デアツタヤウニ承知シマシタガ、是ハ其ノ場
 合ニ於キマシテハ、文部省ト致シマシテハ相當ノ補助ヲ致シタイ考デ居ルノデアリマス、其ノ
 次ノ御尋ハ假ニ制度ガ整ヒマシテ年限ガ延長セラレルト云フコトニ相成ツタニ致シマシテモ、
 要スルニ學校ニ於テ最モ必要ナコトハ教師其ノ人ノ改善デアアル、教師ニ其ノ人ヲ得ナケレバ教
 育ノ效果ハ舉ルモノデハナイ、良イ教師ヲ學校ニ迎ヘヨウトスルノニハ物的ノ待遇モ必要デハ
 ナイカ、斯ウ云フ趣意ノ御尋デアツタノデアリマスガ、之ニ付キマシテハ今日小學校ノ教員ノ
 物的待遇ト云フモノガ十分デナイト云フコトニ付テハ、文部省モ切ニ之ヲ感ジテ居ルノデアリ
 マス、現ニ明年度ノ豫算ニ年功加俸ノ補助ト云フコトニ付テ豫算ヲ御要求致シテ居ルノモノ、即
 チ此ノ年功加俸ニ對スル補助金ヲ増加致シマシテ、年功加俸ノ恩典ニ浴スル者ヲ成タケ多クシ

ヨウト云フ趣意カラ出タノデアリマス、其ノ他教員ノ物質的ノ待遇ニ付テモ、是ハ今回ノ案ニ
 アリマスル通り教員ノ俸給ガ府縣費ノ支辨ト相成リマスレバ、隨テ大キナ經濟ノ下ニ於テ其ノ
 俸給ノ經理ヲヤルノデアリマスルカラ、自然待遇モ好クナルコト考ヘルノデアリマス、今日
 般賑産業等ノ方面ニ向ツテ轉職者ガ相當アルト云フコトニ付キマシテハ、是ハ事實デアリマシ
 テ、是ガ防止ニ付テハ十分ニ考ヘナケレバナラヌノデアリマシテ、一面ニ於キマシテハ師範學
 校ノ生徒ヲ増募致シマシテ、之ニ對シテ學資ノ補助ヲヤルト云フヤウナコトモ考ヘテ居ルノデ
 アリマシテ、其ノ事ハ十五年度ノ豫算ニモ御要求ヲ致シテ居ルヤウナ譯デアリマス、兎モ角物
 的ノ待遇モ無論之ヲ好クシナケレバナリマセヌガ、同時ニ又精神的ノ待遇ト云フコトニ付テモ
 十分ニ考ヘナケレバナラヌノデアリマシテ、此ノ點モ文部省トシテハ十分考慮致シタイト考ヘ
 テ居リマス、ソレカラ其ノ次ノ御尋ハ、從前ハ此ノ師範學校ト云フモノガ眞ニ指導ノ中心デア
 ヲタ、然ルニ段々世ノ中ガ推移スルニ從ヒマシテ、先生ノ價值ト云フモノガ物質的ノ待遇デ判
 斷セラレルト云フコトニ相成ツテ、隨ツテ先生自ラモ物質的ニ物ヲ考ヘルヤウナコトニナツ
 テ、收入ノ多イ方面ガアレバ直チニ其ノ方ヘ向フ、直チニ其ノ方ニ職ヲ轉ズルト云フヤウナ氣
 持ニナル、是ハ洵ニ困ツタ點デアアル、其ノ點カラ言フト此ノ高等小學校ヲ出マシタ所謂一部ト
 云フ方ノ生徒ガ宜シイノデアアル、中學校ノ卒業者ヲ入レマスニ部ノ方ハ却テ宜シクハナイノデ
 ハナイカ、二部ノ卒業生ハ動モスレバ轉職ヲスルト云フヤウナ傾キガ多イ、斯ウ云フ御話デア
 リマシタガ、此ノ點ハ二部ノ卒業生ガ必ズシモサウ云フヤウナ傾向ヲ持ツテ居ルトハ限ラヌノデ
 アリマシテ、此ノ一部、二部ト云フコトニ付キマシテドチラガ宜シイカト云フコトハ、是ハ餘
 程問題デアリマシテ、一長一短各、長ズル所モアリ、又短所モアリ、必ズシモ一部ガ宜シイト
 云フノミニハ考ヘラレヌノデアリマス、今回教育審議會ニ於キマシテ師範學校ノ向上ト云フコ
 トニ付テ答申ヲ致サレテ居リマスルガ、是ハ要スルニ教員ノ資質ノ向上ト云フコトニ付テハ師
 範學校ヲ現在ノ儘デ置ク譯ニハ行カナイ、之ヲモット中學校ノ卒業生ヲ入レテ、修業年限ヲ延
 バシテ、サウシテモット立派ナモノニシナケレバナラヌト云フ意味デアアルノデアリマシテ、大

體ニ於キマシテ文部省ト致シマシテモ是ハ同感デアリマシテ、此ノ教育審議會ノ趣旨ヲ實行スルコトニ致シタイト考ヘテ居ルノデアリマスガ、是ハ出來ル限リ早ク其ノ點ヲ實施ニ移シタイト考ヘテ居ル譯デアリマス、尙ホ師範學校ヲ專門學校程度ニシテ、國立ニスル考ハナイカト云フ御尋デアリマスガ、師範學校ヲ專門學校ニ致スト云フコトニ付テハ、教育審議會ニ於テモ、サウ云フ答申ガアルノデアリマスガ、之ヲ直チニ國立ニ致スト云フ考ハ只今ノ所持ツテ居リマセヌ、是ハ各地方ニアリマスル所ノ小學校ト將來ハ國民學校ト相成リマスガ、其ノ教員ノ養成機關デアリマスガ故ニ、ヤハリ各府縣ニ於テ之ヲ經營セシムルコトニ依ツテ、一面ニ長所ヲ持ツテ居ル譯デアリマスカラ、今日之ヲ直チニ國立ニ直スト云フ考ハ只今ノ所持ツテ居リマセヌ、之ヲ府縣立ノ儘ト致シマシテ、十分ニ其ノ發展ヲ圖リタイ、斯様ニ考ヘテ居ルノデアリマス、其ノ次ノ御尋ハ、秀才デアツテ家庭ノ貧困ナルガ爲ニ學校ニ入學スルコトガ出來ナイト云フモノヲ救済シテ、所謂教育ノ機會均等ヲ與ヘル爲ニ、國家カラ相當ノ補助ヲ致ス必要ガアルト思フガ如何デアルカ、是ハ洵ニ仰シヤル通りデアリマス、私共全ク同感デアリマスガ、現在之ニ付キマシテハ或ハ民間ノ育英團體ガアリ、或ハ各地方等ニ於キマシテモ、貧困ニシテ優秀ナル青年ニ就學ノ機會ヲ與ヘル爲ニ補助ヲ致スト云フ施設ハ彼此レアリマスガ、併シナガラ今日ノ儘デハ不十分デアリマスノデ、是ハ何等カ組織ノニ育英制度ト云フモノヲ確立致シタイト考ヘテ居ルノデアリマス、之ニ付テハ何等カノ方法ヲ以テ此ノ制度ヲ定メルト云フコトニ付テ、考慮致シタイト考ヘテ居ル譯デアリマス、其ノ次ノ御尋ハ、今マデノ實業教育ト云フモノガ兎角知的ニ偏シテ居ルノデアアル、其ノ點ニ付テ非常ニ缺點ガアル、ソコカラ所謂農民道場ノ如キモノガ現ハレテ來タ、是ハ即チ實業學校ニ於ケル缺點ヲ反面ニ於テ證明シタモノデハナイカ、文部省ハ實業學校ノ改善ニ付テドウ云フ風ニ考ヘテ居ルカ、斯ウ云フ御尋デアツタノデアリマスガ、實業學校ノ教育必ズシモ知的ニ偏スルト云フ譯デハナクシテ、知徳兩方面ニ互リ、又實踐ト云フコトニ付テモ相當重キヲ置イテヤツテ居ツタノデアリマスケレドモ、其ノ點ニ付キマシテハ尙ホ一層知ト行ト、所謂知行合一ノ教育ヲヤルコトガ必要デアリマスシ、殊ニ今日ノ如キ重大ノ時局ニ於キマシテハ、此ノ精

神ヲ徹底セシムルコトガ必要デアリマスノデ、實業學校ニ於キマシテモ、所謂實踐道場ノ精神ヲ十分ニ吹込ンデ、之ヲ實行致シタイト云フノデ、特ニ此ノ點ニ於テ留意ヲ致シテ居リマシテ、實業學校ニ對スル國庫補助ノ中ニモ、特ニサウ云フ意味ヲ籠メテヤツテ居ルノデアリマス、又實習ニ教員等ヲ時々招集致シマシテ、其ノ意味デノ徹底ヲ圖ツテ居ルデアリマス、其ノ次ノ御尋ハ、兎角今日マデノ教育ガ知識中心、記憶中心ノ教育デアアル、斯ウ云フ教育ハ此ノ重大時局ニ際シテ、所謂東亞新秩序ノ建設ヲ翼贊致スベキ國民ノ養成トシテハイケナイノデアアル、教育ノ精神ヲ全ク入替ヘテ、本當ノ大國民ヲ養成スルト云フ意味ヲ以テ改善ヲ加ヘナケレバナラヌノデハナイカ、此ノ點ニ付テ如何ニ考ヘテ居ルカト云フ御尋デアリマシタガ、無論此ノ點モ御同感デアリマス、此ノ時局ニ於キマシテ、又將來東亞新秩序ノ聖業ヲ翼贊シ奉ルベキ次代ノ國民ヲ養成スルト云フ點ニ付キマシテハ、第一ニ教育者ガ十分ニ自覺メナケレバナラヌ、而シテ唯知的ノ方面ノ養成ト云フコトデハイカヌノデアリマシテ、眞ニ時局ニ自覺メ、新シイ時代ニ即應シテ教育ヲヤラナケレバナラヌ、ソレニ對シマシテハ總テノ種類ノ學校ヲ通ジテ、其ノ信念ヲ持ツテヤラナケレバナラヌト云フコトニ付キマシテハ、全ク御同感デアリマシテ、此ノ點ニ付キマシテハ私ハ出來ル限リノ努力ヲ致シマシテ、此ノ實現ヲ圖リタイト考ヘテ居ル次第デアリマス

羽田武嗣郎君ノ質疑

我が教育界ノ多年ノ懸案ト致シマシテ、全國二十五万ノ小學校ノ教員ノ生活ノ安定、全國一萬ノ町村財政ノ癩ヲ打開スベク立案サレマシタル此ノ二案ノ上程ニ際シマシテ、私ハ以下數項目ニ互リマシテ文部大臣、内務、大藏兩當局ニ對シテ質問ヲ致ス次第デアリマス、先ヅ第一ノ問題ト致シマシテハ小學校教員ノ俸給ノ不拂問題ニ付テ、今日ドウ改善セラレテ居ルカト云フコトニ付テ大臣ニ御尋致シタイトデアリマス、私ハ昭和十一年ノ夏ニ約半箇月ニ互リマシテ、窮乏ノ底ニ喘イデ居ル東北地方ヲ初メ、東日本ノ各地ノ教育ノ視察ヲ致シタノデアリマス、私

ノ最モ心ヲ痛メマシタモノハ、貧弱町村ニ於ケル小學校ノ教員ノ月給ノ不拂問題デアツタノデア
 リマス、栃木縣ニ於キマシテハ五十六箇町村デアリマス、其ノ金額ガ十九萬圓、福島縣ニ於テ
 六百五十箇町村デ、ヤハリ十九萬圓、秋田縣ガ九十五箇町村デ十四萬圓ヲ算ヘテ居ツタノデアリ
 マス、斯クシテ殆ド全國的ニ教員ノ月給ノ不拂ガ滔々トシテ行ハレテ居ツタノデアリマス、引續
 ク農村ノ不況ノ爲ニ村稅ノ滞納ガ甚シク、先生ノ月給ガ拂ヘナカッタノデアリマス、ソレバカリ
 カ、小學校ノ先生ニ多額ノ戸數割ヲ課ケタリ、或ハ寄附金ヲ強要スル等ノ事實ガ各方面ニ見受
 ケラレタノデアリマス、月給ガ貴ヘナイ爲ニ仕方ナク暮夜窃ニ村内ノ有力者ノ所ニ行ツテ、月
 給ノ前借ヲ致シタリ、或ハ米、味噌ヲ借リテ來ルト云フヤウナ、洵ニ氣マヅイ思ハスル先生ガ
 澤山アツタノデアリマス、秋田縣ノ某小學校長ノ如キハ、東京ニ遊學スル所ノ子供ノ學資ノ爲
 ミ、細君ノ著物ヲ質ニスレテ學資ヲ貢イデ居ツタノデアリマスガ、遂ニ是モ支ヘ切レズニ中途
 退學ヲサセナケレバナラナイト云フヤウナ悲惨ナ事實ヲ耳ニ致シマシテ、私ハ黯然タルモノガアツ
 タノデアリマス、先生モ亦生活者デアリマス、家族ノ生活ノ脅威ニ脅サレマシテハ、如何ニ神
 聖ナル教育ト雖モ、眞ニ魂ヲ打込ム所ノ教育ハ出來ナイノデアリマス、其ノ爲ニ他ノ職業ニ轉
 ジタリ、窮乏ノ農漁山村カラ月給ノ高イ、又能ク支拂ツテ呉レル所ノ都會方面ニ轉任スルト云
 フヤウナコトノ爲ニ、有ユル陋劣ナル手段ヲ講ズルト云フコトモ、亦是ハ人情トシテ已ムヲ得
 ナイ一面ガアルト私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、經濟更生ニ、生活改善ニ、思想ノ善導ニ、其
 ノ指導者トシテ、文化ノ低イ、指導者ノ少イ所ノ農漁山村程立派ナ先生ガ澤山必要デアアルノデア
 リマス、然ルニ拘ラズ只今申スヤウナ事情ノ下ニ、良イ先生ガ農村ニ居著カズニ、俸給ノ安イ
 先生ヤ代用教員ニ農村ノ教育ヲ任シテ置クト云フヤウナ實情デアアルノデアリマス、ソレバカリ
 カ、實ハ小學校ノ經費ト云フモノハ町村財政ニ於キマシテ殆ド二分ノ一、更ニ七八割マデモ要
 シテ居ル地方ガ多イノデアリマス、サウ云フ貧弱町村ニ於キマシテハ、月給ノ高イ立派ナ先生
 ヲ雇ツテ置クト云フコトガ困難ノ爲ニ、寧ロ月給ガ高クナルト先生ヲ追出シテ、サウシテ安イ
 先生ヲ後釜ニ入レマシテ辻褄ヲ合セルト云フヤウナ實情デアアルノデアリマス、斯ウシタ村ニ參

リマス、學校ノ校舍モ設備モ全ク見棄ラシイモノデアリマシテ、教材ノ掛圖ナドモ、滿洲國
 獨立ノ以前ノ古イモノデ間ニ合セテ居ルト云フヤウナ所ヲ屢見受ケタノデアリマス、併シナガラ
 斯ウシタ生活ノ脅威ノ中ニ在リナガラモ、月給ノ不拂ニ對シマシテ文句モ言ハズニ、村ノ更正運
 動ニ協力シテ、村民ニ感激ヲ與ヘマシテ、父兄ノ心ヲ改メサセテ、教育環境ヲ良クサセルコト
 ガ教育者ノ使命デアリ、同時ニ又不拂問題ノ根本對策デアアル、斯ウ云フヤウナ立場カラ、校長
 先生ヲ初メ全校ヲ擧ゲテ、村ノ全面教化ニ、經濟更生運動ニ、眞劍ニヤツテ居ル所モ屢見受ケ
 マシテ、私ハ幾度カ泣カサレタノデアリマス、殊ニ最近銃後ノ第一線ニ於キマシテモ、小學校
 ノ先生ノ思想的ナ指導力ト云フモノハ、非常ニ顯著ナコトデアリマシテ、吾々ハ常ニ是等ノ先
 生方ニ對シテハ感謝ヲ致シテ居ル次第デアリマス、最近ハ農村モ農産物ノ値上リデ懷口工合モ
 宜シイシ、又戰時下ノ緊張ノ爲ニ納稅ノ成績モ良クナリマシテ、教員俸給ノ不拂問題ト云フヤ
 ウナモノモ段々少クナツテ居ルト存ジマスルガ、此ノ現狀ハドウナツテ居リマスルカ、特ニ文
 部大臣ニ御尋ヲ致シタイノデアリマス、何レニ致シマシテモ市町村ノ財政ノ現狀カラ見マシ
 テ、國カラノ交付金ガ約八千五百萬圓アリマスルガ、此ノモノヲ含メマシテ約二億圓近イ金
 ヲ、教員ノ爲ニ月給トシテ市町村ガ負擔ヲ致シテ居ルノデアリマス、此ノ教員給ノ爲ニ市町村
 ノ財政ハ非常ニ壓迫セラレマシテ、地方自治本來ノ必要ナル經費マデモ、其ノ支出ニ困難ヲ來
 シテ居ルヤウナ今日ノ實情デアリマス、今回此ノ法案ニ依リマシテ、教員給ヲ市町村カラ國竝ニ
 道府縣ニ移管致シマシテ、教員給ノ不拂ノ如キ聖代ノ不祥事ヲ再ビ繰返サナイヤウニ致シマシ
 テ、教員ノ生活ノ安定ト、教育ノ都會地方ノ機會均等ヲ圖リ得ルコトガ出來マスルコトハ、洵ニ
 御同慶ノ至リデアリマス、第二ノ問題ト致シマシテハ教員ノ待遇ノ問題デアリマス、只今森田君
 カラモ御話ノヤウニ、今回ノ事變以來軍需工業會社方面ニ小學校ノ先生ガ轉向シタ人ハ、數千人
 ノ多キニ上ツテ居ルノデアリマス、神聖ナル教壇ヲ捨テテ軍需會社方面ニ走ラセマシタコトニ付
 キマシテハ、當局ハ大ナル反省ヲ致サナケレバナラヌコトデハナイカト私ハ思ツテ居ルノデアリ
 マス、國家ノ義務教育ニ携ハル所ノ小學校ノ先生ニ對シマシテハ、物心兩方面カラ之ヲ優遇ヲ

致シテ、先生ノ生活ヲ安定シテ、自尊ノ念ヲ高ク持タセ、名聞利達ノ念カラ遠ザカリマシテ、古武士ノヤウナ節操ヲ小學校ノ先生ニ保持サセルト云フコトガ、私ハ肝要デアルト思フノデアリマス、曾テ石川啄木ガ其ノ友人ニ宛テマシタ手紙ノ一節ニモ「斯ル境ニアリテ我が唯一ノ樂ミハ、故山ノ子弟ヲ教化スルノ大任也、小生ハ蓋シ日本一ノ代用教員ナラム、兄ヨ願ハクバ此ノ小サキ自負ヲ公言スルヲユルセ、人生ニ對スル予ノ不平ハ日ニ益多シ、生活ノ苦闘モ亦日ニ甚ダシ、八圓ノ月給ガヨク一家五人ヲ養ヒ得ルノ理遂ニナキナリ、然レドモ一切ノ不平ハ却テ予ガ精神ヲ鼓舞スルノ良藥ナリ、鼓舞セラレタル精神ノ火ハ日夜我が紅唇ヨリ迸リ出デテ、神ノ如ク無垢ナル子弟ノ血ニ燃エ移リツツアリ、感化ハ畢竟救済ナリ、一國ノ王トナラムヨリモ、一人ノ人ヲ救済スルハ大ナル事業ナリ、今ノ世ニ於テ愉快ナル、若クハ壯大ナル事業ト稱セラレルモノ、多クハ却テ空虚ナリ、吾人ハ事ヲナサントスルニ先ダチテ先ヅ何モノガ眞ニ充實シタル事業ナルヤヲ考ヘザルベカラズ」斯ウ云フ言葉ヲ言ツテ居リマスルガ、私ハ此ノ氣魄ト信念ト教育ヲ愛スル燃エルヤウナ情熱ト、ソレニ加フルニ八絃一字ノ皇謨翼贊ノ若キ選士ヲ養成スル所ノ新シキ日本ノ教育精神ヲ、全國二十五万ノ先生方ニ眞劍ニ持ツテ戴キタイト思フノデアリマス、ト同時ニ、文部當局ト致シマシテハ、此ノ先生方ガ安ンジテ教育ニ從事出來マスルヤウニ各般ノ施設ヲ講ジテ戴キタイト思フノデアリマス、本案ニ依リマスレバ確ニ俸給ノ不拂ノ禍根ヲ斷ツコトガ出來マスケレドモ、唯併シ俸給ノ出所ガ市町村カラ國ヤ府縣ニ移ツタダケノ、事務的ナ、平面的ナモノデアツテハナラナイト私ハ考ヘテ居リマス、今日ノ物價高ノ時代ニ處シテ、小學生ノ生活ガ確保セラレマシテ、安ンジテ教壇ニ止マルダケノ増俸ノ準備、或ハ戴時手當ノ用意ガ、文部省ニ於テ出來テ居ル、ドウカ、之ヲ私ハ文部大臣ニ御伺致シタイノデアリマス、又、就學兒童ハ年々人口ノ増殖ニ依リマシテ増加致シテ居リマス、其ノ爲ニ學級ノ自然増加モ相當ニ上ツテ居リマス、小學校教員ノ俸給ノ自然増加ハ年々約三四百万圓ニ上ツテ居ルノデアリマス、果シテ道府縣ガ將來此ノ負擔ノ増加ニ堪ヘルコトガ出來ルカ、又時勢ニ即シテ増俸ガ出來ルダケノ財源ヲ持ツコトガ出來ルヤウニ、今回ノ稅制案ノ中ニ其ノ用意

ガ十分ニ盛ラレテ居ルカドウカ、之ヲ私ハ内務當局ニ御尋致シタイノデアリマス、又、全體ノ俸給ノ額ガ決ツテ居リマスルト、結局個々ノ先生ノ俸給モ釘付ニナル傾向ガアルト思ヒマスルガ、其ノ點ニ付テ十分ナル御用意ガアルカドウカ、之ヲ御伺致シタイノデアリマス、尙ホ大藏當局ニ伺ヒタイコトハ、俸給ノ半額ハ國庫ガ之ヲ負擔スルコトニナツテ居ルノデアリマスルガ、既定ノ豫算ニ不足ヲ生ジタ場合ニ於キマシテ、此ノ補充ノ爲ニ第二豫備金マデモ支出シテ、十分ニ先生ノ生活ノ安定ヲ圖ツテ戴ケルカドウカ、此ノ御用意ヲ承リタイノデアリマス、次ニ文部省ノ、只今松浦文部大臣カラモ御話ニナリマシタガ、昭和十九年カラシテ現在ノ尋常小學校ヲ國民學校ニ改メ、高等小學校ヲ高等國民學校ニ致シテ、八箇年ノ教育制度ヲ實施スルコトニナツテ居ルサウデアリマスガ、十九年度カラハ當然高等小學校ハ義務教育制度ニ編入セラレルノデアリマス、昭和十九年ト云ヘバ今カラ四年シカナイ、デアアルナラバ寧ロ今回ノ稅制改革ヲ機會ト致シマシテ、來年度カラ直チニ高等小學校ノ教員ノ俸給ヲ國家ニ於テ、或ハ府縣ニ於テ支辨スルコトガ、然ルベキデハナイカト思ヒマスルガ、之ニ對スル御考ヲ承リタイノデアリマス、又同じク義務教育デアリマスルガ、青年學校モ亦然リデアリマス、義務教育デアアルナラバ青年學校ノ教員費モ、國庫ニ於テ、或ハ縣ニ於テ、ヤハリ負擔セラレマシテ、此ノ財政窮乏ニ惱ム所ノ地方農漁山村ノ爲ニ圖ツテ戴キタイト御願ヲ申上ゲル次第デアリマス、次ニ私ハ精神方面ノ優遇ニ付キマシテ御尋致シタイノデアリマスルガ、今日小學校長ガ奏任待遇ノ恩典ヲ受クルニハ、少クトモ二十年以上ヲ勤績致シ、功績顯著ナルコトヲ必要ト致シテ居リマス、又敍勳ノ恩命ノ如キモ、ヤハリ在職二十數箇年ヲ經タ者デ、特ニ功勞アリト云フコトガ、必要條件ニナツテ居ルノデアリマスルガ、營々致々トシテ第二國民ノ薰育ニ當ル小學校ノ先生ニ對スル、國家ノ此ノ精神的ノ恩典ヲ更ニ厚ク致シマシテ、小學校先生ノ社會的地位ノ向上ヲ圖ルコトガ、私ハ必要ト考ヘルノデアリマスガ、文部大臣ハ之ニ對シテドウ云フ御考ヲ持ツテ居ラレルカ、之ヲ御伺致シタイノデアリマス、第三ニハ私ハ今回提案サレマシタル所ノ制度ノ運用ニ付テ、數箇點ニ付キマシテ文部大臣ニ御伺致シタイノデアリマス、其ノ第一點ハ本制度ノ實施ニ

依リマシテ、今マデ俸給支拂者デアリ、増俸ノ鍵ヲ握ツテ居ツタ所ノ市町村ノ村長サン其ノ他有力者ニ對シマシテ、小學校ノ先生ハ卑屈ナ位ニ氣兼ヲ致シテ居ツタ様子モ、時ニ見受ケルコトガ出來タノデアリマスルガ、是カラハ村ノ人ノ容喙干涉ト云フヤウナコトヲ、此ノ制度ガ布カレレバ、直接村カラ月給ヲ貰ハナイト云フ關係カラ致シマシテ、自分ノ信念ニ基イテ教育ノ方針ヲ立テルコトガ出來マシテ、所謂教權ノ確立ヲ見ル譯デアリマスルガ、一面ニ私ハ此ノ制度ノ爲ニ教員ガ役人風ニナリ官僚化シマシテ、地方民ト離レテ、教員ト町村當局ガ色々ノ問題デ對立ヲ致シ、教育ノ地方化ト云フヤウナコトヲ害スル虞ガナカラウカト云フコトヲ心配致シテ居リマス、小學校ノ先生ト村ノ當局トハ、互ニ協調シ連絡シテ、眞ニ好キ郷土ノ建設ノ爲ニ、若キ者ノ教育ヲ致シテ行カナケレバナラヌノデアリマスガ、此ノ點ニ付キマシテハ、村當局並ニ學校ノ先生方ニ於テモ、餘程考ヘテ貰ハナケレバナラヌノデアリマスガ、是等ノ指導監督ニ付テ文部大臣ハ餘程注意ヲシテ戴キタイ、是ハ註文ヲ致シテ置キマス、次ハ教員ノ異動デアリマス、先生ノ轉任ノ問題デアリマスルガ、縣廳ノ手ニ依リマシテ頻繁ニ異動ガ行ハレマスト云フト、自然ニ役人根性ト云フモノガ益、醸成サレルノデハナイカト思フノデアリマス、一所ニ一年カ二年居レバ、村ノ人ノ顔モ知ラナイ中ニ次ノ場所ニ移ツテ行クト云フヤウナ關係デ、自然劍突クバツテ、所謂役人根性ガ助長サレルノデハナイカト云フコトヲ心配スルノデアリマス、デアリマスルカラ、教員ヲシテ其ノ市町村ニ愛著ヲ持タセ、眞ニ身ヲ挺シテ村ノ教育ニ從事シ得ルノ教育環境ヲ作り、村ノ更生ニ向ツテ進ムト云フヤウニスル爲ニハ、ドウシテモ適材ヲ選ンデ長イ間一ツノ場所ニ、一ツノ學校ニ勤務サセルコトガ、私ハ必要デアルト思フノデアリマス、自分ノ教育スル所ノ子供ヲ通ジマシテ町村民ト親シ味ヲ持ツ、ソコニ自然美シイ情誼關係ガ結成サレマシテ、學校教育ト相俊ツテ、地方民ノ信賴ト尊敬トヲ受ケテ、地方教化ノ中心ニ學校ノ先生ガ成ツテ行ケルノデハナイカト私ハ思フノデアリマス、サウスルナラバ官僚化ト云フヤウナ、役人根性ヲ起スト云フヤウナコトガナクテ濟ムノデハナカラウカ、斯ウ思フノデアリマス、サウ云フ意味ニ於キマシテ文部當局並ニ縣ノ學務當局ヲ十分ニ督勵致シマシ

テ、所謂將棋ノ駒ヲ動かサユウナ教育ノ異動ハ慎ンデ載キタイト思フノデアリマス、幸ニモ本案ニ依リマシテ貧弱町村ニモ高級ナル先生ガ置ケルコトニナリマシタノデアリマスカラ、ドウカ是等ノ先生ニ對シマシテハ十分ニ増俸ノ途ヲ講ジマシテ、適材ヲ長ク其ノ地ニ留メ、郷土ノ先生トシテ一生ヲ村ノ教化ニ俸ゲルコトノ出來マスルヤウニ、教員ノ進退等ニ付テハ特段ノ御注意ガアリタイノデアリマス、殊ニ今日ノ銃後農漁山村ノ振興ト思想ノ指導ノ上カラ行キマスト、窮乏ノ町村程人格識見ノ高い高級ノ先生ヲ配置スルコトニ依ツテ、國民教育ノ、殊ニ農村方面ハ文化モ低イ所デアリマスルガ、此ノ文化ノ低イ所ニ於テ十分ニ國民教育ノ機會均等、郷土教育ノ完成ヲ期サナケレバナラヌト思フノデアリマス、就キマシテハ教員配置ノ根本方針ニ付テハ文部大臣ノ御考ヲ承リタイト思フノデアリマス、先程一寸觸レマシタノデアリマスガ、私ハ第二點ト致シマシテ兎ニ角教員ノ異動ハ、地方事情ノ分ラナイ若イ縣ノ學務課長ヤ學務部長ノ手ニ依リマシテ、無雜作ニ異動ヲスルト云フヤウナコトヲ避ケナケレバナラヌト考ヘテ居ルノデアリマス、現在ノ制度ニ於キマシテハ、學務部長ナリ學務課長ノ監督權ト云フモノハ、内務大臣ガ持ツテ居ツテ、一國ノ文教ノ中心タル文部大臣ガ其ノ手足トモ言フベキ所ノ、縣ノ學務部長、學務課長ノ任免權ニ付テ、一ツノ發言權ヲモ有シテ居ラナイノデアリマス、私ハ斯ノ如キ現行制度ハイケナイト考ヘテ居リマス、内務、文部兩大臣ノ共管ノ人事々頂トシテ、教育ニ十分理解アリ、徳望一縣ヲ率ユルニ足ル人物ヲ學務部長ナリ學務課長ノ地位ニ置イテ、眞ニ文教ノ刷新ヲ圖ルノ御考ガアルカドウカ、之ヲ文部大臣ニ御尋致シタイノデアリマス、ソレカラ私ハ府縣ニ俸給ノ支給權ガ移管サレル關係カラ致シマシテ、縣視學ノ權力ガ非常ニ増大スルノデハナイカト云フコトヲ考ヘテ居ルノデアリマス、其ノ爲ニ又種々ナル弊害ガ生ジテ來ハシナイカト云フコトヲ惧レテ居ルノデアリマス、視學ノ人選ト監督ハ餘程細心ナル注意ヲ拂ハナケレバナラナイト考ヘテ居リマス、此ノ立場カラ致シマシテモ、學務部長トカ、學務課長等ニ其ノ人ヲ得ナケレバナラヌト云フコトハ、益切ナルモノガアルコトヲ感ズルノデアリマス、次ニ第三點ト致シマシテ、今日マデノ教員ノ俸給ガ市町村支辨ノ爲ニ、町村財政ノ關係カ

ラ致シマシテ、練達堪能ノ高給者ヲ敬遠シテ、四十ソコノ以テ小學校ノ先生ガ教壇ヲ去ルト云フヤウナ傾向ガ、洵ニ今日マデ強カッタノデアリマスルガ、家庭的ニモ數人ノ子供ヲ持ツ年配ニナツテ、初メテ子供ニ對スル所ノ理解モ得ラレマシテ、社會的ニモ、社交的ニモ經驗ガ積ンデ、マア四十以上ニナツテ初メテ活キタ人間ノ教育ガ出來、人間ノ陶冶ガ出來ルノデハナイカト思フノデアリマス、是カラ眞ノ人間教育ガ出來ヤウトスル中年ノ立派ナ先生方ヲ首ニスルト云フコトハ、實ニ國家ノ不經濟デアリ、國民教育ノ徹底ヲ缺クコトデアリ、知行合一ノ教育ノ完壁ヲ期スル上ニ於テ、洵ニ遺憾デアルト私ハ思ツテ居ルノデアリマス、ドウカ縣費支辨制度ノ實施ヲ機會ニシテ、先生ヲ永ク教壇ニ留マラシメテ、一生白髮ノ生エルマデモ教育ノ聖業ニ捧ゲ得ルコトノ出來マスルヤウニ、特段ノ注意ト御配慮ガアツテ然ルベシト考ヘルノデアリマスルガ、之ニ對スル文部大臣ノ御考ハ如何デアリマスルカ、之ヲ御伺致シタイノデアリマス、最後ニ私ハ第四點ト致シマシテ、六大都市ノ市ノ教育局ノ處置問題ニ付テ御尋致シタイノデアリマス、今回ノ改正ノ眼目ハ、市町村ノ俸給ノ支辨權ヲ道府縣ニ委讓スルト云フ所ニアルノデアリマスルガ、六大都市ニ對シマシテモ、ヤハリ同様ニ市長カラ此ノ權限ヲ奪ツテ、サウシテ府縣知事ガ此ノ任ニ當ルノデアラウカドウカ、此ノ點ノ御建前ヲ文部大臣ニ御尋致シマス、ソレカラ尙ホ六大都市ニ於キマシテハ、完備シタル所ノ教育機構ガ整ツテ居リマス、東京市ノ如キモ實ニ立派ナル局長ヲ戴イテ居ルノデアリマスルガ、斯ウ云フヤウナ局長以下ノ此ノ教育監督機構ヲ、此ノ法案ノ通過ニ依ツテ如何ニ處置サレルカ、此ノコトニ付キマシテ文部大臣ニ御尋致シタイノデアリマス、尙又全國ノ市長ニハ小學校ノ先生ノ任用ニ關シテ內申權ヲ現在與ヘテ居ルノデアリマス、此ノ全國ノ市長ノ內申權ハ、之ヲドウ處置セラレル方針デアルカ、ヤハリ今後府縣ニ委讓サレマシテモ、同様ニ之ヲ續ケテ行ク積リデアアルカドウカ、是等ノ點ニ付キマシテ文部大臣竝ニ關係當局ノ懇切ナル御答辨ヲ煩ハシマシテ、私ノ質疑ヲ終リマス

松浦文部大臣ノ應答

御答ヲ申上ゲマス、内務大臣、大藏大臣ニ對スル御質疑ハ、其ノ方面カラノ御答辯ガアリマセウカラ、私ニ對スル御尋ニ對シテ御答ヲ申上ゲマス、青年學校ノ教員ノ俸給モ、既ニ國民學校、今日デハ小學校デアリマスガ、尋常小學校ノ教員俸給ヲ府縣費支辨ニ移ス以上ハ、青年學校ノ教員俸給モ府縣費支辨ニ致シタラドウデアラウカト云フ御尋デアリマスガ、是ハ青年學校ハ、今日ハマダ男子ノ青年學校ハ義務ニ相成ツテ居リマスルガ、女子ノ青年學校ハマダ義務制デハアリマセヌシ、教員ノ配置等モ小學校トハ趣ヲ異ニ致シマスルノデ、之ヲ今日府縣費ノ支辨ニ致ス考ハアリマセヌ、是ハ全ク將來如何ニスベキカト云フコトハ、其ノ際ニ於ケル問題デアリマシテ、今日其ノ考ハ持ツテ居ラヌノデアリマス、ソレカラ小學校長ノ待遇向上ノコトハ、是ハ先刻森田君ノ御尋ニ對シテ御答申シマシタ通り、精神的ノ待遇ニ付テモ、十分考慮ヲ致シタイト考ヘテ居ルノデアリマスト云フコトヲ御答ニ致シマス、ソレカラ今回俸給ガ府縣費支辨ニ移リマスト、小學校ノ先生ガ市町村ノ當事者ト遊離スル虞ハナイカト云フ御尋デアリマスガ、是ハ市町村當事者ト小學校ノ先生トガ全ク心ヲ一ニシテ參ル場合ニ於テコソ、初メテ小學校ト云フモノガ市町村教化ノ中心トシテ働キヲ爲スノデアリマシテ、市町村住民ノ子供ヲ預ツテ教育ヲシテ居ル教員ハ、唯俸給ノ支辨ガドチラニ移ツタト云フコトノ爲ニ、決シテ市町村當局者ト遊離スルト云フヤウナコトハ、萬々アリ得ナイト考ヘテ居ル次第デアリマス、其ノ次ハ教員ノ異動ト云フモノガ屢アルガ、是ガ府縣費支辨ニ移ルニ從ツテ、府縣當事者ノ唯心一ツデ、勝手ニ教員ニ轉任ヲ命ズルト云フヤウナコトガアリハシナイカト云フ御尋デアリマスガ、今教員俸給ヲ府縣費支辨ニ移シマスト云フコトノ精神ハ、市町村ノ豫算ニ拘束サレルコトナクシテ、地方長官ガ全ク適材ヲ適所ニ配置スル、市町村ノ豫算ノ少イガ爲ニ、立派ナ先生ヲ市町村ニ置クコトガ出來ズシテ、已ムヲ得ズ他ニ轉任シナケレバナラヌト云フヤウナ現在ノ状態ヲ排除シマシテ、適當ナル教員ハ俸給ガ高クナツテモ、其ノ市町村ニ何時マデモ永ク勤務セシムルト云フヤウニ致スコトガ、第一ノ理由ニナツテ居ルノデアリマスカラ、府縣費支辨ニ相成リマスレバ、教員異動ト云フコトハ少クナル、決シテ多クナルト云フコトハナイト考ヘマス、其ノ次ノ

御尋ハ、地方廳ノ學務部長其ノ他ノコトニ付キマシテ、全ク内務省ノ系統ニ屬シテ居ツテ、文部省トシテハ少シモ發言權ガナイ、是ハ改メナケレバナラヌデハナイカト云フ御趣意ノヤウナ御尋デアリマスガ、此ノ地方學務行政ノコトニ付キマシテハ、一般ノ地方行政ト色々關係スル點ガアリマスルノデ、是ハ篤ト考慮ヲ致サナケレバナラヌ問題ト存ジマス、直チニ今日御答ヲ致ス譯ニハ參リマセヌ、其ノ次ハ教員ノ俸給ガ高クナルガ爲ニ、却テ退職ヲシナケレバナラヌト云フヤウナ場合ヲ防ガナケレバナラヌデハナイカト云フ御尋デアリマスケレドモ、是ハ先刻申シマシタ通り、府縣費支辨ニ相成リマスレバ、市町村ノ豫算ニ拘束サレズニ、地方長官ガ全體ヲ見渡シテ、適材ヲ適所ニ置クト云フ方針ヲ執リマスガ故ニ、却テ高給ニナツタガ爲ニ已ムヲ得ズ退職シナケレバナラヌト云フ、サウ云フ弊害ハ今後ハ少クナルト考ヘテ居リマス、其ノ次ニ今回俸給ヲ府縣費支辨ニ移スニ付テ、現在アリマス市ノ教育局其ノ他ノ機構ト云フモノニ、何等カ變更ヲ來スノデハナイカト云フ御尋デアリマスガ、是ハ府縣ノ支辨ニ移シマスガ爲ニ何等變更スルコトハアリマセヌ、其ノ次ニ市長ノ内申權ト云フモノハドウナルカト云フ御尋デアリマスガ、此ノ點モ内申權ハヤハリ從前通り之ヲ存續セシムル考デアリマシテ、此ノ點ニ付テハ少シモ變更ハ致シマセヌ積リデアリマス是ダケ申上ゲテ置キマス

木村大藏政務次官ノ應答

只今羽田君カラ義務教育費ノ國庫負擔ノ關係ニ付テ御尋ガアリマシタガ、御答致シマス、羽田君御承知ノ通りニ、今日マデハ市町村義務教育費國庫負擔法ノ規定ニ依リマシテ、小學校教員給ノ一部ハ國庫ガ之ヲ負擔スル、其ノ國庫負擔ノ金額ハ毎年度八千五百萬圓ヲ下ラザルモノトス、斯ウ云フ規定ニ依リマシテ、豫算ノ上ニ於テハ八千五百萬圓ヲ計上致シテ居リマシタガ、只今議題トナツテ居リマス義務教育費國庫負擔法ノ第一條ニ依リマシテ、小學校教員ノ俸給ノ爲ニ、北海道ナリ府縣ガ支拂フ所ノ經費ノ半額ハ國庫之ヲ負擔ス、斯ウ云フ風ニ明瞭ニ半額ハ國庫ガ負擔スルト云フコトニ規定致シマシタガ爲ニ、豫算ノ關係ニ於キマシテハ補充費途ト相成ツ

タ次第デアリマス、隨テ十五年度ニ於キマシテハ、御承知ノヤウニ九千二百餘萬圓ヲ計上シテ居リマスガ、先程羽田君カラ御話ニナリマシタヤウニ、就學兒童ガ年々非常ニ増加致シマシテ、俸給ノ關係カラ申シマス、毎年四百萬圓カラ約六百萬圓程度ノ俸給ノ増加ヲ來シテ居リマス、隨テ其ノ半額ト致シマスレバ二百萬圓乃至三百萬圓ノ國庫負擔ガ増加スルコトト相成ルデアラウト思ヒマス、隨テ十五年度ニ於テ九千二百餘萬圓デ若シ不足ヲ生ジマシタル時分ニハ、當然是ハ第一豫備金カラ支出致スノデアリマス、第一豫備金ガ不足ヲ致シマシタ時ハ、是ハ當然追加豫算トシテ更ニ要求致シマシテ、國庫負擔ノ關係ニ於テハ、教員給ニ付キマシテ毫モ心配ナカラシムル考デアリマスカラ、是ダケヲ申上ゲマス

鶴見内務政務次官ノ應答

只今羽田君ノ御質問ノ中デ内務省ニ關スル分ニ付テ御答ヲ申上ゲマス、羽田君ノ御話ニアリマシタヤウニ、教員俸給費ハ年々必要額ハ増加シテ居リマスカラ、此ノ點ニ關シマシテハ内務當局ニ於テモ十分ニ考慮シテ居ルノデアリマシテ、今回改正ノ地方稅制ニ於キマシテモ、市町村其ノ他ノ地方ニ對シテハ、獨立財源トシテ物稅ヲ本旨ト致シテ居リマスガ、之ニ配スルニ更ニ伸張力ノアリマス配付稅ヲ配シテ居リマスカラ、將來増額致シマス教員俸給費ニ付テハ、十分彈力性ヲ以テ之ニ對處シ得ルモノト、斯様ニ考ヘテ居リマス

福田關次郎君ノ質疑

只今日程ニ上ツテ居リマス義務教育費國庫負擔法中改正法律案ニ付キマシテ、關係當局ノ御所見ヲ御伺致シタイト思フノデアリマス、本法御提出ノ理由ハ、先程來御述ニナツタノデモアリマスルガ、事實ヲ申シマスレバ、今回ノ地方稅制改正ノ結果是ガ生レタノデアルト云フコトモ、其ノ理由ノ一ツデアラウト思フノデアリマス、今大臣ノ御話デハ、今日マデノ負擔ハ八千五百萬圓デアリマスガ、是カラハ實際ノ入用ニ應ジテ、其ノ半額ヲ負擔スルト云フコトデアリマス、

然ラバ其ノ改正ト申シマスルモノハ、唯要ルダケノ半額トシタト云フコト、八千五百萬圓ト云フモノヲ改メテ、サウシタト云フダケノ改正デアリマス、隨テ總テ地方民ノ受ケマスル利害ト云フモノハ極ク僅カデゴザイマスルガ、併シ是ガ及ボシマスル影響ハ、相當ナル波紋ヲ描イテ居ルコトヲ御諒承願ヒタイト思ヒマス、此ノ重大ナル問題ヲ議シマスルニ當ツテ、内務大臣ノ御出席ガナイト云フコトハ、私ハ甚ダ遺憾ニ思フノデアリマスルガ、ドウカ私ノ申上ゲマスルコトヲ能ク御聽ノ上デ、十分ナル御答辯ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、元來義務教育ト云フモノハ、義務ト云フ文字ヲ附ケテ地方自治體ニ御任セニナツテ居リマスケレドモ、實際ヲ申シマスレバ、是ハ國家ノ仕事デナクテハナリマセヌ、地方財政ノ今日非常ナ窮迫ヲ來シテ居リマスル所以モ、ヤハリ其ノ予盾ガ此處ニアルノデハナイカト私ハ思フノデアリマス、ソレヲ姑息的ニ先生ノ給料ノ半額ヲ御支給ニナリマシテモ、或ハ學校ノ兒童増加ニ依リマスル所ノ營造物、或ハ備品、或ハ經常費、或ハ教員給、或ハ退職資金、慰勞金、是等ノ大部分ハヤハリ地方ノ民衆ニ此ノ負擔ガ懸ツテ參ルノデゴザイマスルガ、此ノ點ハ政府トサレマシテ將來少シク御考慮ヲ願ハナケレバナラヌノデハナイカ、現在ノ國情ヨリ致シマスレバ、政府ノ本改正案ハ時勢ノ現狀ヨリ見テ非常ニ不徹底デアリマス、僅カノ改正ヲ意圖セラレマスルノニ、今日御質問ニナラウト云フ方ガ斯ク多數ニ上ツテ居ルト云フノハ、之ニ依ツテ日本全國全般ノ利害ガ相當重大デアルカラデアラウト推察致シマス、而シテ政府ハ稅制改革ニ當リマシテ、其ノ理由ノ一ツニ獨逸ノ法律ヲ御利用ニ相成ツテ居リマス、獨逸ノ法律ニハ斯ウ云フコトヲ申シテ居リマス、「國ハ邦又ハ市町村ニ必要ナル財源ヲ與ヘタル限度ニ於テ新ニ國ノ事務ヲ委任スルコトヲ得」トアルノデアリマス、今回ノ稅制改革ニ於カレマシテハ、政府ハ此ノ事ヲ有ユル機會ニ御述ニナツテ居ルノデアリマス、若シ獨逸ノ其ノ法律ニ規定サレタ如ク、新ニ國ヨリ費用ヲ與フルコトニ依ツテ、地方團體ニ向ツテ國家ノ事務ヲ委任スルコトヲ得ルト云フ御精神デアレバ洵ニ結構デアリマス、斯ク相成ツテ貫ハナケレバナリマセヌ、獨逸ノ政策及ビ各計畫ニ付キマシテモ、中ニハ無用ナ燒直シモアリマスルケレドモ、斯ウ云フコトハ吾々ノ非常ニ之ヲ痛感スル所デアリマ

ス、然ルニ今日ノ我が日本ノ實際ヲ見マスルト如何デゴザイマセウカ、稅制改革ニ引用サレマシタ一ツノ理由タルベキ、斯ウ云フ結構ヲ御趣意ガ何レニ徹底致シテ居リマスルカ、此ノ點ヲ私共ハ非常ニ憂慮致シテ居リマス、例ヘバ今次事變ニ依リマシテ、地方自治團體ノ行ヒマスル國家ノ委任事務ト云フモノハ、洵ニ多大デアリマス、洵ニ激増シテ居リマス、之ニ對セラレマシテ政府ハ如何ナル財源ヲ御與ヘニナツテ居リマスカ、今回ノ地方稅制改革ノ如キ小事ヲ以テハ、是等ノ負擔増加ヲ緩和スルコトハ出來マセヌ、隨テ地方一般民心ノ生活ノ安定ヲ確保スルコトモ、亦困難デアルノデゴザイマス、而モ此ノ教育ハ、一時日本ハ義務教育トシテ之ヲ市町村自治體ニ御委任ニナツテ居リマスケレドモ、先程申シマスルヤウニ國家ノ重大ナル職責デアリマス、今日大學ノ教育ト、地方ノ國民教育トガ何レガ大事デゴザイマセウカ、我が日本ノ現時カラ見マスレバ國民ノ再組織モ必要デアアル、國民精神及ビ東亞建設及ビソレガ經營ニ當リマスル大國民ヲ造ラント致シマスルノニハ、今日ノ如キ一定シタ型ニ依ツテ、國民教育ノミヲ以テ足レリト爲サルノデゴザイマセウカ、私共ハ非常ナ矛盾デアルト思フノデアリマス、大學ニ入りマス者ハ、先程誰カノ御話ニゴザイマシタガ、大體ハ有産階級ノ人々デ、特殊ナ部分デアリマス、其ノ有産階級ノ特殊ナ部分ノ方ノ入學ナサレル所ノ學校ハ、之ヲ國民ヨリ取りタル所ノ國費ヲ以テ、經營シ、而シテ今國家國民ノ眞ノ再組織、國民ノ眞ノ教導ヲシナケレバナリマセヌ重要ナル國民教育費ハ、之ヲ中産以下ノ大衆ノ負擔ニ委スルト云フコトハ、私ハ現下ニ於キマスル政策ト致シマシテハ、矛盾撞著ノ大ナルモノデアルト信ズルモノデゴザイマスルガ、政府ハ之ニ對セラレマシテ何等カニモ一大革新ヲ爲サレル必要ガアルコトヲ痛感致シマスルガ、政府ハサウ云フヤウナ御信念ト御理想ヲ御持チニナツテ居リマスルカドウカ、伺ヒタイノデアリマス、而モ國家事務ハ増加致シマスル、先程來御話モゴザイマシタ青年教育ノ問題ニ致シマシテモ、今御拵ヘニナリマシタ青年學校ハ、農村ト都會ト其ノ増加率ハ何レガ大デゴザイマセウカ、文部當局ハ既ニ此ノ邊ハ承知ノ筈デゴザイマス、ソレハ農村ノ小學校生徒ニ對シマスル青年學校生徒ノ増加率ハ非常ニ少數デアリマ

ス、然ルニ大都市、少クトモ六大都市ニ於キマスル青年學校生徒ノ増加率ト云フモノハ、農村生徒ニ比較致シマスルト其ノ比デハゴザイマセヌ、是ハ何故都會ダケガソレダケ青年學校ノ教育費ガ増額スルカト申シマスルト、都會ニ於ケル人口ノ増加デハゴザイマセヌ、農村ニ於キマシテハ小學ノ教育ダケヲ授ケテ居ルガ、悉ク五反百姓デアリマシテ、一家一人ヨリ農村ニ殘リテ生活スルコトハ出來マセヌカラ、後ノ殘リシ女モ男モ悉ク之ヲ都會ニ出スニアラザレバ、一家ノ生活ハ出來ナイノデアリマス、是ガ現在ノ日本ニ於キマスル農村生活ノ實體デアリマス、而シテ此ノ都會ヲ指シテ來テ、小學校ヲ卒業シテ青年學校ニ入レナケレバナラヌモノハ、之ヲ今日ノ大都會ニ御委任ニ相成ツテ居ルデアリマセヌカ、然ラバ此ノ六大都市ニハ財源ヲ與フルベキデアアルニ拘ラズ、却テ今回ノ稅制改革ニ於キマシテ、此ノ都市ヨリ財源ヲ奪ヒ去ラントスル如キハ、私共ハ時代錯誤ノ大ナルモノト言ハナケレバナラヌト思フデアリマスガ、全ク正反對ノ現象デアアル、斯ウ云フ矛盾撞著ガ我が日本ノ政治ノ上ニハ續々ト現ハレテ居ルノデアリマス、此ノ點ニ於キマシテ政府ハドウ云フ風ニ、斯ウ云フ不自然ヲ是正サレヨウトサレルノデアリマス、今日ノ農村ハ固ヨリ窮乏デゴザイマス、今日ノ農山漁村ハ憐ムベキモノデゴザイマス、サリナガラ此ノ憐ムベキ子弟ハ何レニ依ツテ生活スルノデアリマスカ、日本ノ今日ノ實際デハ、折角農村ニ生レタ者ガ親ノ膝下ニ長ク共同生活スルコト能ハズ、遂ニ異境ノ空ニ、父母ニ別レテ都會ニ集中スルノ外ハ生活ハ出來ナイノデアリマス、其ノ生活ノ出來ナイ國民ノ悉クヲ成人トスルマデノ教育ヲ授ケルノハ、六大都市ガ中心デゴザイマス、今日人口増加ノ約四割ハ悉ク六大都市ニ集中サレテ居ルノハ、政府ノ統計ガ之ヲ立證シテ居リマス、然ルニ是等ノモノカラ財源ヲ取上ゲテ、サウシテ地方ニ向ツテ、財政調整交付金等ニナサラウトスルガ如キハ、甚シキ矛盾デアリマスマイカ、政府ノ是等ニ對シマスル御所見ヲ伺ツテ、天下萬民ノ批判ヲ私ハ乞ヒタイト思フノデアリマス、而シテ都會ノ文化、都會ノ有ユル社會施設ハ、要スルニ農村民ノ一般ノ救済及ビ是等ニ對シマスル所ノ施設デアリマス、是等モ亦御忘れニナツテハ相成ラヌ、政府ハ十分此ノ邊ニ御留意ヲシテ戴カナケレバナラヌト思フノデアリマ

ス、又政府ガ今ノ國民教育ト云フモノニ對シテ、當ニ給料ダケト云フコトデアアルガ、今申シマスルコトハ本當ヲ言ヒマスレバ義務教育ノ方ガ大切デアリマス、大學教育ノ如キハ、ソレ等ニ入學スル者ニ任シテ、今日私立學校ノ經營ハ相當出來マス、之ニ無用ナル所ノ龐大ナル國費ヲ投ズル必要ハアリマセヌ、私立學校ノ經營ニ依ツテ出ル所ノ人物ハ、相當ノ者ガ輩出シテ居リマス、是等ニ付テモ是非ハ是正ヲナサイマシテ、サウシテ大學ニ用ヒマスル經費ヲ以テ國民教育ニ集中シ、以テ今日ノ地方自治體ニ義務ヲ命ズルナラバ、其ノ命ズルニ必要ナル經費ハ國家ヨリ悉ク之ヲ交付スルコトガ當然ノ歸結デアリ、行政執行上ノ公正ナル基礎デアルト思フノデアリマス、而モ本案ノ中心ノ教員給ノ府縣移管ニ付テ御伺シタイノデアリマス、先程カラ一部御質問モゴザイマスルシ、大臣ノ御答辯モ伺ヒマシタガ、私ハソレデハ承服ヲ致シ難イノデアリマス、詰リ政府ノ此ノ改正案ハ、教員給ヲ府縣負擔ニ移サレルト云フコトデアリマスガ、事實ハ其ノ費用ハ誰ガ出スノデアリマスカ、本當ハ悉ク其ノ市町村民ガヤハリ負擔ヲシテ、ソレヲ政府ガ取上ゲテ、再ビ之ヲ府縣ニ渡スノデアリマス、謂ハバ要ラザル無用ノ手數、能率ノ不増進ヲ增加ナサルノデアリマス、或ハ地方財政調整交付金等ニ於キマシテモ、或ハ分與稅中ノ分與金等ニ於テモ、悉ク取上ゲテ再ビ之ヲ渡ス案デアリマスカラ、是ハ察シマスルニ、私唯何デモ官ニ凭レヨ、何デモ中央ニ凭レヨ、斯ウ云フ一ツノ官僚獨善ノ強化ヲ御圖リニナルノ外ニハ、矛盾デアアルシ、無益デアアルシ、能率ノ不増進ノ模範デアルト思フノデアリマス、ソレデアリマスカラ茲ニ府縣ニ與ヘルト申サレマシテモ、其ノ費用ハ悉ク府縣民ガ負擔スル、政府ガ取上ゲテ府縣ニ渡スト云フノデアリマスカラ、是位時代錯誤デアツテ、政府ノ濫費ヲ助長スル途ハナイト思フノデアリマス、ソレデアリマスルカラ今マデニ、私ハ全體トハ申シマセヌガ、今日ノ文化ト云フモノハ、一體六大都市ヲ措イテ何處ニゴザイマス、今日世界ニ誇リマスル有ユル施設有ユル社會政策、社會施設ノ今日ノ模範ハ、六大都市ヲ除イテ何ガアルカ、而モ之ニ對シテ國ハ何ノ御助力ヲナサツタカ、殆ド自治體ニ生存致シマスル吾々ガ協心戮力シテ其ノ負擔ヲ分チ、非常時局ニ於ケル必要ナル施設、或ハ軍事扶助、或ハ軍人救護ニ至ルマデ、税金外ニ多

大ナル負擔ヲ甘受致シマシテ、今日ノ六大都市ノ經營ヲシテ、世界ニ對シテ恥カシカラザル所ノ施措ヲ致シテ居ルノデアリマス、ソレヲモ顧ミズ僅カナ町村ト同一ニ之ヲ御覽ニナルト云フコトニ付テ、ドウ云フ必要ガアツテ、此ノ六大都市モ小サキ町村ト同一ニ、今マデノ市長ノ所謂教員ノ任免權ニ付キマシテ、之ヲ取上ゲテ、府縣ニ御移管ニナルト云フ必要ハ何レニアルノデゴザイマセウカ、而モ此ノ實際ヲ見マスルト、内務省方面デハ警察費連帶支辨ト云フモノガアリマス、其ノ項ノ中ニ教員ノ府縣移管ト云フコトヲサレテ居ル、政府ハ今日ノ國民教育ヲ掌ル潑刺タル氣風ヲ養ヒ、以テ我ガ日本國民ノ基礎ヲ爲スベキ國民ヲ養成致シマスル其ノ先生ヲ、法律ヲ適用スル單純ナル警察官ノ如クニ官僚化セントセラレト云フ外ニハ、何等得ルモノハゴザイマスマイ、所謂今日ノ教員ヲ警察官ノ如クニ官僚化サウトスル意圖ノ外ニハ何物モナイ、此ノ點ハ内務大臣ガ常ニ貴族院ノ會議ニ於テモ、亦當議場ニ於キマシテモ、委員會ニ於テモ申サレマスル獨善ヲナサレテ、サウシテ地方自治權ヲ剝奪サレルト云フコトニ除々ト御進ミニナルト云フコトハ、事變下日本ノ行クベキ對策デアリマセウカ、理想ト致スコトガ出來ルノデゴザイマセウカ、嘗テ前内閣ハ地方自治體ノ改正法案ヲ出サウトサレタノデアリマス、吾々六大都市選出ノ貴衆兩院議員、其ノ他ガ中心トナツテ、斯ル地方ニ於ケル國民代表ノ權限ヲ縮小シ、之ヲ奪ツテ、サウシテ官僚化セントセラレト云フコトハ宜シクナイト云フコトデ、私共ハ之ニ反對致シマシタ、現内閣ハ聰明デアリマシテ、是ガ御提出ヲ見合サレタコトハ一步進ンデ居リマス、此ノ點ハ私共ハ感謝致スノデアリマスガ、今回ノ此ノ改正案ニ付テ地方町村モ、六大都市モ——六大都市ト云ヒマシテモ、今日ハ御承知ノ通り歐羅巴ニ於ケル一國デゴザイマス、ソレヲ小サイ町村ト同一ニ御取扱ニナツタト云フコトガ、私ハ非常ニ間違ツテ居ルノデハナイカト思フノデアリマス、ソレデアリマスカラ是等ノ點ニ付キマシテハ、六大都市ダケハ之ヲ切離サレマシテ、今マデノ通りニ之ヲナサツタラ、ドウ云フ弊害ガアルノデゴザイマスガ、政府ノ本案御提出ノ御意見ハ、教育ノ機會均等ト財政ノ均衡化ヲ圖ルノデアルト云フヤウニ受取レルノデアリマスガ、教員ノ圓滑ナル任免、財政ノ所謂均衡ヲ圖ルト云フコトガ、之ヲ地方府縣移管

ノ御理由ニナツテ居リマス、然ラバ是ガヤハリ財政調整ノ一ツデアリ、農山漁村ニ於テハ、先程來ノ御質問ノヤウニ、教員俸給不拂ト云フ事實モ現ハレテ居ルカラ、是等ヲ能ク按排シテ平均化シナケレバナラヌト云フ御理想ハ大變結構デアリマス、併シナガラソレ等ノ點ニ於キマシテハ、何ノ爲ニ地方分與稅ト云フ制度ヲ御設ケニナツタノデゴザイマセウカ、地方分與稅ハ讓與稅ト交付稅トノ二ツニナツテ居リマス、其ノ交付稅ニ於キマシテハ、其ノ原地ニ還付シマスルガ、政府ノ言ハレマスルヤウニ、是ハ薄イ、是ハ薄イト云フ風ニ按排シテ、自由ノ裁量ニ依ツテ之ヲ御交付ニナルデアリマセウ、其ノ莫大ナル金額ヲ以テ、此ノ調整ヲナサル所ハ、政策ハ出來ルノダカラ、是ハ稅制改革ノ理想化ダト仰セニナルガ、然ラバ八千万圓ヤ九千万圓ノ小學校ノ先生ノ給料ノ方面ヲ取ツテ來テ、何ガ是ガ地方財政ノ所謂調整ノ效力ガゴザイマセウカ、農山漁村ニ於キマシテ其ノ金ハアナタ方ニ御與ヘシテアリマス、此ノ稅制案ガ通過致シマスレバ、其ノ半額ハアナタ方ノ御自由裁量ニシテアル、故ニサウ云フ必要ガアルトスルナラバ、其ノ方カラ持ツテ來テ之ヲ補ハレルコトガ至當デハゴザイマセウカ、小學校教員俸給ノ如キ少額ノモノヲ以テ、地方財政ノ所謂調整ヲスル、之ヲ均一化スルト云フガ如キハ、私ハ稅制ヲ御改革ニナリマシテ理想カラ言ツテ、矛盾ノ甚シキモノト言ハナケレバナラヌト思フノデアリマスガ、政府ハ此ノ所謂二本建ヲ俟タナケレバ地方ノ財政ノ健全化ハ期セラレヌト仰セニナルノデアリマスガ、此ノ點ヲ關係各相ニ御伺致シタイノデアリマス、若シソレヲシナケレバ出來ヌト言フノナラバ、今日ノ稅制改革ハ不徹底極マルモノデアリマシテ、之ヲ政府ハ責任ヲ以テ完全ナリト仰セニナツタ言質ハ如何ニ相成ルノデアリマスガ、之ヲ伺ヒタイト思フノデアリマス、又政府ガ何か一ツノ事ヲ御改革ニナリマスル度ニ、所謂官僚ノ勢力ノ増大ヲ御圖リニナルト云フ一ツノ「イデオロギー」ハ、是非非常ニ誤ツテ居リマセウ、今回小學校ノ教員幾十万人ガ、警察官ノ如クニ採用セラレテ、サウシテ所謂官僚化シテ居ル、官僚化ハ化石化デアリマス、失禮デアリマスケレドモ、大體官吏ト云フ者ハ、勇往邁進獨自ノ力ノアル者ハ、今ノ上官ハ中々之ヲ使ヒコナセマセヌ、本當ヲ言フト、唯々諾々トスル佞人デナケレバ、本當ノ人物ハ中々今日ノ官界ニ

ハ入ツテ居ラレヌ、私共ノ友人デモ本當ニ出來ル者ハ排斥セラレ、眞ニ唯々諸々トシテ倭人化シタ者ハ之ヲ拔擢スル、是ガ現在ノ日本ニ於ケル官界ノ通弊デアリマス、斯様ニ官僚化スルコトハ化石スルコトデアリマス、併シナガラ教育ハ活キタ國民ヲ教養シ、此ノ帝國ノ將來ヲ擔當スベキ重要ナル人物養成ノ重大機關デアリマス、是等ノ者ヲ單純化シタ、化石化シタ、官僚化シタ教員デ以テ造リマスルナラバ、日本ノ國ハ日ト共ニ所謂自主獨往ノ精神ヲ失ヒ、勇往猛決ノ決心ヲ失ツテ、唯倭人ノミガ輩出スル所ノ國家トナルノデハゴザイマスマイカ、是等ノ點ニ於テ私ハ唯大言壯語ヲスルヤウデアリマスガ、餘程御注意ヲ願ハナケレバナラヌコトハ、アノ「コミンテルン」ノ世界政策デアリマス、之ニ付テハ文部大臣モ、其ノ他内務方面モ皆御承知デゴザイマセウガ、其ノ第一ハドウデゴザイマセウカ、先ヅ運動スル者ハ右傾化ヲ假裝スルコトデアリマス、其ノ次ニハ其ノ國ニ於ケル大人物ヲ抹殺スルコトデアリマス、其ノ次ニハ其ノ國ノ總テノ諸機構ヲ改造シテ、眞ノ建國以來ノ「スピリット」ヲ奪フコトデアリマス、其ノ次ニハ人物ノ輩出ヲ防グコトデアリマス、是等カラ見マスルト、斯ウ云フ教育制度ノ改惡ト云フモノハ餘程考ヘンケレバ、斯ウ云フヤウナ政策ニ乗ゼラルルコトナシトシナイノデアリマス、斯カルガ故ニ近時大學ノ教育ヲ見マシテモ、如何デゴザイマセウカ、中ニハ偉イ先生モゴザイマスカラ、悉クトハ申シマセヌ、皆私共ノ若キ時ニハ、國家重大問題ノ蜂起スルヤ、七大博士ト云フ者ガ敢然ト起ツテ、憂世慨國、至誠一貫ノ所謂理想ヲ説イテ、天下民心ノ向フ所ニ貢獻サレタコトハ、今日國民ノ悉クガ記憶スル所デアリマス、然ルニ現時大學ノ先生ト稱スル者ハ、果シテ如何デアリマスカ、此ノ非常時局ニ對シテモ倭人ノミ生ジテ、自主獨往ノ精神ト理想ト主義トヲ發表シテ、天下ノ民心ノ嚮フ所、國家ノ向フ所ヲ示サレル程ノ人ハ、誰ガ居リマスカ、顧ミテ「コミンテルン」ノ世界政策ト云フモノガ、之ニ關係ガナカツタナラバ大變結構デアリマス、斯ウ云フ大人物ヲ抹殺シ、大人物ノ輩出ヲ防ギ、其ノ國ノ「スピリット」ヲ奪フト云フ所ノ世界政策ニ感染シテ居ラナカツタナラバ、今日ノ官僚統制モ結構デゴザイマス、吾々モ及バズナガラ御協力申上ゲマス、併シナガラ官僚統制ニ藉口シテ、國ノ内部的崩壞、内部的混亂、國民生活ノ脅威ヲ助長スルガ

如キコトニハ、斷乎トシテ反對セザルヲ得ナイノデゴザイマス斯様ナ點カラ申シマシテ、私共ハドウシテモ此ノ教育ニハ潑刺タル氣風ヲ與ヘテ戴キタイ、現文部大臣ハ教育行政其ノ他教育ニ付キマシテハ、全ク「オーソリチー」デアリマス、吾々モ信賴致シマス、ドウカ此ノ機ヲ一ツ利サレマシテ、今マデノヤウナ逡巡姑息退嬰ノ教育ニアラズシテ、國民ヲシテ何處マデモ潑刺有爲ノ國民タラシメ、一人殘ラズ此ノ東洋ニ於ケル日本ヲ背負フダケノ大人物養成ニ御著眼アラシムコトヲ、私ハ御願シタイノデアリマス、其ノ次ニハ六大都市ノ特異性ニ付テデゴザイマス、六大都市ハ先程來カラ申シマスマウニ、今日教育ノ機關ト致シマシテハ、視學制度ヲ設ケ、サウシテ此ノ下ニハ即チ學務委員制度ヲ設ケ、或ル地方ニ於キマシテハ、自分ノ學校ハ祖先傳來ノ我が本家ナリト痛感シテ居ル所ガアリマス、是ハ學區制度ノ行ハレテ居ル所デアアル、其處デ總テノ教育ヲシ、總テノ考ヲ其處ニ持ツテ行キマシテ、總テノコトヲ其處デ處理ヲシテ、今日ノ非常時局ニ對應シテ居リマスカラ、今日ノ小學校ハ雷ニ小學校教育ト云フダケデナク、他ノ社會的方面ニ非常ニ貢獻ヲシテ居ルコトヲ見テ戴カナケレバナリマセヌ、ソレト同時ニ六大都市ニハ御承知デゴザイマセウガ、今文部大臣ハ教育ノ平均化、所謂均等化ト云フコトヲ御唱ヘニナツテ居リマスガ、ソレハ中々理想デアツテ、實際行ツタラ大變ナ間違ヒガ生ズルノデアリマス、何トナレバ都會ノ生徒ニ向ツテ舟ノ漕ギ方ヤ、農産物ノ生産ノ方法ヲ講義スル、是ハ都會ノ生徒ニハ何等ノ效果ガゴザイマセヌ、中小商工業ヲ中心トシテ生活致シマスル國民ハ、ソレニ相應ハシイ所ノ方面ニ指導誘掖シテ行カナケレバナリマセヌ、農山漁村ノ子弟ニ向ツテ、中小商工業者ノコトヤ、都會ノ文化ノミヲ説イタノデハ是亦用ヲ爲シマセヌ、仍テ教育ノ所謂均等化、教育ノ平等化ハ結構デアリマスケレドモ、是等ノ内部的政策ニハ檢討ヲ要スルコト大ナルモノガアルコトヲ御諒承願ハナケレバナリマセヌ、今文部大臣ノ御話デハ、教育ノ均等化ヲ爲サラウトスルノデアリマスルガ、サウ云フ矛盾ヲ飽クマデ強調サレテ、強行シヨウトセラレルノデアリマセウカ、ドウデアリマスカ、ソレカラ都會ノ教育ハ今申シマスマウニ、日本全國ノ文化ノ代表デアリマス、此ノ點ヲ一ツ御認識願ハナケレバナリマセヌ、隨テ今日マデ六大都市ノ負ヒマ

スル責任ハ、青年學校ニ致シマシテモ有ユル設備ヲ完備シテ、サウシテ第二ノ國民トシテ遺憾ナキヲ期サウト云フコトニ非常ナ努力ヲシテ居リマス、斯ウ云フ所ニ於キマシテハ、今マデノ市長ノ任免權ヲ、ヤハリ御認メニナラナケレバナラヌノデハナイカト私ハ思フ、市長ハ普通ノ東京府知事、或ハ其ノ他ノ六大都市ニ居リマス知事ヨリモ、大ナル仕事ヲシテ居ルノデアリマス、豫算ニ於キマシテモ數倍ヲ超過シテ居リマス、隨テ其ノ機關、其ノ設備、有ユル方面ニ於テ府縣ヲ凌駕シテ居リマス、其ノ凌駕シテ居ルアノ折角ノ設備ノアルモノヲ無視シテ、サウシテ新タニ貧弱ナル府縣ニ向ツテ之ヲ移管セントスルガ如キハ、是レ時代錯誤デアリマシテ、益、教育ノ退化退嬰ヲ立證スルモノト言ハナケレバナラヌノデアリマス、只今文部大臣ハ、市長ニハ内申權ヲ與ヘルノデアルト云フ御話デアリマス、結構デゴザイマス、内申權ヲ御與ヘニナリマシテモ、今マデ市長ガ持ツテ居リマシタ任免權ハ、勅令ノ命ズル所デアリマス、併シナガラ此ノ退職或ハ解職、或ハ慰勞金等ニ付キマシテハ、勅令ノ何モノニモ據ル所ハゴザイマセヌ、然ラバ之ヲドウナサルノデアルカ、此ノ内申權ガアルト云フコトハ、空文デゴザイマス、教員ニ向ヒマシテ眞ニ所謂給料ヲ交付スル權利ナクシテ、内申ダケヲ申スト云フコトハ、ソレハ空文デゴザイマシテ、文部大臣ノ御意思ハ事實ニ於テハ何等ノ效ヲ奏シマセヌカラ、其ノ邊ヲ實際政治トシテドウナサイマスカ、確固タル御信念ヲ一ツ御伺致シタイノデアリマス、今マデノ市長ノ任免權ハサウデアリマスケレドモ、ソレナラバ給與其ノ他慰勞手當等ニ付テハ、何等ノ據ルベキモノガナイ、サウスルト教育ノ均等化ト言ハレマシタガ、均等化デアリマスト斯ウナリマス、都會ハ物價ガ高ウゴザイマス、田舎ノ先生ハヤハリ生徒ガ榮ヤ大根ヲ持ツテ來テ吳レマスガ、都會デハ左様ナコトハ中々出來マスマイ、併シ郡部ニ居リマス者ハ非常ニ不公平デアルカラ、交付金其ノ他ニ於テ、或ハ教員給ニ於テモ是ハ半額ヲ増ス、其ノ他ノ足ラヌ所ハ交付金デ十分ニシテヤラナケレバナラヌ、ソレハ言フマデモナイ、併シナガラ都會ハ家賃ニ致シマシテモ數倍高ウゴザイマス、是ハ政府ニ於カレテモ能ク御承知ニナツテ居リマセウガ、其ノ他ノ物價モ悉ク高イ、其ノ高イモノト、農村ニ於ケル郡村ノモノト給料ヲ平等化シタ時ニハ、今日ノ都會ノ

教員ハ果シテ生活ノ安定ヲ得ルコトガ出來マセウカ、サナキダニ今日ノ都會ニ於ケル、又農村ニ於ケル教員ノ給料ハ、先程カラ御話ガアリマシタヤウニ、根本ノ待遇改善ヲシテ戴カナケレバナラヌコトハ言フヲ俟チマセヌソレデアルノニ此ノ時ニ當ツテ郡村ト同一ニ平等化セラレルト云フコトニナリマス、茲ニ斯ウ云フコトガアリマス、是ハ京都ノ教育會ガ此ノ頃調ベマシタ例デアリマスガ、京都市ハ退職スル時ハ在職年限ヲ最終俸給額ニ乗ジ、校長ハ其ノ四割程、渡スコトニナツテ居リマス、然ルニ郡村ニ於キマシテハドウナルカトシマスルト、現在マデノ在職年限數ヲ乘ジマスルト、現在都市ニ於キマシテハ、校長ハ數千圓ニナツテ居ルノデアリマス、然ルニ今マデノ郡村平均、例ヘバ六大都市ニ於ケル郡村ニ於テハ、最高六百圓デアリマス、此ノ退職慰勞金ニ非常ナ差額ノアル點ヲドウ云フ風ニナサイマスカ、勅令モ何モノナイト言ツテ平等化サレルト云フコトハ、都會ニ於テハ非常ナ苦勞ヲスル、青年學校ノ兼職ガ非常ニ多イノデアリマスルガ、之ニ就テ見マスト三圓五十錢位シカ手當ハ與ヘ居リマセヌ、青年學校ハ殖エ、職務ハ激増スルノニ、タツタ三圓五六十錢ノ手當ノ増加ニ依ツテ、數日間働カナケレバナラヌト云フコトニナル、ソレカラ定期慰勞金デアリマス、月俸ノ七割五分ヲ多クノ都市、殊ニ吾々ノ京都ニ於テハ渡シテ居ル、然ルニ郡村ニ於キマシテハ月俸ノ五割程度デアリマスカラ、此ノ點ニ於テ二割五分ノ差ヲ生ジテ居リマス、是ガ平均化致シマシタナラバ、府縣財政ハ困難デアリマスカラ、必ズ五割ニ低下サレルモノト思フ、此ノ點ヲドウナサル御考デアリマスカ、住宅料ニ於キマシテ、現在京都市ハ校長ニ五圓、訓導ニ三圓五十錢、代用教員ニ二圓渡シテ居リマス、然ルニ郡村ニ於キマシテハ、一圓乃至二圓前後デアリマス、之ヲドウ云フ風ニナサツテ行カウト云フ御考デアリマスカ、又疾病ノ爲ニ在職ニ耐ヘザル者ニ對シテハ、休職中三分ノ一ヲ現在都市ハ給與シテ居リマスガ、其ノ取扱ハ郡村デハ致シテ居リマセヌ、斯ウ云フ恐ルベキ結果ガ生ジマスガ、全國ノ折角致シテアル所マデモ斯様ニシテヤルト云フコトニナレバ、教育ノ平等化、財政ノ平等化ハ期セラレナイト思フノデアリマス、都會デハソレダケ物價ガ高イノデアリマスカラ、此ノ邊ヲ考慮シテ——地方財政及ビ六大都市ノ財政ハ窮乏シテ居リマスガ、此ノ邊ヲ考慮シテ、サウシテ學校ノ教員ガ安心シテ其ノ職ニ就キ得ルヤウ

ニシナケレバナラヌト思フカラ、此ノ財政窮乏ノ時ニモ拘ラズ、斯ルコトヲ致シテ居ルノデア
 リマス、先程カラ待遇改善ニ付テハ非常ニ御同情アル御意見ガアリマシテ、私共ハ洵ニ感謝致
 シテ居ルノデアリマスガ、私ハ今茲ニ生活ノ實際ヲ簡單ニ申上ゲテ、待遇改善ノ必要ヲ叫ンデ
 置キタイト思ヒマス、京都市教育會ガ今年一月、學校ノ先生五百九十四世帯ニ就テ大體調ベタ
 デアリマスガ、六十圓未滿ノ收入者ニ對シマシテハ、十五圓八十錢乃至二十圓ノ不足ヲ毎月生
 ジテ居リマス、ソレカラ百十圓マデノ生活者五百九十六世帯ニ就テ調ベテ見マスルト、飲食物
 費、住宅費、電燈、燃料費、被服費、兒童教育費其ノ他ノ諸費ヲ合算致シマス、毎月不足ガ一番
 少イノデ十五圓多イノハ三十圓以上ニ上ツテ居ル、月額ノ不足ノ統計ヲズツト出シテ居リマス
 ガ、此處デハ詳シク申上ゲマセヌ、斯ウ云フ物價騰貴ノ際、五十圓トカ、六十圓トカ、或ハ七八十圓
 デ、サウ斯ウスル中ニ妻帯スル、妻帯スレバ子供ガ生レマス、是等ガアル爲ニ給料ガ或ル程度殖エ
 テモ借財ノ方ハ増加致シテ居リマス、是ハ子供ノ多ク生レマス結果、世帯ニ於キマスル費用
 モ増加スルノデアリマス、斯ウ云フ點モ併セ御考ヲ願ハナケレバナラヌ、現状デハ到底小學校
 ノ先生ハ安心シテ生活ヲシ、教育ニ專念スルコトガ出來ナイト云フ實情ニゴザイマス、今日滿
 洲ニ行カウト云フ希望者ガ多イ、何處ニオ前ハ行クノカト聽キマス、滿洲ニ行ケバ數割待遇
 ガ好イト言フヨリ外ハナイ、先ヅ御聽キニナツテ御覽ナサイ、百人中九十九人マデハ滿洲ノ方
 ガ待遇ガ好イノデ、離職シテ滿洲ニ教員トシテ行クノデアリマス、此ノ邊ハ政府ニ於カレマシ
 テモ能ク御承知デアラウト思フ、斯ウ云フコトニナリマス、續々ト前途有爲ノ教員ハ退職致シ
 マスカラ、段々ト准教員デアルトカ、其ノ他代用教員トカ云フヤウナ者ヲ、之ニ充當スルノ外
 ハナイノデアリマス、今ヤ國民教育ヲ一層擴充シナケレバナラヌ時ニ於キマシテ、斯様ナ現象
 ノ現ハレマスコトハ、國家ノ爲ニモ遺憾千萬デゴザイマスカラ、先ヅ是ト相俟チマシテ教員ノ
 待遇ノ根本的ノ改善ヲ如何ニナサルカ、唯此ノ場限リノコトデナクシテ、眞ニ御實行ノ御決意
 ガアルカドウカラ伺ツテ置キタイノデアリマス、ソレカラ次ニ都市ノ問題ヲ最後トシテ終リタイ
 ト思ヒマス、都市ノ教育事情ハ今述ベマシタヤウナ事情デゴザイマシテ、退職慰勞金デアルト

カ、其ノ他ノ給與金ト云フモノハ勅令モ法律モ何モゴザイマセヌ、ソコデ例ヘバ知事ガ之ヲ平
 等化シタラ宜カラウト云フト、市會ハ知事ノ言フ通りニ總テノ學校ノ教員給料、退職資金、慰勞
 金ヲ平等化シマス、サウスルト財政上カラ自分ガ助カルノデアルカラ、市會ガ減少シテ決議シタ
 時ニハ如何ニシテモ知事ハドウスルコトモ出來マスマイ、ソレハ困ルカラ減スナト命令ヲスレバ
 金ヲ下サイト言フ、知事ハ豫算ノ件ヲ問題ニ付テ地方自治體ニ向ツテ命令ヲ發スル權能ハゴザ
 イマセヌ、是ハ如何ニナリマスカ、是等モ御伺シタイノデアリマス、サウニ云フ點ハ飽クマデ
 維持スルト云フ風デハゴザイマスケレドモ、此ノ點ヲドウ云フ風ニナサルカト云フ點デアリマ
 ス、故ニ私共ガ大體ヲ通觀致シマスルト、六大都市ニ限リマシテハ、其ノ財源ヲ直接市長ニ與
 ヘルト云フ特例ヲ設ケテ戴キタイノデアリマス、之ヲナサラスト云フノハ、何カソコニ弊害ガア
 ルカラダラウト思フ、其ノ弊害ニ數ヘラレルモノニ市町村會議員ヤ、市町村長ガ教員ニ壓迫干涉ヲ
 スルト云フコトガ、一ツノ理由ニナツテ居リマス、小サイ町村ニ於キマシテハ別ニ大シタ仕事ハ
 ゴザイマセヌ、學校教育ガ中樞デゴザイマス、豫算ニ於キマシテモ其ノ殆ド大部分ハ教育費デア
 リマスカラ、ソコニ留意ヲサレ、仕事モ簡單デアリマスカラ、學校ニ參ツテ先生ニ色々ナコト
 ヲ言フ人モアリマセウ、六大都市ニ於キマシテハ教育費ノ如キハ總豫算ヨリ見マスレバ、殆ド
 其ノ一小部分ニ過ギマセヌ、今日六大都市ノ市會議員ヤ、其ノ他ハ學校ノ校長ヤ先生ニ對シテ
 壓迫干涉スルドコロデハアリマセヌ、話ヲスル暇モアリマセヌ、サウ云フヤウナ所ト學校ヲ中
 心トスル所ノ町村ト同一ニ考ヘラレテ居ル、之ヲ歐羅巴ノ一國ニモ匹敵スル六大都市ト同一ニ
 御覽下サイマス所ニ、大變ナ誤謬ガアルノデハナイカ、此ノ點ヲ私共ハ申上ゲタイノデゴザイ
 マシテ、今日學校ノ先生ニ向ヒマシテハ、絕對ニ何等干涉ガマシイコトヲシタコトハアリマセ
 ス、ソレデアリマスカラ私共ハ今マデ市長ノ持ツテ居リマシタ内申權ノ權限ヲ事實化スル上ニ
 於キマシテ、六大都市ニ限リ市ニ財源ヲ與ヘル、此ノ精神ヲ以テ是非政府ノ計畫ヲ御進メニナ
 リ、又此ノ方面ニ御變更ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、然ラザレバ折角今ヤ完成セントシテ
 居リマス都市教育ガ一大動搖ヲ來シ、是ガ破壊セラレルト云フ結果ニナルノデアリマスマイ

カ、此ノ點ヲ能ク御考下サイマシテ、都市教育ハ此ノ日本文化、都市國民生活ト國家生活ニ對シテ重大ナ意義ヲ有スルモノデアリマスカラ、此ノ點ニ鑑ミマシテ是非トモ之ヲ改正シテ直接交付ヲシテ、市長ノ内申權保持ニ付テハ現狀通りト云フコトニナサルヤウニ、特ニ御考慮ヲ煩ハシタイノデアリマス、以上數項ニ互リマシテ御質問申シタ點ニ付キマシテ、何卒明瞭ナル御答辯アラントコトヲ希望致シマシテ、私ノ質問ヲ終ル次第デゴザイマス

松浦文部大臣ノ應答

只今福田君カラ色々御質疑ガアリマシテ段々御述ニナリマシタガ、要スルニ今回ノ教員俸給道府縣費支辨ニ關シマシテ、六大都市ダケヲ特別ニ扱フコトハ出來ナイカト云フ御趣意ニ歸著致スト考ヘマスガ、今回教員俸給ヲ道府縣支辨ニ致シマシタノハ、教員ノ任免權ヲ持ツテ居リマスル地方長官ガ、道府縣全體ヲ通覽シテ、教員ヲ適當ニ配置シ、適當ニ異動スル、而シテ其ノ待遇モ偏頗ノナイヤウニ、僻村、又比較的疲弊シタ町村等ニ勤務スル者ニ對シマシテモ相當ノ待遇ヲ致シ、サウシテ教員ヲシテ安ンジテ其ノ職ニ勤メシムルト云フ效果ヲ擧ゲシムルコトニアルノデアリマシテ、此ノ點カラ申シマス、六大都市ダケヲ特別ニ扱ハナケレバナラヌト云フ理由ハナイト思フノデアリマス、尤モ教員ノ待遇ヲ比較的均等ナラシメマシテ、餘リ差別ノナイヤウニ致スト云フコトニ方針ヲ定メマシタ所ガ、六大都市ノ如キ經濟上ノ情勢カラ申シマシテモ、其ノ他社會上ノ情勢カラ申シマシテモ、特別ニ生活費等ニ於テ他ノ農村ト比較シテ教員ノ俸給ヲ良クシナケレバナラヌト云フ所ニ於キマシテハ、地方長官ニ於テ適當ニ考慮致シマシテ、現在都市ニ在職シテ居リマスル教員ノ待遇ヲ、今日ヨリモ惡クスルト云フコトハ絕對ニナイノデアリマス、唯全體ヲ見渡シマシテ、比較的疲弊シタ町村ニ勤務シテ居ル者ノ待遇ヲ良クスル、其ノ待遇ヲ一般ト比較的近付ケシメルト云フ所ニアルノデアリマシテ、現在ノ六大都市ノ教員ノ待遇ヲ惡クスルト云フコトハアリ得ナイノデアリマス、今回ノ如ク道府縣支辨ニ移シマシテモ、六大都市ノ教員ニ何等不利ナ結果ヲ來スコトハ決シテナイノデアリマス、ソレカラ福田君

ハ市長ニ任免權アリト仰セラレマシタガ、是ハ今日デモ任免權ガアルト云フノデアリナイノデアリマシテ、是ハ内申權ガアルノデアリマシテ、任免ハ地方長官ガ致シテ居ルノデアリマス、今回道府縣支辨ニ移リマシテモ、内申權ハ從來ノ通り存續スルノデアリマスカラ、其ノ他ノ六大都市ニ於キマシテハ、地方長官ト豫算ノ狀況ヲ能ク打合セマシテ、ソレニ依ツテ内申權ヲ行フト云フコトニ、少シモ不都合ハナイノデアリマス、ソレカラ六大都市ハ特異性ガアルト云フ御話デアリマシタガ、今回道府縣支辨ニ移シマスノハ俸給デアリマシテ、其ノ他ノ諸給與、慰勞金ノ如キモノハヤハリ市町村ニ從來ノ通り殘スノデアリマスカラ、其ノ點ニ付テハ府縣支辨ニ移ツタガ爲ニ從來給與サレテ居リマシタモノガ、特ニ惡クナルト云フコトハナイノデアリマスカラ、此ノ點ハドウゾ御安心ヲ願ヒタイト考ヘマス

庄司一郎君ノ質疑

諸君、私ハ只今上程サレテ居リマス法案ニ關シマシテ、極メテ簡單ニ二三ノ質問ヲ文部大臣ニ申上ゲタイト思ヒマス、第一ハ、國民教育ニ於キマシテ、良キ國民教育、良キ初等教育ヲ青少年ニ與ヘマスル爲ニハ、先ヅ以テ根本的ニ、基本的ニ、文部省御自身ガ時代ニ順應サレタル所ノ改革ト、革新ガナケレバナラナイト私ハ信念シテ居リマス、ソコデ文部省ニハ文部大臣ノ下ニ、督學官、或ハ視學官、或ハ地方府縣ニハ地方視學官、或ハ府縣視學ト云フヤウナモノガゴザイマスルガ、此ノ官吏ノ諸君ノ多クハ、學校其ノモノヲ監督スル所ノ方法ハ知ツテ居ララルカモ知レナイケレドモ、教育者ヲ實際的ニ指導サル所ノ、其ノ體験ト、其ノ力量ト、其ノ識見トヲ、現在ニ於テ御持チニナツテ居ルカドウカト云フコトヲ私ハ長イ間疑ツテ居リマス、私ハ郷ニ在ツテハ町長ノ現職ニ在リマスガ故ニ、左様ナ實際問題ニ直接體験ト見聞ヲ極メテ豊富ニ長イ間持ツテ參リマシタ、文部省ノ督學官ハ、學校其ノモノノ監督ハ或ハ出來ルカモ分リマセヌ、天降リ的ノ官僚ノ力ニ依ツテ、學校其ノモノノ監督ハ出來ルカモ分リマセヌケレドモ、或ハ教育行政上ノ權力ヲ振廻ハスコトハ出來ルカモ分リマセヌケレドモ、教育者自身ヲ指導誘掖

スル所ノ、本當ノ實力ヲ御持チデアカドウカト云フコトヲ、長イ間私ハ疑ツテ居リマス、又此ノ督學官、或ハ視學官、府縣視學ト云フモノハ、甚ダ社會的常識ト云フモノノ持合セガナイデアリマス、私ハ此ノ事ヲ甚ダ遺憾ニ思ツテ居ル、今日アタノ部下デアアル所ノ督學官或ハ教育課長、斯ウ云フ方々ガ地方町村ニ出張サレマシタ時ニ、如何ニ常識ノナイ、ニコンモンセンス」ノ「ゼロ」ナヤリ方ヲオヤリニナツテ居ルカト云フ一ツノ實例ヲ文部大臣ニ提供スルコトヲ、私ハ幸ヒトスル者デアリマス、ソレハ或ル青年學校ガ、春ノ養蠶ニ於テ春繭ガ出來上ツタ、ソコニ文部省ノ督學官ガ視察ニ參ラレマシタ、私ハ文部省ノ督學官ガ、青年學校ノ實習ニ於テ行ヒマシタ所ノ養蠶ノ繭ノ取上ノ状態ヲ視ニ來ラレタコトヲ、非常ニ欣快ト致シマシテ、其ノ現場ニ御案内ヲ致シマシタ、所ガ其ノ青年學校生徒ノ生産ヲシタル所ノ繭ハ玉繭デアリマス、東北地方ノ田舎デ謂フ所ノ玉繭デアアル、繭ノ形ガ極メテ大キイ、長クテ丸イ所ノ出來損ヒノ繭デアリマス、之ヲ玉繭ト稱スルノデアアル、所ガ普通ノ繭トハ別ニ其ノ玉繭ダケヲ特別ニ集メテ居リマシタ、ソレヲ督學官ガ手ニ取ツテ、農村ノ青年學校ノ生徒ガ澤山見テ居ル所デ、アア是ハ大キナ結構ナ繭ヲ取ツタナ、斯ウ云フ繭ヲ取ツテ外貨獲得ノ爲ニ青年諸君大イニ頑張ツテ呉レ給ヘ、ドウデス、普通ノ繭ノ値段ヨリハ半額以下ノ出來損ヒノ繭ガ玉繭デアリマス、ソレヲ見テ、農村ノ青年學校生徒ノ前ニ於テ、國家ノ爲ニ、外貨獲得ノ爲ニコンナ大キナ繭ヲ取ツタト云フコトハ、諸君平素ノ努力ヲ大イニ感謝シナケレバナラヌト云フヤウナ御話ヲ伺ツタノデアアル、私ノ地方ニ於テハ其ノ督學官ニ對シテ、ソレ以來玉繭督學官ト云フ「ニックネーム」ヲ贈呈シタノデアリマス、ソコデ私ハ文部省ニ御勤務ナサレテ居ル所ノ督學官、或ハ視學官、或ハ其ノ系統ハ違ヒマシテモ、同ジ文部行政ニ携ツテ居ル所ノ地方府縣ノ府縣視學、斯ウ云フ方々ニ對シテ、眞ニ教育者ヲ、或ハ青少年ヲ教育シ得ル所ノ信念ト識見ト學力ヲ授ケル所ノ工夫ハアルマイカ、具體的ニ申上ゲルナラバ、文部省内ニ或ハ教育研究所、或ハ教育調査所ト云フヤウナモノヲ設ケテ、根本的ニ國民教育ハ此ノ方針デヤツテ行ク、初等教育ハ此ノ方針デヤツテ行ク、農村ノ青年學校ハ此ノ方針、漁村ノ青年學校ハ此ノ方針、斯ウ云フヤウニ文部省内ニ於

テ文部省御自身ニ於テ教育上ノ研究所、或ハ調査所ト云フモノヲ御設ケニナリ、サウシテ此ノ百年ノ大計デアリマス所ノ教育ノ大計ヲ確立シテ、而シテ後學校ヲ監督シ、或ハ教員諸君ヲ指導誘掖サレルト云フヤウナ順序ニ行キマシタナラバ、或ハ大過ナク、斯様ナ玉繭督學官ヲ出スコトナク、相當ナル所ノ教育上ノ成果ヲ擧ゲ得ルデハナイカト考ヘテ居リマスガ、文部省ニ於カレマシテハ、文部省内ニ教育研究所、或ハ調査所ト云フヤウナモノヲ御設ケニナリマシテ、教育行政上根本的ナ、基本的ナ、此ノ興亞教育ノ基礎的ナル御研究ヲナサル所ノ御對策ヲ御持チデアカドウカト云フコトヲ、御伺申上ゲタイノデアリマス、現下ニ於ケル小學校ノ教員諸君、或ハ青年學校ノ教員諸君ノ經濟的待遇ヲ改善シナケレバナラヌト云フコトハ、先程以來森田君其ノ他ノ諸君ニ依ツテ力説高調サレタコトデアリマスガ、是ハ其ノ通りデアリマス、只今現在ニ於ケル全國一万四千ノ町村ノ小學校職員ノ現實支給ノ俸給ト云フモノハ、全國平均五十七圓デアリマス、青年學校ノ教員職員ノ現實支給ノ俸給ト云フモノハ、ソレヨリ五圓安イノデゴザイマス、五十三圓位ニナツテ居ル、斯様ナ薄遇ニ甘ンジテ、黙々トシテ此ノ興亞ノ教育ノ爲ニ健闘サレテ居ル所ノ教育者諸君ニ對シテ、私モ亦森田君ト同様ニ、此ノ帝國議會ノ一角ヨリ、ソレ等ノ教員諸君ニ對シテ、私ハ深イ感謝ノ念ヲ俸ゲザルヲ得ナイノデアリマス、ケレドモ之ヲ以テ唯精神的ナ、感情的ナ御褒メノ言葉ヲ以テ、此ノ教職員ヲ遇シテハナラナイ、生活ヲ爲シ得ル最小限度ノ保障ヲ文部大臣ガ與ヘラルルコトニ依ツテ、初メテ名實共ニ教師諸君ガ本當ニ或ハ貧民ノ中ニ入ツテ、或ハ農漁山村ノ窮乏セル町村ニ入ツテ、「ペスタロッチ」的ナ教育ヲ施スコトガ出來ルノデアリマス、此ノ十二分ナ待遇ノ改善ニ付テハ、是ハ先程來カラ御答辯モアリマシタ故ニ、改メテ御答辯ヲ求メマセヌ、是ハ是非此ノ建國二千六百年ノ意義アル所ノ大盛典ヲ記念シテ、文部行政ニ體驗ヲ持タレテ居ル所ノ松浦文部大臣ニ於カレテハ、ドウカ眞劍ニ此ノ問題ヲ解決シテ欲シイノデアリマス、先程獨リ小學校教員ノ俸給ノミガ道府縣ノ支辨トナリマシテ、青年學校方面ノ教員ノ俸給ハ、是ハ相變ラズ市町村方面ニ從來通り任シテ置ク、青年學校方面ノ教員ノ俸給ハ道府縣支辨スル意思ガアリマセヌト、アナタハハツキリ御答辯ニ

ナラレテ居リマシタガ、是ハ甚ダ不合理ナル所ノ、青年學校其ノモノニ對スル文部大臣ノ認識ノ不足ヲ暴露スルモノデアリマス、私ハサウ考ヘテ居ル、只今申上ゲタヤウニ、小學校教員ニ全國一萬三千六百ノ町村ガ現實ニ支給シテ居ル平均ノ俸給ガ五十七圓デアアル、青年學校教員ノ給與ハソレヨリ五圓モ安イ、是ハ義務教育ト云フ法律ノ強制力ノ下ニ、市町村ガ餘儀ナク此ノ青年學校ヲ經營シテ居ルデアリマス、餘儀ナクト云フノハ、經濟的窮迫ノ中ニモ無理ニ頑張ツテ、國家ノ教育國策ニ協力シテ居ルデアアル、然ルニ一方小學校方面ノミ之ヲ道府縣ニ俸給支辨ヲ移管サレマシテ、青年學校ノ方ハ移管スル意思ハ毛頭アリマセヌト云フ、先程ノアナタノ極メテ明瞭ナル御答辯ガ、全國二十萬青年學校教員ノ耳ニ明日入りマシタナラバ、青年學校教育者ノ爲ニ如何ニ無理解ナ文部大臣デアアルヨト、明日全國青年學校教育者諸君ハ、アナタニ對シテ多大ナル失望ヲ爲シ、同時ニアナタヲ文教ノ府ノ親玉ニ仰グコトヲ、彼等ハ一體ドウ考ヘルデアリマセウ、是ハ信念ノ問題デアアル、此ノ差別待遇ガイケナイ、吾々ハ小學校教員デアリマシテモ、青年學校教員デアリマシテモ、市町村ノ公立ノ學校デアアル、況ヤ青年學校ハ昨年以來義務教育トナツテ居リマス、而モ青年學校ノ方ハ小學校同様ニ道府縣ノ支辨ニ移管スル意思ガアリマセヌト、ハツキリ明瞭ニ御答ニナツタト云フコトハ、確ニ全國二十萬ノ青年學校教員ニ對シテ、アナタハ差別的ノ御考ヲ御持チニナツテ居ル、アナタハ以前大學ノ總長ヲナサレタサウデアアル、大學ノ總長ハ必ズシモ青年教育ノ理解者デアアルトハ、私ハ毛頭考ヘテ居リマセヌ、左様ナ無理解、左様ナ認識不足、私ハ洵ニ慨歎ニ堪ヘマセヌ、ドウカ今一遍熟慮サレテ御答辯願ヒタイ、青年學校教員ノ俸給ヲ道府縣ニ移管シナイト云フ其ノ論理的根據、實際的根據、ソレハ那邊ニアリヤ、吾輩ニ納得ノ行クマデ、議會ガ納得ノ行クマデ、明瞭ナル御答辯ヲ願ヒタイト思フデアリマス、次ニハ小學校教員ノ保健衛生上ノ問題デアリマス、只今全國小學校男女教員ノ中、助膜或ハ肺結核、即チ胸ノ病ノ爲ニ學校ヲ休ンデ、保養所其ノ他ニ於テ治療ヲサレテ居ル所ノ教員諸君ガ約五千名、此ノ統計ハ私ヨリモ文部大臣ニ於カレマシテハ能ク御承知デアラウト思フデアリマスガ、斯ノ如ク小學校教員ダケデ五千名ト云フ肺結核患者ヲ

出シテ居ルト云フコトハ、是ハ一體何ヲ意味スル、小學校教員ノ俸給ガ安イ爲ニ、榮養不良ト云フコトモ、或ハ一ツノ原因デアアルカモ分リマセヌ、或ハ青年團ノ仕事、青年學校教員ノ兼務、或ハ村ノ婦人團體方面ノ仕事等デ、餘リニ過勞ナルガ爲ニ、小學校教師ノ肉體ガ斯ノ如ク蝕マレテ居ル、是モ一ツノ原因デアアルト考ヘマスガ、是等ニ對シテ根本的ノ對策ヲ、文部省當局ニ於テハドウ云フ風ニ御考ニナツテ居ルカ、是ハ厚生省ニモ聽キタイノデアリマスガ、敢テ求メマセヌ、文部大臣ハドウ御考ニナツテ居ルカ、此ノ五千名、是ハ表面ニ現ハレタ所ノ肺結核患者デアアル、所謂潜伏期ニアル、或ハ自覺症狀ノナイ、此ノ五千名以外ノ何千或ハ何万ノ、其ノ患者ガ現存シテ居ルノデハナイカト云フコトヲ想像スル場合ニ於テ、洵ニ全國一千万ノ小國民ヲ教育スベキ小學校教員ノ保健衛生ノ爲ニ、表面ニ現ハレタ所ノ此ノ結核教員五千名ノ問題ヲ通シテ考ヘテモ、吾々ハ慄然タラザルヲ得ナイノデアリマス、此ノ結核患者教員ノ對策ノ爲ニ、多少ノ助成金ヲ與ヘラレテ、府縣ニ對シ肺結核療養所ナルモノヲ獎勵サレテ居ルヤウデアリマスガ、其ノ本省ノ助成金タルヤ、補助金タルヤ、洵ニ貧弱、寥々トシテ曉ノ星ノ如ク、否、大學目藥ヲ二階カラ點ケルト云フコトガアリマスガ、實ニ眞劍ニ此ノ問題ノ解決ノ爲ニ御考ニナツテ居ルカド、ウカラ疑ハレル程、左様ニ貧弱ナル所ノ助成金或ハ補助金ヲ計上サレテ居ルニ過ギナイ、之ヲ私ハ慨歎シテ居ルノデアリマス、全國數千万ノ生徒兒童ノ健康保持ノ爲ニ、結核患者ノ教員ノ吐ク所ノ微菌「バチルス」ガ、如何ニ少年少女ノ身體ヲ蝕ンデ行クカト云フ大キナ問題デアリマスガ故ニ、其ノ對策ニ付キマシテ文部大臣ノ御考ヲ是非承ツテ置キタイト思フデアリマス、次ニハ或ハ足ヲ痛メ、或ハ片手ヲ失ツテ居ル、所謂不具ノ生徒兒童ガ府縣立其ノ他公立ノ中等學校以上ニ入ル場合ニ於テ、其ノ少年ガ不具者デアリマスガ故ニ、公立ノ府縣立其ノ他ノ中等學校ニ入ルコトガ出來ナイト云フ現實ノ問題ニ付テ、文部省ハ如何ナル御感想ト御意見ヲ御持チデアアルカ、或ハ赤ン坊時代ニ於テ、或ハ幼年ノ時代ニ於テ小兒麻痺ニ罹リ、片手ガ不具トナリ、片足ガ不具ニナツタト云フ、其ノ可哀相ナ小國民ガ、身體ガ片輪デハアル、片手或ハ片足ガ片輪デアアルケレドモ、頭ガ鋭イ所ノ優秀ナル兒童デアアル、ソレデモ身體ガ不具デアルト云フ意味ニ於

テ、中等學校ハ彼ノ爲ニ其ノ門ヲ開イテハ吳レテ居リマセヌ、固ヨリ不具者デアリマスカラ、軍人其ノ他ニナルコトハ出來得ナイノデアリマセウケレドモ、彼ガ中等學校ノ教育ヲ終リ、或ハ大學ノ課程ヲ終ツタ場合ニ於テ、彼ハ將來第二ノ野口英世ニナルカモ分リマセヌ、彼ハ第二ノ大隈内閣總理大臣ニナルカモ知レナイ、

永井柳太郎君ヤ中野正剛君位ニナルカモ分リマセヌ、片手が不具デアアル、片足ガ不具デアアルト云フ意味ニ於テ、我が可愛イ子ヲ中等學校ニ進學サセルコトノ出來ナイ、其ノ兩親、父母ノ心ヲ考フル時ニ於テ、又其ノ片輪ナル兒童ノ心根ヲ考ヘル時ニ於テ、我國ハ今ヤ聾啞教育或ハ盲啞教育ノ點ニ於テ、世界先進文明國ニ劣ラナイ程度ニ進ンデ居ルノデアリマスガ、私ノ只今申上ゲタヤウナ片手片足ノ、不幸ニシテ不具ナ者ニ對スル教育機關、教育機構ガマダ整備シテ居ラヌノデアリマス、特ニ新シク左様ナ學校ヲ設ケヨトハ私ハ要望致シマセヌ、不具者デアツテモ、中等學校ニ向フ五箇年ノ間ノ教育ヲ受クルコトガ出來得ル其ノ體力ヲ持ツテ居リマスナラバ、進學サセテモ宜イデハナイカ、文部大臣ハ斯様ナル實際問題ニ對シテ如何ナル御意見ヲ御持チデゴザイマセウカ、是非アナタノ本當ノ御意見ヲ承ツテ置キタイト思フノデアリマス、最後ニ一言ヲ呈シタイトハ、義務教育デアアル所ノ青年學校教育ハ、國家興隆ニ極メテ重大ナ問題デアアル、其ノ教員諸君ノ俸給ガ、市町村ヨリ道府縣支辨ニ昇格シタイト云フコトヲ、明瞭ニ文部大臣ハ只今御答ニナツタノデアリマスガ、若シ文部省ニ於テ何等カ教育行政上ノ關係ニ於テ、青年學校教員ノ俸給ヲ道府縣支辨ニ之ヲ昇格サセルコトガ出來得ナイ場合ニ於キマシテハ、第二ノ次善ノ策トシテ、市町村ニ對シマシテ、現在ノ國庫補助法ニ依ル所ノ青年學校補助金額ヲ、思切ツテ増額ナサル御意思ヲ御持チデアアルカドウカト云フコトヲ承リタイトデアリマス、唯市町村長ニ對シテ、文部省ガ一片ノ勅令ヲ以テ義務付ケタノデアアル、義務ヲ強ヒタノデアリマス、然ルニ、現在多少増額サレタトハ云ヒナガラ、市町村ニ對スル現在ノ青年學校國庫補助法ニ依リマシテ補助サレテ居ル金額ハ、豫算ヲ見マスルト昭和十五年度ニ於キマシテハ四百六十八萬圓デアアル、四百六十八萬圓ト云フノハ、全國一萬一千四百ノ市町村ニ對シマシテハ約三百圓、二百三十萬人ノ青年學校生徒一人當リニ致シマスレ

山バ僅ニ二圓九十錢、文部大臣ヨ、此處ヲ聽イテ下サイ、官立ノ帝國大學生一箇年一人當リノ教育費ハ一千三百圓、高等學校專門學校生徒一箇年一人當リノ政府支辨ノ經費ハ御承知ノ如ク三百九圓、府縣公立中等學校生徒一箇年一人當リノ經費ハ六十八圓、青年學校生徒一箇年一人當リハ、本年彼此レ一般臨時部ニ於テ増額サレタリト雖モ、四百六十八萬圓デハ、僅ニ三圓弱デアリマス、同ジ官立大學デ醫科大學ノ生徒ノ如キハ一千七百圓出シテ居ル、義務教育ヲ強ヒテ居ル青年學校、而モ中等學校以上ノ學校ヘ進學シ能ハナイ、多クノ農漁山村、或ハ都會ニ於テモ中産階級以下ノ子弟ガ收容サレテ居ル此ノ青年學校ニ對シテ、一方ハ三圓弱、一方ハ一千三百圓デアアル、物平ナラザレバ則チ鳴ルト孟子ハ言ツタノデアリマス、況ヤ昭和ノ第二國民タルベキ、國家ノ干城タルベキ青年學校生徒ヲ教養スルニ、唯義務教育デアアルゾト云フ掛聲ダケデ、實際與ヘテ居ル教育費ハ三圓弱デアアル、青年教育ノ重大性、興亞教育ノ重大性果シテ何處ニアリヤ、寛政ノ三奇人六無齋林子平先生ハ、國家五十年ノ大計ハ殖産興業ニアリト雖モ、國家百年ノ大計ハ人ヲ造ルニアリト言ツタノデアリマス、文部大臣ニ於カレマシテ、今回小學校教員ノ俸給ヲ道府縣支辨ニ昇格ヲサレタ其ノ意氣ハ壯ナルモノデアリマス、吾々ノ理想トハマダ遠イケレドモ、一步前進ノ上ニ於テ吾々ハ尊敬スル、ダガ青年學校教員ノ俸給問題ニ關スル限リ、左様ナ意思ハ毛頭アリマセヌナドト云フコトヲ、ハツキリ御答ニナルノハ、青年教育ニ對シテ全ク理解ガナサ過ギル、無理解デアリ、認職不足デアルト云フコトヲ絶叫シ、アナタノ反省ヲ求ムルト共ニ、願ク、青年學校ノ國庫補助金ヲ増額シ、否、此ノ補助法ヲ改正シテ、速ニ國庫負擔法ニ之ヲ改正サレル御意思ガ有ルカ無イカヲ最後ニ御伺シテ、私ノ簡單ナ質問ヲ終ル次第デアリマス

松浦文部大臣ノ應答

第一ノ御尋ハ教育ノ刷新ヲ圖ル爲ニハ、先ヅ文部省自ラ刷新改善ヲ行フ必要ガアルト云フ御趣旨ヲ以テ、督學官ガ地方ヘ出張シタ場合ノ例ヲ御引キニナリマシタノデアリマスガ、私ハ左様

ナコトハ萬アルマイト存ジマスガ、若シアリマシタラ、サウ云フコトハ早速改メサセナケレバ
 ナラヌノデアリマスガ、要スルニ文部省自體ト致シマシテハ、此ノ重大ナ時局ニ際シマシテ、
 教育ノ刷新改善ノ爲ニ、機構ノ上ニモ十分ニ注意ヲ致シタイト考ヘテ居リマス、ソレカラ青年
 學校教員ノ俸給ヲ、小學校教員ノ俸給ト同ジヤウニ道府縣費支辨ニ移サナカッタコトガ、青年學
 校ヲ何ダカ輕ク視ル意味デハナイカト云フ趣旨ノ御尋デアリマスガ、決シテ左様ナコトハア
 リマセヌ、青年學校ノ重大ナ任務、其ノ使命ト云フコトニ付テハ、私ハ十分承知致シテ居リマ
 ス、決シテ青年學校ヲ輕視スルナドト云フ意味ハ少シモナイノデアリマスガ、先刻申シマシタ
 如ク、今日青年學校ハ男子ニハ義務制ガ布カレテ居リマスガ、マダ女子ニハ義務制ガ布カレテ
 居リマセヌシ、教員ノ配置其ノ他ニ於キマシテ、マダ小學校トハ稍、趣ヲ異ニシテ居ル點ガアリ
 マシテ、今日之ヲ只今直チニ道府縣支辨ニ俸給經理ヲ移スト云フコトハ、考ヘテ居ラヌト云フ
 コトヲ申上ゲタノデアリマシテ、此ノ點ハドウゾ誤解ノナイヤウニ御願致シタイト思ヒマス、ソ
 レカラ小學校教育ノ保健衛生上ノ問題、是ハ洵ニ注意ヲ要スル問題デアリマシテ、此ノ點ニ付
 テハ痛切ニ考ヘタイト思ヒマス、ソレカラ不具者ガ中學校ニ入レヌト云フコトハ不都合デハナ
 イカ、或ハ入レヌトスレバ、別ニサウ云フ特殊ノ學校ヲ作ル必要ガアルノデハナイカト云フ意
 味ノ御尋デアリマスガ、不具者ト申シマシテモ、是ハ程度ニ依ルコトデアリマシテ、又全ク中等學校
 ニ入ツテ就學ニ耐ヘル者ハ、之ヲ入レタイト云フ譯デハナイノデアリマシテ、又全ク中等學校
 ノ就學ニ耐ヘナイ者ニ對シマスル特別ノ學習機關ト云フコトニ付テハ、是ハ相當考ヘル必要ガ
 アルト思ヒマスガ、今日ノ所不具者デアルカラ必ズ入レヌト、斯ウ云フ譯デハナイノデアリマ
 スカラ、此ノ點ハドウゾ御承知ヲ願ヒマス、要スルニ青年學校ノ教員ノ俸給支辨ヲ道府縣ニ移
 サナカッタト云フコトニ付テハ、青年學校ヲ輕視シタト云フ意味ハ毛頭持ツテ居リマセヌト云
 フコトヲ、重ネテ御答致シテ置キマス

山崎釵二君ノ質疑

只今議題ニナツテ居リマスル市町村義務教育費國庫負擔法改正法律案ニ對シマスル二三ノ御質
 疑ヲ申上ゲテ見タイト思ヒマス、簡單ニ箇條書ニシテ御伺ヲ致シマスルカラ、ドウゾ其ノ積リ
 デ御答ヲ願ヒタイト思ヒマス、昭和十五年度ニ於キマシテ、全國ノ義務教育ノ聖職ニ就イテ居
 リマスル教員ノ不足ヲ來スカ來サナイカト云フコトハ、教育上ニ於テ至大ナル關係ガアルノデ
 アリマス、今日軍需工業竝ニ一般産業ノ殷賑ニ依リマシテ、可ナリ多クノ教員ガ退職シテ居ル
 コトハ、當局御承知ノ通りデアリマス、之ヲ昭和十五年度ノ所要教員ノ數ヲ、東京市ノ例ニ取
 ツテ見マシテモ、大體千六百人ノ所要人員中、東京ヲ中心トスル師範學校卒業生ガ七百名、此
 ノ東京市ダケノ割當ガ、此ノ中五百八十五名、約千名ノ不足ヲ來シテ居ル、之ニ對シマシテ地
 方カラ約三百名ヲ採リ、二部教育ニ依ツテモ、此ノ外ニ三四百名ノ教員ガ要ルノデアリマスルカ
 ラ、都合四五百名ノ不足ヲ東京市一市ダケデモ來シテ居ルト云フコトヲ、私ハ新聞記事其ノ他
 ニ依ツテ聞イテ居ルノデアリマス、是ハ東京市ダケノ例デアリマスルガ、全日本ノ義務教育ノ
 教員ノ數ハ、如何ニナツテ居ルノデアリマスカ、十五年度ニ於テ十分ニ充足シ得ルト云フ手配
 ガ整ツテ居ルノデアリマスルカ、或ハ不足ヲ來シマシタ場合ニ於テハ、臨時何等カノ方法デ、
 是ガ對策ヲ十分ニ立テルト云フ工合ニナツテ居ルノデアリマスルカ、此ノ點ヲ先ヅ一點御伺致
 シテ見タイト思ヒマス、第二點ハ小學校教員ノ再教育ノ問題デアリマス、昨今ノ教員不足カ
 ラ、退職シテ居ツタ者ヲ又復活セシメテ、代用教員ニスルトカ、或ハ准教員ヲ入レルトカ、其
 ノ他既ニ老齡ニ達シテ退職シテモ宜イト云フヤウナ者ヲ、退職セシメズニ其ノ職ニ留メテ置ク
 ト云フ傾向ガ、相當長期ニ互ツテ續クノデハナイカト吾々ハ考ヘルノデアリマス、勿論教育ハ
 十分ニ老練ニシテ經驗ヲ持ツタル者ヲ必要トハ致シマスケレドモ、可ナリ早イ「テンポ」ヲ以テ
 教育文化ト云フモノハ進ンデ行クノデアリマス、師範學校ヲ出テ何等再教育サレズニ、十五年、
 二十年、三十年ト同ジ職ニ停滯シテ居ルト云フコトハ、ソコニ教育上ノ緩ミガナイ、或ハ淀ミ
 ガナイトハ言ヒ得ナイノデアリマス、現在ニ其ノ職ニ在ル者ハ、四十歳ニ近クナツテ居ル者
 ト、二十歳ヲ出タ勿々ノ者トニ於テハ、一ツノ學校ノ教員室内ニ於キマシテモ、其ノ教育ニ

對スル心構へ、理解、或ハ其ノ方法、ソレ等ニ相當ノ開キヲ持ツテ來ルコトハ事實デアリマ
 ス、其ノ爲ニ少クトモ此ノ小學校教員ヲ再教育致スベキ機關ガ、私ハドウシテモ必要デアルト
 考ヘルノデアリマス、爾來文部省ノ教育ニ對スル所ノ方針ハ、文部省ガ大學、專門學校中心、府
 縣ガ中等學校中心、義務教育ノ如キハ殆ド文部省カラ全ク縁ノ遠イ市町村ニ任セラレテ居ル關
 係デアリマス、勿論市町村ニ任セテ置クコトニ依ツテ良イ點モ多クアルデアリマセウガ、併シ
 ナガラソレニ依ツテ本當ノ國家的統一ヲ取ツタル、新シキ一ツノ文部省ノ教育方針ト云フモノ
 ガ、徹底シナイト云フ憾モ亦アルデアリマス、殊ニ文部省ニ於キマシテハ、專門學校、大學
 ニ對シマシテハ、相當ノ理解ヲ持ツ者モアルヤウデアリマスガ、文部省ヘ行ツテ義務教育ノコ
 トヲ聽キマシテモ、霞ヲ隔テテ山ヲ見ルドコロノ話デハナイ、殆ド別ノ世界ノヤウナ取扱ヲ受
 ケルヤウニ、私達ニハ二三ノ實例ヲ以テシテモ痛感シテ居ルデアリマス、今日ハ國民學校制
 ヲ全國的ニ施行致サウト云フ、大キナ義務教育上ノ一轉機ニ立ツテ居ルデアリマスカラ、少
 クトモ全國ノ小學校教員ニ對シテ、文部大臣ガ直接乗出シテ、此ノ再教育ヲ爲シ、單ニ此ノ教員
 俸給ヲ道府縣ト國家ガ支辨スルト云フヤウナ事務的問題デナク、此ノ國民學校制度實施ヲ控へ
 マシテ、少クトモ國家ノ方針トシテ、此ノ小學校教員ノ再教育ヲ爲スト同時ニ、之ニ對スル教育
 改革ニ乗出ス必要ガアルト私ハ考ヘテ居ルデアリマス、幸ヒ文教出身ノ文部大臣ガ久シ振リ
 ニ大臣ニナラレタノデアリマスカラ、此ノ際此ノ大キナ學制改革ヲ前ニ致シマシテ、抱負アル
 所ノ御方針ヲ承ツテ見タイノデアリマス、第三點、是ハ前議員カラモ質問ヲサレタノデアリマ
 ス、ソレハ小學校ノ教員加俸令ニ關シテデアリマス、今日小學校教員ノ俸給ノ安イコトハ、既
 ニ御承知ノ通りデアリマス、之ニ對シマシテ市町村小學校教員加俸令ヲ、吾々ハ制定サレテ居
 ルコトヲ知ツテ居ルノデアリマスガ、是ハ公立學校ノ教員ノ年功加俸令ト非常ニ相違ヲ致シテ
 居ルノデアリマス、茲ニ小學校ノ教員ニ對スル取扱上ノ不公平ガアルト信ジマスルノデ、此ノ際
 公立學校ノ教員ニ對スル年功加俸令ト同一ノ取扱ヲ爲スベキデアル、斯様ニ私ハ考ヘテ居ルノ

デアリマス、因ミニ之ヲ引用致シマス、公立學校職員年功加俸令ノ第一條ニハ「師範學校並
 公立ノ高等學校尋常科、中學校、高等女學校、實業學校、青年學校、盲學校、聾啞學校及青年
 學校教員養成所ノ學校長、所長、教諭、助教諭、舍監、訓導及保母ニシテ五年以上勤續スル者
 ニハ年功加俸ヲ給ス」斯様ニナツテ、絕對支給ノ制度ニナツテ居ルデアリマス、隨ヒマシテ
 青年學校ニ勤務致シテ居リマス職員ニハ、五年經テバ完全ニ第一次ノ年功加俸ガ附クノデアリ
 マスガ、青年學校ノ教師ヲ兼務致シテ居リマス小學校ノ校長、教員ニハ、何年經ツテモ、此ノ
 加俸令ト云フモノガ適用サレルヤウニナツテ居リマシテモ、絕對支給ノ制度デナイノデアリマ
 スカラ、豫算ノ都合デ中々適用サレナイ場合ガアルノデアリマス、市町村立小學校教員加俸令第
 三條ヲ引用致シテ見マス、第二條ニハ「小學校教員ニシテ五年以上同一府縣内ノ市町村立小學
 校ニ勤續シ地方長官ニ於テ成績佳良ナリト認メタル者ニハ年功加俸ヲ給ス、年功加俸ハ本科正
 教員ニ在リテハ年額二十四圓乃至六十圓トシテ專科正教員及准教員ニ在リテハ年額十二圓乃至
 二十四圓トス、但シ年功加俸ヲ受ケタル後勤續五年ヲ加フル毎ニ本科正教員ニ在リテハ年額十
 八圓乃至三十圓、專科正教員及准教員ニ在リテハ年額十二圓乃至十五圓ヲ加フルコトヲ得」第六
 條ニ於キマシテハ「年功加俸ヲ受クル者ニシテ地方長官ニ於テ成績佳良ナラスト認メタルトキ
 ハ年功加俸ノ支給ヲ止ム」斯様ニナツテ居ルノデアリマス、是ハ制度上ノ非常ナ不公平デア
 ルト考ヘルノデアリマス、殊ニ公立學校ノ教職員全部ニ絕對支給ノ制度ヲ布イテ居ルノデアリマ
 スルカラ、今日道府縣支辨或ハ國庫半額負擔ノ法制ガ改マルト同時ニ、私ハ此ノ小學校教員ノ年
 功加俸制度モ、絕對支給ノ制度ニ改ムベキガ公平ナル處置デアルト考ヘルノデアリマス、併シナ
 ガラ先程ノ同僚議員ノ質問ニ對スル大臣ノ御答辯ニ依レバ、補助額ヲ相當ヘルヤウニスルト云
 フ御趣旨デアリマシタケレドモ、是デハ私達ハ不満足デアリマス、國家ノ豫算ハ其ノ必要ニ依ツ
 テハ時々是ガ變更ヲ加ヘラレルノデアリマス、絕對支給ノ制度ニナツテ居リマスレバ左様ナ
 トハアリマセケレドモ、若シ之ヲ將來豫算ノ關係、其ノ他情勢ノ變化ニ依リマシテ、依然ト
 シテヤハリ不公平ナル支給状態ニ逆戻リヲシ、或ハ從來ト變ラヌ状態ニナルト云フヤウナ場合

ニ於キマシテハ、サラデダニ小學校教員ノ實質上ノ待遇ノ惡イ所ニ、又何等ノ改革ガ施サレナイト云フ結果ニナルノデアリマスカラ、此ノ際文部當局ハ有ユル關係當局ト十分ニ強腰ニ談判ヲ致シマシテ、此ノ位ノ制度ノ改正ト云フコトニ大臣ガ御乗出シニナラナケレバ、折角文教ノ府カラ出身サレテ、大分期待サレテ居ル大臣ガ、何等期待ニ添ハナイト云フ結果ヲ生ジタノデハ、甚ダ大臣ノ爲ニ惜シイト吾々ハ考ヘルノデアリマスカラ、此ノ際十分腰ヲ据エテ、此ノ位ノ制度ノ改革ヲシテ貫ヒタイト考ヘルノデアリマス、敢テ前議員ノ御答ニ對シマシテ私不滿デアリマスルカラ、重ネテ此ノ點ヲ御答辯願ヒタイノデアリマス、次ニ第四點ト致シマシテハ、小學校ニ學校醫竝ニ看護婦、事務員等ガ設置サレテ居ル學校ハ、大體ニ於テ都市ヲ中心ニ完備致シテ居ルヤウデアリマスガ、未ダ山間僻地竝ニ一般貧弱町村ニ於テハ、制度ノ上デハ學校醫モアリ、或ハ學校齒科醫モアリ、其ノ他形ノ上ニ於テハ非常ニ完備致シテ居ルヤウニ見エテ居リマスケレドモ、實際問題ニ就テ見マスルト、小都市ノ如キニ於キマシテモ、此ノ制度ハ空文ニ化シテ居ル結果ガ多イノデアリマス、例ヘバ地方ノ五万人程度ノ小都市ニ於キマシテノ例ヲ舉ゲテ見マスルト、其ノ市ニハ五ツノ小學校ガアリ、一ツノ學校ハ二千七百人ヲ收容致シテ居リマスル、今其ノ學校ニ就テ參考ニ調ベテ見マスルト、耳鼻咽喉科ト、眼科ト、内科ト、三人ノ學校醫ニ年額一人當リ二十圓ヅツシカ手當ガ行カナナイヤウナ實際ノ結果ヲ來シテ居ルノデアリマス、是デハ多クノ生徒ト多クノ先生トニ對シテ、十分ナル醫療ト診察ヲ徹底スルコトハ出來ナイノデアリマス、此ノ際小學校ノ教員ノ俸給ガ道府縣ノ支辨ニナツタト云フナラバ、市町村ニ對シテモツト澤山ナ金ヲ支出致サセマシテ、各專屬ナル學校醫或ハ學校看護婦、事務員ナドヲ置カレテ、之ニ對シ十分ナル國家ノ補助ナリ、道府縣ノ補助ナリヲ與ヘ、此ノ際小學校教員ノ俸給ガ道府縣支辨ニナツタト云ツテ、安易ナ考ヲ市町村ニ持タセズ、一層此ノ學校ニ於ケル所ノ保健衛生養護ノ施設ヲ完備サセナケレバナラヌト考ヘルノデアリマス、私ハ出來ル事ナラバ寧ロ進ンデ學校醫竝ニ學校看護婦或ハ學校事務員ノ俸給ノ如キモ、併セテ道府縣支辨ト爲シテ、之ヲ國家ガ五割補助スルト云フ程度ニ行カナケレバ徹底致サヌ、斯様ニ考ヘテ居ルノ

デアリマス、此ノ點ニ付キマシテノ當局ノ御方針ヲ伺ヒタイノデアリマス、第五點、是ハ中等程度ノ學校ヲ今日増設スル對策ノ事デアリマス、是ハ試驗地獄ヲ救ヒ、一面國民全般ノ向學情勢ニ對應スル爲ニ公立ノ中等學校ガ殖エマシタ、或ハ財團法人組織ノ中等學校ガ殖エ、私立制度ノ中等學校ガ殖エテ居ルノデアリマス、併シナガラ之ニ對シマシテハ、之ヲ徹底的ニ助成シ育成スベキ法制モ完備シテ居ナイノデアリマスカラ、中ニハ隨分如何ハシイ雜駁ナ學校ガ出來ル傾向ヲ示シテ居ルノデアリマス、殊ニ私立學校ノ如キハ試驗地獄カラアブレテ來タ人達ヲ吸收スル爲ニ、弱イ立場ニ於ケル所ノ生徒ノ父兄カラ、可ナリ苛酷ナル寄附金ヲ強制シテ、教育事業ヲ最モ忌ムベキ營利事業ノ如ク考ヘマシテ、外觀ノ美、體裁ダケヲ整ヘ、内ニハ教員ニ對スル其ノ素質、其ノ待遇ト云フモノガ劣惡デアリマスルカラ、中々感心シナイ結果ヲ來シテ居ルモノモ多々アルノデアリマス、又教員ノ立場ニ於キマシテモ、何等保護育成ノ途ノナイ此ノ學校ニ入ツテ居ルノデアリマスカラ、多クハ他デ失業シタ者ガ一時腰掛的ニ入ルト云フヤウナ傾向モナキニシモアラズデアリマス、私達ハ今日試驗地獄ガ非常ニ問題トサレテ、學科試驗ガ宜イトカ、或ハ口頭試問ガ宜イトカ云フコトヲ論議シテ居リマスケレドモ、孰レガ宜シイト致シテモ、相當數ノ生徒ガ學校ヘ入レナイデ居ルト云フコトヲ認メナケレバナラヌノデアリマス、是等ノ人達ニ完全セル教育、完全セル學校ヲ備ヘテヤツテコソ、初メテ眞ノ試驗地獄、試驗制度ト云フモノガ救ハレルモノデアルト私ハ考ヘルノデアリマス、單ニ此ノ際學科試驗ガナクナツタカラト云ツテ、決シテ生徒或ハ父兄ガ安心シタリ、文部省當局ガ今度ノ新試驗制度ガ旨ク行キソウダト云ツテ、鼻ヲ高クスル必要モナイと思フノデアリマス、日本ノ國民教育ノ情勢ト云フモノガ急激ニ上昇シタニ拘ラズ、之ニ對應スル國家ノ教育機關完備ノ政策ガ貧困デアアル爲ニ、斯様ナ結果ニナツタノデアリマスカラ、併セテ此ノ點ニ文部當局ガ十分ニ留意サレマシテ、少クトモ學校法人ヲ律スベキ法律ノ一ツ位ヲ作り、中央ニ大キナル財團デモ作りマシテ、此ノ公立ノ學校、財團法人ノ學校ニ、又ハ私立ノ學校ニ、無利子ニ等シイ低利資金ヲ融通致シマシテ、此ノ方面ノ教育ニ從事スル教員ニ對スル手當ト云フモノニマデ意ヲ用ヒマシテ、此ノ種學校ノ充實ヲ圖ラ

シメマシタナラバ、私ハ試験地獄ト云フモノモ本當ノ意味ニ於テ救ハレ、日本國民ノ教育文化モ一層向上スルト考ヘルノデアリマス、是等ニ對スル當局ノ御抱負ヲ承ツテ見タイノデアリマス、最後ニ私ハ今日ノ義務教育ノ學校設備ガ非常ニ狹隘デアリマス爲ニ、大都市ニ於キマシテハ、相當數ノ二部教授ヲ行ツテ居リ、地方町村ニ於キマシテモ、普通教室ノ不足カラ、特別教室ハ全部無クシテシマフトカ、或ハ講堂ノ如キ殆ドナイ學校モ多イノデアリマス、サウシテ一教室ニ六七人多キハ八十人ニ達スルヤウナ生徒ヲ收容致シマシテ、之ニ一人ノ先生ガ教育ニ從事シテ居ルノデアリマスカラ、其ノ一人ノ持分ノ教育ト云フモノガ多キニ失シテ、本當ニ血ノ通ツタ、精神ノ交流シタル教育ガ出來ナイノデアリマス、是ハ實際問題トシテ、當局モ此ノ際學級ノ増加ヲ爲サシメ、或ハ設備ノ充實ヲ爲サシメル爲ニ、内務當局ト十分ニ御相談ヲサレマシテ、必要ナ費用ハ大藏當局カラモ出サセマシテ、國民ノ基礎トモナルベキ所ノ學校教育ニ對スル設備ヲ、十分ニ充實セシメルノ必要ガアルト考ヘルノデアリマス、殊ニ其ノ爲ニハ、小學校令ノ施行細則ヲ改メマシテ、現行ノ如ク一級室八十名マデハ宜シイト云フ程度ノ無理解ナ制度ヲ改正致シマシテ、少クトモ一級室五十名以下ト云フコトニ限度ヲシテ、ソレ以上ニ互ツタモノハ全部新シキ教室ヲ建テテ教育ヲ致スベシト云フ、強イ方針ヲ文部當局ガ立テマシテ、之ヲ全日本ノ市町村其ノ他ニ強制スル、ト言フト語弊ガアルカモ知レマセヌケレドモ、之ヲ強硬ニ實施セシムルヤウナ態度ヲ持チマシタナラバ、兒童ハ僅カナ期間ニ言葉ノ使方カラ、或ハ文字ヲ書ク術カラ、本當ノ人間トシテノ第一歩ノ教育ト云フモノヲ、親切丁寧ニ且ツ先生ト密著シタ心持ヲ以テ教育ヲ受ケルコトガ出來ルト私ハ考ヘルノデアリマス、今日多クノ偉人ヤ偉イ學者ニナツタ人達ガ、小學校當時ノ老先生ヲ偲ビ、之ヲ讚ヘルノ會ヲヨク催スコトモ、新聞ニ依ツテ見テ居ルノデアリマス、又天災地變ニ當リマシテハ、身ヲ以テ女教師或ハ男教師ガ、其ノ子供ノ生命ニ代ツテ之ヲ庇フト云フコトモ見テ居ルノデアリマス、教育界ニ於ケル美談ノ多クハ、小學校教師ノ中カラ生レテ來ルト云フコトヲ考ヘマスル時ニ、今日私達ハ全國ニ最モ數ノ多イ大都市ニモ、亦如何ナル邊鄙ナル土地ニモ、普遍的ニ存在シテ居リ、サウシテ日々休ムコトナク、其ノ教育ニ

携ツテ居ル小學校教員ノ影響力ト云フモノハ、非常ニ大キナモノト吾々ハ考ヘルノデアリマスカラ、少クトモ此ノ小學校教育並ニ小學校教員ト云フモノヲ輕視セズニ、毎月一回デモ宜イノデアリマスカラ、文部大臣ハ全國ノ小學校ノ先生ヲ府縣別ニ分ケテ東京ニ呼寄セ、サウシテ自分ト膝ヲ交ヘテ、此ノ普通教育ニ對スル改善案ヲ御相談ナサリ、お互ニ胸襟ヲ披イテ日本ノ基礎教育ニ對スル良キ意見ヲ練リ出シマシテ、之ヲ實行ニ移スト云フ位ノ、生命ヲ交流サセタ事ヲ致シマセヌト、到底今マデノ如ク情性ヲ進ンデ來タヤウナ感ガアル義務教育ハ、如何ニ國民學校制度ノ實施ヲ致シマシテモ、或ハ其ノ俸給ヲ國家ガ半分持ツテヤルト致シマシテモ、是等ハ形式ノミニ流レテ、本當ニ血ノ通ツタ教育ト云フモノハ出テ來ナイト思フノデアリマス、少額ノ給料ヲ増シテヤル程度ノ事デハ、ソコニ將來希望ヲ持ツテ、此ノ天職ニ十分腰ヲ落付ケテ從事スル教員ガ生レテ來ナイト考ヘルノデアリマスガ、以上ノ點ニ付キマシテ、甚ダ雜駁デアリマシタガ、大臣ノ御抱負ヲ承リタイト思フノデアリマス

松浦文部大臣ノ應答

昭和十五年度ニ於キマシテ小學校教員ニ不足ヲ來スコトハナイカ、其ノ對策ハ如何ト云フ御尋デアリマスガ、成程小學校教員ニシテ産業方面ニ轉職ヲ致ス者モ、相當多數ニ上ツテ居ルコトハ事實デアリマス、是ガ爲ニ學校ニ於キマシテ、其ノ補充ニ色々苦心致シテ居ルコトモ亦事實デアリマス、而シテ一方ニハ教員ニ講習ヲ施シマシテ、其ノ資格ヲ與ヘル方法、又ハ已ムヲ得ズ代用教員ヲ利用スル方法等ニ依ツテ、兎ニ角教授ノ上ニ不都合ヲ來スト云フコトハナイノデアリマス、而シテ當局ト致シマシテハ、教員ノ養成ト云フコトノ上カラ見マシテ、師範學校ノ學級ヲ増加シテ、成ベク優秀ナル教員ヲ養成スルコトニ致シテ居リマシテ、既ニ明年度ノ豫算ニ於テ、其ノ意味ノコトヲ御協賛ヲ仰イデ居ルヤウナ譯デアリマス、是ハ其ノ方法ニ依リマシテ、教育ノ上ニ不都合ヲ來タサナイヤウニ方策ヲ講ジテ居ル次第デアリマス、尙ホソレニ關聯致シテ小學校教員ノ再教育ノコトニ付テモ御尋ガアリマシテ、其ノ必要ハ御説キニナツタノデア

リマスガ、是ハ講習會等ノ方法ニ依リマシテ、常ニ教員ノ學力ノ増進、人格ノ陶冶ト云フコトニ付キマシテハ、注意ヲ致シテ居ルノデアリマス、之ヲ直接文部省デヤル意思ハナイカト云フ御尋デアリマスガ、是ハヤハリ實際勤務致シテ居ル地方ニ縁ノ近イ各府縣ニ於テ之ヲヤラセルコトガ、效果ガアル方法ト考ヘマシテ、直接文部省ニ於テハ施行致シマセズ、府縣ニ之ヲヤラセル、斯ウ云フ方針ヲ執ツテ居ル譯デアリマス、尙ホ小學校教員ノ加俸令ニ付テノ御尋モアリマシテ、之ヲ中等學校ノ教員ノ加俸令ト同ジヤウニスル意思ハナイカト云フ御尋デアリマス、是モ成ルベク左様ニ致シタイト考ヘマスガ、先ヅ差當リ今日實際ニ此ノ加俸令ニ依リマシテ加俸ノ支給ヲ受ケテ居ル者ガマダ七割餘デアリマスガ、ソレデ今同ハ補助費ヲ増額致シマシテ、先ヅ八割以上位ニハ實際加俸ノ支給ヲ受ケル者ノ數ヲ、其ノ位ニ増加致シタイト云フヤウニ考ヘテ居ルノデアリマス、是モ御趣意ハ洵ニ御同感デアリマシテ、出來ル限リ全體ノ者ニ漏レナク加俸ヲ受ケラレルヤウニ致シタイト思ツテ考ヘテ居リマス、ソレカラ其ノ次ニ小學校ニ學校醫、看護婦ノ設置ヲ獎勵スルコトニ付テノ御尋デアリマシタ、是モ成ルベク督勵ヲ致シマシテ、總テノ學校ニサウ云フ設置ヲ實現スルヤウニ努メテ參リタイト考ヘマス、ソレカラ私立學校ノ助成ノコトニ付キマシテモ、是ハ何等カ案ヲ具シテ其ノ實現ヲ圖リタイト考ヘテ居リマス、暫ク御猶豫ヲ願ヒタイト思ヒマス、必ズ何等カノ案ヲ具ヘテ、其ノ目的ヲ達スルヤウニ致シタイト思ヒマス、ソレカラ小學校長ノヤウナ人ト親シク膝ヲ交ヘテ教育ノコトニ付テ話ヲスルト云フヤウナコトヲ、文部省自ラヤウタラドウカト云フ御話デアリマスガ、是モ其ノ御趣意ニ於テハ洵ニ御同感デアリマシテ、全體ノ教育ノ實際ニ當ル人ト、成ベク意思ノ疏通ヲ圖リマシテ教育ノ刷新ヲ圖リタイ、斯ウ云フ考ヲ持ツテ居リマス、是ダケ御答致シマス

椎尾辨匡君ノ質疑

只今上程ニナツテ居リマスル法案ニ付テハ段々質疑ガアリマシタカラ、漏レテ居リマシテ伺ヒタイ點ヲ數點簡單ニ御同致シマス、第一、教育ヲ尊重スルカト言ヘバ、國家ガ尊重スルト言ハ

レルニ相違ナイノデアリマスルガ、併シ明治以來段々教育尊重ノ事實ガ薄ライデ居リマス、近クハ近衛内閣ニ於キマシテ、上諭ヲ抑イデ教育審議會ヲ設ケラレル等、或ハ教育尊重ノ實ガ舉ルカト考ヘラレタノデアリマスルガ、ソレモ日ヲ加ヘ内閣ガ迭リマスルニ從ツテ、段々ト貧弱ニナツテ參ツタノデアリマス、ソコデ現内閣ハ教育尊重ニ付テ特ニ如何ナル重大方針ヲ持ツテ居ラレルカト云フコトヲ總理カラハツキリト言明ヲ受ケタイノデアリマス、具體的ニ申シマスルト、一ツハ教育審議會デアリマス、教育審議會ハ之ヲ通シマシテ我が教育ノ根本的革新ヲ圖リ、制度ヨリモ内容ニ向ツテ革新ヲ圖ルト云フコトガ出立デアリマシタ、然ルニ其ノ後ノ經過ヲ見マヌルト、單ニ現在ノ制度ノ置換ヲ考ヘテ居ルコトガ主ナモノニナリマシテ、此ノ重大ナル時局ニ對シテ時局對應ノ途ヲ如何ニスルカト云フコトハ文部省ガ別ニヤルト云フコトニシテ、教育審議會ハ七年、十年先ニ稍、效果ヲ見ルベキ制度ノ問題ノミニ没頭シテ歲月ヲ重ネテ居ルノデアリマス、然ラバ、文部省ハ別ニ時局ニ對應スル本當ノ教育問題ヲ、ドン／＼トヤツテ居ルカト云フト、是モヤラナイデ、殊ニ現文部大臣ノ如キハ、此ノ教育審議會ノ決議ヲ實行スルト云フコトヲ以テ能事足レリトスルガ如キコトヲ、先頃來數次言ウテ居ラレルノデアリマスガ、教育審議會ニ依リマシテハ時局對應ノ問題ヲ解決スルコトハ出來ヌノデアリマス、ドウ云フ方法ニ依リテ教育審議會ヲ通シテ解決サセルカ、或ハ文部方面ニ於テ別ニ之ヲ解決スル方法ヲ講ゼラレルカ、時局對應ト云フコトハ申スマデモナイコトデアリマスガ、我國空前ノ轉換期ニ當ツテ、東亞ノ新秩序ヲ建設スルト云フ此ノ重大問題ハ、教育ノ充實ヲ基礎付ケラレンケレバナラヌコトデアリマス、ソレニ何等ノ方法ヲ講ゼズ、單ニ小學校、青年學校、大學制度ノ改廢變更ニ依ツテ處置シヨウト云フガ如キコトデハ、到底此ノ重大問題ノ教育尊重ノ途トナルモノデハナイト考ヘルノデアリマスルガ、之ニ對シテドウ云フ態度ヲ執ラレルカ、其ノ次ニハ同ジク教育尊重ノ立場カラ考ヘマスレバ、現ニ支那ノ今日ノ蔣介石政權ガ力ヲ持チマシタコトハ、申スマデモナク教育ノ力デアツタ、更ニ最近中央政府ガ樹立サレルト云フコトニナリマシテ、其ノ力ハ、北支ノ方面ナドハ相當別物ニ行カレルヤウニ聞クノデアリマスケレドモ、實際ハドウデアリマスルカ、稍

其ノ政權ノ成立ノ日ガ近付クヤウニ見エマシタ時ハ、忽チ國民黨教育方針ガ北支ニマデ瀾漫シテ
 參リマシテ、昨年ノ十二月以降新民會ノ教育スラ既ニ國民黨教育ノ方ヘ段々變ツテ行ク、即チ蔣
 介石指導教育ノ方ヘ段々變ツテ行クト云フコトニマデナツテ居ル、サウ云フヤウナ足元カラ引
 繰返サレルヤウナコトニマデボンヤリシテ居ルヤウナコトデ、本當ニ我ガ内國及ビ國際ニ立ツテ
 行ク所ノ將來ノ指導ガ出來ルカト考ヘマスルト、洵ニ寒心ニ堪ヘナイノデアリマス、斯ウ云フ
 點ニ對シテドウ云フ教育指導ヲシテ行カウト云フノデアルカ、我ガ國民ヲ如何様ニ新シイ形ニ
 向ケテ行カウト云フノデアルカヲ承リタイノデアリマス、又精神總動員ハ總理モ既ニ言明セラ
 レマシタ通り、新シイ組織ノ下ニ國民ヲ基礎トシテ立ツテ行クト云フコトデアリマスルガ、是ハ
 一面カラ考ヘマス、官僚ノ古手ダケデヤツテ居ル中央聯盟ノヤリ方ヲ止メテ、モツト國民ニ
 直接セラルル所ノ政黨諸君ヲ多ク入レルト云フコトノヤウニモ聞エマスケレドモ、政黨諸君ヲ
 入レルト云フコトハ惡イトハ私ハ申シマセヌガ、ソレ以上ノ本當ノ國民ヲ基礎トシテヤル國民精
 神總動員ナリ、再組織ナリト云フモノハ、實際ドウ云フ形ニ於テ行カウト云フノデアリマス
 カ、殊ニソレハ文教ガ中心ニナリ、全國ノ總テノ教員ガ總動員セラレ、總テノ宗教家ガ總動員セ
 ラレ、總テノ思想的ニ動ク者ガ總動員セラルト、云フコトガ、何トシテモ重大ナル問題デナ
 ケレバナリマセヌ、サウ云フ意味カラ言ヒマシタナラバ、文教ノ府ガ中心ニナツテ此ノ精神總
 動員、國民ノ再組織ニハ斯様ナ途ヲ執ツテ行カウト云フコトヲ念願シテ居ルト云フコト位ハ、
 既ニ確立シテ居ラナケレバナラヌ筈デアリマスガ、ソレヲ明瞭ニ御答願ヒタイノデアリマス、
 是ハ私ハ教育尊重ト云フ問題ニ付テ伺ツタノデアリマスルガ、次ニ其ノ指導精神ニ付テ御伺シ
 タイノデアリマス、明治以來文明開化、富國強兵ト云フヤウナ歐米思想ヲ標準ト致シマシタ題
 目ヲ掲ゲ、更ニ其ノ下ニハ英國ニ倣ヒマシテハ、功利主義、英佛米ニ倣ヒマシテハ個人自由主
 義、獨逸ニ倣ヒマシテハ強力主義、斯ウ云フヤウナ主義ヲ以テ教育ノ指導精神トシテ居ツタノ
 デアリマスルガ、今日ハ斯ノ如キ指導精神ヲ根本カラ排除致シマシテ、是非共ソコニハ本當ノ
 個人、功利、唯物、自由主義ヲ打破致シマシタ所ノ日本主義デアリ、東亞主義デアル所謂大精

神ガナケレバナラヌノデアリマス、ソレニ付テハ勿論剛健實實デアリ、協心戮力デアリ、尙歩
 主義デアリ、ソレノモノガアリ、若シ一言ニ言ヒマスナラバ、ソレハ皇國主義デアリ、國
 體ノ精華デアルト御答ニナルニ相違ナイノデアリマスケレドモ、其ノ皇國精神ナリ、國體ノ精
 華ナリヲ、ドウ云フ風ニ實現シテ行カウトシテ、文教カラ指導ヲシヨウトセラレルノデア
 カ、此ノ指導精神ヲ最モ具體的ニハツキリ與ヘテ、全國ノ教育家ノ活動ヲ促シ、教育ニ關心ヲ
 持チマス人々ノ即チ全國父兄子弟ノ總動員ノ活動ヲ促スト云フコトデナケレバナラヌノデア
 リマスガ、ソレニ對シマシテ老練ナル文相ハ御老練デアリマスケレドモ、其ノ老練ト云フ點ニ
 付テ私共ガ心配致シマスノハ、教育審議會ニ於テモ何時デモ現狀維持ノ保守的態度ヲ以テ、總テ
 ヲ指導シテ居ラレタノガ松浦氏デアリマス、サウ云フヤウナ現狀維持ノ保守的態度ヲ以テ國民精
 神ノ總動員ヲシ、將來ノ文教ヲ指導スルト云フコトナラバ大イナル間違ヒデアリマス、最近各
 所デ御話ニナリマス所デハ、時局ガ變ツテ居ルカラ大イニ教育ヲ振作シ、大イニ改善シテ行ク
 ノデアルトハ言ハレマスケレドモ、教育ヲ振作シ、改善シヨウト云フコトニ付キマシテハ、
 文相ノ如キ過去ノ教育組織ニ至大ノ貢獻ヲ持チ、關係ヲ持ツテ居ラレマス方ハ、根本的ニ自己
 反省ヲセラレマシテ、根本的ニ改善セラルル、自己カラ改造セラルルノデナケレバ、到底文教
 ノ改造ナドハ出來ヌコトデアルト信ズルノデアリマス、ソレニ付キマシテハ過去ニハ過去ノ必
 要ナルコトヲ爲サツタニ相違アリマセヌケレドモ、今マデヲ以テ將來ヲ律スルノデハナクシテ、
 第一自分ノ心境ヲ斯ノ如ク改メテ、斯ノ如キ念願ニ依ツテ國民ト共ニ動イテ行キタイト云フコ
 トデナケレバナラヌト存ジマスガ、願クハ茲ニ心境ヲ新ニセラレマシタ教育振興ノ精神ヲ明ニ
 サレンコトヲ希望スルノデアリマス、更ニ之ヲ支那問題ニ付テ申シマスナラバ、支那ハ其ノ新
 中央政權ノ成立致シマスノニ、再三表明致シテ居リマス通り、孫文以來ノ法統ヲ基礎トスルト
 云フコトヲ以テ三民主義ヲ立テルト云フコトヲ言ツテ居リマスルガ、三民主義ハ要スルニ民
 族、民權、民生ニ於テ民族政治經濟ノ獨立解放ヲ要求スルノデアリマス、若シ斯ウ云フヤウナ
 建前カラ言ヒマシタナラバ、今日歐羅巴ノ制約ヲ受ケテ居リマル所カラ獨立解放ヲ要求致シマ

スモノハ、明日又新シイ獨立解放ヲ要求スル運動ニナルノデアリマス、斯ノ如キ思想ヲ根絶致シマシテ、提携親善ノ上ニ協同一體ノ上ニ立ツテ行クト云フコトヲ、原理トシナケレバナラヌモノデアリマスノニ、ドウ云フ風ニ支那ヲ指導シヨウトセラレテ居ルノデアルカ、此ノ點ニ付テ曩ニ安藤議員其ノ他ト應答セラレマシタコトガアリマスガ、未ダ明瞭ニナツテ居リマセヌケレドモ、閣議ヲ經テ十分御答ガアルベキコトニナツテ居ルサウデアリマスシ、最早十分ナル閣議ガアツタ筈デアルカラ、之ヲ明瞭ニ御答アラシムコトヲ希望スルノデアリマス、即チ以テ内外ニ互ル日本ノ指導精神ガ如何ナル上ニ立ツテ居ルカト云フコトヲ、明ニサレタイノデアリマス、第三ニ私ガ伺ヒマスコトハ、教育立法ノ問題デアリマス、今日ハ厚生政治ガ行ハレマシテ勞働立法モ行ハレ、國民ノ健康保險ノコトニ關シマシテモ、或ハ職業運營ノコトニ關シマシテモ、新シイ立法ヲ以テ行ハレルヤウニナツタノデアリマス、昔ハ斯様ナコトハ各人ノ自由損得ニ一任サレテ居ツタノデアリマスガ、今日ハ國家ガ立法ヲ以テ行クノデアル、サウ云フ時代ニ教育ノミガ依然トシテ勅令ノミニ基イテ蔭ノ仕事ニナツテ居ルト云フコトハ、大キナ間違ヒデアルト存ジマス、教育ハ法制政治ノ使命カラ考ヘマスナラバ、ドウシテモ亦法規ヲ以テ此ノ議場ニ於テ論議セラレテ、確實ナル國家ノ教育方針ト云フモノガ確立シ、其ノ法規ニ依ツテ實行セラレルコトニ致サレナケレバナラヌ時代ニナツテ居ルト思フノデアリマスガ、教育立法ト云フコトニ付テ、文相ハドウ云フ御考ヲ持ツテ居ラレルカ、或ハ教育ハ黨争ノ間ニ動かサレテハナラヌト云フコトデ、嘗テ愛媛縣ヤ大分縣アタリノ政争激甚ナル所デ、小學教育ガ混亂セシメラレタト云フコトガアルヤウニ、今日モ政黨ノ弊害ガ甚シイカラ、政黨ニ教育ノ立法ニ參與サセタナラバ、非常ナ間違ヒヲ惹起スルデアラウト云フ御認識カラ、斷ジテヤラヌト云フコトデアレバ、サウ云フ意味ヲ、ハツキリシテ貫ヒタイノデアリマス、若シサウデハナイ、サウ云フ弊害ハ既ニアツタケレドモ、其ノ弊ノ甚シイ大分縣カラハ、選舉肅正運動ガ發揮サレルコトトナツテ改善サレタヤウニ、今日ハ黨幣黨争位ノ爲ニ此ノ教育ノ重大事ガ議場デ論議セラレタカラトテ、破壊セラレル虞ハナイト云フコトデアラナラバ、教育立法ノ方ヘ邁進セラレルコトガ當

然デアルト考ヘルノデアリマスガ、ソレニ對シテ文相ノ所見ハ如何デアリマスカ、更ニ又其ノ教育立法ガ行ハレナイト云フコトガ、私ハ今日非難セラレマス所ノ官僚獨善ト云フ聲ノ起ル病幣ノ根源デアルト考ヘルノデアリマス、ナゼカト申シマスルノニ、地方ノ優良ナ教育者デモ洵ニ若々シイ所ノ教育課長、或ハ縣ノ視學ナドノ前ニ參リマス、平身低頭シテ居ツテ教育者ノ尊嚴ハ何處ニアルカト云フヤウナコトニナリマス、サウシテ既ニ論ゼラレマシタ通り、新任ノ部長級ノ第一ニナル學務部長ハ、必ズ新シイガ爲ニ何等カノコトヲシナケレバナラヌト云フノデ、著任シテ一年カ一年半ヨリ居ラヌクセニ、何時デモ變ツタコトヲヤルノデ、教育ガ始終破壊サレルト云フコトハ分リ切ツタコトデアリマス、斯様ナ情勢ノ下ニ、而モソレヲ胸ニ滿シツツ平身低頭シテ居ナケレバナラヌ、斯様ナ情勢カラ段々進んで結局文教ト云フモノガ勅令ノ申ニ定メラレ、此ノ議會ニ於テ堂々ト論議サレズ、國民ノ正シキ認識立法ノ上ニ立ツテ居ラヌト云フコトノ爲ニ、始終上ニ向ツテハ縮ミ上ツテ、下ニ向ツテハ尊大ニナルト云フ惡弊ガ、此ノ官憲ノ中ニ隱レテ立法ノ論議批判ヲ免カレテ居ルト云フコトガ、養ヒ場所ニナツテ居ルト云フコトニナル、殊ニ此ノ官吏養成ノ根本トシテ、伊藤公ナドガ計畫シタ所ノ東京帝國大學ナドハ、思想的ニ色々ナ缺陷ヲ生ジマシタケレドモ、ヤハリ官吏トナリマス上ニ於テハ、上ニ向ツテハ頭ヲ下ゲ、下ニ向ツテハ尊大ニ構ヘルト云フコトヲ教養シテ居ル官吏ノ惡弊ノ根源トナツテ居ルノデアル、斯ウ云フヤウナ状態ニ於テ教育ガ本當ノ立法ノ上ニ、國民ノ本義ノ上ニ始終動イテ行カナイト云フコトガ、弊害ノ根本ニナルト考ヘマスル點カラ、愈々以テ官僚獨善ノ惡弊ヲ根絶シヨウト云フナラバ、之ヲ教育ノ組織カラ改メテ來ナケレバナラヌ、制度カラ改メテ來ナケレバナラヌガ、一番根本ハ教育法規ヲ勅令デナク、立法ニ依ル立法タラシメルト云フコトデナケレバ、本當ノ途ハ開カレヌト考ヘルノデアリマスガ、文相ハ之ニ對シテ如何ナル考ヲ持ツテ居ラレルノデアリマスカ、第四ニハ皇民教育ト私ハ申上ゲテ置キタイガ、是ハ公デハナイ、皇道、皇國ト言ハレテ居リマス皇民デス、最近ニ小學校ハ國民學校ト爲スト云フコトニ、審議會モ答申ヲ致シタニ違ヒアリマセヌケレドモ、小學校ヲ改メマスルナラバ、其ノ際ニハ寧

ロ國民學校ト云フヨリモ皇民學校トシテ、皇道日本ノ精神ノ教育デアルト云フコトヲハツキリ
 スル方ガ、一層適シテ居ルカトモ考ヘルノデアリマスガ、其ノ皇民學校トシテ行クコトニ付テ
 ハ、如何ニ御考デアルカト云フコトト、又ソレハ皇民學校デアリマシテモ、國民學校デアリマ
 シテモ、何レニシテモ教育ヲ改メヨウト云フコト、充實シヨウト云フコトカラ今進ンデ行ク譯
 デアリマスガ、サウ云フ點カラ見マシタ時ニ、我が日本ノ國民トシテ同胞一家ノ生活ヲ全ウス
 ルト云フコトガ中心デアリ、此ノ大君ノ御前ニ身命ヲ擲ツテ行クト云フ犠牲奉仕ノ精神、忠孝
 ノ生活ヲ教養スルコトガ本デアリマスルガ、其ノヤウナコトヲ致シマスルニハ、先ツ總テガ同
 ジヤウニ育テラレルト云フコトガ根本デアリマシテ、兄弟トシテ立チマスルニハ、起居寢食ヲ共
 ニスルト云フコトニ一番強イカガアル、同ジヤウナ服ヲ著テ居ルト云フコトニ力ガアリマス
 ルカラ、國民學校ナリ、皇民學校ナリニ改メテ行カウト云フニ付テハ、先ヅ其ノ服制ヲ如何ニス
 ルカ、貧富同ジヤウナ著物ヲ著ルコトガ出來ルヤウニ、服ヲ同ジウスルト云フコトニ付テ如何
 ナル御用意ガアルカ、今ヤ織物飢饉時代ガ來ルノデアリマスカラ、今日ニ於テ服制ヲ強要スル
 ト云フコトハ困難デアラウト存ジマスルケレドモ、併シナガラ將來ニ互ツテノ教育ノ改善ヲス
 ルト云フナラバ、假令即時ニ其ノ服ヲ同ジウスルトハ出來ナイデモ、服ヲ同ジウスルト云フ
 制服制度ニ付テ、何處マデ考ヘテ居ルカ、又小學即チ國民學校ノ幼キ者カラガ寢食ヲ共ニスル
 ト云フコトニ付テ如何ナル方法ヲ考ヘテ居ルカ、又今マデノヤウニ個人競争、試験競争ノ教育
 デハナクシテ、共學協力ヲスルト云フコトノ教育ニ付テ、如何ナル方法ヲ考ヘテ居ルカ、先
 程來御話ノアリマシタ魂ノ先生ニ依ツテ、魂ノ教育ヲセンケレバナラヌト云フコトデアリマ
 スルガ、是ハ口ニ言フコトハ甚ダ易イノデアリマスケレドモ、眞ニ魂ヲ與ヘルト云フコトニ
 付テ十分ナ考慮準備ヲ進メテ居ルカ、又其ノ仕事ガ實業ニ進ム所ノ力ダナケレバナラヌコト
 ハ極メテ明瞭デアリマシテ、七八年生ニ於テハ業務教育ヲスルト云フコトニハナツテ居リマス
 ルケレドモ、業務ヲスルト云フコトガ労働デアリ、骨ノ折レルコトデアリ、疲レルコトデアリ而
 シテソレハ儲ケル爲ニヤルト云フ、此ノ労働營利ノ思想ヲ打破シタ所ノ日本ノ尊キ國業ヲ營マ

シテ戴クノデアリ、人類ノ大使命ニ參與スルノデアルト云フ、サウ云フ業務精神ガ十分ニ養ハ
 レンケレバナラヌモノダト思ヒマスガ、サウ云フヤウナ點ニ於キマシテ、此ノ精神の内容ヲ充
 實スルコトニ付テ、明年カラ改善サレル所ノ國民學校ナリ、皇民教育ナリニ付テ、實質的ノ御
 準備ガ著々トシテ進ンデ居ルカ、唯僅ニ制度ヤ形式ダケノ變更ニ止マリ、從來ノ邪路ヲ相變ラ
 ズ迪ツテ行クモノデナイカト云フコトノ心配ガ、頗ル深イモノガアリマスルカラ、サウ云フ
 實質上ノ改善ノ御準備ガドレ程出來テ居ルカト云フコトヲ御伺ヨスルソレヲ御伺ヒスルト同時
 ニ、皇民教育デアリ、日本精神ノ教育デアリマシタナラバ、是等ノ兒童ニ外國人ヲシテ其ノ校
 長タラシメ、主任タラシメテ行クヤウナ外國人經營ノ日本人小學校ト云フモノハ、此ノ際全廢
 セラルベキモノデアルト考ヘルノデアリマスルガ、之ヲ全廢セラレル御用意ガアリマスルカ、兎
 角貴族ヤ富豪ニ阿リ、外國人ニ阿ツテ、此ノ當然爲スベキコトガ今マデ出來ズニ居リマスガ、之
 ヲ斷行スルダケノ勇氣ト決意ヲ持ツテ居ラレルカラ御伺申スノデアリマス、是ハ大體皇民教育
 ノ實行ニ伴ヒマシテ、特ニ御伺申シテ置キタイコトデアリマス、最後ニ先頃來論議サレマシタ都
 市ノ教育ニ付テ一言ヲ加ヘタイノデアリマスガ、結局今日ノ立法ニ依リマシテ、農山漁村、貧弱
 町村ニ於キマシテハ、ソレガ良クナルト云フコトデアリマスケレドモ、良クナルト云フ根本ノ資
 源ヲ何處ニ盛出シテアルノデアリマスカ、根本ノ資源ヲ別ニ盛出サズシテ良クナルト云フコト
 ハ、結局都市ノモノヲ奪ツテ農村ニ與ヘル、貧弱町村ニ與ヘルト云フコトニ過ギナイコトニナ
 リマスガ、ソレハ都市ノ進ンダル教育ヲ破壊シ、低下セシメルト云フコトニナルノデアリマス
 ガ、サウ云フコトデナクシテ、別ニ此ノ法ノ實施ニ依リマシテ、貧弱町村ガ有利ニナリ、確實ニ
 ナリ、向上スルト云フコトデアリマスルナラバ、其ノ條項ト準備トヲ明ニサレタイノデアリマ
 ス、サウデナイナラバ何ト云ハレマシテモ都市ノ方ハ其ノ儘デ置イテ、サウシテ貧弱町村ダケヲ
 良クスルト云フコトハ口頭禪デ、唯胡麻化サレルノデアリマシテ、決シテ本當ノ實績ハ擧ガラヌ
 ト思フノデアリマス、ソレ以上ノ細カイ問題ニ付キマシテハ、私ハ委員會ニ於テ論ジタイト思ヒ
 マス、尙ホ今日ハ總理ガ御出席ノ筈デアリマシタガ、御出席ガナイヤウデアリマスガ、總理ニ求

メマスコトハ、如何ニ現内閣ガ此ノ重大ナル時局ニ於テ教育ヲ尊重シテ、將來ノ國家活動ノ根
本ヲ培フト云フ點ニ付テ、斯クノ案ヲ持ツ、斯クノ熱意ヲ以テヤルト云フコトノ御答
ガ願ヒタイノデアリマス、殊ニ過日來ノ御答ヲ見ルト、マダ三民主義ナドニ付テ全ク御認識ガ
ナイヤウデアリマスカラ、サウ云フ點ヲ明ニシテ御答ガ願ヒタイノデアリマス、文相ノ方ハ御
出席デアリマスカラ全體ニ關シマシテ、十分ナル御答ヲ希フ次第デアリマス

松浦文部大臣ノ應答

只今椎尾君ヨリ數點ニ互ツテ御質疑ガアリマシタ、之ニ對シテ御答ヲ申上ゲマス、曩ニ上意ヲ
拜シテ設ケラレマシタ教育審議會ニ於テハ、唯制度ト云フヤウナコトニ付テ色々論議ヲシテ居
ルガ、此ノ重大ナル時局ニ於テ直チニ實行シナケレバナラヌヤウナコトニ付テハ、是ハ教育審議會
ノ答申ヲ待ツテヤルト云フコトデハイカヌノデハナイカ、是ハ文部省自ラヤラナケレバナラヌ
ノデハナイカ、斯ウ云フヤウナ御尋デアッタノデアリマスガ教育審議會ハ必ズシモ長キニ互ル
制度ノコトバカリデハナクシテ、目下ノ差當ツテノ問題ニ付テモ、無論審議ヲ致スコトニナツテ
居ルノデアリマス、唯今日マデ主トシテ制度或ハ内容ト云フコトニ付テ審議ヲシテ居リマシ
テ、其ノ答申モ既ニ著々ト現ハレテ居ルノデアリマス、併シナガラ目下差當リ此ノ時局ニ於テ
文部省トシテヤルベキコトハ、無論教育審議會ノ斯ウ云フ制度ナドニ付テノ決議ヲ待タズニ實
行スベキモノデアリマス、之ニ付キマシテハ此ノ時局ニ於キマシテ第一ニ教育者ノ時局ニ對ス
ル認識ヲ深メテ此ノ難局ヲ突破スル、サウシテ國威ヲ宣揚シ、聖戰ノ目的ヲ貫徹スル爲ニ、是ハ
國民舉ツテ最善ノ努力ヲシナケレバナラヌノデアリマスカラ、教育者モ此ノ意味ニ於テ其ノ信
念ヲ深クシテ、此ノ聖業翼贊ノ道ニ當ラネバナラヌト云フ意味ニ於キマシテ、文部省トシマシ
テモ常ニ之ガ制度ノ改正改善ト云フコトニ必ズシモ依ルノデハナクシテ、常ニ其ノ精神ヲ以テ
ヤツテ居ルノデアリマシテ、之ニ對シテ文部省トシテハ常ニ最善ノ努力ヲ致シテ居ル次第デア
リマス、私ガ何ダカ唯現狀維持ノ頭ヲ持ツテ居ルカラ、到底サウ云フコトハ出來ナイダラウト

云フヤウナ意味ノ御尋デアリマシタガ、私ハ決シテ唯現狀維持ト云フコトヲ以テ能事トシテ居
ル者デハアリマセヌ、必要ニ依ツテ改メナケレバナラヌ點ハ、無論改メナケレバナラヌノデア
リマシテ、此ノ重大時局ニ處シテ參ルノニハ、教育者モ亦大イナル覺悟ヲ持ツテヤラナケレバ
ナラヌコトハ申スマデモナイノデアリマス、私モ決シテ其ノ點ニ於テ唯現狀維持ト云フヤウナ
頭ヲ以テ、ヤツテ居ル譯デハ絶對ニナイノデアリマス、ソレカラ精神總動員ノコトニ付テモ御
尋ガアリマシタガ、是ハ所謂官民一致ノ努力ニ俟タナケレバナラヌノデアリマシテ、精神總動
員ノ機構ノ改善ニ付キマシテハ、目下色々考究シテ居ルノデアリマスガ、要スルニ是ハ唯中
央カラ地方ニ向ツテ働キ掛ケルト云フコトヨリモ——無論ソレモ必要デアリマスガ、地方自ラノ
實踐ト申シマスカ、下カラ盛リ上ルカト相俟ツテヤラナケレバイカヌノデアリマシテ、サウ云
フ意味ニ於キマシテ、此ノ精神總動員運動ノ刷新ニ付テハ、目下大イニ考ヘテ居ルノデアリマ
ス、ソレカラ此ノ重大時局ニ際シテ國民ヲ率テ行クノニハ指導精神ハドウデアアルカ、是ハ無論
國體ノ本義ヲ體シテ、皇運扶翼ノ精神ヲ以テ行カナケレバナラヌコトハ勿論デアアルガ、ソレニ
付テノ指導精神ハ如何ニスルカト云フコトデアリマスガ、是ハ要スルニ一君萬民、皇運扶翼ノ
精神ヲ以テ之ヲ總テノ行動ニ現ハシ、總テノ場合ニ其ノ精神ヲ行クト云フコトヨリ外ニ、別ニ
指導精神ハ私ハアリ得ナイノデハナイカ、ソレガ詰リ指導精神デアアル、國體ノ明徴、國民精神ノ昂
揚、ソレガ即チ指導精神デアツテ、ソレ以外ニ指導精神トハ——ドウ云フコトヲ意味スルノデ
アリマスカ、恐ラクハ其ノ點ハ椎尾君モ其ノ意味デ御尋ニナツテ居ルノデアラウト考ヘマス、ソ
レカラ支那ノ三民主義ニ付テノ御尋モアツタノデアリマスガ、是ハ所謂歪曲サレザル三民主義
ハ之ヲ認メテモ差支ナイト云フコトデ、是ハ既ニ總理大臣カラモ御答辯ガアリマシタカラ、私
ハ此處デ別ニ申シマセヌガ、サウ云フ意味ニ御諒解ヲ願ヒタイト存ジマス、ソレカラ教育ノ制
度ヲ勅令ニ依ラズシテ立法ニ依ルコトニシタラドウデアアルカ、從來教育ノコトハ總テ勅令デ規
定サレテ居ルノデアアルガ、之ヲ立法ニ依ルコトニスル考ハナイカ、斯ウ云フ意味ノ御質問デア
リマシタガ、教育ニ關スルコトハ明治二十三年ニ小學校令ガ初メテ設ケラレマシタ時カラ、總

テ勅令事項トシテ規定スル、斯ウ云フコトニ相成ツテ居ルノデアリマシテ、是ハ今日マデ其ノ傳統ニ依ツテ繼續シテ參ツテ居ルノデアリマシテ、私ハ今日之ヲ別ニ變更スルト云フ考ハ持ツテ居リマセヌ、ソレカラ國民學校ヲ造ルニ付テノ制度ノ調ハシテ居ルデアラウガ、之ヲ實質的ニ眞ニ國民學校タラシメル準備ヲシテ居ルノデアルカドウカト云フ御話デアリマシタ、是モ制度ノ準備、内容ノ準備モ無論致シテ居リマスガ、ソレヲ活カシテ國民學校ノ實質ヲ良クスル、其ノ所謂實質的ノ準備ニ付キマシテハ、是ハ教員ノ講習、再教育ト云フコトニ付テ、十五年度ノ豫算ニモ御要求ヲ致シテ置キマシタ、ソレニ依リマシテサウ云フ方法ニ依ツテ、所謂實質的ノ準備モ致スコトハ勿論デアリマス、ソレカララ外國人ヲ校長トスル學校ヲ、總テ廢止スル意思ハナイカト云フ御尋デアリマスガ、是ハ元來國民學校ノ如キ基礎教育ヲヤル學校ハ、外國人ニヤラセルコトハ出來ナイト云フコトガ本則ニナツテ居ルノデアリマス、是ハ主トシテ外國人ナドヲ教養スル學校ニ於テハ、サウ云フコトガ例外トシテ認メラレマスケレドモ、國民學校ニ代ル學校トシテハサウ云フモノハ認メナイノデアリマスカラ、是ハ其ノ意味ニ於テ御諒承ヲ願ヒタイト思ヒマス、ソレカラ今回小學校教員ノ俸給ヲ道府縣費支辨ニ移シマスノハ、教員ノ俸給ノ不平均ヲ直ス、比較的疲弊シタ町村ニ在勤スル者ニモ、相當ナ待遇ヲ致スト云フコトカラ考ヘテ、道府縣費支辨ニ移シタ方ガ便利デアルト申シマシタニ付キマシテ、都市ノ財源ヲ奮ツテ農村ノ方ヲ好クスルト云フ外ニハナイノデアリカ、若シ農村ノ教員ヲ好クシヨウトスレバ、都市ノ教員ニ對スル財源ヲ奮ツテ行ク外ハナイノデアリカ、斯ウ云フ御話デゴザイマシタガ、サウ云フ意味デハゴザイマセヌ、別ニ都市ノ教員ノ俸給ヲ持ツテ行ツテ農村ノ方ニ移ス、斯ウ云フ意味デハゴザイマセヌガ、道府縣全體カラ見マシテ、教員ノ俸給ガ非常ニ不平均ニナツテ居リマスカラ、ソレヲ道府縣費支辨ニ移シテ全體ヲ見テヤレバ其ノ點ガ好クナル、一市町村ノ豫算ニ拘束サレテ、其ノ範圍内ニ於テ俸給ヲ支給スルト云フ場合ニ比ベマス、非常ニ好クナルト云フコトヲ申シタノデアリマシテ、道府縣費支辨ニ移シタガ爲ニ、都市ノ教員ノ待遇ガ惡クナルト云フコトハ、絶對ニアリ得ナイノデアリマスカラ、此ノ點ハドウゾ御安心ヲ願ヒタイト思ヒ

マス、ソレデ特別ノ財源ヲ考ヘテ居ルカト云フ御話デアリマスガ、是ハ比較的弾力性ノアル道府縣費ノ支辨ニ致シマスレバ、即チサウ云フコトガ自ら出來ルノデアリマスカラ、是ガ爲ニ都市ノ金ヲ持ツテ行ツテ農村ニ移ス、斯ウ云フ意味ヲ持ツテ居ル譯デハアリマセヌカラ、此ノ點ハドウゾ御安心ヲ願ヒマス

椎尾君ハ再ヒ發言ヲ爲ス

只今ノ御答辯ニ付テハ色々再質問シタイコトガアリマスガ、ソレハ委員會ニ譲リマシテ、唯一ツ此處デ申上ゲテ置キタイコトハ、既ニ教育審議會ガ四年ニモナリマシテ、重大ナ時局ノ間ニ、時局ニ對應スルコトヲヤツテ居リマセヌト云フ點ハ、ヤラレルト云フコトト、ヤラナイト云フコトトノ食違ヒデアアルノデアリマス、ソレヲヤラセルナラバヤラセルヤウニ文部大臣ガ指導セラルルガ宜シイシ、又昨年ノ議會ニ於キマシテハ、時ノ文相ハ時局ニ對應スルコトハ文部省ニ於テヤルノデアツテ、教育審議會ヲ俟タナイノデアルト云フ答辯ヲ與ヘテ居ラレルノデアリマスカラ、サウ云フ意味ニ於テ文部大臣ガモツト積極的ニ、時局對應ノ途ヲ講ゼラレルコトデナケレバナラヌノデアツテ、ソレヲ唯出來ルト云フコトノ下ニ解決シナイト云フコトハ、甚ダ遺憾デアルト思ヒマスガ、サウ云フ意味ニ於キマシテ、私ハ更ニ徹底スル態度ヲ御執リニナルコトヲ願フト言フニ止メテ置キマス

次テ兩案ハ一括シテ議長指名二十七名ノ委員ニ付託スルニ決シ 即日議長之ヲ指名ス 委員ハ翌二十八日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末各原案ヲ可決(孰レモ附帶決議ヲ附ス)スヘキモノト決シ三月十八日報告書ヲ議長ニ提出セリ

六六ニ對スル委員會附帶決議

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議及表決

第四項 法律案

- 六六一 青年學校ノ重要性ニ鑑ミ速ニ義務教育費國庫負擔法ヲ制定スヘシ
- 六六二 町村小學校教員ノ異動ニ關シテハ當該町村長ノ意見ヲ徵スヘシ
- 六六三 地方視學ノ待遇ヲ高メ素質ノ向上ヲ圖リ教育行政ヲ完カラシムヘシ
- 六六四 小學校教員ヲシテ官僚化ニ陥ラシメザル様最善ノ考慮ヲ拂フヘシ
- 六六五 小學校養護婦令ヲ速ニ制定スヘシ

六七ニ對スル委員會附帶決議

- 一 青年學校ノ重要性ニ鑑ミ速ニ義務教育費國庫負擔法ヲ制定スヘシ
- 二 町村小學校教員ノ異動ニ關シテハ當該町村長ノ意見ヲ徵スヘシ
- 三 地方視學ノ待遇ヲ高メ素質ノ向上ヲ圖リ教育行政ヲ完カラシムヘシ
- 四 小學校教員ヲシテ官僚化ニ陥ラシメザル様最善ノ考慮ヲ拂フヘシ
- 五 小學校養護婦令ヲ速ニ制定スヘシ

同月十九日議事日程ノ順序ヲ變更シ兩案及六九ノ三案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長服部岩吉君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

只今上程サレマシタ市町村義務教育費國庫負擔法改正法律案外一件委員會ノ經過竝ニ結果ニ付御報告申上ゲマス、本委員會ハ併託セラレマシタ職業紹介法中改正法律案モ共ニ致シマシテ、

前後十回ニ互リ開催致シマシテ、終始熱心ナル質疑應答ガ取交ハサレタノデアリマス、既ニ御承知ノ如ク、市町村義務教育費國庫負擔法改正法律案、竝ニ現役小學校教員俸給費國庫負擔法中改正法律案ハ、市町村小學校教員俸給ヲ、市町村ノ負擔カラ北海道及ビ府縣ノ負擔ニ移シ、從來市町村ニ交付サレテアリマシタ市町村小學校教員俸給ノ中、國庫負擔分ヲ道府縣ニ交付セシガ爲メ改正案デアリマシテ、尙ホ從來國庫負擔ノ八千五百萬圓ヲ下ラザル一定額ノ現制ヲ改メテ、市町村立尋常小學校教員俸給ニ要スル二分ノ一ノ定率ヲ以テ負擔スルト云フノデアリマス、先ヅ市町村義務教育費國庫負擔法改正ノ點ヲ申上ゲマスレバ、前ニ申述ベマシタ小學校教員ノ俸給ヲ道府縣ノ負擔トシ、且ツ國庫負擔金ヲ二分ノ一ノ定率ヲ以テ支出スルノ制ヲ採ラレマシタ爲メ現行法ノ題名ヲ義務教育費國庫負擔法ニ改メ、現行第一條及ビ第二條ヲ整理サレ、之ヲ改正法律案第一條ニ統合規定シ、又現行第三條乃至第五條ハ、國庫負擔金ノ配分ニ關スル規定デアリマスガ、定率交付ノ制ヲ採ラレタ爲メ、且ツ道府縣ニ交付セラルルノデ、之ヲ改正法律案第二條ノ通り改メ、更ニ現行第七條第一項ハ國庫負擔金交付先ニ關スル規定ナノデ、今回ノ交付先變更ニ依リ、自然存置ノ必要ナク廢止セラルルノデアリマス、又現行第六條及ビ第七條二項ノ規定ノ趣旨ハ、改正案ノ第三條及ビ第四條ニ存置セラレ、尙ホ現行第三條ノ特別規定タル昭和七年法律第二號ハ、改正案附則ニ規定セラレテ居ルノデアリマス、次デ現役小學校教員俸給費國庫負擔法中改正法律案ニ於キマシテモ、前同様小學校教員俸給ガ道府縣ノ負擔ニ移サレル關係上、字句ノ訂正ヲセラレタモノデアリマス、尙ホ職業紹介法中改正ノ點ハ、現行第七條ノ規定ヲ削除シ、第十四條中ノ改正ハ、第七條ノ削除ニ伴フ字句ヲ整理セラレタモノデアリマス、此ノ改正ノ理由ハ、現行ノ職業紹介法ハ、御承知ノ通り昭和十三年四月一日ニ公布セラレ、七月一日カラ實施セラレテ來タノデアリマスガ、今回ノ支那事變ノ進展ニ伴ヒマシテ、職業紹介事業ハ專ラ軍需勞務、生産擴充計畫、産業勞務等、刻下緊急ナル勞務需給ノ斡旋、竝ニ職業紹介所ハ國家總動員法ニ基ク所ノ各種ノ勞務規則ニ關スル事務ヲ管掌スルコトニナリマシタ爲メ、及ビ地方財政ノ實情モ考慮セラレマシテ、職業紹介所及ビ聯絡委員會ニ關ス

ル費用ノ全部ヲ、國庫ニ於テ負擔セララルコトニナツタ結果デアリマス、市町村義務教育費國庫負擔法改正ノ理由トセララル所ハ、今回中央地方ヲ通ズル稅制改正ニ伴フ財政上及ビ教育上ノ二點デアリマシテ、即チ市町村立小學校教員ノ俸給ヲ、市町村ヨリ道府縣ノ負擔ニ移サレル結果デアリマス、今回ノ此ノ改正ハ、我が義務教育制度ノ劃期的ノモノデアリマスカラ、委員會ニ於ケル所ノ質疑應答中ノ重要ナル點ト認メマシタモノヲ數點紹介致シ、他ハ會議錄ニ就テ御覽ヲ願フコトニ致シタト思ヒマス、第一點ハ、政府ハ今回ノ改正ノ理由ヲ、中央地方ヲ通ズル稅制ノ改正ト、教育上ノ點ニ置カレ居ルガ、義務教育ハ國民ノ基礎教育ト云フ國策上ノ重大問題デアアル、隨テ財政上ノ理由ヨリモ、教育上ノ理由ガ主デナケレバナラヌト思フガ如何トノ問ニ對シマシテ、文部大臣ハ、文部省トシテハ小學校教員ノ俸給ヲ市町村支辨ニ致シテ置クヨリモ、道府縣支辨ニシタ方ガ、教員ノ異動配置上カラ、比較的疲弊シタ町村ニモ相當優良教員ヲ配置スルコトガ出來、又俸給豫算ノ爲ニ制限セラレテ、轉出ヲ餘儀ナクサレルト云フ不便ト不利ヲ避ケ得ル、又貧弱ナル町村ガ俸給豫算ニ拘束サレテ、教員ノ適正ナル異動配置ガ十分出來ナイコトハ、教育上ノ非常ナル不利デアリマシテ、之ヲ道府縣ノ支辨ニ移スコトニ依ツテ缺點ガ除カレテ、教育上ノ效果ヲ擧ゲルコトガ出來ルカラ、良イ方法ト考ヘ居ルトノ答辯ガアツタノデアリマス、第二點ハ、小學校ノ義務教育タル國民教育ハ、國家ノ義務デアリ、又一面父兄ノ義務デアアル、隨テ政府ハ市町村ヲシテ其ノ經營ノ任ニ當ラシメ、其ノ經費ハ市町村民ノ負擔トシテ來タノデアアル、最近市町村ノ財政上ノ關係上、國庫ガ義務トシテ或ル一定部分ノ經費ヲ負擔シテ、市町村ニ交付シテ來タガ、是ハ當然デアアルト思フガ、今回國ト市町村トノ中間自治體タル道府縣ニ、義務教育費ヲ負擔セシムルコトハ、其ノ理由ヲ發見スルニ苦シム、固ヨリ知事ニ小學校教員ノ任免權ガアリ、監督權ガアルカラ、俸給ヲ道府縣ノ支辨ニ移スコトガ便利ダト云フコトハ、理由ハナラナイシ、殊ニ知事ハ國家ノ機關デアアル地方長官デアアル、此ノ點ニ對ニ對スル文部大臣ノ所見如何トノ問ニ對シマシテ、市町村立小學校ノ經營及ビ維持費用ニ付テハ、今後ト雖モ市町村自治體ニ於テ負擔スル建前ニハ、少シモ從來トハ變ラナイノデアリマス、

道府縣ハ今日マデモ少シモ關係ガナイト云フ譯デハナクテ、現ニ年功加俸ノ如キ、恩給ノ如キモノヲ負擔シテ居ル、小學校教員ノ養成モヤツテ居ルノデアリマス、唯今回ハ市町村、道府縣、國庫、此ノ三ツノモノガ分擔シテ參加スルト云フコトハ、少シモ差支ナイノデアリマス、又任免權ヲ持ツテ居ル府縣知事ガ、自治體トシテ道府縣ノ經濟ヲ一緒ニ管理シテ居ル所ニ、之ヲ統一セシメルト云フコトガ、理窟ノ上カラ言ツテモ、正當デアルト申セルノデアルトノ答辯ガアツタノデアリマス、今回ノ改正ニ依ル府縣支辨ノ教員俸給ノ財源ガ、二分ノ一ノ國庫負擔ト、還付稅及ビ配付稅ヲ付與セラレルノデアレバ、之ヲ直接市町村ニ付與スレバ、今日マデノ如キ教員ノ異動配置ノ不便、教員俸給支拂不能ノ如キ弊害ハ、除キ去ラレテ、從來通り市町村ノ支辨デ行ケルノデハナイカトノ問ニ對シマシテ、文部大臣ハ、稅制ノ關係ハ内務省ノ方カラ御聽ヲ願ヒタイ、私共ハ教員俸給ヲ道府縣ニ移スコトガ、教育上有利デアルト考ヘテ居リマストノ答辯ガアリマシタ、次ニ人口七十万以上ノ六大都市ノ特異性ニ鑑ミテ、除外規定ヲ設ケテ、教員俸給ヲ市ノ支辨ニ出來ヌカトノ問ニ對シマシテハ、文部大臣ハ六大都市ニ付テハ、將來都制或ハ特別市制ガ實施サレタ場合ニハ、自然此ノ法律ハ改正サレルコトモアリマセウケレドモ、現在ハ除外規定ヲ設クル意圖ヲ有シテ居ナイトノ答辯ガアツタノデアリマス、尙ホ此ノ外市町村自治體ト教職員ガ將來阻隔ヲ來シハセヌカ、又教員ノ官僚化スル憂ハナイカ等ノ應答モアリ、更ニ青年學校、國民學校、青年團、教員養成、教員待遇改善、轉出教員ノ補充問題、視學制度ノ改善、現行教育ノ智德兩面、竝ニ體位向上ヨリスル檢討等デアリマシテ、周到ナル審查ヲ經テ、最後ニ稅制委員會ニ於テ、内務大臣ハ人口七十万以上ノ六大都市ニ對スル教員俸給ハ、市ニ交付シテ支給セシメル、又其ノ取扱ニ付テハ、勅令ノ如キモノヲ考慮スルトノ辯明ガアツタガ、文部大臣ノ所見如何トノ問ニ對シ、文部大臣ハ、六大都市ノ教員俸給ハ、内務大臣ノ答辯ハ、市長ヲ經由シテ之ヲ支給セシメルト云フノデアアルカラ、文部大臣モ同意デアルトノ答辯ガアリマシテ、是ニテ質疑ヲ打切ツタノデアリマス、サウシテ討論ニ入りマシテ、民政黨ヲ代表サレマシテ伊藤東一郎君ヨリ、五項ノ附帶決議ヲ附ケラレマシテ、原案贊成ノ意ヲ表サレタノデア

リマス、政友會ヲ代表シテ河上哲太君、又原案ニ賛成ヲ表シ、五項ノ附帶決議ニモ賛成サレ、政友會ヲ代表シ庄司一郎君ガ原案竝ニ附帶決議ニ賛意ヲ表示セラレ、時局同志會ノ木村武雄君、社大ノ山崎劔二君、第一議員俱樂部ノ笠井重治君、何レモ同様原案ニ賛意ヲ表示セラレテ、サウシテ附帶決議ニモ賛成致サレタノデアリマス、次イデ採決ニ入りマシテ、市町村義務教育費國庫負擔法改正法律案及ビ現役小學校教員俸給費國庫負擔法中改正法律案ノ兩案ハ、次ノ附帶決議ヲ爲シ、全會一致原案通り可決致シマシタ、附帶決議ヲ申上ゲマス

附帶決議

- 一、青年學校ノ重要性ニ鑑ミ速ニ義務教育費國庫負擔法ヲ制定スヘシ
 - 二、町村小學校教員ノ異動ニ關シテハ當該町村長ノ意見ヲ徵スヘシ
 - 三、地方視學ノ待遇ヲ高メ素質ノ向上ヲ圖リ教育行政ヲ完カラシムヘシ
 - 四、小學校教員ヲシテ官僚化ニ陥ラシメサルヤウ最善ノ考慮ヲ拂フヘシ
 - 五、小學校養護婦令ヲ速ニ制定スヘシ
- 次イデ職業紹介法中改正法律案ニ對シマシテモ、同様ニ熱心ナル論議ガ盡サレマシタ結果、討論ヲ省略シテ、全會一致原案通り可決サレマシタ、尙ホ詳細ハ速記録ニ就テ御覽ヲ願ヒマス、以上御報告ト致シマス

院議異議ナク三案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ各原案ノ通可決シ即日貴族院ニ送付ス

貴族院ニ於テハ三月二十四日六六及六七ノ兩案ヲ可決奏上ス

三月二十九日六六ハ法律第二十二號、六七ハ法律第二十三號ヲ以テ公布セラル

六八 會計検査院法中改正法律案

會計検査院法中左ノ通改正ス

第二條中「検査官十四員」ヲ「検査官十六員」ニ、「副検査官專任二十四員」ヲ「副検査官專任二十八員」ニ改ム

第五條中「検査官二員又ハ四員」ヲ「検査官二員乃至五員」ニ改ム

附則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ昭和十五年二月二十一日本院ニ提出ス同月二十九日本案ノ第一讀會ヲ開キ廣瀨法制局長官ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只今議題トナリマシタ會計検査院法中改正法律案ニ付キマシテ御説明ヲ致シマス、最近年々歳計ガ膨脹致シマシテ、會計検査院ニ於キマスル検査事務ハ著シク増加ヲ致シテ參リマシタ、殊ニ臨時軍事費ハ巨額ニ上リマシテ、是ガ會計検査ハ、或ハ書面ノ検査ニ於キマシテモ、或ハ又實地ノ検査ニ於キマシテモ、何レモ分量ガ非常ニ増加ヲ致シマシテ、其ノ範圍及ビ地域モ段々廣汎ニ互リマシテ、検査上多大ノ手數ヲ要スル狀況ト相成リマシタ、斯ノ如キ實情デアリマスノデ、検査能力ノ充實ヲ圖リマスル爲ニ検査官一人、副検査官四人ヲ増置致ス必要ガアリマス、仍テ會計検査院法中改正ヲ爲サントスル次第デゴザイマス、何卒御審議ノ上御協賛ヲ與ヘラ

次テ本案ハ議長指名十八名ノ委員ニ付託スルニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌三月一日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ同月十七日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同日議事日程ヲ變更シ本案及五八、六一、七八、八一ノ五案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長古屋慶隆君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

只今上程セラレマシタ會計検査院法中改正法律案外四件ニ關シマシテ、委員會ノ經過竝ニ結果ヲ極ク簡單ニ報告致シマス、其ノ詳細ハ速記録ニ依ツテ御覽ヲ願ヒタイト思ヒマス、先ヅ第一ニ會計検査院法中改正法律案デアリマスガ、最近年々歳計ガ膨脹致シマシテ、會計検査院ニ於ケル検査事務ハ著シク増加致シマシタ、殊ニ臨時軍事費ハ巨額ニ上リマシテ、是ガ會計検査ハ、或ハ書面ノ検査ニ於キマシテモ、或ハ實地ノ検査ニ於キマシテモ、何レモ其ノ分量ガ非常ニ増加致シマシテ、其ノ範圍及ビ地域モ段々廣汎ニ互リマシテ、検査上多大ノ手數ヲ要スル狀況ト相成リマシタ、斯ノ如キ事情デアリマスノデ、検査能力ノ充實ヲ圖ル爲ニ、検査官二人、副検査官四人ヲ増置シタイ、斯ウ云フ案デアリマシテ、委員會ニ於キマシテハ慎重審議致シマシテ、色々意見ガアリマシタケレドモ、先ヅ其ノ中ノ重大ナルト言フヨリモ、寧ロ稍、爭ニ近イヤウナ點ヲ一ツ御紹介申シタイト思フノデアリマス、或ル委員ハ會計検査院法ニ關聯致シマシテ、實ハ日支事變後數年度ニ互ル特別會計ハ憲法違反デハナイカ、斯ウ云フコトヲ頻リニ力説高調セラレタノデアリマス、政府ハ是ハ憲法違反デハナイ、又從來ノ慣例カラ言ツテモ、日清戰爭ノ

場合モ、日露戰爭ノ場合モ、日獨戰爭ノ場合モ左様デアツテ、今日デハ一ツノ習律トナツテ來テ居ル、又憲法ノ明文デハ毎年議會ノ協贊ヲ經ベシト云フ、此ノ點カラ見テ、決シテ違憲トハ思ハナイト云フ政府ノ答辯ガアツタノデアリマス、又或ル委員ハ今度ノ改正案ハ已ムヲ得ヌモノデアルケレドモ、如何ニモ姑息デアアル、モウ少シ根本的ノ改正ヲヤツテ貫ヒタイト云フヤウナ希望モ述ベラレタノデアリマスガ、政府ノ言ハレル所ヲ是認致シマシテ、滿場一致會計検査院法中改正法律案ヲ委員會ニ於テ可決致シマシタ、第二ノ委託又ハ郵便ニ依ル戶籍届出ニ關スル法律案デアリマス、今回ノ事變ニ際シマシテ、戰鬪其ノ他ノ公務ニ從事スル者ガ、自ラ戶籍ノ届出ヲ爲スコトガ困難デアリマスルガ爲、其ノ届出ヲ委託ヲ爲ス事例ガ少クナイサウデアリマス、ソレデ既ニ婚姻關係ガ成立シテ居リナガラ、其ノ届出ガ未ダ濟ンデナイ者ガ、戰鬪其ノ他公務ニ從事スルニ當リマシテ、戶籍ノ届出方ヲ委託シテ置キナガラ、其ノ届出ノ爲サルル前ニ委託者ガ名譽ノ戰死ヲスルニ至ツタト云フヤウナ事例ガ、相當ニアルサウデアリマス、斯ウ云フ場合ニ於キマシテハ、委託者ノ死亡後ト雖モ、委託ニ基キ有效ニ届出ヲ爲シ得ルモノトスト云フコトガ、本人ノ意思ニ適フノミナラズ、遺族ノ身分關係、其ノ他諸般ノ關係ヲ整理スルニ必要ナルコトハ申スマデモアリマセヌ、從來ノ取扱上モ、斯ル届出ハ受理セラレテ居ツタサウデアリマスルガ、現行法上疑義ノ起ル餘地ガ全クナイトハ申サレヌサウデアリマスカラ、明文ヲ以テ委託者ノ死亡ノ時ニ遡ツテ效力ヲ生ズルト云フコトニ規定ヲサレマシタ、尙ホ一般ノ届出人ノ郵送シタル戶籍ノ届出ガ、届出人ノ死亡後ニ戶籍役場ニ到達致シマシテ受理セラレル場合モ、從來往々ニシテ起ルサウデアリマス、此ノ場合モ前ノ場合ト同様、届出人ノ死亡ノ時ニ遡ツテ效力ヲ生ズルコトガ當然ダト云フコトデ、委員會ニ於キマシテモ政府ノ説明ヲ諒ト致シマシテ、是亦滿場一致ヲ以テ可決致サレマシタ、第三ノ大正十一年法律第五十二號中改正法律案、此ノ法律ハ御承知ノ通り農業統計及ビ勞働統計ノ實地調査ニ關スル法律デアアルノデアリマス、今次事變ニ際會致シマシテ、生産力擴充ノ爲ニ、技術者ノ地位ガ著シク重要視サレテ參ツタノデアリマス、之ニ關スル統計資料ノ整備ガ急務トナツテ參リマシタ、仍テ技術者ニ關スル實地調査ヲ

モ、此ノ法律ニ基キテ施行シ得ルヤウニ、此ノ法律ニ追加ヲシヨウト云フノデアリマス、別ニ
 質問等モナク、是亦滿場一致ヲ以テ可決セラレタノデアリマス、次ハ裁判所構成法中改正法律
 案、本案ハ地方裁判所及ビ検事局ニ書記長ヲ置クト云フ案デアリマス、現在裁判所及
 ビ検事局ニ勤務ヲ致シテ居リマスル書記ノ總數ハ六千名ヲ超過シ、其ノ下ニ執務スル雇員其ノ
 他ノ職員ハ之ニ倍加シ、加フルニ執達吏、司法書士等ノ附屬吏員ノ數モ少クナイノデアリマス
 ルガ、之ガ直接指揮監督ノ任ニ當ツテ居ル者ハ、高等官トシテハ僅ニ大審院及ビ検事局、竝ニ
 控訴院及ビ検事局ニ書記長ガアルニ止マリマシテ、地方裁判所及ビ検事局以下ニハ、總テ判任
 官タル監督書記ヲ以テ之ニ充テテ居ル状態デアリマス、此ノ故ニ監督書記ヲ高等官ニ昇格セシ
 メマシテ、部下職員ノ指揮監督ニ萬全ヲ期スルト共ニ、判任官タル裁判所書記ノ高等官ニ進出
 スルノ途ヲ開キテ、サウシテ一面ニ於テ是等ノ人々ノ志氣ヲ鼓舞スルコトハ、司法事務ノ改善
 刷新ノ上ニ大イニ裨益スル所アリト、斯ウ云フ政府ノ説明デアリマシテ、委員ハ之ヲ諒ト致シ
 マシテ、是亦滿場一致ヲ以テ可決セラレタノデアリマス、次ハ恩給法中改正法律案、此ノ恩給
 法ノ改正法律案ハ、御承知ノ通り三ツノ點ニ改正ガ加ツテ居ルノデアリマス、第一ハ加算年ノ
 規定ノ改正、第二ハ普通恩給ノ停止ノ規定、第三ハ扶助料ヲ受タル遺族ノ範圍ノ擴張、斯ウ云
 フ三ツノ點デアアルノデアリマス、現行恩給法ノ加算年ノ割合ハ、今日ノ事情カラ考ヘテ見マシ
 テ、必ズシモ適當デナイノデアリマシテ、戰地外職務加算、外國鎮戍加算及ビ外地ノ在勤加算
 ノ加算年ノ割合ハ、之ヲ低減スルト共ニ、又各般ノ情勢ニ依リマシテ、新ニ戰車加算ヤ滿洲國
 ノ國境警備ニ居ル人ニ加算ノ規定ヲ設ケマシテ、不備ヲ補ツタノデアリマス、更ニ恩給ノ停止
 規定、三十歳未滿デ普通恩給ヲ受クル者ノ恩給停止率ヲ増加致シマシテ、又恩給以外ノ多額ノ
 所得アル者ノ普通恩給ノ停止ノ範圍ヲ擴ゲルト共ニ、其ノ停止ノ割合ヲ増加シタノデアリマ
 ス、更ニ委託又ハ郵便ニ依ツテ戶籍ノ届出ヲ爲シ、公務員死亡後是ト戶籍ヲ同ジクシタ者、所
 謂内縁ノ妻ヤ子ト云フモノヲ恩給法ニ依ル遺族トシテ取扱ヒ、之ニ扶助料カ一時扶助料ヲ給ス
 ルヤウニスル、斯ウ云フ點デアアルノデアリマス、此ノ改正案ノ委員會ハ三月八日カラ數回ニ互

リマシテ開會ヲ致シマシタガ、各委員カラ非常ナ熱心ナル質疑ガアリマシテ、政府委員カラモ
 亦詳細答辯ガゴザイマシタカラ、其ノ主ナルモノヲ一ツ申上ゲテ見タイト思ヒマス、第一ハ、
 三四十歳ノ若サデ恩給ヲ受クル者ヤ、多額ノ所得アル者ノ恩給ハ、全部之ヲ停止スルカ、或ハ
 停止率ヲモット高クシテハドウカト云フ點デアリマスガ、之ニ付キマシテ政府委員カラハ、
 若クシテ恩給ヲ受クル者ハ、主トシテ陸海軍ノ下士官ヤ、巡查等ノ警察官ノ下級ナ者デアリ、
 又多額ノ所得者モ、所得ガアレバアル程出費ヲ伴フノデアリシ、今回ハ更ニ所得税法モ改正セ
 ラレテ、増率セラレルヤウナ状態デアリマスノデ、政府トシテハ結局改正案ノ率ガ適當デア
 ル、斯ウ云フ答辯ガアツタノデアリマス、次ニ官吏ヤ軍人ノ中デ、判任官ヤ下士官等ノ下級者
 ノ恩給ヲ増額スル意思ハナイカト云フ質疑ニ對シマシテハ、名譽アル戦死者ノ遺族ヤ戦傷者ノ
 恩給ハ、既ニ昭和十三年ニ大幅ナ増額ヲ致シタノデアリマシテ、之ヲ増額スル者ハ今ノ所ハナ
 イ、他ノ公務員ノ恩給ハ是ノ基礎トナル俸給ノ増額ガ、目下ノ所色々ノ理由デ抑ヘラレテ居ル
 關係モアリ、旁、恩給ノミヲ増額スルコトハ困難ダト云フ答辯ガアツタノデアリマス、ソレカ
 ラ現行恩給法ハ色々ナ點ニ於テ現状ニ伴ハナイ點ガアリマスカラ、是ガ根本的改正ヲ圖ルノ希
 望意見等ガアリテ、是ハ全員一致ノ希望デアリマスノデ、政府ニ於テモ近キ將來ニ於テ根本的
 改正ヲ斷行セラレルコトヲ、特ニ委員會デハ希望致シテ置キマシタ、其ノ他色々質問應答ガア
 リマシタガ、是等ノ詳細ナ點ニ付テハ、速記録ニ依ツテ御覽ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、
 以上ノ理由ニ依リマシテ、會計検査院法中改正法律案外四案ハ、委員會ニ於テハ滿場一致ヲ以
 テ可決セラレマシタ、以上御報告申上ゲマス

院議異議ナク五案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ各原案ノ通
 可決シ即日本案及七八、八一ノ三案ハ貴族院ニ送付シ、五八及六一ノ兩案ハ即日裁可ヲ奉請シ其
 ノ旨貴族院ニ通知ス

貴族院ニ於テハ三月二十二日本案ヲ可決奏上ス

三月二十八日本案ハ法律第二十號ヲ以テ公布セラル

六九 職業紹介法中改正法律案

職業紹介法中左ノ通改正ス

第七條 削除

第十四條中「町村ニ關スル規定ハ町村ニ準ズベキモノニ、」ヲ削ル

附則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ昭和十五年二月二十一日本院ニ提出ス同月二十九日本案ノ第一讀會ヲ開キ吉田厚生大臣ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只今議題トナリマシタ職業紹介法中改正法律案ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、現行ノ職業紹介法ハ施行以來既ニ一年有半ヲ經過致シマシタガ、其ノ間支那事變ノ進展ニ伴ヒマシテ、職業紹介事業ハ専ラ軍需勞務、生産力擴充計畫、産業勞務等、刻下最モ緊急ナル勞務ノ需要ヲ充タス爲ノ勞務者斡旋ニ銳意努力シナケレバナラヌヤウニ相成リマシタノミナラ

ズ、職業紹介所ニ於テハ國家總動員法ニ基ク各種ノ勞務規制ニ關スル事務ヲモ管掌スルヤウニ相成リマシタノデ、地方財政ノ實情ヲモ併セ考慮致シマシテ、職業紹介所並ニ聯絡委員ニ關スル費用ノ地方負擔ヲ廢止致シマスル爲ニ、此ノ改正法律案ヲ提出スルニ至リマシタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上速ニ御協賛ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス

井上良次君質疑ヲ爲シ吉田厚生大臣應答ス

井上良次君ノ質疑

只今上程ニナリマシタ職業紹介法中改正法律案ニ關聯ヲ致シマシテ、以下數點政府ノ所信ヲ質シタイト考ヘルノデアリマス、現下日本ガ全總力ヲ擧ゲテ戰ヒツツアリマス支那事變ノ處理モ、歐洲戰亂ノ勃發ニ依ル我國ノ國防ノ完成ニ對シテモ、實ニ我國生産力ノ擴充ガ、現下日本ニ課セラレタ絶對的ナ命題デアルト私ハ考ヘルノデアリマス、國家ノ有ユル統制政策モ、亦國民ノ總テノ生活モ、此ノ生産力擴充ニ一切ガ制約サレテ居ルト私ハ思フノデアリマス、國家ハ此ノ生産力擴充ノ爲ニ、金ト物ト人ヲ動員シ統制シツツアルノデアリマスガ、金ト物トノ動員モ、結局人ノ問題ニ依ツテ決定サレルト私ハ考ヘル、如何ニ豊富ナ資金ト資材トヲ以テ生産施設ヲ致シマシテモ、ソレニ伴フ所ノ勞働力ガ十分ニ充足サレナケレバ、生産力ノ擴充ノ目的ヲ達スルコトハ覺束ナイコトニナルノデアリマス、サウ考ヘマスト、生産力ノ擴充ノ基本的前問題、先決ナ問題、ソレハ實ニ優レタル勞務動員計畫ノ樹立ト勞働行政ヲ整備擴充スルニアルト私ハ思フノデアリマス、然ルニ政府ハ今次事變ガ勃發致シマスヤ、眞先ニ金ト物トノ統制ヲ決行シ、資金調整、爲替貿易ノ管理、金ノ買上、更ニ又物資動員、物價公定、配給調整ナドヲ行ヒ來リマシテ、最後ニ勞働統制ニ手ヲ著ケタノデアリマス、而モ此ノ勞働統制モ金ト物トノ統制シタノト同ジク、自由主義營利經濟ノ範疇ニ於テ之ヲ行ツテ居ルノデアリマス、故ニ今日マデ發令サレマシタ所ノ各種ノ勞働統制ニ關スル法令規則ハ、既ニ今日幾多ノ矛盾ト缺陷ヲ暴露致シマシ

テ、労働ノ生産性ノ向上ト生産力擴充ヲ現實ニ阻碍シテ居ル現状デアリマス、政府ハ金ト物ヲ中心ニ統制スルナラバ、戦時下ノ生産力擴充ニ支障ガナイト考ヘテ、労働統制ヲ重要視セズ、而モ場當リノ行ツテ來タノデナイカト云フコトヲ疑ハレルデアリマス、政府ハ常ニ金ト物ト並行シテ労働ノ統制ヲシテ來タノデアツテ、決シテ労働統制ヲ輕視シタノデナイト辯明サレルカ知レマセヌガ、現實ニ行ツテ居ル所ノ労働統制ハ、常ニ金ト物トノ統制ガ出來テ、後カラ慌テマクツテ労働統制ヲ行ツテ居ル現状デアリマス、此ノ點ニ關スル政府ノ所見ハ如何デアリマセウカ、伺ツテ置キタイト思フノデアリマス、次ニ政府ハ現在行ツテ居ル所ノ労働統制——職業紹介事業ノ目標ヲ一體何處ニ置イテ居ルカ、政府ガ今日マデ行ヒ來ツタ所ノ戦時下ノ労働統制、別ケテモ今議題ニナツテ居リマスル所ノ職業紹介事業ハ、資本家ノ營利生産ノ助成機關トシテ、補助行政機關トシテ活動シテ居ルヤウニ、一般労働大衆ハ疑ツテ居ルデアリマス、今日全國ニ行ハレテ行ル職業紹介事業ハ、舊態依然トシテ労働者ノ性格モ、技術モ、生活モ全然顧ミズ、單ニ營利追求ノ産業部面ノ労働事情ニ應ジマシテ、機械的ニ労働者ヲ動員シ、統制シ、紹介シテ居ル現状デゴザイマシテ、労働ノ神聖モ、労働ノ社會的、國家的價値モ全然之ヲ否定シテ、労働ヲ全ク一個ノ商品トシテ、労働ノ切賣ヲ強制シテ居ル現状ニアルノデアリマス、斯ノ如キ性格ニ於テ行フ紹介事業ガ、國家ノ生産力擴充ノ根本の方針ニ副ウテ居ルト政府ハ考ヘテ居ルカドウカ、政府ノ労働統制ハ是デ宜イノカ、政府ハ労働動員、職業紹介ノ本質的ノ役割ト目標ヲ一體何處ニ置イテヤツテ居ルカ、政府ノ御所見ヲ伺ヒタイト思フノデアリマス、今ヤ日本ハ今次事變ニ依ツテ歴史のナ興亞ノ一大事業タル東亞協同體建設ノ爲ニ國家的ノ運命ヲ賭シテ戦ツテ居リマス、サレバ我國ノ産業モ労働モ、此ノ國家ノ目的達成ノ生命線トシテ、新ナ觀點ニ立ツテ再編成ト再出發スル必要ガアルト考ヘルノデアリマス、即チ工場ニ於テハ經營者ト技術者ト労働者ガ、國家目的達成ノ爲ニ各自ノ持ツテ居ル最モ優レタル腦ト技術トヲ最大限ニ發揮致シマシテ、ソレガ完全ニ役立つ所ノ協同體組織ニ工場ノ經營ヲ再編成セナケレバナラヌト私ハ信ズルノデアリマス、政府ノ労働統制或ハ又職業紹介ガ、此ノ立

場ト目標ニ立ツテ行ハレル時ニ、初メテ政府ノ労働統制ト職業紹介ハ、國家目的達成ノ使命ヲ果ス所ノ機關トシテ、大キナ役割ヲ果スコトガ出來ルト考ヘマスガ、政府ノ考ヘ方ハ如何ナモノデゴザイマセウ、次ニ政府ガ労働者ヲ國家目的達成ノ立場ニ於テ労働行政ヲ統制シヨウト致シマスナラバ、現實ニ於テ労働生産性ヲ昂メ、國家ノ生産力擴充ノ見地カラ行フ爲ニ、少クトモ政府ハ複雑極マル労働賃銀ヲ速ニ適正化スル必要ガアルト考ヘマス、今日一般労働大衆ハ政府ノ低物價政策ニモ拘リマセズ、生活必需品ノ不足ト騰貴ニ、其ノ生活ハ全ク行詰ツテ居ルノデアリマス、今茲ニ去ル二月二十六日東京市カラ發表致シタ生活必需品ノ騰貴振ヲ示シマスト、昭和十二年七月ヲ百トシテ、飲食料品ニ於テ一七・四・五、七割四分五厘ノ暴騰デアリ、住居用品ニ於テ一六・九・七、六割九分七厘、被服裝品ニ於テハ實ニ二一・四・二、一割四分三厘ノ暴騰ヲ示シテ居ルノデアリマス、斯ノ如ク諸物價ガ暴騰シテ居ルニモ拘ラズ、賃銀ハ昨年ノ九月十八日ノ「ストップ」令以來釘付ケサレマシテ、労働者ノ生活ヲ全ク動キノ取レヌ状態ニ追込シテ居ルノデアリマス、正直デ辛抱強イ労働者モ此ノ物價騰貴ノ結果脅カサレル生活苦ニ堪ヘ切レズシテ、遂ニ不平ノ聲ガ全国各地ニ爆發シテ居リマス、昨年末政府ノ發表致シマシタ労働争議件數一千餘件ノ中、生活問題ヲ中心トスル労働争議ノ件數ハ六百餘件ニ達シテ居ルノデアリマス、政府ハ労働大衆ヲ斯ノ如キ生活不安ノ現状ニ放置シテ宜イト御考デゴザイマセウカ、政府ハ不徹底極マル家族手當ニ依ツテ此ノ不平ヲ緩和セントシテ居ルヤウデアリマスケレドモ、一箇月一枚ノ「シヤツ」サヘ満足ニ買フコトノ出來得ナイヤウナ少額ナ手當ニ依ツテ、物價騰貴ニ泣イテ居ル労働大衆ヲ満足セシメ、救済スルコトガ出來ルト考ヘテ居ルノデアリマセウカ、政府ハ資本家ノ物資不足、或ハ又物價騰貴ニ因ル不平ニ對シマシテハ、大膽率直ニ各種ノ獎勵金、助成金ヲ出シテ之ヲ救済シ援助スルコトニ少シモ躊躇セナイノニ、何故ニ同ジ國民デアリナガラ、而モ國家ノ生産力擴充ノ實權ヲ握ツテ居ル大切ナ國民デアアル労働者ニ對シテ、其ノ生活ヲ保障スルコトガ出來ナイノデアリマセウカ政府ハセメテ勤勞大衆ノ生活保障ノ原則ニ立ツテ米、炭、醬油、鮮魚、野菜、是等生活必需品ダケデモ不安ナク生産労働者ニ配給ガ確保出來ナイデゴザイマセ

ウカ、此ノ問題ニ對スル政府ノ御意見ヲ伺ヒタイノデアリマス、唯名調子ノ其ノ場逃レノ答辯ニ依ツテ斷ジテ勞働能力ハ發揮スルモノデハゴザイマセヌ、少クトモ最高ノ勞働能力ヲ發揮スルニハ、ソレヲ補給スル所ノ「カロリー」ヲ勞働者ニ與ヘナケレバナリマセヌ、自動車ハ「ガソリン」ガナケレバ動カナイ、火力發電所ハ「カロリー」ノ高イ石炭ガナイト發電ヲシナイ、腹ガ空ツテハ戰ガ出來ヌト云フコトハ昔カラ言ハレテ居ル、此ノ洵ニ平凡ナ原理ヲ政府ハ理解シナイノデアリマセウカ、吾々ハ洵ニ遺憾ニ存ズルノデアリマス政府ガ偶々手ヲ著ケタ賃銀統制令ニ依ル初給賃銀ノ決定モ、彼等初給賃銀者ノ生活ヲ保障スルコトガ目的デナクテ、勞働力ノ偏在ヲ是正シ、高マリ行ク賃銀ヲ食止メントシタニ拘ラズ、却テ地區のニ産業的ニ勞働力ヲ偏在セシメ、適地、適業ノ立地の産業ノ發展ヲ阻碍シ、適用産業以外ノ産業ニ於ケル初給賃銀トノ間ニ不均衡ヲ助成シテ、政府ノ初給賃銀ノ決定ハ今ヤ全ク當初ノ目的ヲ完全ニ裏切ツテ居ルノデアリマス政府ハ新規學校ノ卒業者ガ高賃銀産業ニ行クコトヲ食止メントシテ、青少年雇入制限令ヲ三月一日ニ發布シテ全國六百七十萬ノ青少年ヲ釘付ニセントシテ居リマス、如何ニ法規命令ヲ以テ勞働ノ移動偏在ヲ食止メントシテモ、利潤追求ノ生産方法ヲ改革セズシテ、勞働者ノ生活ヲ保障スルニ足ル賃銀ヲ決定シナイ限り、勞働者ハ生キンガ爲ニ、食ハンガ爲ニ、高イ賃銀ト短イ勞働時間ヲ追ツテ移動シテ行クト云フコトハ當然デアリマス、産業資本家ノ利益ヲ護ルノニ大膽デアリ勇敢デアアル政府ガ、何故勞働者ノ生活ノ基礎タル賃銀ノ適正化ヲ圖ル勇氣ヲ持タナイカト云フコトデアリマス、政府ハ勅令ニ依ル賃銀委員會ヲ持ツテ居ル、何故此ノ賃銀委員會ヲ積極的ニ活用シテ、全般的ニ賃銀問題ノ解決ヲ圖ラナイカ、政府ハ初給賃銀ヲ改正シ、適正賃銀ヲ決定スルノ意思ガアルカドウカ、更ニ政府ハ適正賃銀ノ公定マデ、差當リ勞働者ニ對シテ戰時増産獎勵手當ト云フガ如キモノヲ新設シテ、戰時下勞働者ノ生活ヲ保障スルノ意思ガアルカドウカ、是等賃銀問題ニ關シマシテハ、全國六百萬ノ勞働者ガ地下二千尺ノ坑内ニ於テ、或ハ「ベルト」ノ呻ル工場ニ於テ、或ハ寒風吹キ荒ブ街頭ニ於テ、海ニ陸ニ於テ、大臣ガ此ノ問題ニ如何ニ答辯サレルカト云フコトヲ期待シテ居ルノデアリマス、是等全勞

働大衆ニ喜ビト希望ヲ與ヘテ、熱情ヲ以テ生産力擴充ノ國家的目的達成ノ爲ニ働カスコトガ、戰時下我國ノ産業勞働ヲ管掌スル厚生大臣ノ責任デアリ任務デハナイカト云フコトヲ吾々ハ考ヘルノデアリマス、大臣ノ確信アル答辯ヲ私ハ要望シテ置キマス、更ニ政府ハ此ノ賃銀問題ト不可分關係ニアリマス勞働時間制ニ付テ速ニ檢討ヲ加ヘ、各産業別ニ何レノ勞働時間ガ最モ能率ガ舉ルカト云フコトヲ決定セネバナリマセヌ、勞働者ヲ國家産業ノ中堅トシテ國家ノ爲ニ働カス爲ニハ、政府ガ適正ナ勞働時間ヲ決メズニ、勞働者ヲ徒ラナ長時間勞働ニ放任シテ置クコトハ、災害ト疾病ヲ益、高メテ、我國ノ國防上産業上重大ナ支障ヲ來シツツアルコトハ、今日マデ幾多ノ統計ガ之ヲ示シテ居リマス、政府ハ速ニ適正勞働時間ヲ決定スルノ意思アリヤ否ヤ、其ノ意思アリトスルナラバ、イツ頃マデニソレヲ決定發表スル方針ナリヤ、此ノ際承ツテ置キタイト思ヒマス、次ニハ現在行ツテ居ル勞務動員計畫ト、勞働不足ノ對策ニ付テ政府ノ所信ヲ質シテ置キタイト思フノデアリマス、支那事變ノ發展ニ伴ヒマシテ軍需産業ヲ先頭トスル時局産業ハ飛躍的ノ發展ヲ遂ゲ、此ノ爲ニ多數ノ勞働者ヲ必要トシ、且ツ現役勞働者ガ第一線ヘ應召サレ、又第一線ノ占領地區ガ擴大サレルニ從ツテ、大陸ヘ進出スル勞働者ガ非常ニ多クナツテ來タ、斯クノ如ク事變ノ進展ニ伴ツテ勞働不足ノ結果ハ全國的ニ有ル産業部面ヲ脅カシテ、生産力擴充ニ重大ナ支障ヲ來シテ居ルノデアリマス、如何ニ生産施設ヲ完備シ、資材ヲ豊富ニ集メテモ、肝腎ノ勞働力ガ不足シテハ、聖戰目的達成ノ爲ノ生産力擴充ヲ圖ルコトハ出來ナイノデアリマス、政府ハ昭和十四年漸ク勞務動員計畫ヲ設定シ、先ヅ重要時局産業ニ對スル勞働需要ノ充足ヲ圖ラントシテ、全國三百四十餘ノ國營ノ職業紹介所ヲ總動員シテ、僅ニ二十萬人ヲ動員シ、之ヲ重工業部面ニ紹介シタニ過ギナイ、百名ノ勞働需要ニ對シテ僅ニ三十人シカ紹介充足出來ヌ状態ニアルノデアリマス、政府ハ昭和十四年ノ勞務動員計畫ハ百十萬人デアツテ、員數ノ上デハ略々目的ヲ達シタト樂觀的ノ報告ヲシテ居リマスガ、現下軍需産業ノ生産力ノ擴充愈々熾烈ヲ加ヘレバ加ヘル程、勞働ノ要求モ亦殖エテ來ルノデアリマス、其ノ上ニ輸出促進、國民生活安定ニ必要ナル生産部門ノ擴充、斯ウ云フ點ヲ考ヘ合セマスト、益々勞働需要ハ増大

シテ來マス、更ニ又中國ニ於ケル新秩序ノ建設ガ一日ト進ムニ從ヒマシテ、大陸ニ進出スル勞働者モ亦増加シテ行キマス、斯クナツテ來マス、昭和十五年以降昭和十八年ニ至ル生産力擴充計畫ニ伴フ勞務動員計畫ハ、圓滑ニ進行スルデアロウカ政府ニ於テ其ノ確信ガアルカドウカ、新規ニ動員スル人員ハ年々増加スルト考ヘルガ、如何ニシテ此ノ勞働不足ノ現狀ヲ政府ハ打開セントスルカ、政府ノ御所見ヲ伺ツテ置キタイノデアリマス、私ハ此ノ勞働不足ノ現狀ヲ打開スルノニハ、先ヅ國內ノ生産力ガ機械生産ニ重點ヲ置カズニ、勞働生産力ニ依存シテ居ル現狀ヲ改メテ、投下資本ヲ擴大シテ、機械力ニ依ル生産性ノ向上ニ全力ヲ擧ゲナケレバナリマセヌ、ソレト共ニ國內ノ限ラレタ現役勞働者ノ生産性ヲ高メマスコトニ必要ナル、經濟的ナ文化的ナ對策ヲ速ニ樹立致シマシテ、勞働ノ保護培養ニ努メナケレバナラヌト考ヘマス、然ルニ政府ハ此ノ勞働不足ノ聲ニ驚イテ、最近炭礦方面ニ朝鮮ノ勞働者ニ二万五千人移入シ入坑セシメヨウトシマシテ、現在既ニ一萬五千人ヲ移入充足シタヤウナ報告ヲ承ツテ居リマス、更ニソレデ足ラヌ場合ハ、山東ノ勞働者マデ輸入セントスルヤウナ噂サヘアルノデアリマス、政府ハ是等移入シテ參リマス半島勞働者ト國內ノ勞働者トノ間ニ捲起ル所ノ待遇其ノ他ノ諸問題ニ對シテ、如何ニ今後之ヲ緩和シ解決スル所ノ方針ヲ持ツテ居ルカ、此ノ問題ニ對シテハ極メテ重大ナ問題ガ起ツテ來マスカラ、今日之ヲ承ツテ置キタイト思フノデアリマス、更ニ事變處理ノ進行ニ伴ヒマシテ前線將士ガ多數歸還ヲシテ來マス、サウシテ是ガ新ニ工場ニ復員ヲスルノデアリマスガ、是等復員問題ニ對シ確信アル對策アリヤ、更ニ又將來ノ失業問題ニ對シマシテ、今日慎重ナ對策ト方針ヲ決メナケレバナラヌノデアリマスガ、ソレニ對スル準備ヲ進メテ居ルカドウカ、次ニ此ノ勞働不足ノ對策トシテ、政府ハ婦人勞働者ヲ産業戰線ニ積極的ニ動員セントシテ居リマスガ、婦人ガ産業戰線ヘ進出スルト云フコトハ、我國將來ノ人口問題ノ上ニ極メテ重大ナ關係ヲ持ツテ來ルノデアリマス、第一次歐洲大戰ニ於キマシテモ、或ハ又今次我國ガ支那事變ヲ戰ヒ抜イテ來タ過去二箇年半ノ跡ヲ振返ツテ見マシテモ、我國人口動勢ノ上ニ明瞭ニソレガ現ハレテ來テ居ルノデアリマス、日本ガ東亞新秩序ノ建設ヲ強行シテ大陸ニ進出發展セントスル爲ニ、人

口ノ急速ナル増加ヲ圖ルト云フコトハ、國家的ニ又民族的ニ絶對的ナ要望デアリマス、此ノ人口増加ト云フ國家的民族的ノ要望ヲ達成スル爲ニハ、婦人ノ職業ト生活ト健康ヲ國家的ニ保障セネバナリマセヌ、然ルニ婦人ヲ勞働戰線ニ動員スルニ際シテ、婦人ノ健康ニ適スル産業、職業ヲ指定シ制限セズ、又勞働時間、賃銀、榮養、寄宿、等ノ諸問題ニ對シテモ考慮ヲ拂ハズニ、政府ハ現在勞働シテ居ル百二十萬ノ勞働婦人及ビ將來動員サレル勞働婦人ノ健康ヲ如何ニシテ保護セントスルカ、又如何ナル對策ヲ持ツテ居ルカ、更ニ又人口問題ノ不安ヲ除去スル具體的ナ對策トシテハ、如何ナル對策ヲ御持チニナツテ居リマセウカ、極メテ重大ナル問題デアリマスノデ、御意見ヲ伺ツテ置キタイト思フノデアリマス、今一ツハ政府ハ現下ノ勞働不足ノ對策ト致シマシテ、來ル三月一日ヨリ前ニ述ベマシタ青少年雇入制限ヲ行ハントシテ居ルノデアリマスガ、是等青少年雇入制限ニ適用サレル人員ハ、全國テ約五百万人ト言ハレテ居リマス、是等青少年ハ我國産業上國防上極メテ重大ナル要素デアルト云フコトヲ吾々ハ考ヘル時ニ、政府ハ此ノ際今一步進ンデ前述ノ婦人勞働者ヲ含ム青少年ノ生活ト職業ヲ、國家デ管理スルト云フ方針ヲ執ツテハドウカ、政府ハ近ク青少年ニ對シマシテ體力ノ國家管理ヲ爲スノ法案ヲ此ノ議會ニ提出ヲスルサウデアリマスガ、體力國家管理、洵ニ結構、併シナガラ青少年ノ今日ノ體力ガ何ニ依ツテ阻碍サレテ居ルカト云フナラバ、彼等ノ日々ノ生活ト勞働ガ、青少年ノ體力ヲ阻碍シテ居ル現狀ヲ吾々ハ事實能ク知ツテ居ルノデアリマス、故ニ政府ハ此ノ際青少年ノ生活ト職業ヲ含ム所ノ國家管理ヲ斷行スルコトガ、我國産業上國防上極メテ重大デアルト考ヘマスガ、政府ニ其ノ勇氣ト決心ガアルカト云フコトヲ伺ツテ置キタイノデアリマス、最後ニ、政府ハ曩ニ厚生省ヲ設置スルニ際シマシテ、各省ニ分散シテ居リマス勞働行政ヲ統一致シマシテ、サウシテ全國ノ勞働行政ヲ厚生省ノ手ニ完全ニ統一セントスル計畫ヲ立テラレタヤウニ承ツテ居リマス、所ガ今日マデソレハ實現シテナイ、陸軍、海軍各、バラバラナ勞働行政ヲ行フ、鐵道、遞信是亦バラバラナ勞働行政ヲ行ツテ、必要ナ時ダケ連絡ヲ取ルダケデアツテ、何等ノ統一ナ政策ガ行ハレテ居ナイ、産業報國運動ヲ行フニ致シマシテモ、是等各省ガ統一ナ線ニ乘

ツテ來ナケレバ、政府ノ今ヤツテ居リマス所ノ産業報國運動サヘ満足ニ發展ヲシナイト云フコトヲ吾々ハ考ヘル、ソコデ政府ハ是等各省ニ分割サレテ區々ノ勞働行政ヲ行ツテ居ル各省ノ勞務行政ヲ統一シテ、全勞働者ノ勞務行政ト動員ヲ含ム一大中央機關ヲ厚生省ニ設置スルコトガ、現下時局上、今後ノ我國ノ生産力擴充上、極メテ重大デアルト考ヘマスガ、政府ニ其ノ意思アリヤ否ヤ、伺ツテ置キタイノデアリマス、以上各項目ニ互リマス質問ハ、今日我國生産力擴充ニ重大ナル關係ヲ有スル諸問題デアリマシテ、政府ガ心ノ底カラ生産力擴充ヲ速ニ完成セントスル熱情ガアルナラバ、營利追求ノ資本閥ノ攻勢ニ恐レズ、眞ニ勞働ヲ愛シ、國家産業ヲ護リ、發展セシメントスル見地カラ、大膽率直ナル御答辯ヲ要求致シマシテ、私ノ質問ヲ終リマス

吉田厚生大臣ノ應答

御質問ノ順序ニ從ヒマシテ逐次御答ヲ申上ゲタイト思ヒマス、第一ニ生産力ノ擴充ヲ實行シテ參ルニ付テ、徒ニ金ト物トノミニ囚ハレテ人ヲ輕ンズルノ嫌ハナイカト云フ趣意ノ御尋デゴザイマス、固ヨリ左様ナコトガアツテハナラナイ次第デアリマシテ、金、物共ニ必要デアリマスルガ、此ノ金、物ヲ運營スルニ付キマシテハ、人ガ中心ニナラナケレバナラナイ次第デゴザイマス、殊ニ我國ニ於キマシテ一切ノ産業人ガ、經營主ト云ハズ、或ハ技術家ト云ハズ、勞務者ト云ハズ、國家産業ニ關與致シマスル建前ト致シマシテハ、國家産業ヲ通ジマシテ御國ノ大切ナ御用ニ立ツト云フコトガ中心デナケレバナラナイト思フノデアリマス、一切ノ施設ハ其ノ根本ヲ誤ラナイヤウニ致サナケレバナラナイコトヲ、日常深ク心掛ケテ居リマスル積リデゴザイマス、次ニ職業紹介ノ目標ヲ何處ニ置イテオクカ、勞務ヲ商品ト考ヘルヤウナ嫌ヒハナイカト云フ御尋デゴザイマス、從前或ハ歐羅巴流ノ産業經營ト云フヤウナコトニ付テノ考ヘ方カラ、或ハ勞働ヲ商品ト考ヘルカノ如キ、又ハ勞働市場ト云フヤウナ言葉ガ其ノ爲ニ出タ如キコトモアツタカト率直ニ申セバ思ハレルノデアリマスガ、勞働ヲ商品ト考ヘテ、之ヲ値段デ賣買ヲス

ルト云フヤウナコトハ、最初ニ申シマシタ、人ノ奉仕ト云フコトヲ以テ産業ノ中心トスルト云フ考ノ上カラ、其ノ誤ヲ正サナケレバナラナイト考ヘルノデアリマス、職業紹介所ニ於キマシテ勞務者ノ斡施、御世話ヲスルト云フコトガ、商店ニ於テ商品ヲ賣買スルノト同ジヤウナ考デアツテハ決シテナラナイト思フノデアリマス、何處マデモ國家産業ニ取ツテノ有用ナ國民ノ産業職場ニ付キマシテノ御世話ヲ、最モ懇切丁寧且ツ周到ニ致スト云フコトガ、職業紹介事業ノ眼目デナケレバナラナイト思ヒマス、其ノ方面ニ於キマシテ十分係ノ職員達ノ訓練、鍊成、指導ト云フモノニ、遺憾ナキヲ期シテ參リタイト考ヘテ居ル次第デアリマス、次ニ經營ト、技術ト、勞働トノ完全ナ協力結合ヲ實現スル爲ニ、日本ノ産業形態ノ再編成ヲスル意思ハナイカト云フ御尋デアツタヤウニ思フノデアリマス、先刻モ申シマスル通りニ、我國ニ於ケル産業ハ何處マデモ國家社會ニ寄與スル、今日ニ於テハ殊ニ産業界ニ於ケル戰時體制ヲ確立スルト云フコトニ眼目ヲ置カナケレバナリマセヌコトハ御説ノ通りデゴザイマス、我國ニ於ケル産業ハ、本來左様ナ建前デ平時ニ於キマシテモ運營セラルベキデアルト思フノデアリマス、又私共承知致シテ居リマスル限り、左様ナ建前ニ依ツテ、勞資一體、共ニ御國ノ産業ニ寄與貢獻スルト云フ實際ヲ、今日實行シテ居ル職場モ少ナカラズアルト承知シテ居ルノデアリマス、隨テソレハ何等カノ法制ヲ出シマシテ、強制的ニサウ云フ組織ヲ確立スルト云フコトヨリハ、寧ロ事實左様ナ心組ミニ、今日ノ産業職場ヲ其ノ儘、詰リ心構ヘト云フモノヲ一新スルト云フコトニ依リマシテ、其ノ目的ヲ達成シ得ルモノト考ヘルノデアリマス、心構ヘガ改マリマセヌケレバ、唯形式ダケ是デ再編成ダト云フヤウナモノヲ法制ノ上デ定メマシテモ、畢竟ソレハ紙上ノ空文ニナツテシマツテ、魂ノ入ラナイ仕事ニナル虞ガ多分ニアルト考ヘマスルノデ、今日ノ所ニ於キマシテハ、出來ル限り左様ナ心構ヘノ確立ヲシ、ソレヲ職場ニ實踐スルト云フコトノ上ニ全力ヲ注イデ參リタイ、斯様ナ考デ居リマス次第デアリマス、次ニ賃金ノ適正化ヲ圖リ、速ニ適正賃金ト云フモノヲ確立スルコトガ大切デアルトノ御話デゴザイマス、是ハ洵ニ御尤モト存ジマス、御承知ノ通り今日一定産業、限ラレタ銃後ノ重要産業ニ付キマシテハ、初給賃金ノ規整ハゴザイマスル

ガ、ソレ以外ノ産業ニ付キマシテハ、初給賃金ノ規定モマダゴザイマセヌ、又初給賃金以外ノ熟練工ノ適正賃金ト云フモノガ定メラレテ居リマセヌ、恰モ物價ニ於ケルト同様ニ、又物價ノ基礎ヲ成シマスル大切ナ條件ト致シマシテ、適正ナ賃金ト云フモノガ確立セラレマスルコトハ、極メテ大切デアルト考ヘテ居リマスルノデ、今日マデ初給賃金ノ定メラレテ居リマセヌ分野ニ於ケル初給賃金ノ適正ナ定メ方、竝ニ初給賃金以外ノ賃金ニ付キマシテノ適正化ヲ圖リマスル爲ノ基準ノ決定ト云フコトニ付キマシテハ、御指摘ニナリマシタ通りニ、賃金委員會其ノ他ノ機構ヲ活用致シマシテ、出來得ル限リ速ニ其ノ何等カノ決定ヲ致シタイト思ウテ居ルノデアリマス、今日ハソレ等ノ決定ヲ致スコトニ付キマシテノ事務的準備、資料ノ整備等ニ、全力ヲ擧ゲテ居リマスル次第デアリマスルノデ、出來ル限リ速ニソレ等ノコトノ實行セラレマスルヤウニ努メル覺悟デ居リマス、尙ホ勞働爭議ノ最近ニ於ケル趨勢ハ、多ク生活ノ困難ト云フコトカラ來テ居ルモノガ多イノデハナイカト云フヤウナ御話デゴザイマス、左様ナモノガ可ナリ多數アリマスルコトハ事實デゴザイマス、幸ニシテ日本國民ノ時局ニ對スル覺悟認識カラデゴザイマスルカ、餘リ爭議ガ激増致シテ居リマセヌコトハ、國民奉仕ノ念ノ現ハレト致シマシテ、私非常ニ感激致シテ居ルノデアリマスガ、サレバト云ツテ國民ノ生活ガ困難ニナツテ宜シイト云フコトデハ決シテナイノデアリマス、戰時體制ヲ確立致シマス爲ニハ、戰時生活ノ確立、最低限度ノ生活ノ確保ト云フコトハ、何處マデモ大切ナコトデアリマスノデ、其ノ點ニ付キマシテハ、賃金政策カラ一方工夫致シマスルト同時ニ、生活必需品ノ價格ノ低下、ソレノ確保ト云フコトニ付キマシテハ、政府各方面全體トシテ協力致シマシテ、是非生活ノ安定ト云フコトヲ確保致シタイ心構ヘデ、種々工夫致シテ居ル次第デゴザイマス、是モ速ニ工夫ト云フコトノ域ヲ離レマシテ、出來得ル限リ速ニ實踐ニ入ラネバナラヌト云フコトハ、全ク御同感デアリマス、次ニ青少年ノ雇入制限令ニ依ツテ、銃後産業ニ必要ナ勞務ノ移動ノ規制ヲシテ居ルガ、ソレダケデハ十分デナイノデハナイカ、戰時ノ増産手當ト云フヤウナモノヲ規定スル意思ハナイカト云フ御尋デゴザイマス、御質問中ニ指摘セラレマシタ通りニ、今日ニ於ケル生活難ノ若干ヲ緩和致シマスル爲ニ、極メテ少額ノ家族

手當ト云フモノヲ支給スルコトニ致シマシタ、無論當局ハ此ノ家族手當ノミヲ以テシテ、勞務者ノ戰時生活ヲ確保シ得ル程十分ナモノデアルトハ考ヘテ居リマセヌ、只今申シマシタ通りニ速ニ適正賃金ヲ定メ、又出來得ル限リ實生活ニ必要缺クベカラザル品物ノ低下確立ヲ圖ルト云フコトニ全力ヲ注グコトト併セマシテ、初メテ家族手當モ其ノ意味ヲナスカト思フノデアリマス、只今規定致シ、支給致シテ居リマスル家族手當ハ、ホンノ臨時應急ノ急場ノ必要ニ應ズル爲ニ、甚ダ若干デアリマスルガ、政府ト致シマシテ出來得ル限リノ範圍ニ於キマシテ奮發シタト云フニ過ギナイ程度デアリマスルノデ、出來得ル限リ速ニ勞務者ノ生活確立ト云フコトノ上ニ於キマシテ見透シノ付キマスル、モツトシツカリシタ規定ニ直サネバナラヌト思フノデアリマス、其ノ名稱ヲ何ト名付ケルカト云フコトハ、必ズシモ例トシテ御擧ゲニナリマシタヤウナ名稱ニナリマスルカトウデアリマスルカ、ソレハ今日カラ豫メ御約束ハ出來ナイノデアリマス、事ノ實體ハ速ニ之ヲ實現スル必要アリト考ヘテ居ルノデアリマス、次ニ勞働時間制ノコトニ付テ御尋デゴザイマシタ、御承知ノ通りニ我國ノ勞働法制ニ於キマシテハ、勞務者ノ時間制ト云フモノヲ、全面的ニ一律ニ規定スルト云フヤウナコトヲ致シテ居リマセヌ、如何ナル時間ガ適當デアルカト云フコトハ、産業ニ依ツテ非常ニ違フト思フノデアリマス、又勞務者ノ性別ニ依リ、年齢ニ依リ、色々ナ條件ニ依リマシテ、適當ナル勞働時間ト云フモノハ違フト思フノデアリマスルガ、若シ此ノ時間ヲ誤ツテ過重ニ致シマスルト、長過ギル時間働イテ貰フト云フコトニ致シマスルト、却テ能率ノ低下ヲ來スバカリデナク、勞務者ノ健康ヲ損ヒ、製品ノ不合格品ガ多クナリ、災害ガ増加スル、諸々ノ禍ヲ生ズノデアリマスルノデ、適當ナ時間、適當ナ勞働方法ニ依リマシテ、勞務者ニ働イテ貰フト云フコトハ、ドウシテモ大切ナコトニナリマス、ソレガ如何ニ定メラレルカト云フコトハ、具體的ノ問題トシテ非常ニ困難ナコトナノデアリマス、現在ハ御承知ノ通りニ機械工業及ビ金屬工業ニ於キマシテハ、此ノ時局ニ伴ヒマシテ、其ノ方面ノ災害ノ増發、或ハ製品ノ價値ノ低下等ノ憂慮カラ致シマシテ、青年男子ハ十二時間ヲ標準トシ、女子竝ニ十六歳未滿ノ人々ハ十一時間ヲ標準トスルト云フヤウニ、差當リ基準ヲ決メテゴザイマスルガ、是ダケデ十分デアルトモ考ヘラレマセヌ、此ノ事ニ付キマシテハ、モウ少シ實

地ニ人間並ニ産業雙方ノ科學的基礎ニ立ツタシツカリシタ研究ガ、假令之ヲ法制化スルニ致シマシテモ、或ハ指導ノ上ノ標準ニスルニ致シマシテモ、左様ナ科學的ナ、合理的ナ基礎ト云フモノガ、確立セラレル必要ガアルト考ヘマスノデ、ソレ等ノ問題ニ付テハ、厚生省所管デアリマスル有ユル研究機關、ソレ々ニ活動ヲシテ貫ヒマシテ、出來ル限リ左様ナ方面ニ付キマシテ、我國トシテノ適當ナ基準研究ト云フモノノ、一日モ速ニ確立スルヤウニ努メテ参リタイト考ヘテ居ルノデアリマス、其ノ結論ヲ得ラレマシタ向キノ中ノ必要ナモノハ、ソレハ必要ニ應ジマシテ法制化致シテモ宜シイト思フノデアリマス、法律ヲ出スト云フコトヨリモ何ヨリモ、其ノ實施ヲ實情ニ適シテ正確ニ確立ヲスルト云フコトノ本體ヲ決メルコトノ方ガ、大切デアルト思フノデアリマス、次ニ勞務動員ノ實績ニ付テ種々御批判ガゴザイマシタ、勞務動員計畫ヲ其ノ要求通りニ實踐ヲシ、今日ノ我國ノ銃後産業ノ勞務充足ヲ致シテ參ルト云フコトハ、極メテ大切ナコトデアルト同時ニ、實ハ非常ニ幾多ノ困難ヲ伴フ仕事デゴザイマス、實ヲ申シマスレバ、今マデ此ノ勞務動員ヲ實踐スルニ付キマシテノ基礎資料、調、我國ノ人口ノ實情ガドウデアアルカ、産業ニ適シタ人間ガ何處ニドレ位居ルカト云フヤウナコトノ調ガ、十分備ツテ居ラナカツタト云フ事情モゴザイマスルシ、又勞務動員計畫實施ノ中樞機關デアアルベキ職業紹介機關、今日ノ法案ニ於テ御審議ヲ願ツテ居リマス職業紹介機關ト云フモノモ、ツイ最近ニ於キマシテ是ガ國營ニ移サレ、今度ノ法案ニ依リマシテ、ヤツト是ガ地方費ノ負擔ト云フコトカラ國費ノ運營ニ移サレルヤウナ、左様ナ場合デゴザイマスノデ、種々洵ニ十分ト申上ゲ兼ネルヤウナ事象モアルコトヲ、當局トシテモ之ヲ認メザルヲ得ナイコトデゴザイマス、出來得マスル限リ速ニ今回ノ如ク職業紹介機關ガ國家ノ機關デアリ、勞務動員ノ中心機關デアルト云フ建前ニ於ケル法制ノ改革ノアリマスル、斯様ナ時期ヲ機會ト致シマシテ、出來得ル限リ職業紹介機關ノ充實、又勞務動員スルニ付キマシテ、ソレ々ノ勞務者ノ適性、適材適所トシテノ勞務ノ紹介ノ出來マシヤウナ仕組等ニ付キマシテ、大イニ力ヲ致サネバナラヌコトノ多々アルコトヲ私共認メマスノデ、其ノ方面ニ於キマシテハ、十分ニ工夫施設スル所ガナケレバナラヌト考ヘマス、次ニ半島勞働者ノ内地移入ノコトニ付

キマシテノ御尋デゴザイマシタ、今日ノ日本ノ銃後體制ヲ確立致シマス爲ニ、國內ノ有ユル生産力ト云フモノガ動員セラレナケレバナラナイノハ固ヨリノコトデゴザイマス、半島勞働者モ亦一視同仁ノ御聖旨ニ則リマシテ、内地同胞ト與ニ俱ニ力ヲ協セテ、此ノ難局ヲ負擔致シテ吳レテ居リマスルコト、御承知ノ通りノ實情ニナツテ居リマス、産業界ニ於キマシテモ亦サウデナケレバナラヌト考ヘルノデアリマス、隨テ半島勞働者ガ内地ノ仕事ニ就キマシテ手傳フト云フコトハ、是ハ極メテ適切至當ノコトデアルト考ヘルノデアリマスルガ、若干人情風俗等ヲ異ニシテ居ル點モゴザイマスノデ、半島勞働者ニ内地ニ於テ働イテ貫ヒマス爲ニハ、鑛山方面ニ於キマシテモ、或ハ工場方面ニ於キマシテモ、半島勞働者ニ働イテ載クト云フコトニ付キマシテハ、勞務管理ノ上ノ工夫ガ大切デアルト思フノデアリマス、此ノ事ニ付キマシテハ、政府ヨリノ指導ノ上ニ付キマシテモ心掛ケテ居ル次第デゴザイマスガ、私共最モ希望致シマスコトハ、半島勞働者ヲ煩ハシマシテ、時局産業、銃後ノ産業ヲ運營シテ居ラレマスル勞務管理ノ向キ向キニ於キマシテ、ソレ々ハ是ハ仕事ノ態樣形式ニ依ツテモ、其ノ扱ニ色々違ヒガ出テ來得ルコトデアリマスルノデ、ソレ々之ヲ使用スル向ニ於キマシテ、最モ適切ナル工夫ヲセラレテ居リマス、山東方面カラノ勞働ノ輸入ト云フコトニ付キマシテハ、今日マダ考ヘテ居リマセヌ、次ニ歸還將士ノ復員、將來ノ失業對策ニ備ヘル用意ガアルカドウカト云フコトデアリマス、今回ノ事變ハ御承知ノ通りニ、日清戰役或ハ日露戰役ナドト形態ヲ異ニ致シマシタ、極メテ長期ニ互リマスル事變デアリマス、隨テ第一線ニ於テ戰ハレル將兵諸君モ、時々歸還セラレルト云フヤウナ形デ、此ノ事變ガ相當今後長期ニ繼續スルモノト考ヘマス、所謂戰後ノ復員ニ對スル勞働政策ト云フヤウナコトデナクシテ、是等ノ歸還セラレル人々ニ付テノドウ云フ工夫ガ大切デアアルカト云フコトガ、中心問題ニナルト思フノデアリマス、政府ノ方針ト致シマシテハ、歸還セラレル將兵ハ、原則ト致シマシテ元ノ職分ニ就カレルト云フコトガ、一番望マシイコトデアルト思フノデアリマス、以前熟練習熟シテ居ラレタ其ノ職場ニ就カレルト云フコト

ガ、最モ望マシイコトデアルト考ヘテ居リマス、其ノ點ニ付キマシテハ、産業界ニ於キマシテモ政府ノ方針ヲ能ク理解セラレマシテ、協力シテ居ラレルデアリマス、併シ又歸還セラレマシテ、或ハ疾病ノ爲ニ、或ハ負傷ノ爲ニ、元ノ職業ニ就キニクイ人モアルデアラウ、或ハ又元預ツテ居ツタ職場ノ事情デ其處ヘドウシテモ入りニクイ人モアルデアラウ、左様ナ具體的個々ノ問題ニ付キマシテ、出來得マス限リ労働政策ト竝ニ銃後後援ノ仕事ト雙方結ビ付キマシテ、十分ノ工夫施設ヲスル必要ガアルト思フデアリマス、幸ニ兩方ノ仕事共ニ厚生省所管デアリマスニ付キマシテハ、或ハ此ノ問題ヲ復員或ハ銃後後援ノ仕事、竝ニ勞務ノ問題、紹介ノ問題ト併セマシテ、遺憾ナキヤウニ實地ニ即應シテ善處シテ參リタイト考ヘテ居ル次第デアリマス、婦人ノ職業界ニ對スル進出ノコトニ付テノ御心配ノ御尋ガゴザイマシタ、洵ニ御尤モナ御心配デゴザイマス、今日サナキダニ人不足ニ惱ンデ居ル我國ニ於キマシテ、將來ノ健全ナル國民ノ増強致シマスコトヲ最モ必要ト致シテ居ル時代ニ、婦人ノ勞務ト云フコトニ付キマシテハ、深甚ノ考慮ヲ拂ハナケレバナラヌト思フデアリマス、婦人ガ産業界ニ不適當ナノデハゴザイマセヌト私共ハ考ヘテ居リマス、殊ニ我國ノ婦人ハ、從前輕工業、纖維工業方面ニ於テ示シテ居リマシタヤウナ優秀性ヲ、十分重工業、機械工業方面ニ於テモ示シ得ル適性ヲ持ツテ居ルデアリマス、是ハ實例ノ極メテ明ニ證明スル所デゴザイマスルシ、又我國産業ノ強味デアリ、我國ノ婦人ノ優秀性ノ現ハレデアルト私共ハ考ヘルデアリマスガ、サレバト申シマシテ、此ノ婦人ガ體力不相應ノ、又婦人ニ不適當ナヤウナ無理ナ仕事ガ充ガハレテ、其ノ爲ニ健康ヲ損ズル、母體ヲ損ヒ、日本ノ人口ノ増殖ト云フコトノ根本ニ禍ヲ爲スト云フコトニナリマシテハ、洵ニ一大事デゴザイマス、今日マデ其ノ方面ノ研究ガ十分デアツタトハ、必ズシモ言ヒ兼ネルト思ヒマスノデ、今日ノ婦人ノ産業界ニ於ケル進出ノ勢ト併セマシテ、此ノ方面ニ於テモ生理、衛生、其ノ他科學的方面カラ十分ナ研究ヲ既ニ始メテ居ルデアリマス、是モ方向ヲ誤ラヌヤウナ適當ナ指導ヲ與ヘル必要ガアルデアリマス、其ノ點ニ付キマシテハ十分努力ヲサシテ戴キタイト思フデアリマス、ソレカラ青少年ノ雇入制限ト併セテ、青少年ノ職業及ビ生活ヲ國家管理ニ移ス意思ハナイ

カト云フ御話デアリマシタ、今回國民ノ體力ニ付キマシテノ國家管理ノ法案ガ、近ク御審議ヲ仰ギマス運ビニナツテ居リマスコトハ、御指摘ニナリマシタ通りデアリマス、是ハ其ノ時ニ又御説明ヲ申上グベキコトデアルト思ヒマスガ、國民ノ體力ヲ國家ガ管理スルト申シマスノハ、必ズシモ何モ彼モ國民衛生ノコトハ國家ノミガヤツテ、個人或ハ其ノ家族ハヤラナイト云フ意味デハナイノデアリマス、同様ニ青少年ノ勞務ノ問題ニ付キマシテモ、最初ニ申シマシタ通りニ、其ノ職場デ勞資一體ノ實ガ舉ツテ、其ノ一體ニナツタモノガ國家産業ノ爲ニ寄與スル、斯ウ云フコトニナリマスコトガ理想デアルト考ヘマスノデ、形式的ニ之ヲ取上ゲテ、青少年ノ勞務ハ國家ダケガ管理シテ工場ノ與ル所デハナイ、左様ナ制度ニ改メルト云フ考ハ、當局トシテハ持つテ居ラナイノデアリマス、最後ニ労働行政ヲ厚生省ニ統一スル意思ハナイカト云フ御尋デゴザイマス、各省、例ヘバ御指摘ニナリマシタ陸海軍、鐵道、遞信等、ソレ等ノ方面ノ勞務ノ管理ヲ皆厚生省ニ統一シヨウト云フヤウナコトハ、厚生省ノ設立ノ際ニ於キマシテモ、ソレヲ問題ニシタ譯デハナイノデアリマシテ、各方面ソレソレノ勞務ニ關係致シマス向キノ人々ガ、役所々々、各方面ニ於キマシテ、國家ノ労働行政ト云フコトノ全體ノ方向ヲ誤ラヌヤウニ連絡調整ヲ致シマスコトノ御世話ハ、是ハ厚生省デヤル積リデ居リマス、又ソレニ依リマシテ十分各省或ハ各局區々ノ勞務行政ノ行ハレル所ノ弊害ト云フモノハ、避ケ得ラレルモノト考ヘマス、其ノ方針ニ付キマシテノ各方面カラノ御協力ト云フコトヲ私ハ期待シテ居リマシテ、ソレハ期待外レニナラナイ間違ヒノナイコトデアラウト思ヒマス、尙ホ其ノ點ニ付キマシテハ、不行届ノコトガアツテハナリマセヌノデ、十分是ハ注意サシテ載キタイト思ヒマス

次テ本案ハ政府提出市町村義務教育費國庫負擔法改正法律案外一件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十八日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月十九日議事日程ノ順序ヲ變更シ本案及六六、六七ノ三案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ

(委員長報告ハ本) 院議異議ナク三案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ各原案ノ通可決シ即日貴族院ニ送付ス

貴族院ニ於テハ三月二十四日本案ヲ可決奏上ス
三月三十日法律第七十四號ヲ以テ公布セラル

七〇 樺太鐵道株式會社所屬鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案

政府ハ樺太鐵道株式會社所屬鐵道買收ノ爲之ニ必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得
右ハ昭和十五年二月二十六日本院ニ提出ス同月二十九日本案ノ第一讀會ヲ開キ木村大藏政務次官ハ
左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只今議題トナリマシタ樺太鐵道株式會社所屬鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案提出ノ理由
ヲ説明致シマス、樺太鐵道株式會社ノ經營ニ屬シマスル鐵道ハ、國鐵東海岸線落合驛ヨリ東海
岸ヲ北上致シマシテ、敷香ニ至ル延長二百四十餘軒ノ私設鐵道デアリマスガ、本鐵道ハ當初財政
其ノ他ノ事情ニ依リマシテ、國鐵代行線トシテ敷設セラレタル、樺太ニ於ケル交通並ニ拓殖上ノ
重要幹線デアリマスノミナラズ、國防上ニ於テモ亦重大ナル使命ヲ有シテ居リマスノデ、國有鐵
道ノ運輸系統及ビ連絡整備ノ必要上等ヨリ、昭和十五年度ニ於テ之ヲ買收スルヲ適當ト認メマシ
タル爲、其ノ買收代價トシテ交付スベキ公債ヲ發行シ得ルコトトスルノ必要ガアリマスノデ、本法
律案ヲ提出致シタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上速ニ協贊ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス

次テ本案ハ政府提出船員保險特別會計法案外四件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原
案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十一日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月十二日議事日程ノ順序ヲ變更シ本案及八〇ノ兩案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長中
野治介君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

只今上程ニナリマシタ二法律案ニ關スル委員會ノ審議ノ經過並ニ結果ヲ御報告致シマス、右ノ
中樺太鐵道株式會社所屬鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案ハ、樺太鐵道株式會社ノ經營ニ
屬シマスル、國鐵東海岸線落合驛ヨリ同海岸ヲ北上シ、知取ヲ經テ敷香ニ至ル延長二百四十五
軒五分ノ私設鐵道ヲ買收スル財源トシテ、公債ヲ發行スルト云フ法律案デアリマシテ、委員長
ハ法案ノ性質ニ鑑ミ、特ニ懇切ナル説明ヲ要望致シマシタガ、之ニ對シ政府委員ヨリ、該鐵道
ハ雷ニ樺太ニ於ケル交通並ニ拓殖上重要幹線デアアルノミナラズ、國防上ニ於テモ、亦重大ナル
使命ヲ有シテ居ルモノデアルトノ趣旨ノ提案理由ノ御説明デアッタノデアリマス、加之右鐵道
ハ曩ノ議會ニ於テ速ニ國鐵ニ移管センコトヲ切望シテ居リマス、又樺太地方鐵道補助法中改
正法律案ハ、其ノ補助方法ヲ改メントスル法案デアリマシテ、政府委員ヨリ現下經濟界ノ趨
勢ニ鑑ミ、又他ノ外地私設鐵道補助法トノ均衡上、豫算ノ範圍内ニ補助金ヲ交付スルト云フ趣
旨ノ提案理由ノ御説明ガアリマシタ、右兩案ニ對シマシテ、特ニ樺太ノ事情ニ精通セラルル坂
東委員、沖島委員、田中委員、石坂委員、中村委員等ヨリ、種々重要ナル御質疑ト、買收上格
段ノ注意ヲ拂ハレタキ旨ノ希望、其ノ他有益ナル御意見ヲ開陳ガアリマシタ、就中背後地ニ
豊富ナル炭田ヲ有スル惠須取港ノ重要性ニ鑑ミ、東海岸ノ鐵道ヲ買收スルヨリモ、寧ろ西海岸
ニ鐵道ヲ新設スル方ガ捷徑デハナイカトノ御意見モアッタノデアリマスガ、政府委員ノ御懇切
ナル御答辯ガアリマシタ、其詳細ハ速記録ニ依ツテ御承知ヲ願ヒタイノデアリマス、委員會ハ

慎重審議ノ後、討論ニ入り、委員坂東幸太郎君、同沖島鎌三君、同中野寅吉君、同井上良次君ヨリ、ソレト所屬黨派ヲ代表シテ原案賛成ノ意ヲ表セラレ、討論終了後、採決ニ入り総員起立、満場一致ヲ以テ原案ノ通り可決致シマシタ、簡單デアリマスガ右御報告申上ゲマス
院議異議ナク兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ各原案ノ通可決シ即日貴族院ニ送付ス

貴族院ニ於テハ三月二十四日本案ヲ可決奏上ス
四月二日法律第八十五號ヲ以テ公布セラル

七一 商工組合中央金庫法中改正法律案

商工組合中央金庫法中左ノ通改正ス

第十四條第一項ヲ左ノ如ク改ム

本法ニ依リ登記スベキ事項ハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ事實ノ生ジタル後主タル事務所ノ所在地ニ於テハ二週間、從タル事務所ノ所在地ニ於テハ三週間以内ニ之ヲ登記スベシ

第二十三條中「第四百四十一條乃至第五百一十一條ノ六」ヲ「第四百四十二條乃至第五百一十一條ノ六」ニ改

メ同條但書中「民法第四十五條第三項及第四十八條第一項中一週間トアルハ之ヲ二週間トシ」ヲ削ル

第二十八條第一項第一號中「定期償還又ハ月賦償還貸付」ヲ「定期償還貸付」ニ、同項第二號中「年賦償還又ハ半年賦償還貸付」ヲ「年賦償還、半年賦償還又ハ月賦償還貸付」ニ改メ同項ニ左ノ一號ヲ加フ

八 所屬組合又ハ所屬聯合會ノ爲ニ其ノ出資拂込金ノ受入又ハ其ノ配當金ノ支拂ノ取扱ヲ爲スコト

同條第三項中「年賦償還又ハ半年賦償還貸付」ヲ「年賦償還、半年賦償還又ハ月賦償還貸付」ニ、「商工債券發行額」ヲ「商工債券(割引)ノ方法ヲ以テ發行シタルモノヲ除ク」ノ發行額」ニ改ム

第二十八條ノ二 前條第三項ノ規定ハ商工組合中央金庫ガ政府資金ノ融通ヲ爲ス場合ニハ之ヲ適用セズ

商工組合中央金庫ガ政府資金以外ノ資金ノ融通ヲ爲ス場合ニ於テハ政府資金ノ融通ノ額及之ヲ爲ス爲發行スル商工債券ノ額ハ前條第三項ノ制限ノ計算上之ヲ算入セズ

第三十二條ニ左ノ一項ヲ加フ

商工債券ハ割引ノ方法ヲ以テ之ヲ發行スルコトヲ得

第五十四條 削除

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前ニ登記事由ノ生ジタル場合ニ於テハ其ノ登記ノ期間ハ仍從前ノ例ニ依ル

右ハ昭和十五年二月二十六日本院ニ提出ス同月二十九日本案ノ第一讀會ヲ開キ加藤商工政務次官

ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

商工組合中央金庫法中改正法律案提案理由ヲ簡單ニ説明致シマス、商工組合中央金庫ハ昭和十一年末設立セラレマシテヨリ、商工關係組合ノ金融難緩和ノ爲相當貢獻致シテ參リマシタガ、支那事變ニ基ク經濟統制ノ強化ニ伴ヒマシテ、中小商工業者ノ組織化ヲ促進致シマス爲ニモ、將又物資ノ配給統制等ニ依ル休業者ノ轉業ヲ促進致シマス爲ニモ、商工關係組合ニ對スル金融ヲ圓滑ナラシメル心要ガ、最近特ニ増大致シテ參リマシタノデ、商工組合中央金庫ノ業務ヲ之ニ適應セシメル爲、今回本法ノ一部改正ヲ致シタイト存ジマス、今改正ノ主要ナ點ヲ舉ゲマスレバ、第一ニ貸付期限五年ヲ超ユル長期ノ割賦貸付ニ關スル制限ヲ緩和致シマシテ、政府資金ノ融通ヲ爲ス場合ニハ、其ノ制限規定ヲ適用セザルコトトシ、長期資金ノ融通ヲ圓滑ナラシメント致シマシタコト、第二ニハ組合ノ短期運轉資金ノ需要モ頓ニ増大致シマシタノデ、金庫ノ短期資金ノ手當ヲ容易ナラシムル爲ニ、商工債券ノ割引發行ヲ認ムルコトト致シタ次第デアリマス、第三ハ金庫ノ所屬組合又ハ所屬聯合會ノ爲ニ、其ノ出資拂込金ノ受入又ハ其ノ配當金ノ支拂ノ取扱ヲ、金庫ノ業務トシテ爲シ得ル途ヲ開キ、金庫ト組合トノ關係ヲ一層密接ナラシメント致シタコト等デゴザイマス、尙ホ詳細ハ委員會ニ於テ申上ゲルコトト致シタイト存ジマ

ス、何卒御審議ノ上速ニ御協贊アラントヲ希望致シマス

次テ本案ハ政府提出輸出資金及輸出品製造資金融通損失補償法案委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月九日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同日議事日程ヲ變更シ本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長井上知治君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

只今上程ニ相成リマシタ商工組合中央金庫法中改正法律案ノ委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、先ヅ順序ト致シマシテ、本法律案ノ内容ヲ極メテ簡單ニ申上ゲマス、戰時經濟統制下ニ於ケル最近ノ中小商工業界ノ情勢ハ、商工組合中央金庫ノ業務ヲ擴充強化セシメ、中小商工業金融ノ圓滑化ヲ益々要請スルニ至リマシタノデ、先ヅ現行法ニ於ケル貸付期限五箇年ヲ超過スル割賦貸付ニ關スル制限ヲ緩和シ、政府資金ノ融通ヲ爲ス場合ニハ、其ノ制限規定ヲ適用セザルコトトシマシテ、長期資金ノ貸出促進ヲ圖ルコト、及ビ商工債券ノ割引發行ヲ認メ、之ニ依リ金庫ノ短期資金獲得ヲ容易ナラシメ、短期資金ノ一層ノ貸付促進ヲ圖ルコトヲ、二大眼目ト致シタノデアリマス、委員會ニ於ケル主ナル質疑應答ヲ申上ゲマスト、金庫ハ其ノ貸付ノ際ノ信用調査其ノ他ニ於テ嚴格ニ過ギルノ虞ナキヤ、其ノ實情如何ト云フ質問ニ對シマシテ、政府ヨリ金庫ガ初メテ組合ト取引ヲ開始スル際ニハ、多少嚴格ナル調査ヲ爲シテモ、第二回以後ハ簡易ナル取扱ヲ爲シテ居ルトノ答辯ガアリマシタ、又金庫ノ貸出高ハ未ダ不十分デハナイカトノ質問ニ對シマシテ、政府ハ金庫ノ業績ヲ一層進展セシムル爲ニ、本法ノ改正ヲ圖ルノ外、金庫ニ補助金ヲ交付シマシテ、其ノ役職員ノ充實ヲ圖ル爲、明年度豫算ニ於テ所用經費二十萬圓ヲ計上致シテ居リマス、又其ノ上ニ金庫ニ補助金ヲ交付シマシテ、組合ニ關スル信用調査機

關ヲ整備セシメマシテ、貸出ノ迅速化ヲ圖ル爲ニモ、交付金九万圓ヲ明年度豫算ニ計上シテ居
リマスカラ、是等ノ施設ニ依リマシテ、今後ハ相當金庫ノ貸出高ヲ増額セシムルコトガ出來
ルトノ答辯ガアツタノデアリマス、斯クテ質疑ヲ終リマシテ、討論ヲ省キ、採決ノ結果、原案
通り可決セラレマシタ

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ原案ノ通可
決シ即日貴族院ニ送付ス

貴族院ニ於テハ三月十五日可決奏上ス

四月二日法律第八十八號ヲ以テ公布セラル

七二 家屋税法案

家屋税法目次

- 第一章 總則
- 第二章 賃貸價格ノ調査決定
- 第三章 家屋ノ異動
- 第四章 家屋賃貸價格調査委員會

第五章 家屋税ノ徵收

第六章 雜則

家屋税法

第一章 總則

第一條 本法施行地ニ在ル家屋ニハ本法ニ依リ家屋税ヲ課ス

第二條 本法ニ於テ家屋トハ住家、店舗、工場、倉庫其ノ他ノ建物ヲ謂フ

第三條 左ニ掲グル家屋ニハ家屋税ヲ課セズ但シ有料借家ハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 國、北海道、府縣、市町村其ノ他命令ヲ以テ指定スル公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スル家屋
- 二 神社、寺院又ハ教會ノ用ニ供スル家屋
- 三 國寶保存法又ハ史蹟名勝天然紀念物保存法ニ依リ國寶又ハ史蹟若ハ名勝トシテ指定セラレタル家屋
- 四 私立ノ幼稚園、小學校、中學校、高等女學校、實業學校、專門學校、高等學校及大學並ニ大藏大臣ノ指定スル其ノ他ノ私立學校ニ於テ直接ニ保育又ハ教育ノ用ニ供スル家屋
- 五 其ノ他命令ヲ以テ定ムル家屋

第二章 議事

第四節 議案 第二款 議案ノ討議及表決 第四項 法律案 九〇九

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議及表決 第四項 法律案 九〇九

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議及表決

第四項 法律案

第四條 家屋ニハ一個毎ニ家屋番號ヲ附シ其ノ床面積及賃貸價格ヲ定ム但シ家屋稅ヲ課セザル家屋ニ付テハ賃貸價格ヲ附セズ

前項ノ場合ニ於テ附屬家屋アルトキハ之ヲ合シタルモノヲ以テ一個ノ家屋ト看做ス
一個ノ家屋中家屋稅ヲ課スル部分ト家屋稅ヲ課セザル部分トアルトキ又ハ所有者ヲ異ニスル部分アルトキハ各別ニ之ヲ一個ノ家屋ト看做シ前二項ノ規定ヲ適用ス
床面積ノ計算ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 稅務署ニ家屋臺帳ヲ備ヘ左ノ事項ヲ登錄ス

- 一 家屋ノ所在
- 二 家屋番號
- 三 種類、構造及床面積
- 四 賃貸價格
- 五 所有者ノ住所及氏名又ハ名稱

本法ニ定ムルモノノ外家屋臺帳ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 家屋稅ノ課稅標準ハ家屋臺帳ニ登錄シタル賃貸價格トス

賃貸價格ハ貸主ガ公課、修繕費其ノ他家屋ノ維持ニ必要ナル經費ヲ負擔スル條件ヲ以テ之ヲ

賃貸スル場合ニ於テ貸主ノ收得スベキ一年分ノ金額ニ依リ之ヲ定ム

第七條 家屋稅ノ稅率ハ百分ノ一・七五トス

第八條 家屋稅ハ年額ヲ二分シ左ノ二期ニ於テ之ヲ徵收ス

第一期 其ノ年六月一日ヨリ三十日限

第二期 其ノ年十一月一日ヨリ三十日限

第九條 家屋稅ハ納期開始ノ時ニ於テ家屋臺帳ニ所有者トシテ登錄セラレタル者ヨリ之ヲ徵ス

第二章 賃貸價格ノ調査決定

第十條 賃貸價格ハ第十一條、第十四條第一項及第二十二條第一項ニ規定スル場合ヲ除クノ外家屋賃貸價格調査委員會ノ議ニ付シ政府ニ於テ之ヲ定ム

第十一條 第十七條又ハ第十九條ノ規定ニ依リ賃貸價格ヲ定ムル場合ニ於テハ其ノ賃貸價格ハ類似ノ家屋ノ家屋臺帳ニ登錄シタル賃貸價格ニ比準シ其ノ家屋ノ情況ニ應ジテ之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テハ床面積及賃貸價格ハ家屋所有者ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ定ム

第十二條 賃貸價格ハ五年毎ニ一般ニ之ヲ改定ス

第十三條 賃貸價格ヲ一般ニ定ムル場合ニ於テハ賃貸價格ハ之ヲ定ムル年ノ前前年四月一日現

在ノ家屋税ヲ課スベキ家屋ニ付之ヲ調査ス

第十四條 賃貸價格ヲ一般ニ定ムル年ノ前前年四月二日以後賃貸價格ヲ一般ニ定ムル迄ノ間ニ於テ異動シタル家屋ニ付テハ一般ニ定ムル賃貸價格ハ第十一條第一項又ハ第二十二條第一項ノ例ニ準ジ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ定ム

第四十九條乃至第五十二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第十五條 本法ニ定ムルモノノ外賃貸價格ノ調査ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三章 家屋ノ異動

第十六條 家屋ヲ建築シタルトキ、家屋税ヲ課セザル家屋ガ家屋税ヲ課スル家屋ト爲リタルトキ又ハ家屋税ヲ課セザル家屋ノ一部ガ家屋税ヲ課スルモノト爲リタルトキハ家屋所有者ハ三十日以内ニ其ノ旨ヲ稅務署長ニ申告スベシ

第十七條 家屋ヲ建築シタルトキ、家屋税ヲ課セザル家屋ガ家屋税ヲ課スル家屋ト爲リタルトキ又ハ家屋税ヲ課セザル家屋ノ一部ガ家屋税ヲ課スルモノト爲リタルトキハ直ニ其ノ賃貸價格ヲ定ム

第十八條 家屋ヲ増築シタルトキハ家屋所有者ハ三十日以内ニ其ノ旨ヲ稅務署長ニ申告スベシ

第十九條 家屋ヲ増築シタルトキハ直ニ其ノ賃貸價格ヲ定ム

前項ノ規定ハ家屋ガ毀損シ家屋所有者其ノ旨ヲ申告シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第二十條 第十七條又ハ前條第一項ノ規定ニ依リ賃貸價格ヲ定メタル家屋ニ付テハ之ヲ定メタル日ガ六月三十日以前ナルトキハ其ノ年ノ第二期分ヨリ、七月一日以後ナルトキハ其ノ年ノ翌年分ヨリ新ニ定メタル賃貸價格ニ依リ家屋税ヲ徵收ス

前條第二項ノ規定ニ依リ賃貸價格ヲ定メタル家屋ニ付テハ之ヲ定メタル後ニ開始スル納期ヨリ新ニ定メタル賃貸價格ニ依リ家屋税ヲ徵收ス

第二十一條 家屋ニ付左ノ各號ノ一ニ該當スル事由ヲ生ジタルトキハ家屋所有者ハ其ノ旨ヲ稅務署長ニ申告スベシ

- 一 一個ノ家屋ガ數個ノ家屋ト爲リタルトキ
- 二 數個ノ家屋ガ一個ノ家屋ト爲リタルトキ
- 三 家屋税ヲ課スル家屋ノ一部ガ家屋税ヲ課セザルモノト爲リタルトキ
- 四 家屋ノ一部ガ所有者ヲ異ニスルニ至リタルトキ

第二十二條 家屋ガ前條各號ノ一ニ該當スルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ従前ノ賃貸價格ヲ配分又ハ合算シテ家屋税ヲ課スベキ家屋ノ賃貸價格ヲ定ム

前項ノ家屋ニ付テハ其ノ賃貸價格ヲ定メタル後ニ開始スル納期ヨリ其ノ賃貸價格ニ依リ家屋

第二十三條 家屋税ヲ課スル家屋ガ家屋税ヲ課セザル家屋ト爲リタルトキ又ハ家屋ガ滅失シタルトキハ其ノ旨ノ申告アリタル後ニ開始スル納期ヨリ家屋税ヲ徴收セズ家屋税ヲ課スル家屋ノ一部ガ家屋税ヲ課セザルモノト爲リタル場合ニ於テ其ノ部分ニ付亦同ジ

第四章 家屋賃貸價格調査委員會

第二十四條 賃貸價格ヲ一般ニ定ムル毎ニ各稅務署所轄内ニ家屋賃貸價格調査委員會ヲ置ク但シ稅務署所轄内ニ在ル市ニ付テハ命令ヲ以テ特ニ賃貸價格調査委員會ヲ置クコトヲ得
賃貸價格調査委員會ハ之ヲ置クベキ区域内ノ各市町村ニ於テ家屋税ヲ課スベキ家屋ノ所有者ノ選舉ニ依ル調査委員ヲ以テ之ヲ組織ス
調査委員ノ定數ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十五條 調査委員ノ選舉區域ハ賃貸價格調査委員會ヲ置クベキ區域ニ依リ投票區及開票區ハ市町村ノ區域ニ依ル

第二十六條 選舉区域内ニ於テ家屋税ヲ課スベキ家屋ヲ所有スル個人ニシテ選舉人名簿ニ登録セラレタル者ハ調査委員ヲ選舉シ又ハ調査委員ニ選舉セラルルコトヲ得但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラズ

一 無能力者

二 破産者ニシテ復權ヲ得ザルモノ

三 國稅滯納處分ヲ受ケタル後一年ヲ經ザル者

四 六年ノ懲役若ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者

五 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

六 第六十五條又ハ第六十六條ノ規定ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ其ノ刑ノ執行ヲ終リタル後又ハ時効ニ因ル場合ヲ除クノ外執行ノ免除ヲ受ケタル後五年ヲ經ザル者

七 第六十條、第六十三條又ハ第六十四條乃至第六十六條ノ規定ニ依リ罰金又ハ科料ノ刑ニ處セラレ其ノ裁判確定ノ後五年ヲ經ザル者

法人ニシテ家屋税ヲ課スベキ家屋ヲ所有スル者ハ前項ノ規定ニ準ジ調査委員ヲ選舉スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ選舉ニ關スル代表者ヲ定メ當該市町村長ニ申告スベシ

第一項各號ノ一ニ該當スル者ハ前項ノ規定ニ依ル法人ノ代表者タルコトヲ得ズ
選舉人名簿ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條 投票及開票ニ關スル事務ハ市町村長之ヲ擔任シ其ノ他ノ選舉ニ關スル事務ハ稅務

署長之ヲ擔任ス

第二十八條 稅務署長ハ調査委員ノ選舉期日ヲ定メ之ヲ市町村長ニ通知スベシ

市町村長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ少クトモ選舉期日七日前其ノ旨ヲ公示スベシ

第二十九條 選舉ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

選舉人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ自ラ投票所ニ到リ被選舉人一人ノ氏名ヲ投票用紙ニ記載シテ投票スベシ

投票用紙ハ選舉ノ當日投票所ニ於テ之ヲ選舉人ニ交付ス

第三十條 市町村長ハ投票ヲ調査シ直ニ其ノ結果ヲ稅務署長ニ報告スベシ

第三十一條 稅務署長前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ選舉會ヲ開キ之ヲ調査スベシ

第三十二條 投票、開票及選舉會ニハ立會人ヲ立會ハシムベシ

立會人ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條 投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス投票ノ數同ジキトキハ年齢多キ者ヲ取り年齢同ジキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 調査委員ノ選舉終了シタルトキハ稅務署長ハ當選人ノ氏名ヲ公示シ且之ヲ當選人

及市町村長ニ通知スベシ

市町村長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ當選人ノ氏名ヲ公示スベシ

第三十五條 調査委員ニ當選シタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ズ

第三十六條 調査委員ハ貸賃價格調査委員會ノ會議ノ終了ニ因リ退任ス

第三十七條 調査委員第二十六號第一項各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ又ハ其ノ選舉區域内ニ於テ家屋稅ヲ課スベキ家屋ヲ所有セザルニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ

第三十八條 調査委員ニ缺員ヲ生ジタルトキハ當選人ト爲ラザリシ者ノ中投票ノ最多數ヲ得タル者ヨリ順次之ヲ補充シ投票ノ數同ジキトキハ年齢多キ者ヲ取り年齢同ジキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第三十九條 調査委員ノ選舉ニ於テ當選人ノ數ガ定數ニ達セザルトキ又ハ調査委員ニ缺員ヲ生ジ前條ノ規定ニ依リ補充スベキ者ナキトキハ補缺選舉ヲ行フ但シ貸賃價格調査委員會開會後缺員ヲ生ジタル場合ニ於テハ之ヲ行ハザルコトヲ得

第四十條 貸賃價格調査委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク其ノ開會日數ハ三十日以内トス

第四十一條 稅務署長ハ第十三條ノ規定ニ依リ調査シタル賃貸價格ノ調査書ヲ賃貸價格調査委員會ニ提出スベシ

第四十二條 賃貸價格調査委員會ハ開會ノ始ニ於テ調査委員中ヨリ會長ヲ選舉スベシ

第四十三條 賃貸價格調査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非ザレバ決議ヲ爲スコトヲ得ズ

議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第四十四條 調査委員ハ自己及自己ト同一戸籍内ニ在ル者ガ所有スル家屋ノ賃貸價格ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ズ

第四十五條 賃貸價格ヲ一般ニ定ムル年ノ前年十月三十一日迄ニ賃貸價格調査委員會成立セザルトキハ稅務署長ニ於テ其ノ賃貸價格ヲ定ム

賃貸價格調査委員會開會ノ日ヨリ第四十條ノ期間内又ハ前項ノ期日迄ニ決議終了セザルトキハ稅務署長ニ於テ其ノ賃貸價格ヲ定ム

第四十六條 稅務署長ハ賃貸價格調査委員會ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ十日以内ノ期間ヲ定メ再議ニ付ス仍其ノ決議ヲ不當ト認ムルトキ又ハ再議期間内ニ決議終了セザルトキハ稅務署長ニ於テ其ノ賃貸價格ヲ定ム

第四十七條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ賃貸價格調査委員會ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第四十八條 調査委員ニハ手當及旅費ヲ給ス

第四十九條 第十條、第四十五條又ハ第四十六條ノ規定ニ依リ賃貸價格ヲ定メタルトキハ稅務署長ハ之ヲ市町村長ニ通知スベシ

市町村長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ二十日間關係者ノ縦覽ニ供スベシ縦覽期間ハ豫メ之ヲ公示スベシ

第五十條 自己ノ所有スル家屋ノ賃貸價格ニ付異議アル者ハ前條ノ縦覽期間滿了ノ日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ稅務署長ヲ經由シテ稅務監督局長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ申立アリタル場合ト雖モ政府ハ税金ノ徵收ヲ猶豫セズ

第五十一條 前條第一項ノ申立アリタルトキハ稅務監督局長ハ之ヲ審査決定シ異議申立人ニ通知スベシ

第五十二條 前條ノ決定ニ對シ不服アル者ハ訴願ヲ爲シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第五章 家屋稅ノ徵收

第五十三條 稅務署長ハ家屋ノ異動其ノ他家屋稅徵收ニ關シ必要ト認ムル事項ヲ市町村ニ通知スベシ

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議及表決

第四項 法律案

第五十四條 家屋税ハ各納稅義務者ニ付同一市町村内ニ於ケル家屋ノ賃貸價格ノ合計金額ニ依リ算出シ之ヲ徵收ス但シ賃貸價格ノ合計金額ガ命令ヲ以テ定ムル金額ニ滿タザルトキハ家屋税ヲ徵收セズ

第五十五條 市町村ハ家屋税ノ納期毎ニ其ノ納期開始前十五日迄ニ賃貸價格及家屋税ノ總額竝ニ其ノ各納期ニ於ケル納額ヲ稅務署長ニ報告スベシ但シ前報告後異動ナキトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ報告後納期開始迄ニ報告事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ直ニ其ノ異動額ヲ稅務署長ニ報告スベシ

第六章 雜則

第五十六條 稅務署長家屋ノ異動ニ因リ家屋番號、種類、構造、床面積又ハ賃貸價格ヲ家屋臺帳ニ登錄シタルトキ又ハ登錄ヲ變更シタルトキハ家屋所在ノ市町村ヲ經由シ家屋所有者ニ通知スベシ

第五十七條 納稅義務者其ノ家屋所在ノ市町村内ニ現在セザルトキハ家屋税ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲其ノ地ニ於テ納稅管理人ヲ定メ當該市町村長ニ申告スベシ

第五十八條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ家屋ノ所有者、占有者其ノ他利

害關係人ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ日出ヨリ日没迄ノ間家屋ノ検査ヲ爲スコトヲ得

第五十九條 本法ニ依リ申告ヲ爲スベキ義務ヲ有スル者其ノ申告ヲ爲サザルトキハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

第六十條 詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ家屋税ヲ遁脱シタル者ハ其ノ遁脱シタル税金ノ三倍ニ相當スル罪金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ家屋税ヲ徵收ス但シ自首シ又ハ稅務署長ニ申出デタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

前項ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セズ

第六十一條 本法ニ依リ申告ヲ爲スベキ義務ヲ有スル者其ノ申告ヲ爲サズ仍テ家屋税ニ不足額アルトキハ直ニ之ヲ徵收ス

第六十二條 前二條ノ規定ニ依リ家屋税ヲ徵收スル場合ニ於テハ第五十四條ノ規定ニ拘ラズ當該家屋一個毎ニ其ノ家屋税ヲ算出ス

第六十三條 正當ノ事由ナクシテ第五十八條ノ規定ニ依ル家屋ノ検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十四條 賃貸價格ノ調査若ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ賃貸價格調査委員會ノ議事ニ參加シ

タル者其ノ調査、審査又ハ議事ニ關シ知得タル祕密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十五條 調査委員ノ選舉ニ關シ當選ヲ得又ハ得シメ若ハ得シメザル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ金錢物品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與ヲ爲シ、饗應接待ヲ爲シ又ハ其等ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ供與若ハ饗應接待ヲ受ケ若ハ要求シ又ハ其等ノ申込ヲ承諾シタル者亦前項ニ同ジ
前二項ニ規定スル行爲ニ關シ周旋又ハ勸誘ヲ爲シタル者亦第一項ニ同ジ

第六十六條 調査委員ノ選舉ニ關シ投票ヲ得又ハ得シメ若ハ得シメザル目的ヲ以テ戸別訪問ヲ爲シ又ハ連續シテ個個ノ選舉人ニ面接シ若ハ電話ニ依リ選舉運動ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十七條 町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長ト看做ス

市制第六條又ハ第八十二條第三項ノ規定ニ依リ指定セラレタル市ニ於テハ本法中市ニ關スル規定ハ區ニ、市長ニ關スル規定ハ區長ニ之ヲ適用ス

町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ本法中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準ズベキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準ズベキモノニ之ヲ適用ス

第六十八條 本法ハ國有ノ家屋ニハ之ヲ適用セズ

附 則

第六十九條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ家屋稅ノ賦課徵收ニ關スル規定ハ昭和十七年分家屋稅ヨリ之ヲ適用ス

第七十條 第四條及第五條ノ規定ハ當分ノ内家屋稅ヲ課セザル家屋ニ付之ヲ適用セズ

第七十一條 家屋稅ニ付爲スベキ第一回ノ一般ノ賃貸價格調査ハ昭和十五年七月一日現在ノ家屋稅ヲ課スベキ家屋ニ付之ヲ爲シ其ノ賃貸價格ハ昭和十七年一月一日ニ於テ之ヲ定ム此ノ場合ニ於テハ第四十五條中十月三十一日トアルハ十一月二十日トス

第七十二條 前條ノ規定ニ依リ一般ニ賃貸價格ヲ定ムル場合ニ於ケル第十四條ノ規定ノ適用ニ付テハ同條中四月二日トアルハ七月二日トス

第七十三條 昭和十五年七月一日ニ於テ家屋稅ヲ課スベキ家屋ヲ所有スル者ハ同年八月三十一日迄ニ其ノ旨ヲ稅務署長ニ申告スベシ

昭和十五年七月二日以後昭和十六年十二月三十一日迄ノ間ニ於テ家屋ニ異動ヲ生ジタルトキ

ハ家屋所有者ハ其ノ都度其ノ旨ヲ稅務署長ニ申告スベシ

第七十四條 家屋ノ第一回ノ一般ノ賃賃價格改定ハ昭和二十五年一月一日ニ於テ之ヲ行フ

七三 所得稅法人稅内外地關涉法案

所得稅法人稅内外地關涉法

第一條 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得稅法第十條ニ規定スル不動産所得、乙種ノ配當利子所得、事業所得、勤勞所得、山林ノ所得及乙種ノ退職所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得稅法ニ依ル分類所得稅ヲ課セズ

第二條 朝鮮、臺灣、樺太若ハ南洋群島ニ住所ヲ有スル個人、此等ノ地域ニ一年以上居所ヲ有スル個人(關東州ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ヲ除ク)又ハ此等ノ地域ニ本店若ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ所得稅法第十條ニ規定スル甲種ノ配當利子所得ニ付テハ同法第二十二條第一項ノ規定ニ拘ラズ同法第二十一條第一項又ハ第二項ニ規定スル稅率ニ依リ分類所得稅ヲ賦課ス關東州ニ住所ヲ有シ若ハ一年以上居所ヲ有スル個人又ハ關東州ニ本店若ハ主タル事務所ヲ有スル法人ガ所得稅法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ受ク

ル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニ付亦同ジ

第三條 所得稅法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得ニシテ左ノ各號ニ

該當スルモノニ付テハ所得稅法ニ依ル分類所得稅ヲ課セズ

- 一 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ第二種ノ所得トシテ所得稅ヲ課スル公債、社債、朝鮮金融債券又ハ預金ノ利子及合同運用信託ノ利益
- 二 法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニシテ臺灣ニ於ケル法令ニ依リ配當稅ヲ課シ又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ普通配當稅ヲ課スルモノ
- 三 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ第二種ノ所得トシテ所得稅ヲ課スル一時恩給及退職給與竝ニ此等ノ性質ヲ有スル給與

第四條 所得稅法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得稅法第十條ニ規定スル不動産所得中ニ朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ於ケル資産ヨリ生ズルモノアルトキハ其ノ部分ノ所得ニ付テハ同法第二十一條第一項ノ規定ニ拘ラズ百分ノ八ノ稅率ニ依リ分類所得稅ヲ賦課ス

前項ニ規定スル個人ノ所得稅法第十條ニ規定スル甲種ノ事業所得中ニ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於ケル營業ヨリ生ズルモノアルトキハ其ノ部分ノ所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ同法第

二十一條第一項又ハ第三項ノ規定ニ拘ラズ左ノ稅率ニ依リ分類所得稅ヲ賦課ス

一 所得稅法第十七條又ハ第十八條ノ規定ニ依ル控除前ノ事業所得ノ金額ガ千圓ヲ超ユルト
キ
百分ノ七

二 前號ノ金額ガ千圓以下ナルトキ
百分ノ四・五

所得稅法第二十一條第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第一項ニ規定スル個人ノ法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配中ニ朝鮮又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ資本利子稅ヲ課スルモノアルトキハ其ノ部分ノ所得ニ付テハ所得稅法第二十一條第一項ノ規定ニ拘ラズ百分ノ六ノ稅率ニ依リ分類所得稅ヲ賦課ス

第五條 信託會社ガ其ノ引受ケタル合同運用信託ノ信託財產ニ付朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ納付シタル第二種ノ所得ニ對スル所得稅及資本利子稅ハ各之ヲ所得稅法ニ依リ納付シタル甲種ノ配當利子所得ニ對スル分類所得稅ト看做シ同法第二十三條ノ規定ヲ適用ス

第六條 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得稅法第二十八條ニ規定スル所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得稅法ニ依ル綜合所得稅ヲ課セズ

第七條 所得稅法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債、朝鮮金融債券若ハ預金ノ利子又ハ命令ヲ以テ定ムル合同運用信託ノ利益ニシテ各當該地ノ法令ニ依リ第二種ノ所得トシテ所得稅ヲ課スルモノハ所得稅法第三十條第一項第三號ノ規定ニ拘ラズ前年中ノ收入金額（無記名ノ公債及社債ノ利子ニ付テハ支拂ヲ受ケタル金額）ヨリ其ノ十分ノ四ヲ控除シタル金額ニ依リ個人ノ總所得ヲ算出ス

第八條 日本ノ國籍ヲ有セザル者ノ朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル資産、營業又ハ職業ヨリ生ズル所得ニ付テハ所得稅法第十一條第一項第七號及第二十九條第一號ノ規定ヲ適用セズ

第九條 配當利子特別稅法第十三條ノ規定ハ朝鮮、臺灣、關東州若ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ利益配當稅若ハ公債及社債利子稅ヲ課セラレ又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ超過配當稅ヲ課セラルル利益ノ配當又ハ公債若ハ社債ノ利子ニ付所得稅ヲ課スル場合ニ之ヲ準用ス
外貨債特別稅法第十八條ノ規定ハ朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ外貨債特別稅ヲ課セラルル外貨債ノ利子ニ付所得稅ヲ課スル場合ニ之ヲ準用ス

第十條 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ法人

税法第三條第一號ノ所得ニ付テハ同法第十六條第一項第一號ノ規定ニ拘ラズ百分ノ三ノ税率ニ依リ法人税ヲ賦課ス

朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ法人税法第三條第二號ノ所得及同條第三號ノ資本ニ付テハ法人税法ニ依ル法人税ヲ課セズ南洋群島ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ法人税法第三條第二號ノ所得ニ付亦同ジ

第十一條 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ガ朝鮮、臺灣、關東州、樺太、南洋群島又ハ法人税法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ト合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ガ法人税法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スルトキハ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ最後ノ事業年度分ノ所得及資本並ニ清算所得ニ付法人税ヲ納ムル義務アルモノトス

前項ノ場合ニ於テ合併ニ因リテ消滅シタル法人中朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有シタル法人ノ所得及資本ニ付テハ法人税法第十六條ノ規定ニ拘ラズ各當該地ニ於ケル法令ニ依リ算出シタル第一種ノ所得ニ對スル所得稅額及法人資本稅額ノ合計額（南洋群島ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有シタル法人ニ在リテハ第一種ノ所得ニ對スル

所得稅額ノミニ依ル）ニ相當スル金額ヲ以テ法人税ノ稅額トス

第十二條 法人税法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ガ臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ納付シタル又ハ納付スベキ各當該地ノ第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノハ之ヲ法人税ト看做シ法人税法第四條第二項ノ規定ヲ適用ス

第十三條 法人ノ所有スル國債ノ利子ガ朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ公債及社債利子税ヲ課セラルルモノナルトキハ當該公債及社債利子税ヲ配當利子特別税ト看做シ法人税法第十三條ノ規定ヲ適用ス

第十四條 法人税法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ各事業年度ノ所得中ニ朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル營業ヨリ生ズル所得アルトキハ其ノ部分ノ所得ニ付テハ法人税法第十六條第一項第一號ノ規定ニ拘ラズ百分ノ十五ノ税率ニ依リ法人税ヲ賦課ス

第十五條 法人ガ朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ納付シタル第二種ノ所得ニ對スル所得稅及資本利子税、臺灣ニ於ケル法令ニ依リ納付シタル配當稅並ニ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ納付シタル普通配當稅ハ之ヲ所得稅法第十條ニ規定スル配當利子所得ニ對スル分類所得稅ト看做シ法人税法第十六條第二項乃至第四項ノ規定ヲ適用ス

第十六條 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於テ所得稅ヲ免除スル各當該地ノ製造、採掘又ハ採取ノ事業ヨリ生ズル所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得稅法ニ依ル所得稅及法人稅法ニ依ル法人稅ヲ免除ス

第十七條 前條ノ規定ニ該當スル事業ガ製鐵事業法ニ依リ所得稅又ハ所得ニ對スル法人稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ベキ製鐵事業ニ相當スルモノナルトキハ之ヲ所得稅法施行地ニ在ル製鐵事業又ハ法人稅法施行地ニ在ル製鐵事業ト看做シ製鐵事業法第七條第三項(第十條、第十一條第二項及第四十三條ノ二第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ金額又ハ製鐵事業法第四十二條ノ規定ニ依リ適用セラルル製鐵業獎勵法第二條第三項ノ金額ヲ計算ス
前項ノ規定ハ輕金屬製造事業法、航空機製造事業法、人造石油製造事業法其ノ他ノ法律ニ依リ所得ニ對スル法人稅ヲ免除スル事業ノ一部ガ朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ在ル場合ニ於テ各其ノ法律ノ規定スル所ニ依リ當該事業ヨリ生ズル所得中一定金額ヲ超過スル部分ニ對シ法人稅ヲ免除セザルトキニ於ケル其ノ超過額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

附則

第十八條 本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條 大正九年法律第十二號ハ之ヲ廢止ス

第二十條 不動産所得、乙種ノ配當利子所得、事業所得、乙種ノ勤勞所得、山林ノ所得及乙種ノ退職所得ニ對スル分類所得稅並ニ個人ノ總所得ニ對スル綜合所得稅ニ付テハ昭和十五年分ヨリ本法ヲ適用ス

法人ノ各事業年度ノ所得及資本ニ對スル法人稅ニ付テハ昭和十五年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、清算所得ニ對スル法人稅ニ付テハ昭和十五年四月一日以後ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル分ヨリ本法ヲ適用ス

第二十一條 法人ノ本法施行前ニ終了シタル各事業年度分ノ所得及本法施行前ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル清算所得ニ對スル所得稅並ニ本法施行前ニ賦課シ若ハ賦課スベカリシ又ハ徵收シ若ハ徵收スベカリシ第二種又ハ第三種ノ所得ニ對スル所得稅ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル
第二十二條 朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得稅法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債、銀行預金及所得稅法第二十一條第二項ニ規定スル預金ノ利子並ニ命令ヲ以テ定ムル合同運用信託ノ利益ニ付テハ第六條ノ規定ニ拘ラズ當分ノ内利子又ハ利益ノ支拂ヲ受クル者ノ申請ニ依リ利子又ハ利益支拂ノ際其ノ利子金額又ハ利益金額ヲ課稅標準トシ百分ノ十五ノ稅率ニ依リ綜合所得稅ヲ賦課スルコトヲ得
所得稅法第六條第二項乃至第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第二十三條 所得稅法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債、朝鮮金融債券若ハ預金ノ利子又ハ合同運用信託ノ利益ニシテ各當該地ノ法令ニ依リ利子又ハ利益ノ支拂ノ際第三種ノ所得トシテ所得稅ヲ課シタルモノニ付テハ當分ノ內所得稅法ニ依ル綜合所得稅ヲ課セズ

七四 昭和十二年法律第九十四號中改正法律案(支那事變ノ爲從軍シタル軍人及軍屬ニ對スル租稅ノ減免、徵收猶豫等ニ關スル件)

昭和十二年法律第九十四號中左ノ通改正ス

第一條ニ左ノ一項ヲ加フ

支那事變ノ爲從軍シタル軍人及軍屬ノ納付スル昭和十五年以降ノ分ノ所得稅及營業稅ニ付亦前項ニ同ジ

第二條ニ左ノ一項ヲ加フ

支那事變ノ爲從軍シタル軍人及軍屬ノ納付スル昭和十五年以降ノ分ノ所得稅及營業稅ニ付亦前項ニ同ジ

附則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

七五 大正十三年法律第六號中改正法律案(外國船舶ノ所得稅等免除ニ關スル件)

大正十三年法律第六號中左ノ通改正ス
「及營業收益稅」ヲ「又ハ所得ニ對スル法人稅及營業稅」ニ改ム

附則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

七六 アルコール製造事業等ニ對スル所得稅等ノ免除規定ノ改正ニ關スル法律案

第一條 アルコール專賣法中左ノ通改正ス

第四十二條中「及營業收益稅」ヲ「又ハ所得ニ對スル法人稅及營業稅」ニ、「前項」ヲ「前三項」ニ改メ同條第一項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ

法人ノ前項ノ事業ヨリ生ズル所得又ハ純益ガ各事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セズ但シ特許又ハ委託ヲ受ケタル年及其ノ翌年ヨリ三年間ハ此ノ限ニ在ラズ前項ノ資本金額ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 北支那開發株式會社法中左ノ通改正ス
第三十一條中「所得稅及營業收益稅」ヲ「所得ニ對スル法人稅及營業稅」ニ改メ同條ニ左ノ三項ヲ加フ

北支那開發株式會社ノ所得又ハ純益ガ各事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セズ但シ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ資本金額ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第十四條ノ規定ニ依ル投資又ハ融資ヨリ生ズル北支那開發株式會社ノ甲種ノ配當利子所得ニシテ第一項ニ規定スル法人稅及營業稅ノ免除期間内ニ生ジタルモノニハ命令ノ定ムル所ニ依リ分類所得稅ヲ課セズ

第三十二條中「北支那開發株式會社」ノ下ニ「ニハ同條第二項ノ規定ニ依リ賦課セラレタル

營業稅ノ附加稅ヲ除クノ外其」ヲ加フ

第三條 輕金屬製造事業法中左ノ通改正ス

第七條中「所得稅及營業收益稅」ヲ「所得ニ對スル法人稅及營業稅」ニ、「前項」ヲ「第一項」ニ改メ同條第一項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ

前項ノ事業ヨリ生ズル所得又ハ純益ガ各事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セズ但シ設備完成ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ新設シ又ハ増設シタル設備ヲ以テ營ム輕金屬製造事業ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ資本金額ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條中「所得稅及營業收益稅」ヲ「所得ニ對スル法人稅及營業稅」ニ改メ「輕金屬製造會社」ハ「下ニ」前條第二項ノ規定ニ依リ賦課セラレタル營業稅ノ附加稅ヲ除クノ外」ヲ加フ

第九條中「所得稅及營業收益稅」ヲ「所得ニ對スル法人稅及營業稅」ニ改ム

第四條 工作機械製造事業法中左ノ通改正ス

第七條中「所得稅及營業收益稅」ヲ「所得ニ對スル法人稅及營業稅」ニ、「前項」ヲ「第一項」ニ改メ同條第一項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ

前項ノ事業ヨリ生ズル所得又ハ純益ガ各事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セズ但シ設備完成ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ新設シ又ハ増設シタル設備ヲ以テ營ム工作機械製造事業ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ資本金額ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第八條中「所得稅及營業收益稅」ヲ「所得ニ對スル法人稅及營業稅」ニ改メ「工作機械製造會社ニハ」ノ下ニ「前條第二項ノ規定ニ依リ賦課セラレタル營業稅ノ附加稅ヲ除クノ外」ヲ加フ

第九條中「所得稅及營業收益稅」ヲ「所得ニ對スル法人稅及營業稅」ニ改ム
第五條 航空機製造事業法中左ノ通改正ス

第九條中「所得稅及營業收益稅」ヲ「所得ニ對スル法人稅及營業稅」ニ改メ同條ニ左ノ二項ヲ加フ
前項ノ事業ヨリ生ズル所得又ハ純益ガ各事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セズ但シ第二條ノ許可ヲ受ケタル年及其ノ翌年ヨリ三年間ハ此ノ限ニ在ラズ
前項ノ資本金額ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條中「所得稅及營業收益稅」ヲ「所得ニ對スル法人稅及營業稅」ニ改メ「航空機製造會社ニハ」ノ下ニ「前條第二項ノ規定ニ依リ賦課セラレタル營業稅ノ附加稅ヲ除クノ外」ヲ加フ

第六條 國際電氣通信株式會社法中左ノ通改正ス
第十四條ノ六中「所得稅及營業收益稅」ヲ「所得ニ對スル法人稅及營業稅」ニ改メ同條ニ左ノ二項ヲ加フ

前項ノ事業ヨリ生スル所得又ハ純益カ每營業期ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セズ但シ昭和十五年一月一日ヨリ四年間ハ此ノ限ニ在ラズ
前項ノ資本金額ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條ノ七中「所得稅及營業收益稅」ヲ「所得ニ對スル法人稅及營業稅」ニ、「事業ニ對シ」ヲ「事業ニ對シテハ前條第二項ノ規定ニ依リ賦課セラレタル營業稅ノ附加稅ヲ除クノ外」ニ改ム
第七條 自動車製造事業法中左ノ通改正ス
第六條中「所得稅及營業收益稅」ヲ「所得ニ對スル法人稅及營業稅」ニ改メ同條ニ左ノ二項ヲ加フ

前項ノ事業ヨリ生ズル所得又ハ純益ガ各事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セズ但シ第二條ノ許可ヲ受ケタル年及其ノ翌年ヨリ三年間ハ此ノ限ニ在ラズ
前項ノ資本金額ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前項ノ規定
ヲ適用セズ但シ第三條ノ許可ヲ受ケタル年及其ノ翌年ヨリ三年間ハ此ノ限ニ在ラズ
前項ノ資本金額ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ規定ニ依リ所得ニ對スル法
人税及營業稅ヲ免除セラレタル自動車製造會社ニハ前條第二項ノ規定ニ依リ賦課セラレタ
ル營業稅ノ附加稅ヲ除クノ外其ノ免除セラレタル事業ニ對シ課稅スルコトヲ得ズ但シ特別
ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第八條 人造石油製造事業法中左ノ通改正ス

第六條中「所得稅及營業收益稅」ヲ「所得ニ對スル法人税及營業稅」ニ改メ同條ニ左ノ二項ヲ加
フ

前項ノ事業ヨリ生ズル所得又ハ純益ガ各事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以
テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前項ノ規定
ヲ適用セズ但シ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ資本金額ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ規定ニ依リ所得ニ對スル法

人税及營業稅ヲ免除セラレタル人造石油製造會社ニハ前條第三項ノ規定ニ依リ賦課セラレ
タル營業稅ノ附加稅ヲ除クノ外其ノ免除セラレタル事業ニ對シ課稅スルコトヲ得ズ但シ特
別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 製鐵事業法中左ノ通改正ス

第七條中「及營業收益稅」ヲ「又ハ所得ニ對スル法人税及營業稅」ニ、「所得稅法第十九條又ハ
營業收益稅法第八條」ヲ「所得稅法第五條、法人稅法第十二條又ハ營業稅法第十二條」ニ改メ
第十條中「第一項及第二項」ヲ削ル

第十一條中「及營業收益稅」ヲ「又ハ所得ニ對スル法人税及營業稅」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加
フ

第七條第三項及第四項ノ規定ハ前項ノ製鐵事業ニ付之ヲ準用ス
第十二條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ本法ニ依リ（第七條第三項但書
ノ場合ヲ含ム）所得稅又ハ所得ニ對スル法人税及營業稅ヲ免除セラレタル製鐵事業者ニハ

第七條第三項（第十條及前條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ依リ賦課セラレタ
ル營業稅ノ附加稅ヲ除クノ外其ノ免除セラレタル事業ニ對シ課稅スルコトヲ得ズ但シ特別
ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ前條ノ規定ニ依リ所得税又ハ所得ニ對スル法人税及營業税ヲ免除セラレタル事業ニハ之ヲ適用セズ但シ其ノ事業ガ第七條乃至第九條ノ規定ニ依リ所得税又ハ所得ニ對スル法人税及營業税ノ免除ヲ受クルコトヲ得ベキモノナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條中「及營業收益税」ヲ「又ハ所得ニ對スル法人税及營業税」ニ改ム

第四十二條ニ左ノ一項ヲ加フ

第一項ノ製鐵事業ヲ營ム者及前二項ニ規定スル者ニ對スル昭和十五年度分以降ノ地方税ノ免除ニ關シテハ前三項ノ規定ニ拘ラズ第十二條ノ例ニ依ル

第四十三條ノ二 昭和十五年四月一日以降ニ於テハ前二條中所得税トアルハ所得税又ハ所得

ニ對スル法人税トシ營業收益税トアルハ營業税トス

第七條第三項及第四項ノ規定ハ前條ニ規定スル者ニ對シ所得税又ハ所得ニ對スル法人税及營業税ヲ免除スベキ場合ニ付之ヲ準用ス

第十條 大日本航空株式會社法中左ノ通改正ス

第三十條中「所得税及營業收益税」ヲ「所得ニ對スル法人税及營業税」ニ改メ同條ニ左ノ三項ヲ加フ

大日本航空株式會社ノ所得又ハ純益ガ各事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以

テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セズ但シ本法施行ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ資本金額ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條ノ規定ニ依ル投資又ハ融資ヨリ生ズル大日本航空株式會社ノ甲種ノ配當利子所得

ニシテ第一項ニ規定スル法人税及營業税ノ免除期間内ニ生ジタルモノニハ命令ノ定ムル所

ニ依リ分類所得税ヲ課セズ

第三十一條中「所得税及營業收益税」ヲ「所得ニ對スル法人税及營業税」ニ改メ「大日本航空株

式會社」ノ下ニ「ニハ前條第二項ノ規定ニ依リ賦課セラレタル營業税ノ附加税ヲ除クノ外其」

ヲ加フ

第十一條 帝國鑛業開發株式會社法中左ノ通改正ス

第三十一條中「所得税及營業收益税」ヲ「所得ニ對スル法人税及營業税」ニ改メ同條ニ左ノ三項

ヲ加フ

帝國鑛業開發株式會社ノ所得又ハ純益ガ各事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ

以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前項ノ規

定ヲ適用セズ但シ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ資本金額ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第十一條ノ規定ニ依ル資金ノ融通又ハ投資ヨリ生ズル帝國鑛業開發株式會社ノ甲種ノ配當
利子所得ニシテ第一項ニ規定スル法人税及營業税ノ免除期間内ニ生ジタルモノニハ命令ノ
定ムル所ニ依リ分類所得税ヲ課セズ

第三十二條中「所得税及營業收益税」ヲ「所得ニ對スル法人税及營業税」ニ改メ「帝國鑛業開發
株式會社」ノ下ニ「ニハ前條第二項ノ規定ニ依リ賦課セラレタル營業税ノ附加税ヲ除クノ外
其」ヲ加フ

第十二條 帝國燃料興業株式會社法中左ノ通改正ス

第三十二條 帝國燃料興業株式會社ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ十年
間所得ニ對スル法人税及營業税ヲ免除ス

帝國燃料興業株式會社ノ所得又ハ純益ガ各事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ
以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前項ノ規
定ヲ適用セズ但シ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ資本金額ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條ノ規定ニ依ル投資ヨリ生ズル帝國燃料興業株式會社ノ甲種ノ配當利子所得ニシテ

第一項ニ規定スル法人税及營業税ノ免除期間内ニ生ジタルモノニハ命令ノ定ムル所ニ依リ
分類所得税ヲ課セズ

第三十三條中「帝國燃料興業株式會社」ノ下ニ「ニハ前條第二項ノ規定ニ依リ賦課セラレタル
營業税ノ附加税ヲ除クノ外其」ヲ加フ

第十三條 日本產金振興株式會社法中左ノ通改正ス

第三十二條 日本產金振興株式會社ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ十年
間所得ニ對スル法人税及營業税ヲ免除ス

日本產金振興株式會社ノ所得又ハ純益ガ各事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ
以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前項ノ規
定ヲ適用セズ但シ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ資本金額ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第十二條ノ規定ニ依ル資金ノ融通又ハ投資ヨリ生ズル日本產金振興株式會社ノ甲種ノ配當
利子所得ニシテ第一項ニ規定スル法人税及營業税ノ免除期間内ニ生ジタルモノニハ命令ノ
定ムル所ニ依リ分類所得税ヲ課セズ

第三十三條中「日本產金振興株式會社」ノ下ニ「ニハ前條第二項ノ規定ニ依リ賦課セラレタル

營業稅ノ附加稅ヲ除クノ外其ノ加フ
第十四條 硫酸アンモニア増産及配給統制法中左ノ通改正ス

第一條中「所得稅及營業收益稅」ヲ「所得ニ對スル法人稅及營業稅」ニ、「前項」ヲ「第一項」ニ改
メ同條第一項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ

前項ノ事業ヨリ生ズル所得又ハ純益ガ各事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以
テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前項ノ規定
ヲ適用セズ但シ設備完成ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ新設シ又ハ増設シタル設備ヲ以テ
營ム硫酸アンモニア製造業ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
前項ノ資本金額ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條中「所得稅及營業收益稅」ヲ「所得ニ對スル法人稅及營業稅」ニ改メ「硫酸アンモニア製
造業者ニハ」ノ下ニ「前條第二項ノ規定ニ依リ賦課セラレタル營業稅ノ附加稅ヲ除クノ外」ヲ
加フ

第三條中「所得稅及營業收益稅」ヲ「所得ニ對スル法人稅及營業稅」ニ改ム

附則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

法人稅及法人ノ營業稅ニ付テハ昭和十五年四月一日以後終了スル事業年度分ヨリ本法ニ依ル各
法律ノ改正規定ヲ適用シ個人ノ製鐵事業ヨリ生ズル所得及純益ニ對スル所得稅及營業稅ニ付テ
ハ昭和十五年分ヨリ第九條ノ規定ニ依ル製鐵事業法ノ改正規定ヲ適用シ地方稅ニ付テハ昭和十
五年度分ヨリ本法ニ依ル各法律ノ改正規定ヲ適用ス
法人ノ昭和十五年三月三十一日以前ニ終了シタル各事業年度分ノ所得及純益ニ對スル所得稅及
營業收益稅、法人ノ昭和十五年三月三十一日以前ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル清算所得ニ對ス
ル所得稅、個人ノ製鐵事業ヨリ生ズル所得及純益ニ對スル昭和十四年分以前ノ所得稅及營業收
益稅並ニ昭和十四年度分以前ノ地方稅ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

七七 租稅法規ノ改正ニ伴フ恩給金庫法等ノ規定ノ整理ニ關スル法律案

第一條 恩給金庫法中左ノ通改正ス

第十條中「及營業收益稅」ヲ「法人稅及營業稅」ニ改ム

第四十一條中「資本利子稅法」ヲ削ル

第二條 家畜保險法中左ノ通改正ス

第八條中「及營業收益稅」ヲ「法人稅及營業稅」ニ改ム

第三條 海運組合法中左ノ通改正ス

第三十二條中「及營業收益稅」ヲ「法人稅及營業稅」ニ改ム

第四條 漁業法中左ノ通改正ス

第四十五條中「所得稅」ノ下ニ「法人稅、營業稅」ヲ加フ

第五條 軍馬資源保護法中左ノ通改正ス

第十四條中「及營業收益稅」ヲ「法人稅及營業稅」ニ改ム

第六條 競馬法中左ノ通改正ス

第十六條中「及營業收益稅」ヲ「法人稅及營業稅」ニ改ム

第七條 工業組合法中左ノ通改正ス

第三十三條ノ九中「營業收益稅」ヲ「營業稅」ニ改ム

第八條 國稅徵收法中左ノ通改正ス

第四條ノ五 既納ノ稅金過納ナルトキハ其ノ稅金ノ屬スル年度内ノ他ノ納期ニ於テ徵收スヘ

キ同一稅目ノ稅金ニ充ツルコトヲ得

第九條 產業組合法中左ノ通改正ス

第六條中「所得稅」ノ下ニ「法人稅」ヲ加フ

第十條 產業組合自治監查法中左ノ通改正ス

第六條中「所得稅」ノ下ニ「及法人稅」ヲ加フ

第十一條 產業組合中央金庫法中左ノ通改正ス

第八條中「及營業收益稅」ヲ「法人稅及營業稅」ニ改ム

第十二條 重要肥料業統制法中左ノ通改正ス

第九條中「及營業收益稅」ヲ「法人稅及營業稅」ニ改ム

第十三條 商工會議所法中左ノ通改正ス

第十四條第一項第三號中「營業收益稅、取引所營業稅又ハ鑛產稅」ヲ「營業稅又ハ取引所特別

稅」ニ改ム

第六十二條 樺太ニ於テハ本法ノ施行ニ關シ必要アルトキハ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコト

ヲ得

第十四條 商工組合中央金庫法中左ノ通改正ス

第二十二條中「及營業收益稅」ヲ「法人稅及營業稅」ニ改ム

第三十六條中「資本利子稅法」ヲ削ル

第十五條 庶民金庫法中左ノ通改正ス

第八條中「又營業收益稅」ヲ「法人稅及營業稅」ニ改ム

第二十六條中「資本利子稅法」ヲ削ル

第十六條 造船事業法中左ノ通改正ス

第三十八條中「及營業收益稅」ヲ「法人稅及營業稅」ニ改ム

第十七條 退職積立金及退職手當法中左ノ通改正ス

第十九條中「第二種所得稅又ハ資本利子稅」ヲ「分類所得稅」ニ改ム

第二十二條中「營業收益稅法」ヲ「法人稅法、營業稅法」ニ改ム

第十八條 取引所法中左ノ通改正ス

第三十條ノ二 會員組織ノ取引所ニハ營業稅ヲ課セス

第十九條 日本銀行納付金法中左ノ通改正ス

第三項中「所得稅法」ヲ「法人稅法」ニ、「營業收益稅法」ヲ「營業稅法」ニ改ム

第二十條 農業倉庫業法中左ノ通改正ス

第十四條中「營業收益稅」ヲ「法人稅」ニ改ム

第二十一條 農業保險法中左ノ通改正ス

第七條中「及營業收益稅」ヲ「法人稅及營業稅」ニ改ム

第二十二條 復興貯蓄債券法中左ノ通改正ス

第六條中「所得稅」ノ下ニ「及法人稅」ヲ加フ

第二十三條 保險業法中左ノ通改正ス

第八十一條中「營業收益稅」ヲ「營業稅」ニ改ム

第二十四條 酪農業調整法中左ノ通改正ス

第九條中「及營業收益稅」ヲ「法人稅及營業稅」ニ改ム

附則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十六年三月三十一日迄ハ商工會議所法第十四條ノ改正規定ニ拘ラズ同條第一項第三號ノ納稅ニ關スル條件ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

日本銀行納付金法第三項ノ改正規定ハ日本銀行ノ昭和十五年前事業年度分ヨリ之ヲ適用ス
右七七乃至七七ノ六案ハ昭和十五年二月二十七日孰レモ本院ニ提出ス同月二十九日六案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ木村大藏政務次官ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只今議題トナリマシタ家屋稅法案外五件ニ付提出ノ理由ヲ說明致シタイト存ジマス、中央地方ヲ

通ズル税制ノ一般的改正ニ付キマシテハ、先般所得税法改正法律案外三十八件ノ法律案ヲ提出シテ御審議ヲ煩ハシテ居ル次第デアリマスガ、是等ノ諸法律案ノ外、之ニ追加シテ御協賛ヲ願ヒタキ諸法律案ヲ茲ニ一括シテ提出シタ次第デアリマス、先ヅ家屋税法案ニ付説明致シマス、曩ニ説明致シマシタ如ク、今回直接國稅體系ノ改組ニ伴ヒマシテ、收益稅タル地租、家屋稅及ビ營業稅ハ、之ヲ地方ノ獨立財源トシテ、地方團體財政ノ基礎確立ニ資スルコトト致シタデアリマスガ、其ノ課徵方法ハ、負擔ノ衡平ヲ期スル等ノ理由ニ依リマシテ分與稅及ビ附加稅ノ併用ト云フコトニ致シマシタノデ、既ニ御審議ヲ願ツテ居リマスル地租法中改正法律案及ビ營業稅法案ノ外ニ、新ニ家屋稅法ヲ制定シテ、家屋稅ヲ國稅トシテ課徵スルコトト致シタデアリマス、而シテ此ノ國稅トシテ徵收致シマシタ家屋稅ハ、還付稅トシテ其ノ儘徵收地道府縣ニ之ヲ還付スルコトニ相成ルノデアリマス、家屋稅ハ家屋ノ賃賃價格ヲ課稅標準トシ、地租及ビ營業稅トノ權衡ヲ考慮シ、百分ノ一・七五ノ稅率ニ依リ賦課セントスルモノデアリマスガ、家屋賃賃價格ノ適正ナル調査ニハ、相當ノ時日ヲ要スト認メラレマスノデ、昭和十五、十六ノ兩年ニ互ツテ之ガ調査ヲ行ヒ、國稅タル家屋稅ハ昭和十七年分ヨリ之ヲ徵收スルコトト致シテ居ルノデアリマス、次ニ所得稅法人稅内外地關涉法案ニ付説明致シマス、課稅物件ガ内外地ニ跨ル場合等ニ於ケル所得稅ノ賦課ノ調整等ニ付キマシテハ、從來大正九年法律第十二號ノ定メガアツタノデアリマスガ、今回所得稅制度ノ改正、法人稅ノ創設ニ伴ヒマシテ、之ヲ全般的ニ改正スルノ必要ヲ生ジマシタノデ、從前ノ法律ハ之ヲ廢止シ、新ニ所得稅法人稅内外地關涉法ヲ制定スルコトトシ、本法律案ヲ提出致シタ次第デアリマス、次ニ昭和十二年法律第九十四號ハ、支那事變ノ爲從軍シタル軍人及ビ軍屬ニ對シ、第三種所得稅、營業收益稅等ノ輕減若クハ免除ヲ爲シ、又ハ課稅標準ノ決定ニ關シ特例ヲ設クルコトヲ得ルコトト致シテ居ルノデアリマスガ、今回ノ稅制改正後ニ於キマシテモ、改正後ノ所得稅及ビ營業稅等ニ付同様ノ措置ヲ講ズルヲ適當ト認メラレマスノデ、之ニ關スル改正法律案ヲ提出シタ次第デアリマス、又大正十三年法律第六號ハ、外國船舶ノ所得及ビ純益ニ對スル所得稅及ビ營業收益稅ノ免除ニ關スル法律デアリマスガ、法人稅法及ビ營業稅

法ノ制定ニ伴ヒ、所得稅ノ外所得ニ對スル法人稅及ビ營業稅ヲ免除スルコトトスル爲、之ガ改正案ヲ提出スルコトニ致シタ次第デアリマス、次ニ「アルコール」製造事業等ニ對スル所得稅等ノ免除規定ノ改正ニ關スル法律案ニ付説明致シマス、「アルコール」製造事業、北支那開發株式會社、輕金屬製造事業、工作機械製造事業、航空機製造事業、國際電氣通信株式會社、自動車製造事業、人造石油製造事業、製鐵事業、大日本航空株式會社、帝國鑛業開發株式會社、帝國燃料興業株式會社、日本產金振興株式會社及ビ硫酸「アンモニヤ」製造事業ニ付キマシテハ、是等事業ノ保護助長ヲ圖リ、現下緊要ナル生産力ノ擴充等ニ資スル爲、各事業法又ハ會社法ニ依リマシテ、ソレノ適當ト認メル期間、所得稅及ビ營業收益稅ヲ免除致シテ居ルノデアリマシガ、國民ノ租稅負擔ヲ一般ニ増加セシムル際、無條件ニ免稅スルコトハ適當ニアラズト認メラレマスノデ、開業等ノ翌年ヨリ三箇年間ヲ經過シタ後ニ於テ、一割以上ノ利益ヲ收メマシタ場合ニ於キマシテハ、其ノ一割ヲ超ユル部分ニ付テハ免稅セザルコトト致シタデアリマス、尙ホ是ト共ニ自動車製造事業法等ニ於ケル地方稅ノ課稅禁止ニ關スル規定ヲ整理スルコトト致シテ居リマス、最後ニ租稅法規ノ改正ニ伴フ恩給金庫法等ノ規定ノ整理ニ關スル法律案デアリマシガ、今回ノ稅制改正ニ伴ヒマシテ、恩給金庫法外二十三件ノ法律中、所得稅、營業收益稅等ノ非課稅ニ關スル規定、又ハ是等ノ稅目ヲ掲ゲテアル規定等ニ付、ソレノ整理改正ノ必要ヲ生ジマシタノデ、茲ニ是等ノ改正規定ヲ一括致シマシテ、本法律案ヲ作成提出シタ次第デアリマス、以上家屋稅法案外五件ノ法律案ニ付提出ノ理由ヲ説明致シタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上速ニ御協賛アラントヲ希望スル次第デアリマス

次テ六案ハ一括シテ政府提出所得稅法改正法律案外三十件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審查ノ末各原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十六日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月十七日右六案、七乃至三七及四七乃至五四ノ四十五案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ院議

異議ナク四十五案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ討論ノ後七二乃至七七ノ六案ハ院議異議ナク原案ノ通可決ス(委員長報告並議事ノ經過及結果ハ本項第七參看)

(七乃至三七、四七乃至五四ノ採決ハ本項第七參看)

院議異議ナク直ニ四十五案ノ第二讀會ヲ開キ第二讀會議決ノ通議決シ即日貴族院ニ送付ス
貴族院ニ於テハ三月二十五日七二乃至七七ノ六案ヲ可決奏上ス

七月十三日 七二ハ法律第百八號、三月二十九日 七三ハ法律第五十五號、七四ハ法律第五十六號、七五ハ法律第五十七號、七六ハ法律第五十八號、七七ハ法律第五十九號ヲ以テ公布セラ

七八 裁判所構成法中改正法律案

裁判所構成法中左ノ通改正ス

第八十六條第一項中「地方裁判所檢事局ノ書記課ニ」ノ下ニ「書記長又ハ」ヲ加フ

右ハ昭和十五年二月二十八日本院ニ提出ス三月二日本案ノ第一讀會ヲ開キ木村司法大臣ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只今議題トナリマシタ裁判所構成法中改正法律案ニ付キマシテ、其ノ提案ノ趣旨ヲ御説明申上

ゲタイト存ジマス、現在地方裁判所及ビ同檢事局ノ監督書記ハ、總テ判任官デゴザイマスルガ、書記課ノ事務ノ現状ニ鑑ミマシテ、又裁判所書記ノ地位ノ向上ノ爲ニ、地方裁判所及ビ同檢事局ニモ、奏任官タル書記長ヲ置クノ途ヲ開クノ必要ガアルノデゴザイマス、仍テ其ノ趣旨ノ改正ヲ致サントスルノガ即チ本案デゴザイマス、其ノ詳細ニ付キマシテハ、他ノ機會ニ十分ニ御説明申上ゲタイト存ジマスルガ、何卒御審議ノ上本案ニ對シ御協贊ヲ與ヘラレンコトヲ切望致ス次第アリマス

次テ本案ハ政府提出會計檢査院法中改正法律案委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十七日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同日議事日程ヲ變更シ本案及五八、六一、六八、八一ノ五案ヲ一括シテ第一讀會ノ讀會ヲ開キ(委員長報告ハ本項第六八參看)院議異議ナク五案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ各原案ノ通可決シ即日本案及六八、八一ノ三案ハ貴族院ニ送付シ五八及六一ノ兩案ハ即日裁

可ヲ奉請シ其ノ旨貴族院ニ通知ス

貴族院ニ於テハ三月二十二日本案ヲ可決奏上ス

三月二十七日法律第十九號ヲ以テ公布セラ

七九 金華山軌道株式會社及朝倉軌道株式會社所屬軌道ノ經營廢止ニ對スル補償

ノ爲公債發行ニ關スル法律案

政府ハ左ノ軌道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲之ニ必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得

一 金華山軌道株式會社所屬軌道

一 朝倉軌道株式會社所屬軌道

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ昭和十五年二月二十八日本院ニ提出ス三月二日本案ノ第一讀會ヲ開キ松野鐵道大臣ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只今上程サレマシタ法律案ノ提案理由ヲ簡單ニ申上ゲマス、今回提案致シマシタ法律案ハ、軌道營業廢止補償ノ爲公債發行ニ關スルモノデゴザイマス、補償セントスル軌道ハ、宮城縣ノ金華山軌道ト福岡縣ノ朝倉軌道デゴザイマス、是等ハ何レモ國有鐵道ガ接近並行シテ敷設セラレマシタ結果、其ノ影響ヲ受ケマシテ、營業ヲ繼續スルコトガ出來ナクナリマシタ、今回其ノ營業廢止ニ依ツテ生ズル損失ヲ補償セントスル次第デゴザイマス、何卒御審議ノ上御協賛アラントコトヲ希望致シマス

大石倫治君質疑ヲ爲シ松野鐵道大臣應答ス

大石倫治君ノ質疑

只今上程ニ相成リマシタ金華山軌道、朝倉軌道ノ兩會社ニ對スル補償ノ問題ハ、甚ダ簡單デアリマス、宮城縣石卷ヨリ女川ニ達スル金華山軌道ハ十三籽八分、又福岡縣朝倉軌道會社ハ、鹿兒島

本線二日市町ヨリ朝倉郡杷木村ニ至ル三十二籽二分、僅カノモノデアリマスガ、是等ノ小軌道ヲ經營致シマスニハ、地方ハ少カラザル犧牲ヲ拂ヒマシテ、地方交通事業ノ爲ニ貢獻致シテ居ツタノデアリマス、殊ニ金華山軌道株式會社ハ非常ナル經營困難ニ陥リマシテ、經營者並ニ此ノ株式ヲ所有致シテ居リマス者ハ、非常ナル犧牲ニナツテ居ルコトヲ私ハ聞イテ居リマスガ、金華山軌道ハ、女川國有鐵道ノ開設ニ依リマシテ、全ク營業不可能ノ状態ニ陥リ、遂ニ營業廢止ノ許可ヲ受クルニ至ツタノデアリマス、朝倉軌道會社モ同様ノ状態ニ在ルヤウデアリマスガ、是等ノ軌道會社ニ對シテノ補償ハ、現金ヲ以テ支拂ハレルノデアリマセウカ、全部公債ニ依ルノデアリマセウカ、其ノ一點ヲ御伺致シタイ、又ソレ等ノ軌道會社ニ從事シテ居リマシタ所ノ従業員ノ始末ハ、如何ニ相成ルノデゴザイマセウカ、簡單ナガラ此ノ二點ヲ御伺致シタイト思ヒマス、尙ホ此ノ機會ニ於キマシテ、私ハ東北方面ニ於キマスル鐵道ノ建設改良等ニ關シテ、御伺ヲ致シテ見タイト存ズルノデアリマス、先般本壇上ヨリ他ノ問題ニ關聯シテ申上ゲテ置イタノデアリマスガ、東北方面ニ於ケル振興ハ、多年ノ要望デアリマスケレドモ、此ノ東北ノ振興ノ動脈ヲ成スモノハ鐵道デナケレバナラヌト思フノデアリマス、然ルニ東北方面ニ於ケル鐵道ハ、建設改良甚ダ遅々トシテ進ンデ居リマセヌ、上野青森間ハ我ガ本州ニ於ケル所ノ大動脈デアアルニ拘ラズ、未ダ單線ヲ以テ運轉ヲセラレテ、其ノ輸送力ニ於キマシテ非常ナ不足ヲ告ゲテ居ルノデアリマス、又近年北海道、樺太、滿洲方面トノ交通關係ガ、頻繁ニナツテ居ルノデアリマスカラ、ヤハリ東海道線同様ノ待遇ヲセラルベキ筈デアルト思フノデアリマス、然ルニ單線ニ加フルニ、運轉スル列車ニ營テハアツタ一等車ノ連結モ之ヲ廢止シテ居ル、斯様ナ差別待遇ハ洵ニ殘念ナコトデアルト信ズルノデアリマス、故ニ上野青森間ハ一日モ速ニ複線工事ヲ施行セラレンコトヲ切望スルノデアリマス、時局柄資材ノ缺乏其ノ他ノ關係デ容易ニ出來ナイダラウト思ヒマスケレドモ、之ニ對スル方針ニ付テ御説明ヲ願ヒタイト存ズルノデアリマス、又其ノ他各私線ニ對スル建設或ハ改良ノ點ニ於キマシテモ、未ダ十分ナリト申スコトハ出來ナイ、先般來關係地方ヨリ鐵道省ニ申請促進ヲ願ツテ居リマスル、秋田縣十文字町ヨリ宮城縣鳴

子驛ニ達シマスル鐵道建設ノ如キハ、經濟的ニ見マシテモ、觀光上カラ見マシテモ、軍事上カラ見マシテモ、最モ重要ナル線デアリマス、若シ此ノ線ガ建設セラレテ居ルトスルナラバ、先般ノ木炭飢饉ノ如キハ、恐ラクナカッタラウト存ズルノデアリマス、故ニ私ハ此ノ機會ニ於キマシテ、東北方面ニ於ケル交通ヲ完備スルコトガ、國策ニ應ズル物資ノ配給等ヲ圓滑ナラシメ、又地方資源ノ開發ヲ行フ上ニモ、目下適切ナル事柄デアラウト存ジマス、只今申シマシタ路線ニ於ケル鬼首村ノ如キハ、木炭ガ一万俵以上モ滯貨シテ、雪ノ爲ニ搬出ガ出来ナイ、若シ鐵道ガ開設シテアリマスルナラバ、其ノ搬出ハ容易ニ出来ルノデゴザイマス、一箇村ニ一万俵ノ木炭ガ滯貨シテ居ル状態カラ推定致シマシタナラバ、全國デハ非常ニ多イ、此ノ木炭ノ輸送力ニ付テモ、或ハ米又ハ木材ノ輸送ニ付キマシテモ、或ハ東北ニ於ケル天然資源ノ開發ニモ、鐵道ノ建設竝ニ改良ハ、最モ緊急ヲ要スルコトト存ズルノデアリマスカラ、之ニ對シテ鐵道大臣ノ御所見ヲ伺ヒタイト存ジマス、餘リ多岐ニ互リマス、議長カラ御注意ヲ受ケマスカラ、此ノ邊デ終リマス

松野鐵道大臣ノ應答

大石君ノ御質疑ニ御答申上ゲマス、此ノ兩軌道ハ既ニ營業ヲ停止シテ居リマスカラ、從事員ノ問題ハ、會社ト從事員ノ間ニ於キマシテ、適當ニ解決致スト信ジテ居リマス、ソレカラ現金デ渡スカ公債デ渡スカ、斯ウ云フ御質疑デアリマスガ、是ハ全部公債デ以テ支給致シマス、ソレカラ東北本線ニ對スル輸送ノ強化ヲ圖ル爲ニ、複線工事ヲドウ云フヤウニ考ヘテ居ルカト云フコトデアリマスガ、是ハ目下調査致シテ居リマス、尙ホ東北地方ニ對シテハ、東北地方ノ産業開發ノ上カラ申シマシテ、出來ル限リ鐵道建設ニ對シテハ考慮致シテ居リマスカラ、財源資材ノ都合ヲ能ク考ヘマシテ、出來ル限リ建設ニ努力シタイト考ヘテ居リマス

次テ本案ハ議長指名十八名ノ委員ニ付託スルニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ三月四日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十二日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月十四日議事日程ノ順序ヲ變更シ本案及八四ノ兩案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長名川侃市君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

只今議題トナリマシタ金華山軌道株式會社及朝倉軌道株式會社所屬軌道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案、竝ニ自動車交通事業法中改正法律案、此ノ兩案ニ付テノ特別委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、委員會ハ去ル五日ヨリ金華山軌道、朝倉軌道ノ分ニ付キマシテハ十二日マデ、自動車交通事業法中改正法律案ニ付キマシテハ十四日マデ、委員會ヲ繼續致シマシテ、鐵道大臣ヨリ提案ノ趣旨ニ付キマシテ詳細ナル説明ガアリマシタ、之ニ對シ各委員ヨリ詳細熱心ナル質疑ガ爲サレテ、政府ヨリ懇篤ナル答辯ガゴザイマシタ、其ノ詳細ハ速記録ニ讓ルコトニ致シマシテ、唯一ニ主要ノ點ノミヲ報告スルコトニ致シマス、金華山軌道及朝倉軌道ノ補償ニ付キマシテハ、或ル委員ヨリ金華山軌道ノ如キハ、何故ニ省線女川線ヲ建設スル時ニ、此ノ線路ヲ買収シテ、其ノ線ヲ建設ニ利用シナカッタカト云フ質問ガアリマシタガ、此ノ點ニ付キマシテハ、政府ヨリ此ノ軌道其ノモノガ、之ヲ買収シテモ利用スルコトノ出來ヌ線デアツタカラ、買収シナカッタモノデアルト云フコトノ説明ガアツタノデアリマス、ソレカラ斯ウ云フヤウナ兩軌道會社ノ經營ガ不能ニナツテ、營業ヲ廢止スルト云フナラバ、如何ナル程度ニ於テ營業繼續ハ出來ナイト云フ、收益ノ程度ニナレバ宜イノデアルカト云フコトニ付テノ質問ガアリマシタガ、之ニ對シマシテハ、ドノ位ナ損害ガアツタ場合ニ營業ノ廢止ヲ許可スルト云フ、一ツノ決ツタ限度ト云フモノハナイノデ、一律ニハ言ヘヌノデアルガ、省線開通ノ爲ニ旅客貨物ヲ奪ハレ、將來再起ノ見込ガナクナツタ場合ニハ、其ノ實情ヲ審ニ調査ノ上デ補償ヲ決定スルト云フ答辯ガゴザイマシタ、ソレデ此ノ軌道廢止ニ基ク補償ニ付キマシテハ、十二日ノ委員會ニ於キマシテ討論ニ入りマシテ、各會派ヨリ何レモ贊成ノ意見ヲ述ベラレマシテ、滿場一致ヲ以テ原案ガ可決サレマシタ、次ニ自動車交通事業法中改正法律案ニ付キマシテハ、第一ニ交通運輸ニ關スル行政機構ヲ改革スル必要ガアルノデハナイカト云フ問題ニ付テ論

議サレタノデアリマス、即チ自動車運輸事業ノ發達ヲ圖ル爲ニ、本改正案ヲ提出スル趣旨ニハ贊成デアルケレドモ、是ノミデハ不十分デアアル、先ヅ自動車ニ關シテ各省ニ分屬シテ居ル所ノ權限ヲ統一一致シテ、自動車ニ關スル政策ヲ一途ニ出デシメルコトガ緊要デアアル、又更ニ進ンデ水陸空ニ互ル交通全般ニ付テ、綜合的ニ政策ヲ樹立シテ實行シテ行ク必要ガアルガ、是ガ爲ニ交通ニ關スル行政機構ヲ根本的ニ改革シナケレバナラヌノデハナイカト云フ點ガ論ゼラレタノデアリマス、之ニ對シマシテ、政府ハ交通ニ關スル行政機構ノ改革、自動車行政ノ綜合統一ハ何レモ望マシイコトデアアルケレドモ、今俄ニ改正スルコトハ困難ナ事情ニアルノデ、今後モ極力研究ヲ續ケテ行ク積リデアアル、尙ホ行政ノ運用ニ當ツテハ、各省十分連絡ヲ密ニ致シテ、不都合ナキコトヲ期スル積リデアアルト云フ答辯ガアリマシタ、次ニ自動車運輸事業ノ合同ヲ獎メ、其ノ結果地方警察ガ權力ヲ以テ合同ヲ強制スル傾向ガアルト云フ點ニ付テ、政府ニ對シ強イ警告ガアツタノデアリマス、之ニ對シ政府ハ、輸送力ノ強化、燃料ノ對策等ノ見地カラシテ、事業經營ノ合理化ヲ圖ルコトハ希望スル所デアアル、ソレニ付テハ德惠モシテ居ルノデアアルガ、強權ヲ以テ之ヲ強ヒルト云フ如キコトハ嚴重ニ之ヲ戒メテ、絕對ニ之ヲ避ケルト云フコトヲ言明サレタノデアリマス、組合制度ニ付キマシテモ、種々議論ガアツタノデアリマスルガ、本法ニ依ツテ組合ヲ強制的ニ設立シ、之ニ依ツテ獨斷的ナ統制ヲスルノデハナイカ、又ハ本法ノ組合制度ガ實施サレタ場合ニ、既存ノ業者ノ組合等ハ如何ニスルカト云フコトノ質問ガアリマシタ、之ニ付キマシテ政府ハ、組合ノ強制設立ハ成ベク之ヲ避ケテ、任意設立ノ組合ニ依ツテ自治的統制ヲ行ハシメテ行キタイ、又既存ノ組合ニ付テハ、業者トモ十分相談ヲシテ、善處シテ行ク積リデアアルトノ説明ガアツタノデアリマス、次ニ自動車用ノ資材、燃料等ノ配給ニ付テ、十分ナル方策ヲ講ゼナケレバ、自動車事業ハ到底發達スルモノデハナイト云フ點ガ問題ニナリマシテ、各委員カラ痛切ナ質問ト要望ガアリマシタ、之ニ對シテ鐵道、商工兩省ヨリ互ニ十分ナル連絡ヲ執ツテ、最善ノ努力ヲ拂フ旨ノ答辯ガアリマシタ、更ニ運賃問題ニ付テ論議ガ重ネラレマシタ、即チ最近ノ物價騰貴、燃料其ノ他資材ノ入手難等ノ事情ニ依リマシテ、自

自動車運送事業ノ經營ガ、甚ダ困難ニナツテ來テ居ルカラ、運賃ノ値上ヲ認メル必要ガアルトノ意見ガ、多數ノ委員カラ主張サレタノデアリマス、之ニ對シテ政府ハ經營ガ困難ニナツテ來タコトハ事實デ、同情ハスルケレドモ、低物價政策ノ立場カラシテ、全般的ナ運賃値上ハ極力避ケタイト思フガ、缺損マデシテ經營ガ實際出來ナイヤウナ状態ニアルモノニ付テハ、値上モ考ヘナケレバナラヌト思フカラ、具體的ニ十分調査研究シテ、善處スルト云フ答辯ガアツタノデアリマス、斯クシテ討論ニ入りマシテ、民政黨ヲ代表サレテ山田清君ヨリ原案ニ贊成ノ意見ヲ述ベラレ、尙ホ希望ヲ述ベラレタノデアリマス、其ノ希望條項ハ、組合統制ニ當リテハ自治ヲ主トシ、官治專制ノ弊ニ陥ラザルヤウ留意シ、省營「バス」ノ經營ニ當リテハ、眞ニ民衆ノ聲ヲ聽キ、鐵道本來ノ省營「バス」經營ノ本旨ヲ體シ、苟モ民間業者ト摩擦ヲ來スコトヲ避ケ、官民一致其ノ健全ナル發達ニ寄與セラレンコトヲ要望ス、尙ホ運轉手ノ教養ト保護トニ留意シ、將來適當ノ對策ヲ樹立セラレンコトヲ望ム、ト云フコトノ希望ヲ述ベラレタノデアリマス、政友會ヲ代表セラレテ小平重吉君、田中好君ヨリ原案ニ贊成ノ意見ヲ述ベラレマシタ、小平君ヨリハ「タクシー」ノ取締保護ニ付キマシテ、至急立法ノ必要ガアルコトヲ要望サレマシタ、田中好君ヨリハ、民政黨ノ山田清君ト同趣旨ノ希望ヲ主張サレタノデアリマス、社會大衆黨ヲ代表シテ淺沼稻次郎君、ソレカラ第一控室ノ方ノ安藤孝三君、何レモ原案ニ贊成ノ意見ヲ述ベラレマシタ、斯クシテ採決ニ入りマシタ所、滿場一致原案ニ贊成セラレテ、原案ハ可決致サレマシタ、此ノ段御報告致シマス

院議異議ナク兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ各原案ノ通可決シ即日貴族院ニ送付ス

貴族院ニ於テハ三月二十六日本案ヲ可決奏上ス

四月二日法律第八十六號ヲ以テ公布セラル

八〇 樺太地方鐵道補助法中改正法律案

樺太地方鐵道補助法中左ノ通改正ス

第一條第一項中「十五年ヲ限リ」ノ下ニ「豫算ノ範圍内ニ於テ」ヲ加フ

第二條 前條ノ補助金ハ每營業年度ニ於ケル建設費ニ對シ年五分ノ割合ニ相當スル金額ヲ限度

トス但シ每營業年度ニ於ケル益金カ建設費ニ對シ年一分ノ割合ニ相當スル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ハ之ヲ補助金額ヨリ控除ス

第五條 削除

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ本法施行ノ際現ニ補助ヲ受クル鐵道ニ對スル補助ニ付テハ各現在ノ補助期間滿了ノ日ノ屬スル營業年度ノ末日迄ハ改正規定ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ依ル右ハ昭和十五年二月二十八日日本院ニ提出ス三月二日日本案ノ第一讀會ヲ開キ松岡拓務政務次官ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只今議題トナリマシタ樺太地方鐵道補助法中改正法律案提出ノ理由ヲ説明致シマス、樺太ニ於ケル地方鐵道ニ對スル補助方法ハ、現行法ニ依リマスト、補助基本期間中ニアルモノニ對シテハ補助率年六分、益金留保率年一分、伸長期間中ニアルモノニ對シテハ補助率年五分、益金留保率年一分五厘トナツテ居ルノデアリマスガ、金利ノ著シク低下致シマシタ現下經濟界ノ趨勢ニ鑑ミ、又朝鮮及ビ臺灣ノ私設鐵道補助法トノ均衡ヲモ考慮致シマスト、現行率ヲ繼續スルコトハ適當デナイノデ、此ノ際之ヲ改正シ、補助率及ビ益金留保率ヲソレ々適當ニ引下ゲルコトト致シマシタ、何卒御審議ノ上御協賛アラントヲ希望致シマス

次テ本案ハ政府提出船員保險特別會計法案外四件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十一日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月十二日議事日程ノ順序ヲ變更シ本案及七〇ノ兩案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ(委員長本項第七〇參看)院議異議ナク兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ各

原案ノ通可決シ即日貴族院ニ送付ス

貴族院ニ於テハ三月二十四日本案ヲ可決奏上ス

四月一日法律第八十三號ヲ以テ公布セラル

八一 恩給法中改正法律案

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議及表決

第四項 法律案

恩給法中左ノ通改正ス

第六條ノ二 第七十四條ノ二第一項ノ扶助料及同條第二項ノ一時扶助料ニ付テハ第五條ニ規定スル期間ハ户籍届出ノ受理ノ日ヨリ進行ス

第十七條ニ左ノ一項ヲ加フ

前條第四號ニ掲グル公務員ニ一時恩給ヲ給スル者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ他ノ經濟ニ對シ一時恩給金額ノ分擔ヲ請求スルコトヲ得

第十八條第三項ヲ左ノ如ク改ム

内地ニ於ケル道府縣立以外ノ公立ノ小學校、青年學校、幼稚園、盲學校、聾啞學校及小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員ニ恩給ヲ給スル經濟ニ對シテハ國庫ハ其ノ教育職員ノ俸給ノ二百分ノ一ニ相當スル金額ヲ交付ス

第三十二條第一項第三號中「一月半」ヲ「一月」ニ改ム

第三十五條中「一月半」ヲ「一月半以内」ニ改ム

第三十七條ノ二 戰車乘員タル公務員其ノ職務ヲ以テ戰車ニ搭乘シ戰車勤務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付半月以内ヲ加算ス

第三十八條第一項中「一年以上服務シタル」ヲ「六月以上服務シタル」ニ改ム

第五十八條第一項第三號ヲ左ノ如ク改ム

三 之ヲ受クル者三十歳ニ滿ツル月迄ハ普通恩給ノ四分ノ一、三十歳以上三十五歳ニ滿ツル月迄ハ普通恩給ノ六分ノ一、三十五歳以上四十歳ニ滿ツル月迄ハ普通恩給ノ八分ノ一ヲ停止ス但シ増加恩給又ハ傷病年金ト併給セラルル場合ニハ之ヲ停止セス

同條同項第四號ヲ左ノ如ク改ム

四 恩給年額千圓以上ニシテ其ノ恩給外ノ所得ノ年額四千圓ヲ超ユルトキハ
(イ) 恩給年額ト恩給外ノ所得ノ年額トノ合計額カ六千圓以下ナルトキハ五千圓ヲ超ユル金額ノ一割五分ノ金額ヲ停止ス但シ恩給ノ支給額ハ年額千圓ヲ下ラシムル額ノ一割五分ノ金額ニ相當スル金額ヲ停止ス但シ恩給ノ支給額ハ年額千圓ヲ下ラシムルコトナシ

(ロ) 恩給年額ト恩給外ノ所得ノ年額トノ合計額カ六千圓ヲ超ユルトキハ五千圓ヲ超ユル金額ノ一割五分ノ金額ト六千圓ヲ超ユル金額ノ二割ノ金額トノ合計額ニ相當スル金額ヲ停止ス但シ恩給ノ支給額ハ年額千圓ヲ下ラシムルコトナク其ノ停止年額ハ恩給年額ノ二割ヲ超ユルコトナシ

(ハ) 恩給年額ト恩給外ノ所得ノ年額トノ合計額カ八千圓ヲ超ユルトキハ五千圓以下ナルトキハ五千圓ヲ超ユル金額ノ一割五分ノ金額ト六千圓ヲ超ユル金額ノ二割ノ金額トノ合計額ニ相當スル金額ヲ停止ス但シ恩給ノ支給額ハ年額千圓ヲ下ラシムルコトナク其ノ停止年額ハ恩給年額ノ二割ヲ超ユルコトナシ

割ノ金額ト八千圓ヲ超ユル金額ノ二割五分ノ金額トノ合計額ニ相當スル金額ヲ停止ス但シ恩給ノ支給額ハ年額千圓ヲ下ラシムルコトナク其ノ停止年額ハ恩給年額ノ二割五分ヲ超ユルコトナシ

(ニ) 恩給年額ト恩給外ノ所得ノ年額トノ合計額カ一萬一千圓ヲ超ユルトキハ五千圓ヲ超エ六千圓以下ノ金額ノ一割五分ノ金額ト六千圓ヲ超エ八千圓以下ノ金額ノ二割ノ金額ト八千圓ヲ超エ一萬一千圓以下ノ金額ノ二割五分ノ金額ト一萬一千圓ヲ超ユル金額ノ三割ノ金額トノ合計額ニ相當スル金額ヲ停止ス但シ恩給ノ支給額ハ年額千圓ヲ下ラシムルコトナク其ノ停止年額ハ恩給年額ノ三割ヲ超ユルコトナシ

第七十二條ニ左ノ一項ヲ加フ

戸籍届出ノ委託ヲ爲シタル後届出人死亡シ其ノ死亡後委託ニ基ク届出カ受理セラレ又ハ戸籍届書ヲ郵送シタル後届出人死亡シ其ノ死亡後届書カ受理セラレタルトキ其ノ届出カ他ノ法令ニ依リ届出人死亡ノ時ニ爲サレタルモノト看做サルル場合ニ於テハ其ノ届出ニ因リ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ト同一戸籍内ノ祖父、祖母、父、母、夫、妻、子又ハ兄弟姉妹ト爲ル者ハ第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ當該届出カ届出人ノ死亡後二年内ニ受理セラレタルトキニ限り届出人ノ死亡ノ時ヨリ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ祖父、祖母、父、母、夫、妻、子又ハ兄弟姉妹

トシテ之ト同一戸籍内ニ在リタルモノト看做ス

第七十三條第四項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ第七十二條第三項ノ規定ニ依リ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ遺族ト看做サルル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第七十四條ノ二 第七十二條第三項ノ規定ニ依リ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ遺族ト看做サレ

タル者ニ給スル扶助料ハ委託又ハ郵便ニ依ル戸籍届出ノ受理ノ日ヨリ之ヲ給ス

第七十二條第三項ノ規定ニ依リ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ遺族ト看做サレタル者ニ給スル一時扶助料ハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ時ニ於テ他ニ其ノ一時扶助料ヲ受クヘキ權利ヲ有スル者ナキトキニ限り之ヲ給ス

公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ時ニ於テ扶助料ヲ受クヘキ權利ヲ有シタル者カ第七十二條第三項ノ規定ニ依リ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ遺族ト看做サルル者ノ生シタルカ爲扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有セサリシコトナル場合ニ於テモ其ノ者ハ同條ニ規定スル戸籍届出ノ受理ノ時迄ノ分ニ付當該扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有スルモノト看做ス

公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ時ニ於テ一時扶助料ヲ受クヘキ權利ヲ有シタル者カ第七十二條第三項ノ規定ニ依リ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ遺族ト看做サルル者ノ生シタルカ爲一

時扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有セザリシコトナル場合ニ於テモ其ノ者ハ當該一時扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有スルモノト看做ス
第九十一條第一項中「半月」ヲ「半月以内」ニ改ム
第九十二條第一項ヲ左ノ如ク改ム
公務員其ノ職務ヲ以テ帝國若ハ滿洲國ノ國境警備又ハ理蕃ノ爲危險地域内ニ勤務シタルトキハ當分ノ内在勤期間ノ一月ニ付二月以内ヲ加算ス

附 則

第一條 本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 本法施行前ノ在職ニ付在職年ヲ計算スル場合ニ於テ其ノ加算年ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第三條 恩給法第五十八條第一項第三號ノ改正規定ハ本法施行前普通恩給ヲ受クルノ權利ヲ生ジタル者及本法施行ノ際現ニ在職シ本法施行後退職シテ普通恩給ヲ受クルノ權利ヲ生ズル者ニハ之ヲ適用セズ
前項ニ規定スル者本法施行後再就職シ其ノ普通恩給ヲ改定セラルル場合ニハ其ノ改定ニ因ル増額分ニ付恩給法第五十八條第一項第三號ノ改正規定ヲ適用ス

第四條 恩給法第七十二條第三項ノ改正規定ハ届出人ガ昭和十二年七月七日以後ニ死亡シタル場合ニ限り之ヲ適用ス
恩給法第七十二條第三項ノ改正規定ハ本法施行前戶籍届出ノ受理セラレタル場合ニ付テモ之ヲ適用ス

第五條 届出人ノ死亡後委託ニ基キ爲サレタル戶籍届出ガ其ノ受理セラレタル後他ノ法令ノ定ムル所ニ依リ裁判所ノ確認ヲ經タル場合ニ限り届出人死亡ノ時ニ遡リ其ノ届出アリタルモノト看做サルルモノナル場合ニ於テハ恩給法第七十二條第三項ノ改正規定ノ適用ニ付テハ同項中届出人ノ死亡後二年内ニ受理セラレタルトキトアルハ當該法令ノ施行後二年内ニ確認ノ裁判ノ確定シタルトキトシ恩給法第七十四條ノ二第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ同項中戶籍届出ノ受理ノ日トアルハ確認ノ裁判確定ノ日トス
届出人ノ生存中郵送シタル戶籍ノ届書ガ届出人ノ死亡後本法施行前受理セラレタル場合ニ於テハ恩給法第七十四條ノ二第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ同項中戶籍届出ノ受理ノ日トアルハ本法施行ノ日トス

第六條 恩給法第五條ニ規定スル期間ハ前條第一項ノ規定ノ適用セララルル場合ニ於ケル扶助料及一時扶助料ニ付テハ確認ノ裁判確定ノ日ヨリ、同條第二項ノ規定ノ適用セララルル場合ニ於

ケル扶助料及一時扶助料ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ進行ス

第七條 恩給法第七十二條第三項ノ改正規定中死亡後二年内トアルハ届出人ガ本法施行前ニ死亡シ戸籍届出ガ本法施行後ニ受理セラルル場合ニ於テハ之ヲ本法施行後二年内トス

前項ニ規定スル期間ガ第五條ニ規定スル期間ト異ナル場合ニ於テハ第五條ニ規定スル期間ニ依ル

右ハ昭和十五年三月一日本院ニ提出ス同月二日本案ノ第一讀會ヲ開キ廣瀨法制局長官ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

此ノ度提案シマシタ恩給法中改正法律案ニ付テ提案理由ヲ申上ゲマス、改正ノ主ナ點ハ三ツアリマス、其ノ第一ハ現行法ノ加算年ノ規定ノ改正デアリマス、即チ恩給法ニ規定シテ居リマス戰地外戦務加算、外國鎮戍加算及ビ外地ノ在勤加算ノ加算年ノ割合ハ、今日ノ事情ヨリ致シマシテ、必ズシモ適當デナイト考ヘラレマスノデ、是等ノ加算年ノ割合ハ、之ヲ或ル程度低減スルコトト致シマシタ、又一方各般ノ情勢ノ推移ニ伴ヒマシテ、新シイ加算ヲ設ケル必要モアリマシテ、滿洲國ノ國境警備加算及ビ戰車加算ヲ設ケルコトニ致シマシタ、改正ノ第二ノ點ハ普通恩給ノ停止デアリマス、是ハ現行法デハ四十歳未滿ノ者ノ恩給ヲ、一部停止スルコトニナツテ居リマスガ、今回ハ三十歳未滿ノ若年者ニ對シ、其ノ停止ノ割合ヲ増加スルコトト致シマシタ、又恩給以外デ多額ノ所得アル者ニ付キマシテハ、現在デモ或ル程度恩給ヲ停止シテ居ルデアリマスガ、今回ハ其ノ範圍ヲ擴張スルト共ニ、其ノ停止ノ割合ヲ増加致シマシタ、改正第三ノ點ハ、扶助料ヲ受ケマス遺族ノ範圍ヲ擴張シタコトデアリマス、現在デハ公務員ノ死亡當

時、是ト同一戸籍内ニ居ラナイ者ハ、假令公務員ノ死亡後入籍シマシテモ、遺族ト認メナイノデアリマスガ、今回別途御協賛ヲ御願シテ居リマス特別法デ、委託又ハ郵便ニ依ル戸籍届出ノ效力ガ認メラレマスコトニナリマスノデ、恩給法デモ斯様ナ者ヲ一定ノ條件デ遺族トシテ取扱フコトガ、銃後施設トシテ肝要デアルト信ジマシテ、之ニ伴フ必要ナ改正ヲ致スコトニシタノデアリマス、之ニ依リマシテ公務員死亡後入籍シマシタ妻ヤ子、即チ從來問題トナリマシタ者ハ、大體救済サレルト考ヘルノデアリマス、以上ノ諸點ノ外、恩給法ノ規定整理等ノ爲ニ、二三點恩給法中ノ改正ヲ要スルコトトナツタノデアリマス、以上ガ本案ヲ提出スルニ至リマシタ理由デアリマス、何卒御審議ノ上速ニ御協賛アランコトヲ御願致ス次第デゴザイマス

川崎巳之太郎君及富吉榮二君質疑ヲ爲シ吉田厚生大臣及廣瀨法制局長官應答ス

川崎巳之太郎君ノ質疑

只今上程セラレマシタ恩給法中改正法律案ハ、改正ノ點ガ多岐ニ互ツテ居リ、且ツ何レモ細カイ節々ニ觸レテ居リマスノデ、其ノ節々ニ互ツテ御尋スルコトハ、委員會其ノ他別ノ機會デスベキコトデ、本會議デスベキコトデナイト考ヘテ居リマス、ソコデ細カイ問題ヲ避ケマシテ、本會議ニ於テ提案ヲセラレタル内閣ニ向ツテ御尋シタイノハ、極メテ粗ツボイ大筋ノ二點ダケヲ御伺シタイト思フノデアリマス、ソレハ特ニユライ新發明ノ問題ヲ考ヘテ居ルノデモ何デモゴザイマセヌ、世間ノ常識ニアリ觸レタ、當局者ガ恩給ヲ改正スベキ時ニハ、斯様ナモノニスベキモノダト言ツテ、殆ド輿論ニナツテ居ル問題ガアルノデス、ソレノ組込ミ方ガナイヤウニ拜見致シマスノデ、ソレヲ一ツ御伺致シマス、第一ノ點ハ、細カシイ條文ハ姑ク措キマシテ、今社會通念トナツテ居リマスノハ、恩給ヲ與ヘル年齢ガ餘リ早過ギル、若隱居ヲ作り過ギル、是ガ世間中デ評判ヲシテ居ル問題デゴザイマス、勿論國家ノ功勞者ニ取ツテ、文官タルト武官タルト、或ハ其ノ外ノ公務員タルト問ハズ、功勞アル者ニ恩給ヲ與ヘテ、老後ヲ安全

ニ保障スルト云フコトハ、國家トシテ必要ナコトデゴザイマス、併シナガラソレハ老後ニ限
 ル、若年寄ヲ拵ヘルト云フ意味デハ決シテナイノデゴザイマス、ソコデ若クトモ永年骨ヲ折ッ
 タ者ハ恩給ヲ與ヘテモ宜イデヤナイカ、斯ウ云フ御説モアリマセウケレドモ、私ハ金ヲ吝ム爲
 ニソレヲ言フノデハナク、折角文官ナリ武官ナリ、或ハ之ニ準ズル公務員ニ就テ、業務ヲヤツ
 ト覺エ掛ケテ、是カラ練達シテ、其ノ業務ニ漸ク耐ヘルト云フ者ヲ、恩給法ノ爲ニ恩給ガ掛ル
 ヤウニナツタカラ自發的ニ退職スル、若クハモウオ前ハ辭メテ後進ノ爲ニ道ヲ開ケ、斯様ナコ
 トデドン、辭メタリ、若クハ辭メサセタリスル、其ノ弊害ヲ當局ハ何ト御覽ニナルカ存ジマ
 セヌガ、實ニ是ハ堪ヘナイモノガアルノデス、只今ノ恩給法ニ依リマス、段々ト年限ガ延ビ
 マシタケレドモ、在職十七年以上ノ者ハ、是レノ普通恩給ヲ給與ス、斯ウゴザイマス、ソ
 レカラ下士官デ、是レノ滿十二年以上勤續シタ者ハ、是レノト云フコトニナツテ居リマ
 ス、其ノ他戰地ニ勤務シ、或ハ朝鮮ノ國境ノ警備ニ任ジ、或ハソノ滿國境ノ警備ニ任ズル者ハ、警察
 官タルト何タルヲ問ハズ、大層年限ヲ早メルヤウニナツテ居リマス、デゴザイマスカラ、十二年ト
 申シマシテモ、十二年經タナイ者ガアルノゴザイマス、二十歳カラ十二年デハ三十二歳ダシ、二十
 五歳カラ十二年ニスレバ二十七歳デゴザイマス、三十七歳ハ世間ニ立ツテカラ、其ノ事務ニ漸ク慣
 レ、ソコデ技倆ヲ發揮スベキ所デゴザイマス、殊ニ判檢事ノ如キ複雑ナル世ノ中ノ事務ヲ裁ク
 者ハ、青二才デハ駄目デス、學校駈出シノ者デハ迷惑千萬デアリマス、其ノ非常識ノ爲ニ社會ガ
 非常ニ害ヲ蒙ル、ソコデ三十歳、四十歳ニナツテ漸ク明ルクナツテ來タノニ、退ケバ恩給ガ入ル
 ト云フコトデハ、折角國家ノカラ以テ、一人ノ學生ニ對シテ國家ガ二百万圓モ年ニ負擔ヲシ、大
 學ヲ卒業ヲサセ、高等文官其ノ他ノ役目ニシタ者ヲ、三十歳四十歳デ以テドン、左様ナラヲ
 セラレテシマツテハ、實ニ人物不經濟是ヨリ甚シイモノハナイト思フノデゴザイマス、ソコデ
 國家總動員トカ、何ヤラ彼ニヤラ非常ニ計畫ヲスル此ノ時節ニ際シマシテ、人物經濟ノ意味カ
 ラ、恩給ニアリツク年限ヲ二年ナリ、三年ナリ、出來レバ五年ナリ、モウ少シ先ヘ延バス意思
 ハナイカ、此ノ點ヲ第一ニ御伺シタイノデゴザイマス、小學教員モ何モミンナ左様デゴザイマ

ス、殊ニ小學教員ノ如キハ四十歳ヲ越エタ頃ガ、其ノ土地ノ形勢ニモ通ジテ來、自分デ子供モ
 産ンデ、小學生若クハ中學生ニ育テテ見テ、初メテ教育者タル完全ナル資格ヲ體験上カラ得テ來
 ル、其ノ頃ニナルト悉ク恩給ヲ貰ツテ若隱居ヲサセラレル、若クハ爲シ得ル年限ニ達スルト云
 フノハ、教育ヲ盛ニスル點カラ考ヘテモ、甚ダ國家ニ取ツテ勿體ナイ話デアルト思ヒマス、當
 局ハ此ノ點ニ付テ如何ニ御考デアルカラ、第一ニ伺ヒタイノデゴザイマス、其ノ次ハ、大正十
 二年ニ恩給法ガ公布セラレ、其ノ後昭和八年及ビ其ノ後度々改正セラレテ今日ニ及ンデ居ル、ケ
 レドモ此ノ恩給法ヲ適用スベキ範圍ニ少シ無理ナ所ガアル、當然國家ノ恩給ノ恩典ニ浴スベキ
 者デ、恩給ニ浴セナイ無告ノ民ガ澤山アル、此ノ實例ヲ當局者ニ御示申上ゲテ、之ヲドウスル
 カヲ第二ニ伺ヒタイト思フノデゴザイマス、ソレハ何かト言ヘバ、同ジ役所ノ事務モスルニシ
 テモ、陸海軍ノ役所タルト、或ハ普通ノ役所タルトヲ問ハズ、囑託ト云フモノヲ甚ダ輕ク視
 テ、十年、十五年在勤シテモ、之ニ恩給ヲ浴セサセナイ、是ハ前々カラ議論ノアルコトデゴザイ
 マスルガ、今度ノ改正法ヲ見マシテモ、其點ニ付テハ一向ニ觸レテ居ナイヤウデアリマス、之
 ニ付テハ慎重ナル御考慮ヲ願ハナケレバナラスノデゴザイマス、茲ニ私ガ實例トシテ申上ゲ
 タイノハ、軍隊ノ囑託デアリマス、所謂軍屬ト稱スルモノデゴザイマス、戰ヲスルニハ、我ガ
 忠勇ナル將軍及ビ兵卒ガ共ニ働イテ戰ヲスルノデゴザイマスガ、ソレバカリデハ戰ハ出來テ居
 ナイ、現ニ戰地ヘ行ツテ御覽ナサイ、通譯ガ澤山居リマス、宣撫班ガ澤山居リマス、新聞記者
 ガ澤山居リマス、「カメラマン」ガ澤山居ルノデス、是ガ相倚リ相扶ケテ居ル、其ノ他ニモ色々
 アリマセウ、從軍僧モ居リマセウ、是デヤウノ戰ヲシテ居ル、忠勇ナ將兵ガ非常ナ獻身ノ
 精神デ戰ヲセラレル其ノ事、其ノ手柄、其ノ骨折ハ感謝ニ堪ヘナイノデ、其ノ手柄ヲ割引シヨ
 ウトスルモノデハ決シテナイケレドモ、實際ノ問題トシテ、是等ニ附屬シテ居ル所謂軍屬ガ居
 ナケレバ、二進モ三進モ行カナイノデゴザイマス、此ノ軍屬待遇法ニ於テ、今マデハ甚ダ不行
 届ノアルコトヲ、遺憾ナガラ感ゼザルヲ得ナイ、殊ニ茲ニ申上ゲタイノハ、「シベリヤ」出兵ノ
 際、大正三年カラ八九年頃マデ、數箇年掛ツテ行ハレタ日本ノ大キナ軍事行動ニ於テ、其ノ頃

露西亞語ノ分ル人ガ要ツタ、所ガ内地ニ於テ露西亞語ヲ學ブ者ハ、英語、佛蘭西語、獨逸語等ヲ學ブ者ヨリモ非常ニ少イ、軍隊ノ大勢ヲ動カスニ必要ナモノトシテハ、餘リニ少ナ過ギル程露西亞語ノ通譯ガ少カツタ、茲ニ秋田縣ノ方デ、北洋漁業ニ從ウテ居ツタ瀬谷和一ト云フ方ガ居リマス、此ノ人ハ浦鹽方面ニ出掛ケテ、其ノ事情モ分リ、且ツ露語ニ通ジテ居ルト云フカラ、是ハ良イ通譯ダト云フノデ、他ノ何百人カ採用スル通譯ト共ニ此ノ人ヲ連レテ行ツタ、アチラニ著イタノガ大正七年ノ十一月、極ク寒イ時分ニ著イタ、「チタ」方面ノ軍司令部ヘ此ノ人ヲ連レテ行ツタ、サウシテ通譯ヲサセタ、又其ノ頃非常ニ幅湊シタル事務ノ一切合切ニ付テ、其ノ司令部デハ瀬谷ダケニサセタ、ドウ云フコトガアルト云フト、荷物ノ検査ガアル、出ル汽車、入ル汽車、ソレノ人間ヲ検査スル、又荷物ヲ検査スル、ソレカラ民家、或ハ個人ト占領軍トノ間ニ色々問題ガ起ル、サウスルト一々此ノ人ヲ連レテ行ツテ通譯ヲサセテ居ル内ニ、角膜炎ヲ患ウテ眼ガ痛ンデ堪ラナクナツタ、ケレドモ、休暇ヲ與ヘナイ、與ヘタイノデハゴザイマシタラウケレドモ、與ヘル餘裕ガ其ノ當時ニ於テナイ、益々惡クナツテ仕樣ガナイカラ、陸軍ノ病院ヘ體ヲ擔ギ込ダ、其ノ處ヘ殆ド無理押シヲスルヤウニ、色々手紙ヲ持ツテ行ツテ、是ハドウ云フ文句ダ、是ハ一方デモ宜イカラ、片側ダケデモ宜イカラ讀ンデ呉レ、鉛筆デデモ書イテ呉レ、斯ウ云フヤウニ寢テ居ル處ニマデ、殆ド強制的ニ事務ヲ御依頼ニナツタ、サウシテ居ル中ニ其ノ目ガ潰レテシマツタ、一眼ガ潰レテシマツタノデ、ドウモ困ルカラト云フノデ、内地ヘ後送サセテ、内地ノ陸軍病院デソレヲ療養サセタ、ケレドモ片方潰レテモ構ヒハセヌ、片方ノ目ガ惡クナツテモ構ハヌカラ、瀬谷ニ限ルト云フコトヲ知ツテ居ル部隊長ノ御命令デ再ビ「シベリヤ」ニ引張り出サレタ、喜ンデ勤務シテ居リマシタガ、又其ノ職務ノ爲ニ片側ノ眼モ失明シテシマツタ、ソレニ付テハ其ノ時ノ元浦鹽派遣軍第三兵站司令官陸軍歩兵大佐佐々木榮次郎ト云フ部隊長初メ四人ノ部隊長ガ、其ノ事實ヲ證明シテゴザル其ノ長イ證明書ガアリマス、病院長ガ病氣ノ成行ヲ證明シタモノモ此處ニアルノデアリマス、其ノ證明書ノ中ニハ、此ノ場合ニ瀬谷通譯ナカリセバ、此ノ大事ナ吾々ノ任務ガ完全ニ運ビ得タカ分ラナイト云フ言葉ガ、此ノ證明書

ノ中ニアル、其ノ派遣軍ニ取ツテノ恩人デゴザイマス、然ル中ニ其ノ片側ノ眼モ潰レテシマウテ、サア旨ニナツタ、用ガナイト捨テタ譯デモアリマスマイガ、除隊ニナツタラシイノデス、爾來茲ニ二十年間、其ノ通譯ハ恩給モ何モ受ケナイデ、病妻ヲ携ヘテ——其ノ病妻ハ昨今ニ於テハ膽囊炎デ大分重態ニ陥ツテ居ル、兩眼ガ潰レテ家中ヲ歩クニモ手ヲ取ラナケレバ歩ケナイ、陸軍カラ立派ナ證明書ハ附イテ居ル、ソコデ洵ニ困ルカラ、恩給法カ若クハ他ノ方法カデ、何トカシテ戴ケマイカト云フ哀訴歎願ニ陸軍當局ニ出マシタ所ガ、茲ニ陸軍當局ガ返事ヲシタ手紙ガゴザイマス、昭和七年六月十八日ノ其ノ手紙ノ終リノ方ニ曰ク「前述ノ如キ事由ニテ恩給的給與ハ現行制度上全然其ノ途無之候ニ付目下別途ノ方策ニ依リ御慰恤方折角考究中ニ有之候間御承知相成度候右不取敢御返事申上置候」トアル、斯ウ云フ御返事ガ、陸軍省人事局恩賞課ノ名前デ、瀬谷和一ニ宛テ昭和七年六月十八日ニ發給サレテ居ルノデアリマス、ソコデ陸軍ガ其ノ證明書ヲ信ジテ、左様ナ事實ヲ認メテ、善意ノ考慮ヲ加ヘルダラウト思ツテ、其ノ一家眷族ハ待ツテ——待チ抜イテ、茲ニ八年經チマシタ、諸君、八年ノ間ニハ日清戰爭ハ二年、日露戰爭ハ二年、今年ノ日支事變ハ二年半、之ヲ殘ラズ合セテシマウテ、尙ホ餘リアル程ノ歲月ガアルノデス、此ノ一個人ヲ救フコトガ出來ナイデ見殺シニシテ、此ノ八年間放ツテ置イタノハ、陸軍省ノ人事局デゴザイマス、ソコデ何故ニ恩賞ニ掛ラナイカト申シマスルト、當局ノ説明ニ曰ク、是ハ大正十二年十月一日以後恩給法ヲ施行スルノダカラ、オ前ハ其ノ前ニ辭メタノダカラ入ラナイ、斯ウ云フ話デス、ケレドモ、立法ハソコニ實體ガアツテ、ソレヲ對象トシテ作ルノデアラウ、誰ノ爲ニ恩給法ヲ作ルカト云ヘバ、アノ數年間數億ノ國帑ヲ費シテ、數万若クハ十數万ノ我が兵勇ガ、アノ廣イ「シベリヤ」ノ曠野ニ轉戰致シタノデアツテ、其ノ兵勇ノ爲ニ恩給其ノ他ノ手當ヲ考ヘルノハ、是ハ當然デアアル、ケレドモ將兵ニ附屬シテ、將兵ガ此ノ人ガナクテハ、私等ノ仕事ハ出來ナカッタトシテ、證明スル者ノ恩給ヲ放ツテ置クト云フコトハ何事デアアル、是ハ陸軍當局ニ私ハ聽キタイノデアリマス、ソコデ其ノ時ノ方ガ、例ヘバ少佐カ大佐デ居ラツシヤッタナラバ、今満足デ普通ニ出世シテ居ラツシヤレバ、將官ニナツテ居ラ

ツシヤルデセウ、恩賞課長モ多分モウ將官位ニナツテ居ラツシヤル頃デハナイカ、此ノ事變ヲ控ヘテ居ルノデアリマスカラ、勳功ヲ立テテ昇進ヲシテ居ルト思フ、コンナ手紙ヲ御出シニナツテモ、俺等ハ出世シテシマヘバ、オ前等ハ困ラウガ知ラヌト言フノガ、陸軍ノヤリ方デアルカノヤウニ誤解サレテハ、大變ダト思フデアリマス、陸軍ノ思召ハ決シテ斯様ナ無告ノ民ヲ作ラレルノデハナカラウト思フケレドモ、八年越シ考ヘテ一人ノ人間——證明ノアル者ヲ、ドノ方法デモ救フコトガ出来ナイト云フコトハ、法ノ不備カ、ソレヲ運用スル者ノ手落カ、或ハ人事局ノ代々ノ方ノ不誠意ノ致ス所デナイカト、世間ノ人ガ疑ツテ怨ンデモ仕様ガアルマイト思フガ、如何ナモノデアリマセウカ、ソコデ左様ナル——丁度今ノ状態デ見マスルト、ナニ鱒ヲ鍋ノ中ヘ入レタノダ、酒モ入レテ下カラ瓦斯ガプツトボレルカラ、ジタバタシテモ今ニ死ンデシマフダラウ、斯ウ云フコトハ民間ニヨクアル話デゴザイマスガ、殊ニ大正十二年前ノ恩給位ハ、アツタ所ガ知レタモノダラウ、其ノ中ニハ大抵死ンデシマウテ、文句ヲ言フ奴モナクナルダラウト鱒同様ニ思ツテ居ラレルモノトハ決シテ思ヒマセウケレドモ、左様ナ感ヲ國民ニ與ヘルノハ、此ノ事實ヲ解決シナケレバイカヌノデハナイカト私ハ思ヒマス、デゴザイマスルカラ、左様ナ實際話ニナラナイ所ノ問題ヲ突付ケラレテ——ソレガ議員ノ所ヘ手紙ヲ出シテ、爾來二十年病妻ヲ擁シテ死ニモ勝ル悲慘ナ生活ヲ送ツテ、斯ク——ト云フ手紙ヲ突付ケラレタ、吾々ハ勘定拂ヒノ汚イ、若クハ氣ツプノ惡イ友人ト一緒ニ旅行シタヤウナ感ジガスルノデゴザイマス、斯様ナ手紙ヲ突付ケラレテハ、是ハ聖代ノ御世ニ於テ甚ダ遺憾ダト思ヒマスルシ、只今ハ内閣ガ國民ニ呼掛ケテ、國民ノ總協力ヲ求メル時代デアリマスルシ、殊ニ我が陸軍ハ百万カ二百万カ知レマセウガ、殆ド全國ノ津々浦々カラ兵勇ヲ召出シテ居ツテ、其ノ心ノ底カラノ同情ト感激トヲ負ウテ、サウシテ聖戰ヲ進メテ行クト云フノデアルカラ、内ヲ顧ミレバコンナ穴ダラケノモノヲ拵ヘテ放ツテ置イテ、サア先ノ方ヘ行カウト云フノハ、是ハ甚ダ困ルノデハナイカト思ヒマス、最後ニ畏多イ次第デゴザイマスルガ、米内總理大臣ガ此ノ席ニ於テ、又ハ豫算總會等ニ於テ度々仰シヤラレタコト、及ビ文部大臣ノ仰シヤラレタ八紘一字ノ解釋、所謂皇室ノ御仁慈ヲ世界中ニ推シ及ボスト

云フノガ八紘一字ノ解釋ト云フノデ、洵ニ敬服シテ居ル、他ノ内閣ナラ何モコンナコトヲ述ベマセウガ、左様ナ内閣デアリ、殊ニ米内總理大臣ハ、國體明徴ヲ頻リニ此處デ高調力説サレタノデゴザイマスカラ、其ノ總理大臣ノ下ニアツテ、内閣ガ主トナツテ御出シ下サル恩給法ノコトデゴザイマスカラ、大正十二年十月以前ノモノハ澤山ハナイデセウカラ、左様ナ打漏ラサレタ不幸人間ヲ、ドウカ救ヒ出ス方法ヲ講ジテ貰ヒタイ、但書ヲ何カ入レテ、施行令カ何カノ運用デ、誠意サヘアレバ何トカ出来サウナモノデハナイカト思フノデゴザイマス、ソコデ國體明徴ノ御好キデアル内閣デアリマスルノデ、私ハ明治元年三月十四日五箇條ノ御誓文ノアリマシタ時ニ、明治天皇ノ賜ヒマシタ御勅語ノ一節ヲ茲ニ捧讀シタイト思ヒマス、今般 朝政一新ノ時ニ膺リ天下億兆一人モ其處ヲ得サル時ハ皆 朕カ罪ナレハ云々ト云フ、勿體ナイ御言葉ヲ賜ツタノデゴザイマス、天下一人デモデハナイ、打漏ラサレタ何十人、何百人ト云フ人ガ處ヲ得テ居ナイデ、コンナ風ニ叫ンデ居ル、ソレヲ公沙汰ニシテ、尊イ所マデ御聽エ申スト云フヤウナコトニナツテハ、洵ニ私共ハ相濟マヌコトダト思ヒマス、皆 朕カ罪ナレハト云フ御言葉ガアルノデゴザイマス、ソコデ其ノ先ニ參リマスルト、「朕自身骨ヲ勞シ心志ヲ苦メ艱難ノ先ニ立古 列祖ノ盡サセ給ヒシ蹤ヲ履ミ治蹟ヲ勤メテコソ始テ 天職ヲ奉シテ億兆ノ君タル所ニ背カサルヘシ」斯ウ結ンデ居ラツシヤル、サウスルト「天下億兆一人モ其處ヲ得サル時ハ皆 朕ガ罪ナレハト云フコトハ、明治天皇ノ御發明デアツタトハ、明治天皇ニハ仰シヤツテ居ラレナイノデス、古 列祖ノ盡サセ給ヒシ蹤ヲ履ミ」古 列祖ガ皆斯ウデアツタト仰シヤルノデス、列祖ト云フノハ、ズツト以前ノ御先祖ノコトデス、ソレカラ後モ皇室ハ大體其ノ思召デアラダラウト思フノデス、之ヲ否認スルナリ、此ノ意味ヲ狭メテ解釋スルナリスレバ、此ノ頃問題ニナツテ居ル某氏ノ演説ヤ、其ノ思想ヨリハ、モツト甚シイ大變ナ話デアアル、我が内閣ニ於テハ左様ナコトハ決シテゴザイマスマイト察シテ居ル者デゴザイマス、デゴザイマスカラ、「一人モ其處ヲ得サル時ハ皆 朕カ罪ナレハト云フ勿體ナイ御言葉ヲ、上御一人ヨリ承ルト云フ、畏多イコトヲ敢テセズ——一人ドコロデナク、五百人モ八百人モ其ノ處ヲ得ザル者ヲ、其ノ儘抛ツ

テ置クノハ、何事デアルカト存ジマスノデ、何トカ其ノ適用範圍ヲ廣メテ、アナタ方ガ机ノ上デ鉛筆デ少シ書ケバ、ドウカナルコトデゴザイマスルカラ、ドウカ此ノ汚政ヲ刷新スル誠意ガ、此ノ興亞ノ大事業ヲ背負ツテ立ッ内閣ノ諸公ニアルカドウカ、此ノ點ヲ一ツ御答願ヒタイト思フノデアリマス、私ノ演説ハ是デ終リマス

廣瀨法制局長官ノ應答

川崎君ノ御質問ニ御答ヲ致シマス、先ヅ第一ハ恩給ヲ餘リ早クヤル爲ニ、若イ人ガ恩給ヲ得テ辭メテシマフ、是等ノ事情ノ爲ニ、折角是カラ御國ノ爲ニ働クト云フ若イ時ニ辭メテシマフト云フノハ、甚ダ人物經濟上適當デナイト云フヤウニ考ヘル、モット恩給ノ年限ヲ延バス考ハナイカト云フヤウニ承リマシタガ、大體今日ノ恩給ノ制度ヲ見マスト、一般官吏ハ御承知ノヤウニ十七年、ソレカラ警察官ハ勤務ノ性質上、是ハ十七年ヨリ短ク十二年ニ相成ツテ居リマシタガ、大體斯ウ云フコトニナツテ居リマシテ、十七年、十二年、十二年ノ方ハ勤務ノ性質上、ヤハリ短クシテヤラナケレバナラヌカト思ヒマス、政府ノ現在ノ考ハ、恩給年限ヲ延バスト云フ考ハ持ツテ居リマセヌ、但シ御注意ノ點デアリマスル、若クテ仕事ヲ辭メ、人物經濟上國家ノ爲ニナラヌ、斯ウ云フ點ニ付キマシテハ、サウ云フヤウナ弊害ニ陥ツテハナラヌト思ヒマス、是ハ十分注意致シマシテ、ヤハリ恩給ヲ得タラ辭メルトカ、或ハ恩給ヲ得ル年齢ニナツタラ辭メサセルト云フコトノ弊害ノナイヤウニ致シマシテ、國家ノ爲ニ不利益ノナイヤウニ、人物經濟上不利益ノナイヤウニ致シタイト思ツテ居リマス、ソレカラ第二ノ問題ハ、洵ニ御氣ノ毒ナ軍ニ勤務ヲ致シテ居ツタ通譯ニ關スル御話デアリマス、恩給法ニ於キマシテハ、囑託デアルトカ、雇デアルトカ云フヤウナ身分ノ人ニ、恩給ヲ與ヘルベキモノヤ否ヤト云フコトニ付テ、從來モ屢々研究ヲ致シタノデアリマスルガ、ドウモヤハリ勤務ノ性質ガ、官吏或ハ軍人等ト自ラ違フ點ガアリマスノデ、是ハ恩給ヲ與ヘナイト云フコトニ、今以テナツテ居ル譯デアリマス、只今御話ノ軍ノ通譯ハ、洵ニ御氣ノ毒ナ事情ニアルヤウデアリマスガ、此ノ問題ニ付テハ、或ハ委

員會等ニ於テ詳細ニ御話申上ゲルノガ適當カト思ヒマスガ、恩給法ノ性質上、法ノ施行前ノ人ニ對シテハ、新シイ法律ヲ適用シテ恩給ヲ與ヘルコトガ出來ナイ建前ニナツテ居リマスノデ、如何トモ致シ難イノデアリマス、併シ是ハ軍ニ於キマシテ別ノ手段、軍人援護——是ハ一般ニ今日軍人援護ノ仕事ヲヤツテ居リマスガ、此ノ方面デ出來得ル限りノ方法ヲ執リタイト云フコトニ相成ツテ居リマスカラ、左様御承知ヲ願ヒタイト思ヒマス

富吉榮二君ノ質疑

只今上程ニナリマシタ恩給法中改正法律案ニ關シマシテ、二三ノ質疑ヲ致シタイト思フノデアリマス、既ニ御説明ニアツタ如ク、此ノ改正ハ三點カラ成ツテ居ル、即チ外地ニ勤務致シテ居リマスル恩給ノ加算率ノ縮減、第二ハ、高級所得者及ビ若年受恩給者ノ恩給ノ一部停止ノ範圍ヲ擴大スル、第三ハ、内縁ノ妻ニ遺族扶助料ヲ認メテヤル、此ノ三點ニ要約サレト思フノデアリマス、申スマデモナク時局ハ極メテ重大デゴザイマス、國民ノ一部ノ所謂殷賑産業ニ從事致シマスル資本家ヲ除キマシテハ、國民ノ悉クガソレノ相當ノ犠牲ヲ拂ツテ居ルノデゴザイマス、此ノ場合ニ於キマシテ、官吏モ亦ソレ相當ノ犠牲ヲ忍ンデ貫ハナケレバナラヌト思フノデアリマス、忍ンデ貫ハナケレバナラヌコトハ申スマデモナイノデアリマスルガ、今日ノ官吏、殊ニ下級官吏ニ對スル今日ノ待遇ハ、必ズシモ相當シテ居ルトハ思ハレマセヌ、非常ニ薄給デアルトカ、待遇ガ劣惡デアルトカ云フコトハ世間デ屢々聞ク所ノ事實デアリマス、然ルニ此ノ薄給ニ甘ンジテ實ニ能ク働キマスル所以ノモノハ、固ヨリ所謂國家ノ中堅タルヲ以テ自ラ任ズル所ノ吏道ニ徹シテ居ルカラデアアルコトハ言フマデモアリマセヌガ、モウ一ツ見逃シテナラナイコトハ、外ノ會社員ヤ労働者ト云フモノニハ恩給制度ガナイガ、官吏ニハソレゾレノ恩給ガアル、此ノ恩給ヲ唯一ノ樂ミニシテ、サウシテ苦シイ生活ニモ耐ヘテ居ル、私ハ斯ウ云フ點ハ見逃シテハナラナイ問題デアルト思フノデアリマス、今日ノ情勢ヲ考ヘテ見マスト、一方ニ軍需産業、殷賑産業ガ頻リニ人ヲ要求致シテ居リマス、有能ナル者ニ對シマシテハ、相當ノ待遇ヲ以ツテ之ヲ招カウト致シ

テ居リマス、現ニ警察官吏ノ如キハ、非常ニ辭メル者ガ多イノデアリマスルガ、此ノ時此ノ際斯
 ウシタ改正ヲ、單獨ニ恩給ノ加算率ヲ縮減スルト云フヤウナ方法ヲ採ラレテ、果シテ外地ニ於ケ
 ル勤務者ニ及ボス心理的影響ハ、ドンナモノデアラウカト云フコトヲ私ハ心配スル一人デア
 ル、政府ハ是ガ立案制定ニ當ツテ、是等ノ考慮ヲ拂ハレタカ、而シテ之ニハ何等ノ心配ハナイ
 ト云フ御確信ガアルノデアルカ、先ヅ此ノ一點ヲ御伺致シタイノデアアル、次ニ私共ノ考デア
 恩給ト云フモノハ官吏ノ所謂待遇デアルト思ヒマスガ、今日ノ行政機構全體、或ハ官吏制度ノ
 問題、サウ云フ問題ト俸給令ノ改正ト云フ問題ト關聯セシメテ、私ハ恩給制度ト云フモノハ考
 ヘラルベキモノデアツテ、恩給ソレ自體ヲ單獨ニ考ヘルコトハ、效果ヲ擧ゲ得ル所以デナイト
 云フ考ヲ持ツテ居ル、諸君、御承知ノ通りココ數年間ニ於ケル我國ノ役人ノ數ガ殖エタコト
 ハ、先刻來屢々承ツタ所デアリ、吾々モ目撃シテ居ル事實デアリマスルガ、此ノ増加シタル所以
 ニ付テハ、私共是ハ認メテヤラナケレバナラナイト思フケレドモ、數ノ増加ガ必ズシモ能率ヲ
 擧ゲ、直チニ官廳ノ事務ヲ促進スル所以デナイト私ハ考ヘルノデアリマス、私共ガ最モ遺憾
 ニ思ツテ居リマスルコトハ、日本ノ現在ノ政治ハ、事實ヤ現状ニ引摺ラレテ、非常ニ立遅レヲ
 致シテ居ルコトデアアル、即チ一貫セル方針ガ缺ケテ居ルト思フ、優秀ナル創意ト科學的ナ分
 析、研究、調査等ヲ綜合シタ企畫ニ乏シイト云フコトヲ、私ハ考ヘテ居ル一人デアアル、何等ノ
 用意ト準備トガナクシテ、戰爭ガ始ツタカラ已ムヲ得ナイト云フノデ、役所ヲ擴ゲ、人ヲ殖ス
 ノダ、統制經濟ヲヤルノダト云フ工合ニ、ドウモ總テガ泥繩式デアルト思フノデアアル、而モ各
 省ガバラ／＼デアアル、綜合性ガナイ、斯ウ云フ屋上屋ヲ重ネルガ如キモノデアリマシテハ、決シ
 テ國家ノ機能ヲ十二分ニ發揮セシメル所以デナイト私ハ考ヘルノデアアル、次カラ次ニ家ヲ拵ヘ
 ルヤウニ、附足シテ致シマス、アツチニ窓ヲ拵ヘ、コツチニ硝子ヲ嵌メル、アツチニ離レヲ拵ヘ、
 コツチニ庇ヲ掛ケルト云フヤウナヤリ方デ、終ヒニナツテ來ルト、何處ガ母屋ダカ、何處ガ玄
 關口ダカ、譯ガ分ラナイコトニナリマシテ、國民ハ非常ニ戸惑ヒラスルト思フ、丁度今ノ税制
 ガ非常ニ複雑多岐ニ互ツテ居ルノデ、之ヲ改革シナケレバナラヌト云フノガ、今度ノ税制改革

デアリマスルガ、此ノ税制改革ヲヤルノト同ジ意味ニ於キマシテ、行政機構ヲ改革シテ、相當
 人間ノ節約ヲスルコトガ出來ルト私ハ思フ、サウシテ人間ヲ節約シテ、殘ル官吏ニ對シテハ相
 當ノ待遇ヲシテヤラナケレバナラヌ、所謂行政機構ノ改革、官吏制度ノ改革ト云フモノト睨ミ
 合セテノ恩給法ノ改正デナケレバ、唯ポツント恩給法ダケヲ改正スルト云フヤウナヤリ方ハ、
 私共ドウモ效果ガ擧ラナイト考ヘルノデアアルガ、政府ガ茲ニ唯之ヲポツント御出シニナツタ理
 由ハ、ドウモハツキリ分リマセス、一體此ノコトニ依ツテ二百萬圓ノ金ヲ節約スルト云フノガ
 目的デアアルカ、或ハサウ云フヤウナ財政上ノコトハ、全然考ヘナイデオヤリニナツタノデア
 ルカ、狙ヒ所ガ何處デアアルカ、甚ダ不徹底デハナイカ、此點ニ付テノ當局ノ御意向ヲ承リタイノ
 デアル、ソレト簡單ニ申上ゲマスルガ、此ノ勅任官以上ノ者デ、更ニ會社ノ重役、或ハ此ノ頃
 流行ノ國策會社ニ勤メマスル者ハ、相當高祿ヲ食ンデ居ルノデアリマス、ソレニ多額ノ恩給ヲ支
 給スルコトハ私ノ考カラ致シマスト相當デヤナイ、其ノ就職期間中ハ恩給ヲ停止シテモ差支ナ
 イト云フ考ヲ私ハ持ツテ居ル、今日ノ政府ハ幾分其ノ方向ニ向ツテ多少ノ制限ヲ致シテ居ルヤ
 ウデアアル、五千圓ヲ四千圓ニ引下ゲルトカ、サウ云フヤウナ所謂姑息ナ改正ニ依ツテハ、眞ニ私
 ハ國民ノ納得ヲ得ル所以デハナイト思フノデアアルガ、政府ハ近ク一大決心ヲ以テ、サウ云フ勅
 任官以上ノ者ニシテ營利會社ニ勤メ、高給ヲ食ム者ニ對シマシテハ、此ノ恩給ヲ停止スルト云フ
 考ガアルカナイカ、斯ウ云フ點ヲハツキリ御答ヲ願ヒタイト思フノデアアル、次ニ私ハ此ノ場合、
 恩給制度ト極メテ密接不可分ナ關係ニアリマスル、所謂官吏制度ノ問題ニ付テ、當局ノ御意見
 ヲ承リタイト思フノデアリマス、豫メ首相ノ御出席ヲ求メテ置イタノデアリマスガ、貴族院ノ
 方ニオ出デニナツテ居ラレル關係上、コチヲ見エラレナイト云フコトハ、甚ダ遺憾デアリマ
 スルガ、輔弼ノ責ニ任ジマスル厚生大臣モ御見エニナツテ居リマスカラ、ドウカアナタノ所デ
 ハツキリ御答ヲ願ヒタイト思フ、結構、若シ御答ガ出來ナケレバ、速記ヲ見テ後デ首相カラ此ノ點ニ付テ
 御答辯ヲ願ヒタイト思フ、新聞ノ傳フル所ニ依リマスルト、政府ハ近ク官吏制度全般ニ關シテ、
 相當ノ改革ヲヤルト云フコトヲ御洩シニナツテ居リマスガ、若シ事實デアレバ、私ハ此ノ内閣ニ

シテハ洵ニ出来過ギタコトダト敬意ヲ表スル、果シテサウ云フ意圖ガアルカ、或ハサウ云フコトヲ相當考慮シテ、本議會ニ提出シ得ル運ビニナリ得ルカ、マダ此處デ別ニ此ノ案ガドウ斯ウト云フコトハ發表ハ出来マイガ、少クトモ提案スルカシナイカ、斯ウ云フ點ニ付テ御洩シガ願ヘレバ結構ダト思フ、新聞ノコトデアリマスカラ、本當カ嘘カハ分リマセヌガ、此ノ改正ノ要綱ノ内容ハ、高等試験令ノ改正、或ハ文官任用令ノ改正、官等俸給令ノ改正、滿州國へ出向スル官吏ノ身分取扱、各省竝ニ日滿支ヲ通ズル人事ノ交流、内閣ニ人事局ヲ設置スルコト、是ハ何レモ喫緊且ツ必要ナ問題ニ一應ハ私ハ觸レテ居ルト思フデアリマス、併シナガラ物ハ肚ガナイトヤレマセヌ、何カ事ヲヤラウトシテ、下ノ方ガザワ／＼ザワツイタカラト云フノデ、直グ取止メテシマフヤウナコトデハ、連モ解決ハ付キマセヌ、其ノ點ハツキリ肚ノ中ニ入レテ、斯ウ云フ改革ニ御進ミガ願ヒタイト思フデアリマス、是ニ於テ私ハ當局ガ案ヲ御作リニナル參考ノ一助トシテ、私共ノ考ヘテ居ル點ガアリマスカラ此ノ點ニ少シク觸レテ見タイト思フデアリマス、抑々日本ノ現在ノ官吏制度ト申シマス、官等ト云フモノト俸給ト云フモノトガ竝行シテ居ル、詰リ官等ガ高クナラナケレバ俸給ガ上ラナイ、斯ウ云フ仕組ニナツテ居ル、成程是ハ一面ノ理窟ハアリマスケレドモ、實際上ノ問題トシテ、其ノ爲ニ官吏ノ能率ヲ阻害シテ居ル事實ヲ、餘リニ多ク知り過ギテ居ルデアリマス、御承知ノ通り官吏ト云ヒマシテモ、親任官アリ、勅任官モアリ、奏任官、判任官、斯ウ云フヤウニゴザイマスガ、今日ノ此ノ判任官以下ノ生活ニ至リマシテハ、洵ニ慘メナモノガ多イデアリマス、是ハ少シク目ヲ開イテ實情ヲ御覽ニナレバ、政府ノ高位高官ノ諸君ノ御使ヒニナツテ居ルオ役所ニ、非常ニサウ云フ事實ガ多イデアリマス、詰リ高等文官試験ニ合格シタ者ハ二十七ハニシテ高等官七等、六等ト云フ工合ニナリマシテ、是ガ大體四十位ニナリマス、相當シツカリシタ者ハ勅任官ニナレル、俸給モ相當ノ所マデ行ク、所ガ不幸ニシテ大學教育ヲ受ケルコトガ出来ナクテ、アタラ秀才デアリナガラ、今日ノ教育制度ノ下ニ打挫ガレテ、中等學校位ヲ出タ者ガ役人トナリマスナラバ、實ニ慘メデアル、中學ヲ卒業致シマシテ二十箇年勤務シ、而モ直グ任官ヲ致シタ者ニシテ、今日僅ニ六級俸

デ七十五圓ト云フ、氣ノ毒ナ月給ヲ貰ツテ居ルノガ多イ、本省ハ多少其ノ昇進ハ、人事ノ更迭モアリマスカラ宜シウゴザイマスケレドモ、地方、殊ニ司法省ノ關係、先程ノ行政法ノ改革デモ申シマシタガ、司法省ノ關係ト、ソレカラ餘リ今マデ大臣ガ威張レナカッタ農林省、此ノ農林省ノ中デモ、營林署ナント云フ所ノ俸給ト云ツタラ實際成ツテハ居ナイ、ドンナニ生レガ良クテ頭ガ良イ者デモ、殆ド呼吸作用ヲ營ムニ足ルダケデ酸素ヲ吸入シテモ炭酸瓦斯ヲ吐出スダケデハ、進歩モ發達モ向上モアリマセヌ、終ヒニハ馬鹿ニナツテシマツテ、唯恩給ノ額ヲ數ヘルダケニナツテシマフ、所デ今日ノ役所ト云フモノハ、サウ申シテハ、甚ダ何デアリマスガ、高等官ノ力ニ負フヨリモ、此ノ判任官諸君ガ殆ド官廳ノ仕事ノ中堅ニナツテ居リマス、此ノ判任官諸君ハ政府委員室ニモ出ラレナイデ、書類ヲ本省カラ持ツテ來テ、課長ガ下手ナ答辯ヲシナイヤウニ、大臣ガ間違ヒヲ起サナイヤウニト云ツテ、吾々ノ所ニドウ云フ質問ヲ誰ガスルカト云フコトヲ聽キニ來テ、サウシテ答辯ノ資料ヲ拵ヘル、此ノ屬諸君ト云フ者ハ、實ニ能ク働イテ居リマス、ソレガ一級俸ニナリマス、二百五十圓、二級俸デ百三十五圓、此ノ中當分何トカト云フノガ附イテ居リマスガ、殆ド二十年致々營々トシテ四級俸ノ百圓ニモ及バナイト云フノガ、今日ノ實情デゴザイマス、ソコデ高等官ノ方ニ至リマス、私共ハ知ツテ居リマスルガ、縣廳アタリノ連中モ二箇月、三箇月警務課長ヲヤツテ居ルト、特高課長ニナリ、或ハ保安課長ニナル、警察關係ダケ飛ンデ歩ケバ宜イガ、ソレガ水産課長、學務課長ニナリ、矢鱈飛歩イテ居ル中ニ、從何位高等官何等トナツテ、恩給モ立派ニ附クノデアマス、私ハ敢テ高等官ノ待遇ガ今日好過ギルトハ思ヒマセヌガ、併シナガラ今日役所ノ仕事ノ大部分ヲヤツテ居ル判任官及ビ判任官以下、殊ニ警察官ト刑務所ノ看守ニ至ツテハ、私共ハ實際甚ダ申上ゲテハドウカト思ヒマスガ、孫子ノ末マデヤラセタクナイノデアリマス、恐ラク今日政府ノ役人諸君デモ、自分ノ息子ヲサウ云フ所ニヤリタイト思フ人ハナイト思ヒマス、斯ウ云フ生活ニ甘ンゼシメテ、之ニ改正ヲ加ヘナイト云フコトハ、甚シク片手落チダト思フ、ソコデ私ハ先ヅ官等ヲ五十等位ニシテシマツテ、高等官ト判任官ノ身分上ノ差別ヲ撤廢シタラドウカト云フ思切ツタ案ヲ持ツテ居ル、サ

ウシテ勉強次第デグン、上ツテ行ケルヤウニシテヤル、尤モ今日特別任用令トカ何トカ云フモノガアリマスケレドモ、アレハ墓標ノ銘ヲ刻ム爲ノモノデアリマス、警察官ガ五十歳位マデモ勤メテ、漸ク署長ニナツテ鹹ラレル、其ノ辭メ際ノ墓標ノ銘ヲ刻ム爲ノモノデアリマス、アアデナシニ、良イ者ハグン、上ゲテヤル、サウシテ最低ノ所中學校卒業生ハ大體五十等カラ行ク、大學卒業生ハ四十等カ三十五等位カラ始メテ行ク、成績ノ良クナイ者ハ少シツツ上ゲテ行ケバ宜イ、成績ノヒドク良イ者ハ三階モ四階モ飛越エテ行クト云フ工合ニスル、俸給ノ方ハドウスルカト云フト、俸給ノ方ハ百等、二百等デモ宜イ、兎ニ角澤山ナ級ニ分ケテ置ク、サウシテ成績ノ良イ者ハ引上ゲル、是ハ米國アタリデモヤツテ居ルコトデ、能ク皆様御承知デアリマスルガ、諸君御承知ノ通り米國アタリニ於キマシテハ、同ジ「ポスト」デ長イ間コツ、働マテ居ルト、年功ガ重ツテ俸給ガ多クナル、極端ナ例ヲ取リマス、郵便配達夫ガ一月二百五十弗貫ツテ居ル、サウスルト郵便局長ハ、成程官等ハ高イケレドモ俸給ハ百五十弗、斯ウ云フ工合ニ俸給ト地位トハ必ズシモ一致シナイヤウニシナケレバ、官吏ハ本當ニ働ケナイト思フ、今地方廳ニ於ケル地方官ノ異動時期ニナレバ、ヤレ誰ソレハ大學時代同ジダツタガ、彼奴ガ課長ニナツタ、部長ニナツタ、イヤ書記官ニナツタト云フコトバカリ言ツテ居ル、ト云フノハ椅子ヲドンニ官判ヲ捺シテ居ルト、其ノ中ニ勅任官ニナツテシマフト云フヤウナ組織、ソレデハ私ハイケナイカラ、本當ニシツカリシタ「ポスト」ニ、二十年デモ三十年デモ心魂ヲ打込ンデヤツテ行ケルヤウナ組織ニスルニハ、此ノ官吏制度ノ改革ニ付テハ、徹底的ニオヤリニナラナイデ、唯其處此處ホジクツテ置イテ、ソレデ能事足レリトスルヤウナ姑息ナ手段デハ、斷ジテ折角改革シタ其ノ目的ニ到達シ得ナイト云フコトヲ私ハ申上ゲルモノデアアル、政府ハ之ニ對シテ如何ニ御考ニナリマスカ、モウ一ツ看逃シテナラヌコトハ、ドウモ技術官ノ待遇ガ著シク惠マレテ居ラナイト思フデアリマス、是ハ何モ技師ヤ技手諸君カラ頼マレタノデアリマセヌ、私ハチヤント日常ノ生活ニ於テ彼等ノ生活ヲ見テ居リマスルガ、ドウモ重要ナ「ポスト」ニハ現在ノ法

科萬能、之ニ付テ政府ハ相當改革ヲシサウナ風ヲ仄カシテ居リマスルガ、此ノ點ニ付テハ十分考慮ヲシテ戴カナケレバイケナイ、今日獨逸ニ致シマシテモ、或ハ例ヲ引クト兎角嫌ハレマスケレドモ、「ソビエト」露西亞ニ致シマリテモ、技術官ト云フモノヲ非常ニ重視致シテ居リマスル國柄ニ於キマシテハ、産業ノ發達目覺シキモノガアルト云フコトヲ御考ニナリマスナラバ、強チ法科ヲ出タ者ダケガ立案スルカラト云フ意味ニ於テ、技術官ヲ差別シ若クハ低位ニ置カシメルト云フコトハ、不都合千萬デアルト考ヘルノデアリマス、此ノ技術官優遇問題ニ對シテ政府ハドウ御考ニナルカ、モウ一ツ御伺致シタイコトハ身分保障令ノ問題デアリマス、是ハ成程身分保障令ヲ御作りニナツタ時ノ事情ハ私能ク分ル、是ハ無理ハナカツタト思フケレドモ、制度ト云フモノハ時代ト共ニ變ツテ行カナイト、却テ害ヲ爲ス場合ガアル、十五ノ時ニ作ツタ着物ノ縞柄ユキ丈ガ好クテモ、三十ニナツタ者ニハ是ハ着セラレナイ、兎ニ角日本ノ一切ノ政治、經濟、社會全般ニ互ツテ、著シク好ムト好マザルニ拘ラズ、變ツテ居リマス今日ニ於テ、依然トシテ斯ノ如キ法律ヲ存在セシメテ、官吏ノミガ儉安ヲ貪ルガ如キコトアリトスルナラバ、國家ノ不幸是ヨリ甚シキモノハナイト思フ、今日何モ其ノ故バカリデアリマスマイガ、官僚獨善ダトカ、或ハ統制經濟ニ於テ、官僚ノチグハグ統制ダトカ、兎ニ角此ノ頃官吏ハ評判ガ宜シクアリマセヌ、是ハ決シテ官吏ガ無能デアル所以デアリマセヌ、甚ダ優秀ナル諸君デアラレマスルガ、遺憾ナガラ今日ノ制度下ニ於テハ、其ノ能力ヲ十分ニ發揮シ得ルヤウニナツテ居ラナイノデアリマス、政府ハ口ヲ開ケバ直チニ制度ノ改革ヨリモ運用ノ妙ニアリト言ツテ居レバソコトハ、洵ニ妙ナル言葉デアリマス、ヤラナイデ置イテモ運用ノ妙ニアリト言ツテ居レバソレデ宜イ、少シ手ヲ染メレバ貿易省問題ト云フヤウナコトニナルカラ、ヤラナイデ置イテ運用ノ妙、是ハ現狀維持派ノ常ニ用ヒル常套語デアリマス、併シ運用ノ妙デノソリ、ヤツテ居ルト、平沼内閣ノ如ク變ナコトデ辭メナケレバナラヌコトニナル、思ヒ切ツテヤラナケレバナラヌ、國民ニハ何ノ身分保障令モナクテ、官吏ダケ身分ノ保障令ヲ持ツテ得々トシテ居ルト云フヤウナ疑ノアルヤウナ法律ハ、先ヅ自ラ徹廢シテ、サウシテ國民諸君サア來イト協力ヲ求ムル

ト云フナラバ聞エマスガ、自分ハ樂ナ所ニ居ツテ、國民ニノミ協力ヲ強ヒルト云フヤウナ風ノ誤解ヲ受ケテハ、甚ダ宜シクナイト思フ、地方ニ於キマシテハ大分サウ云フ聲ガ高イノデア
 ル、サウシテ先刻申上ゲマシタヤウニ、所謂出身違ヒデアルトカ、地方「ブロック」デアルトカ
 云ツテ、此ノ統制經濟ニ於テ物ガ足ラナイト云フノニ、縣知事等ガ、俺ノ縣カラハ米ヲ出サナ
 イト言フ、ソコデ此ノ前ノ阿部内閣ニ於テハ、態々地方官ヲ呼付ケテ居ル、私ハ或ル知事ト一
 緒ニナツタカラ、何處ニ行クノダト言ツタラ、祕密ダケレドモ實ハ斯ウシテ呼付ケラレテ來
 タ、米ノ問題ヲシイト言フ、ドウモ幾ラ何ト言ツテモ、自分ノ縣カラハ出サナイト言ツテ來
 タ、馬鹿ニ此ノ頃ノ地方長官ハ鼻息ガ荒イノデス、是ハ身分保障法ニ依ルモノデ、實ニ弊害ガ
 伴フノデアル、大體禪ノ締メ工合ガ違ツテ來ル、或ル新聞ニ出テ居ツタガ、商工次官ノ自動車
 ガ待合デ盜ラレタト、斯ルコトガ國民思想ニ及ボス影響極メテ大ナルモノガアルト思フ、事實
 ノ有無ハ存ジマセヌ、新聞ガサウ傳ヘテ居ル、政府カラ別ニ御取消ガナカッタヤウデアリマス
 ルガ、是ナドハ禪ガ緩ンデ居ルカラ斯ウ云フコトニナル、斯ウ云フコトハ自肅自戒シテ、國民
 ニ範ヲ示スト云フ態度ニ出テラレナケレバナラヌト思フノデアル、官界ニ於キマシテ殊ニ吾々
 ガ最モ遺憾ニ堪ヘナイコトハ學閥ノ爭デアル、東京帝國大學ノ法學部ヲ出ナケレバ、殆ド出世
 ガ出來ナイト云フノデ、日本ノ二十數校ノ高等學校ノ卒業生モ、出來得ベクンバ東大ニト云フ
 ノデ、ワンス「ト押掛ケテ來テ、相當地方ノ高等學校デ成績ノ良イ者マデモ、一回デハ試験
 ガ受カラナイノデ、二年モ三年モ遊ンデ居ル「カフエ」遊ビト同時ニ受験勉強ヲ致シテ居ル、
 斯ノ如キコトハ洵ニ國家ノ人物經濟上宜シクナイ、是ハ當然今日ノ時代ニ於ケル所謂學閥爭ナ
 ルモノガ、斯クセシメタ所以デアルト思フノデアル、私ハ統計モ色々持ツテ居リマスルガ、サウ
 云フコトヲ言フノガ目的デアリマセヌカラ申上ゲマセヌ、ドウカ是等ニ付テハ思切ツテ、虚心
 坦懷ニ弊風ヲ改メルト云フコトニオヤリニナリマセヌト、トンデモナイ問題デス、東洋ノ平和
 ヲ確立シ、新秩序ヲ作り、支那人ト共ニ手ヲ握ツテ行ク、八紘一宇ダ、斯ウ云フコトヲ言フ
 ガ、其ノ一番御説教ヲナサル諸君ガ、アイツハ京都大學デアル、アイツハ私立大學出ダト、人

ヲ馬鹿ニシテ押ヘ付ケテ居ルヤウデハ、何時ノ日ニカ東洋永遠ノ平和アリヤ、民族ガ協和シテ
 行ク時代ガアリヤト聽キタイ、此ノ點ニ於テ身分保障令等ハ早く撤廢シテシマハナケレバナラ
 ス、是ハ實際盲腸ミタイナモノデ、アレバ禍ヲスル、アレバ却テ禍ヲスルナラ、早く手術シテ
 切ツテ無クシタ方ガ、今日ハ宜シイト思フノデアリマスルガ、政府ノ之ニ對スル所見如何、モ
 ウ一ツ簡單ニ伺ヒマスルガ、所謂官吏ノ方ダケハ生活ガ保障サレテ居リマスルガ、一般國民ニ
 對シテハ、生活力ナキ者ニ對シマシテモ、尙ホ今日國家ガ扶養ノ義務ヲ負フテ居リマセヌ、
 尤モ近年會社事業ガ發達シテ參リマス趨勢ニ連レテ、政府モ此處ニ著想致シマシテ、勞働者ノ
 保健問題デアルトカ、或ハ海員ノ年金制デアリマスルカ云フヤウナ、極メテ二階カラ目藥ガ落
 テテ來ルヤウナ程度ノモノデ、微温的ナモノデアリマスルスケレドモ、御出シニナツタコトヲ私
 共ハ甚ダ結構デアルト思ツテ居ル、御承知ノ通り我國ハ一民族ヲ以テ一國家ヲ形成シテ居ル、
 兄弟ダト仰シヤル、大家族ダト仰シヤル、私ハ結構ダト思フ、サウシテ畏多イ話デアリマスル
 ガ、皇室ヲ中心トシ奉ツテ、吾々國民ガ其ノ子デアアル、サウ云フ工合ノ所謂大家族主義デヤツ
 テ居ル、洵ニ結構ナ話デアアル、所ガ此ノ一等國デアアル大家族主義デアアル所ノ國ニ於キマシテ
 ハ、國家的ナ規模ニ於ケル所ノ養老年金制ト云フガ如キモノガナイノデアアル、個人主義デア
 リ、自由主義デアアル、自分サヘ宜ケレバ宜イト云フ思想ヲ持ツテ居ルノダト、アナタ方ガ御説
 明ニナリマスル所ノ歐米諸國ノ例ヲ釋ネマスナラバ、英國ニ於キマシテハ千九百八十年カラ、佛
 蘭西ニ於テハ既ニ千九百十年カラ、若クハ丁抹ニ於テハ夙ニ千八百九十一年カラ、歐洲諸國ニ
 於キマシテハ千八百九十八年カラ千九百年ノ間ニ、チャント斯ウ云フヤウナ養老年金制或ハ廢
 疾保障制ト云フヤウナモノガ設ケラレテ居ル、獨逸ニ於キマシテハ實ニ千八百八十九年カラ斯
 ウ云フ事ガ行ハレテ居ルト云フコトハ、私共ヨリモ歐洲ノ事情ニ通ゼラルル政府當局ノ能ク御
 承知デアアル、自由主義デアリ個人主義デアアルト言ツタ所ノ向フノ方ガ、却テ制度ハ早く布カレテ
 居ル、家族主義ダ、一大家族ダ、一民族一國家ダト言ツテ居ル日本ニ於テハ其ノ制度ガナイ、
 サウシテ貧乏人デモ、或ハ難澁ヲシテ、苦勞ヲシテ、怪我ヲシタ者ハ、勝手ニ死ンデ行ケト云